

SAS[®] 9.3 システムオプション リファレンス 第2版

The correct bibliographic citation for this manual is as follows: SAS Institute Inc. 2011. *SAS® 9.3 システムオプション: リファレンス第2版*. Cary, NC: SAS Institute Inc.

SAS® 9.3 システムオプション: リファレンス第2版

Copyright © 2011, SAS Institute Inc., Cary, NC, USA

All rights reserved. Produced in the United States of America.

For a hardcopy book: No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted, in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, or otherwise, without the prior written permission of the publisher, SAS Institute Inc.

For a Web download or e-book: Your use of this publication shall be governed by the terms established by the vendor at the time you acquire this publication.

The scanning, uploading, and distribution of this book via the Internet or any other means without the permission of the publisher is illegal and punishable by law. Please purchase only authorized electronic editions and do not participate in or encourage electronic piracy of copyrighted materials. Your support of others' rights is appreciated.

U.S. Government Restricted Rights Notice: Use, duplication, or disclosure of this software and related documentation by the U.S. government is subject to the Agreement with SAS Institute and the restrictions set forth in FAR 52.227-19 Commercial Computer Software-Restricted Rights (June 1987).

SAS Institute Inc., SAS Campus Drive, Cary, North Carolina 27513.

Printing 2, 2012 8 月

SAS® Publishing provides a complete selection of books and electronic products to help customers use SAS software to its fullest potential. For more information about our e-books, e-learning products, CDs, and hard-copy books, visit the SAS Publishing Web site at support.sas.com/publishing or call 1-800-727-3228.

SAS® and all other SAS Institute Inc. product or service names are registered trademarks or trademarks of SAS Institute Inc. in the USA and other countries. ® indicates USA registration.

Other brand and product names are registered trademarks or trademarks of their respective companies.

目次

本書について.....	v
SAS 9.3 システムオプションの新機能.....	ix
推奨資料.....	xv

1部 SAS システムオプションについて 1

1章・SAS システムオプションで把握すべき事項.....	3
システムオプションについて.....	3
構文.....	4
SAS システムオプションの使用.....	4
比較.....	18

2部 SAS システムオプションの SAS 関数 19

2章・システムオプションの関数のディクショナリ.....	21
ディクショナリ.....	21

3部 SAS システムオプション 29

3章・システムオプションのディクショナリ.....	31
他の SAS ドキュメントで説明されている SAS システムオプション.....	35
カテゴリ別の SAS システムオプション.....	35
ディクショナリ.....	50

4部 SAS システムオプションの SAS プロシジャ 283

4章・OPTIONS プロシジャ.....	285
概要: OPTIONS プロシジャ.....	285
構文: OPTIONS プロシジャ.....	286
Displaying a List of System Options.....	291
Displaying Information about One or More Options.....	292
Displaying Information about System Option Groups.....	294
Displaying Restricted Options.....	297
Displaying Options That Can Be Saved.....	298
Results: OPTIONS Procedure.....	299
例: OPTIONS プロシジャ.....	300
5章・OPTLOAD プロシジャ.....	305
概要: OPTLOAD プロシジャ.....	305
構文: OPTLOAD プロシジャ.....	305

例: Load a Data Set of Saved System Options	306
6 章 • OPTSAVE プロシジャ	311
概要: OPTSAVE プロシジャ	311
構文: OPTSAVE プロシジャ	311
Determining If a Single Option Can Be Saved	313
Creating a List of Options That Can Be Saved	313
例: Saving System Options in a Data Set	314
 キーワード	 317

本書について

SAS 言語の構文規則

SAS 言語の構文規則の概要

SAS では、SAS 言語要素の構文ドキュメントに共通の規則を使用しています。これらの規則により、SAS 構文の構成要素を簡単に識別できます。規則は、次の項目に分類されます。

- 構文の構成要素
- スタイル規則
- 特殊文字
- SAS ライブラリと外部ファイルの参照

構文のコンポーネント

言語要素の多くでは、その構文の構成要素はキーワードと引数から構成されます。キーワードのみ必要な言語要素もあります。また、キーワードに等号(=)が続く言語要素もあります。

キーワード

プログラムの作成時に使用する SAS 言語要素名です。キーワードはリテラルであり、通常、構文の先頭の単語です。CALL ルーチンでは、最初の 2 つの単語がキーワードです。

次の SAS 構文の例では、構文の最初の単語がキーワードです。

```
CHAR (string, position)
CALL RANBIN (seed, n, p, x);
ALTER (alter-password)
BEST w.
REMOVE <data-set-name>
```

次の例では、CALL ルーチンの最初の 2 つの単語がキーワードです。

```
CALL RANBIN(seed, n, p, x)
```

引数なしで 1 つのキーワードから構成される SAS ステートメント構文もあります。

```
DO;
... SAS code ...
END;
```

2つのキーワード値のいずれか1つの指定が必要なシステムオプションもあります。

DUPLEX | NODUPLEX

引数

数値定数、文字定数、変数、式のいずれかです。引数は、キーワードに続くか、キーワードの後ろの等号に続きます。SASでは、引数を使用して、言語要素を処理します。引数が必須の場合もオプションの場合もあります。構文では、オプションの引数にはかぎカッコが付けられます。

次の例では、*string* と *position* がキーワード CHAR に続きます。これらの引数は、CHAR 関数の必須引数です。

CHAR (*string*, *position*)

引数ごとに値が指定されます。次の例の SAS コードでは、引数 *string* の値として 'summer'、引数 *position* の値として 4 が指定されています。`x=char('summer', 4);`

次の例では、*string* と *substring* は必須引数ですが、*modifiers* と *startpos* はオプションの引数です。

FIND(*string*, *substring* <*modifiers*> <*startpos*>)

注: 通常、SASドキュメントのサンプルコードは、小文字の固定幅フォントを使用して表記されます。コードの作成には、大文字も、小文字も、大文字と小文字の両方も使用できます。

スタイル規則

SAS 構文の説明に使用されるスタイル規則には、大文字太字、大文字、斜体の規則も含まれます。

大文字太字

関数名やステートメント名などの SAS キーワードを示します。次の例では、キーワード ERROR の表記には大文字太字が使用されています。

ERROR<*message*>;

大文字

リテラルの引数を示します。

次の CMPMODEL=システムオプションの例では、BOTH、CATALOG、XML がリテラルです。

CMPMODEL = BOTH | CATALOG | XML

斜体

ユーザー指定の引数または値を示します。斜体表記の項目は、ユーザー指定値であり、次のいずれかを表します。

- 非リテラルの引数。次の LINK ステートメントの例では、引数 *label* はユーザー指定値であるため、斜体で表記されています。

LINK *label*;

- 引数に割り当てられる非リテラル値。

次の FORMAT ステートメントの例では、引数 DEFAULT に変数の *default-format* が割り当てられます。

FORMAT = *variable-1* <, ..., *variable-n format* ><DEFAULT = *default-format*>;

斜体表記の項目は、選択可能な引数リストの総称でもあります(*attribute-list* など)。複数の斜体表記の項目が使用される場合、項目は *item-1, ..., item-n* という形式で表記されます。

特殊文字

SAS 言語要素の構文には、次の特殊文字も使用されます。

=

等号は、一部の言語要素(システムオプションなど)のリテラル値を示します。

次の MAPS システムオプションの例では、等号は MAPS の値を設定します。

MAPS = *location-of-maps*

<>

かぎかっこはオプションの引数を示します。かぎかっこ付きでない引数は必須引数です。

次の CAT 関数の例では、少なくとも項目が 1 つ必要です。

CAT (*item-1* <, ..., *item-n*>)

|

縦棒は、値グループから 1 つの値を選択できることを示します。縦棒で区切られている値は、相互排他です。

次の CMPMODEL=システムオプションの例では、属性を 1 つのみ選択できます。

CMPMODEL = BOTH | CATALOG | XML

...

省略記号は、省略記号に続く引数や引数グループの繰り返しを示します。省略記号とその後の引数にかぎかっこが付けられている場合、その引数はオプションです。

次の CAT 関数の例では、省略記号はオプションの項目を複数指定できることを示しています。

CAT (*item-1* <, ..., *item-n*>)

'value' or "value"

単一引用符や二重引用符付きの引数は、その値も単一引用符または二重引用符を付ける必要があることを示します。

次の FOOTNOTE ステートメントの例では、引数 *text* には引用符が付けられています。

FOOTNOTE <*n*> <*ods-format-options* 'text' | "text">;

;

セミコロンは、ステートメントまたは CALL ルーチンの終わりを示します。

次の例では、それぞれのステートメントはセミコロンで終了しています。data namegame; length color name \$8; color = 'black'; name = 'jack'; game = trim(color) || name; run;

SAS ライブラリと外部ファイルへの参照

多くの SAS ステートメントなどの言語要素では、SAS ライブラリと外部ファイルを参照します。論理名(ライブラリ参照名またはファイル参照名)から参照を作成するのか、引用符付きの物理ファイル名を使用するかを選択できます。論理名を使用する場合、通

常、関連付けに SAS ステートメント(LIBNAME または FILENAME)を使用するのか、動作環境のコントロール言語を使用するのかを選択します。複数の方法を使用して、SAS ライブラリと外部ファイルを参照できます。動作環境によっては使用できない方法があります。

SAS ドキュメントでは、外部ファイルを使用する例には斜体のフレーズ *file-specification* を使用します。また、SAS ライブラリを使用する例には斜体フレーズ *SAS-library* を使用します。*SAS-library* は引用符付きであることに注意してください。

```
infile file-specification obs = 100;  
libname libref 'SAS-library';
```


SAS 9.3 システムオプションの新機能

概要

SAS システムオプションのドキュメントは、現在 *SAS Language Reference: Dictionary* には含まれていません。“[SAS Language Reference: Dictionary に対する変更](#)” ([xiv ページ](#))を参照してください。*SAS Language Reference: Dictionary* に以前記載されていた SAS システムオプションは、現在この *SAS システムオプション: リファレンス* に記載されています。

すべてのシステムオプションのドキュメントに簡単にアクセスできるように、*SAS システムオプション: リファレンス* には GETOPTION 関数、システムオプションプロシジャ OPTIONS、OPTLOAD および OPTSAVE、他のドキュメントに記載されているシステムオプションへのリンクも含まれています。

新機能と拡張機能によって、次の操作を実行できます。

- ラベル付きコードセクションのチェックポイントモードと再開モードの使用
- システムオプションの起動時の値またはデフォルト値へのリセット
- LIBNAME ステートメントで命名されたディレクトリの作成
- SAS データセット、SAS データビューおよび項目ストア名の拡張命名規則の使用
- ドキュメント内の個々のページの縦方向または横方向の指定
- SAS 名の自動修正の制御
- 電子メールの UTC オフセットの指定
- URLENCODE 関数と URLDECODE 関数のエンコーディングの指定
- GETOPTION 関数、システムオプションおよび OPTIONS プロシジャの拡張機能の使用
- 表示バッファのサイズの指定
- SAS 9.3 の 2 回目のメンテナンスリリースに含まれる EVENTDS=オプションは新機能です。EVENTDS=オプションでは、イベントデータセットを指定できます。

ラベル付きコードセクションのチェックポイントモードと再開モードの使用

ラベル付きコードセクションのチェックポイントモードと再開モードが有効になっている場合、完了前に終了したバッチプログラムをラベル付きコードセクションで開始するように再サブミットできます。

CHKPTCLEAN システムオプションが設定されていてバッチプログラムが正常に完了した場合、Work ライブラリの内容は消去されます。

ラベル付きコードセクションの詳細については、“チェックポイントモードと再起動モード” (SAS 言語リファレンス: 解説編 8 章) および次のシステムオプションを参照してください。

- “CHKPTCLEAN システムオプション” (72 ページ)
- “LABELCHKPT システムオプション” (146 ページ)
- “LABELCHKPTLIB=システムオプション” (148 ページ)
- “LABELRESTART システムオプション” (149 ページ)

システムオプションの起動時の値またはデフォルト値へのリセット

GETOPTION 関数を使用して、システムオプションをデフォルトの出荷値または起動時の値にリセットできます。

システムオプションをデフォルト値にリセットする場合、DEFAULTVALUE オプションを使用してシステムオプションのデフォルトの出荷値を取得できます。

STARTUPVALUE オプションを使用すると、コマンドラインまたは構成ファイルのいずれかで SAS の起動に使用されたシステムオプションの値を取得できます。

詳細については、“システムオプションをデフォルト値または開始値にリセット” (15 ページ) および “GETOPTION 関数” (21 ページ) を参照してください。

LIBNAME ステートメントで命名されたディレクトリの作成

DLCREATEDIR システムオプションを指定してディレクトリが存在しない場合、SAS は LIBNAME ステートメントで命名された SAS ライブラリのディレクトリを作成します。“DLCREATEDIR システムオプション” (93 ページ) を参照してください。

SAS データセット、SAS データビューおよび項目ストア名の拡張命名規則の使用

ウィンドウ環境以外の実行モードで SAS を実行する場合、SAS データセット、データビューおよび項目ストア名の命名規則は、特殊文字と各国語文字を使用できるように拡張されます。詳細については、“SAS 言語における命名規則” (SAS 言語リファレンス: 解説編 3 章)および“VALIDMEMNAME=システムオプション” (264 ページ)を参照してください。

ODS ドキュメントのページの変更

ORIENTATION=システムオプションを使用することで、ODS ドキュメントのページを縦方向または横方向に指定できます。ORIENTATION=システムオプションでは、値を追加することもできます。“ORIENTATION=システムオプション” (174 ページ)を参照してください。

SAS 名の自動修正の制御

SAS 9.3 より前は、プロシジャ名、プロシジャキーワードおよびグローバルステートメント名のスペルミスの修正を SAS が自動的に試行していました。NOAUTOCORRECT システムオプションを使用して、SAS がこれらの名前を自動的に修正しないように指定できます。“AUTOCORRECT システムオプション” (55 ページ)を参照してください。

電子メールの UTC オフセットの指定

FILENAME ステートメントの電子メール(SMTP)アクセス方式を使用して送信される電子メールに、電子メールメッセージの日時ヘッダーフィールドで使用される UTC オフセットを指定します。“EMAILUTCOFFSET=システムオプション” (110 ページ)を参照してください。

URLENCODE 関数と URLDECODE 関数のエンコーディングの指定

URLENCODE 関数と URLDECODE 関数の引数が SAS セッションエンコーディングと UTF-8 エンコーディングのどちらを使用して解釈されるかを指定するには、URLENCODING=システムオプションを使用します。“URLENCODING=システムオプション” (256 ページ)を参照してください。

表示バッファのサイズの指定

バイト数に基づいて表示バッファのサイズのグローバル値を設定するには、VBUFSIZE=システムオプションを使用します。“VBUFSIZE=システムオプション” (271 ページ)を参照してください。

イベントデータセットの指定

SAS 9.3 の 2 回目のメンテナンスリリースに含まれる EVENTDS=オプションは新機能です。EVENTDS=オプションでは、イベントデータセットを指定できます。“EVENTDS=システムオプション” (115 ページ)を参照してください。

GETOPTION 関数の拡張

システムオプション値を 16 進値で返すには、HEXVALUE オプションを使用します。ロケールに適した句読点(カンマやピリオドなど)を含むシステムオプションの数値を返すには、LOGNUMBERFORMAT オプションを使用します。“GETOPTION 関数” (21 ページ)を参照してください。

SAS システムオプションの拡張

次のシステムオプションが拡張されています。

APPEND= (p. 50)

APPEND=システムオプションは制限できません。また、APPEND=システムオプションの値として、AUTOEXEC=システムオプションを指定できるようになりました。

DKRCOND= (p. 91)

DKROCOND= (p. 92)

これらのオプションは、エラー処理システムオプショングループおよび SAS ファイルグループに含まれるようになりました。

FMTSEARCH= (p. 121)

カタログの指定に LOCALE オプションを指定した場合、SAS は現在の SAS ロケールに関連付けられたカタログを検索します。

INSERT= (p. 141)

INSERT=システムオプションは制限できません。また、INSERT=システムオプションの値として、AUTOEXEC=システムオプションを指定できるようになりました。

ORIENTATION= (p. 174)

出力先が ODS またはユニバーサルプリンタの出力ファイルで、異なるドキュメントのページの方向を変更できます。

VALIDVARNAME= (p. 266)

プロシジャステップで VALIDVARNAME=V7 が設定されていて変数名が n リテラルの場合、変数名は左寄せされて末尾の空白は無視されます。

VARLENCHK= (p. 268)

VARLENCHK=システムオプションは、BY 変数がこのシステムオプションによって影響されないことを示します。

OPTIONS プロシジャの拡張

PROC OPTIONS ステートメントの新しいオプションと拡張オプションの詳細については、“PROC OPTIONS Statement” (286 ページ)を参照してください。

新しい PROC OPTIONS ステートメントオプションを次に示します。

LISTINSERTAPPEND

このオプションは、INSERT および APPEND システムオプションによって値を変更できるシステムオプションを一覧表示します。

LISTRESTRICT

このオプションは、サイト管理者が制限できるシステムオプションを一覧表示します。

拡張された PROC OPTIONS ステートメントオプションを次に示します。

DEFINE

オプションの有効な値は、DEFINE オプションを指定したときに SAS ログに表示されるようになりました。

OPTION=

OPTION=オプションは 1 つ以上のオプションを受け入れるようになりました。

VALUE

オプションが構成ファイルで設定された場合、オプションを設定した構成ファイルの名前が VALUE オプションを指定したときに SAS ログに表示されるようになりました。

他のドキュメントに移動されたシステムオプション

次の SQL オプションのシステムオプションは、*SAS SQL クエリウィンドウユーザーガイド*に記載されています。

- SQLCONSTDATETIME
- SQLREDUCTPUT=
- SQLREDUCTPUTOBS=
- SQLREDUCTPUTVALUES=
- SQLREMERGE
- SQLUNDOPOLICY=

UNIVERSALPRINT システムオプションは、現在 *Windows 版 SAS* に記載されていません。

SAS Language Reference: Dictionary に対する変更

SAS 9.3 より前は、このドキュメントは *SAS Language Reference: Dictionary* に含まれていました。SAS 9.3 以降では、*SAS Language Reference: Dictionary* は 7 つのドキュメントに分割されています。

- SAS データセットオプション: リファレンス
- SAS 出力形式と入力形式: リファレンス
- SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス
- SAS ステートメント: リファレンス
- SAS システムオプション: リファレンス
- SAS コンポーネントオブジェクト: リファレンス (ハッシュオブジェクトおよび Java オブジェクトのドキュメントを含む)
- *Base SAS Utilities*: リファレンス (SAS DATA ステップデバッガおよび SAS ユーティリティマクロ%DS2CSV を含む)

推奨資料

このタイトルに関連した推奨される参考資料のリストを次に示します。

- *Base SAS Glossary*
- *Base SAS プロシジャガイド*
- *Base SAS Utilities: リファレンス*
- *UNIX 版 SAS*
- *Windows 版 SAS*
- *z/OS 版 SAS*
- *SAS データセットオプション: リファレンス*
- *SAS 出力形式と入力形式: リファレンス*
- *SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス*
- *SAS Language Interfaces to Metadata*
- *SAS 言語リファレンス: 解説編*
- *SAS ステートメント: リファレンス*
- *SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*
- *SAS Output Delivery System: ユーザーガイド*
- *SAS Scalable Performance Data Engine: リファレンス*
- *SAS XML LIBNAME Engine: ユーザーガイド*
- *Step-by-Step Programming with Base SAS Software*

推奨される SAS Press の参考資料を次に示します。

- *Carpenter's Complete Guide to PROC REPORT*
- *Cody's Data Cleaning Techniques Using SAS, Second Edition*
- *Combining and Modifying SAS Data Sets: Examples, Second Edition*
- *Learning SAS by Example*
- *The Little SAS Book: A Primer, Fourth Edition*
- *Output Delivery System: The Basics and Beyond*
- *SAS Functions by Example, Second Edition*
- *SAS Guide to Report Writing: Examples*

SAS の刊行物の総一覧については、support.sas.com/bookstore にてご確認ください。
必要な書籍についてのご質問は、下記までお寄せください。

SAS Publishing Sales
SAS Campus Drive
Cary, NC 27513-2414
電話: 1-800-727-3228
ファクシミリ: 1-919-677-8166
電子メール: sasbook@sas.com
Web アドレス: support.sas.com/bookstore

1 部

SAS システムオプションについて

1 章	SAS システムオプションで把握すべき事項	3
-----	-----------------------------	---

1 章

SAS システムオプションで把握するべき事項

システムオプションについて	3
構文	4
OPTIONS ステートメントのシステムオプションの指定	4
コマンド行または構成ファイルへのシステムオプションの指定	4
16 進値の指定	4
SAS システムオプションの使用	4
デフォルト設定	4
SAS システムオプションの保存とロード	5
有効な設定の確認	5
制限されたオプション	6
SAS システムオプション値の設定の確認	10
システムオプションの情報の取得	11
SAS システムオプション設定の変更	12
INSERT システムオプションと APPEND システムオプション を使用したオプション値の変更	13
システムオプションをデフォルト値または開始値にリセット	15
システムオプション設定の有効期間	16
優先順序	17
データセットオプションとの相互作用	17
比較	18

システムオプションについて

システムオプションによる指示は、オプションが指定されてから変更されるまで、SAS プログラムまたは対話型 SAS セッション全体の処理に影響を与えます。SAS システムオプションでコントロールされる項目の例として、SAS 出力の外観、SAS で使用されるファイルの処理、システム変数の使用、SAS データセット内のオブザベーションの処理、SAS 初期化の機能、SAS とホストオペレーティングシステムとの相互作用などがあります。

構文

OPTIONS ステートメントのシステムオプションの指定

OPTIONS ステートメントでは次の構文でシステムオプションを指定します。

```
OPTIONS option(s);
```

ここで

option

変更する 1 つ以上の SAS システムオプションを指定します。

次の例は、OPTIONS ステートメントでシステムオプションの NODATE および LINESIZE=を使用する方法を示します。

```
options nodate linesize=72;
```

コマンド行または構成ファイルへのシステムオプションの指定

動作環境の情報

コマンドラインまたは構成ファイルでは、動作環境に固有の構文を使用します。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

16 進値の指定

システムオプションの 16 進値は、先頭が数値(0~9)、末尾が X である必要があります。たとえば、次の OPTIONS ステートメントでは、16 進数を使用して行サイズを 160 に設定します。

```
options linesize=0a0x;
```

SAS システムオプションの使用

デフォルト設定

SAS システムオプションは、SAS 起動時にデフォルト設定で初期化されます。ただし、一部の SAS システムオプションのデフォルト設定は、動作環境とサイトの両方に応じて変化します。オンサイトの SAS サポート担当者が、サイト固有のデフォルト値のグローバルセットを提供するために、構成ファイルをカスタマイズしている可能性があります。

カスタマイズした構成ファイルの作成の詳細については、動作環境向け SAS ソフトウェアの構成ガイドを参照してください。

詳細については、“[システムオプションをデフォルト値または開始値にリセット](#)” (15 ページ)を参照してください。

SAS システムオプションの保存とロード

SAS システムオプションは、OPTSAVE プロシジャを使用するか、SAS ウィンドウ環境で DMOPTSAVE コマンドを使用して、SAS レジストリまたは SAS データセットに保存できます。一部のシステムオプションは保存できません。オプションを保存できるかどうかを確認するには、OPTIONS プロシジャに DEFINE を定義します。ログ出力の、先頭が **Optsave:** の行でオプションを保存できるかどうかが表示されます。

```
proc options option=pageno define;
run;
```

```
8 proc options option=pageno define;
9 run;

SAS (r) Proprietary Software Release 9.3 TS1B0

PAGENO=1
Option Definition Information for SAS Option PAGENO
Group= LISTCONTROL
Group Description: Procedure output and display settings
Description: Beginning page number for the next page of output produced by the
SAS System
Type: The option value is of type LONG
Range of Values: The minimum is 1 and the maximum is 2147483647
Valid Syntax(any casing): MIN|MAX|n|nK|nM|nG|nT|hexadecimal
Numeric Format: Usage of LOGNUMBERFORMAT does not impact the value format
When Can Set: Startup or anytime during the SAS Session
Restricted: Your Site Administrator can restrict modification of this option
Optsave: PROC Optsave or command Dmoptsave will save this option
```

保存できる全オプションのリストについては、OPTIONS プロシジャと PRINT プロシジャをサブミットします。

```
proc optsave;
run;
proc print;
var optname;
run;
```

オプションの保存の詳細については、6 章、“OPTSAVE プロシジャ” (311 ページ)を参照してください。

保存したシステムオプションのセットをロードするには、OPTLOAD プロシジャまたは DMOPTLOAD コマンドを使用します。システムオプションのロードの詳細については、5 章、“OPTLOAD プロシジャ” (305 ページ)を参照してください。

DMOPTSAVE コマンドと DMOPTLOAD コマンドの詳細については、SAS ヘルプおよびドキュメントを参照してください。

有効な設定の確認

SAS システムオプションで有効な設定を確認するには、次のいずれかを使用します。

OPLIST システムオプション

SAS 起動コマンドラインで指定されたシステムオプションを SAS ログに書き込みます (詳細については、動作環境向け SAS のドキュメントを参照してください)。

VERBOSE システムオプション

構成ファイルおよび SAS 起動コマンドラインで指定されたシステムオプションを SAS ログに書き込みます

SAS システム オプションウィンドウ

すべてのシステムオプション設定をリストします。

OPTIONS プロシジャ

システムオプション設定を SAS ログに書き込みます。エラー処理など、特定の機能を持つシステムオプションの設定を表示するには、GROUP=オプションを `proc options GROUP=errorhandling; run;` のように使用します。詳細については、4章, “OPTIONS プロシジャ” (285 ページ) を参照してください。

GETOPTION 関数

指定されたシステムオプションの値を返します。

VOPTION Dictionary テーブル

VOPTION は Sashelp ライブラリ内に存在し、現在のすべてのシステムオプション設定、各オプションの説明、オプションタイプ、オプションがポータブルかホストオプションか、オプションを設定可能なタイミング、オプションが属するグループのリストが含まれます。VOPTION テーブルは、SAS Explorer で表示、PRINT プロシジャを使用して印刷、または SQL プロシジャを使用して情報を抽出できます。

dictionary.options SQL テーブル

SQL プロシジャでアクセスするこのテーブルには、有効なシステムオプションのリストが含まれます。

制限されたオプション

制限されたオプションとは、サイト管理者によって値が決定されたシステムオプションで、無効にできません。サイト管理者は、制限されたオプションのテーブルを作成して、SAS が起動すると制限されるオプション値を指定できます。制限されたオプションのテーブルにあるシステムオプションを変更しようとすると、そのシステムオプションはサイト管理者によって制限されていて更新できないことを示すメッセージが SAS ログに出力されます。

サイト管理者によって制限されているシステムオプションを確認するには、OPTIONS プロシジャの RESTRICT オプションを使用します。RESTRICT オプションでは、オプションの値、スコープおよび設定が表示されます。次の例では、制限されているのは CMPOPT オプション 1 つのみであると SAS ログに表示されます。

```
proc options restrict;
run;
```

ログ 1.1 制限されたオプションの情報

```
1
proc options restrict;
2 run;
SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1B0

Option Value Information For SAS Option CMPOPT
Value: (NOPRECISE NOEXTRAMATH NOMISSCHECK NOGUARDCHECK NOGENSYMNAMES
NOFUNDIFFERENCING)
Scope: SAS Session
How option value set: Site Administrator Restricted
```

OPTIONS プロシジャにより、制限されているすべてのオプションについてこの情報が表示されます。サイト管理者がオプションを制限していない場合、次のメッセージが SAS ログに表示されます。

```
Your site administrator has not restricted any options.
```

サイト管理者が制限できるオプションを表示するには、OPTIONS プロシジャの LISTRESTRICT オプションを使用します。これらのオプションは制限されていませんが、制限可能です。

```
proc options listrestrictable;
run;
```

ログ 1.2 制限が可能なオプションのリストの一部

```
13 proc options listrestrict ;
14 run;

SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1B0

Your Site Administrator can restrict the ability to modify the following
Portable Options:

APPLETLOC Location of Java applets
ARMAGENT ARM Agent to use to collect ARM records
ARMLLOC Identify location where ARM records are to be written
ARMSUBSYS Enable/Disable ARming of SAS subsystems
AUTOCORRECT Perform auto-correction for misspelled procedure names, keywords or
global statement names
AUTOSAVELOC Identifies the location where program editor contents are auto saved
AUTOSIGNON SAS/CONNECT remote submit will automatically attempt to SIGNON
BINDING Controls the binding edge for duplexed output
BUFNO Number of buffers for each SAS data set
BUFSIZE Size of buffer for page of SAS data set
BYERR Set the error flag if a null data set is input to the SORT procedure
BYLINE Print the BY line at the beginning of each BY group
BYSORTED Require SAS data set observations to be sorted for BY processing
CAPS Translate SAS source and data lines to uppercase
CARDIMAGE Process SAS source and data lines as 80-byte records
CATCACHE Number of SAS catalogs to keep in cache memory
CBUFNO Number of buffers to use for each SAS catalog
CENTER Center SAS procedure output
CGOPTIMIZE Control code generation optimization
CHARCODE Uses character combinations as substitute for special characters not on
the keyboard
CLEANUP Attempt recovery from out-of-resources condition
CMDMAC Support command-style macros
CMPLIB Identify previously compiled libraries of CMP subroutines to use when
linking
```

詳細については、Chapter 4, “OPTIONS Procedure,” (285 ページ)を参照してください。

次の表は、制限ができないシステムオプションの一覧です。

表 1.1 制限ができないシステムオプション

オプション	すべての動作環境	OpenVMS	UNIX	Windows	z/OS
ALTLOG	X				
ALTPRINT	X				
APPEND	X				
ASYNCHIO					X

8 1章 ・ SAS システムオプションで把握すべき事項

オプション	すべての動作環境	OpenVMS	UNIX	Windows	z/OS
AUTOEXEC	X				
BOMFILE	X				
BOTTOMMARGIN	X				
COMDEF			X	X	
CONFIG	X				
CPUCOUNT	X				
DATESTYLE	X				
DBCS			X		
DFLANG	X				
DLDMGACTION	X				
DMR	X				
DMS	X				
DMSEXP	X				
DMSPGMLINESIZE	X				
ENGINE	X				
EXPLORER	X				
FILELOCKWAITMAX			X	X	
INITCMD	X				
INITSTMT	X				
INSERT	X				
JREOPTIONS					X
LEFTMARGIN	X				
LINESIZE	X				
LAST	X				
LOG	X				
LOGAPPLNAME	X				
LOGPARM	X				
MEMCACHE				X	

オプション	すべての動作環境	OpenVMS	UNIX	Windows	z/OS
MEMLIB				X	
METAPASS	X				
METAPROTOCOL	X				
METAREPOSITORY	X				
METASERVER	X				
METAUSER	X				
MSYMTABMAX	X				
MVARSIZE	X				
OBJECTSERVER	X				
ORIENTATION	X				
OVP	X				
PAGESIZE	X				
PAPERSIZE	X				
PATH				X	
PDFPASSWORD	X				
PRINT	X				
PRINTERPATH	X				
RESOURCESLOC				X	
RIGHTMARGIN	X				
SASCONTROL				X	
SASFRSCR	X				
SASUSER	X				
SGIO				X	
SOURCE	X				
SSLPKCS12LOC			X		
SSLPKSC12PASS			X		
SSPI	X				
STARTLIB	X				

オプション	すべての動作環境	OpenVMS	UNIX	Windows	z/OS
SYSIN	X				
SYSPRINTFONT	X				
TERMINAL	X				
TOOLDEF				X	
TOPMARGIN	X				
TRANTAB	X				
USER	X				
WORK	X				

SAS システムオプション値の設定の確認

システムオプション値の設定を確認するには、OPTIONS プロシジャまたは GETOPTION 関数を使用します。

- OPTIONS プロシジャとともに、OPTIONS ステートメントに指定した VALUE オプションを使用します。VALUE オプションにより、指定されたオプションの値とスコープが表示されます。
- GETOPTION 関数を%SYSFUNC マクロ関数への引数として使用します。

```
%put %sysfunc(getoption(option-name, howset));
```

次の例は、OPTIONS プロシジャを使用してシステムオプション CENTER のオプション値の設定を表示します。

```
proc options option=center value;
run;
```

次の部分的な SAS ログは、CENTER のオプション値が出荷時のデフォルトであったことを示します。

ログ1.3 システムオプション CENTER のオプション値情報

```
2 proc options option=center value;
3 run;

Option Value Information for SAS Option CENTER
Option Value: CENTER
Option Scope: Default
How option value set: Shipped Default
```

SAS オプションが構成ファイルから設定されている場合は、オプションの設定元となった構成ファイルの名前が表示されます。

ログ1.4 構成ファイルによって設定されたオプションを表示するオプション値情報

```

7 proc options option=work value;
8 run;

SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1B0

Option Value Information For SAS Option WORK
Value: C:\DOCUME~1\sasuser1\LOCALS~1\Temp\SAS Temporary Files\_TD5428_t20111_
Scope: SAS Session
How option value set: Config File
Config file name:
C:\SASv9\SASv9.cfg

```

SAS オプションが INSERT または APPEND システムオプションを使用して変更された場合、PROC OPTIONS ステートメントに VALUE オプションを使用して、値が挿入または追加されたことを表示できます。

ログ1.5 INSERT および APPEND オプションで変更されたオプションのオプション値情報

```

24 options insert=(fmtsearch="c:/myformats");
25 options append=(fmtsearch="c:/mysas");
26 proc options option=fmtsearch value;
27 run;

SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1B0

Option Value Information For SAS Option FMTSEARCH
Value: ('C:/MYFORMATS' WORK LIBRARY 'C:/MYSAS')
Scope: DMS Process
How option value set: Options Statement
Value Inserted: 'C:/MYFORMATS'

How option value set: Options Window
Value: WORK LIBRARY

How option value set: Options Statement
Value Appended: 'C:/MYSAS'

```

文字のシステムオプションに値が割り当てられていない場合、SAS はオプションに「 (2 個の単一引用符で囲まれた 1 個の空白) を割り当て、Option Value では 1 個の空白が表示されます。

システムオプションの情報の取得

システムオプションに関する基本的な説明情報をすばやく取得するには、PROC OPTIONS ステートメントに DEFINE オプションを指定します。

DEFINE オプションを指定すると、システムオプションに関する次の説明情報が SAS ログに書き込まれます。

- オプションの値
- オプションの説明
- オプションが属する各システムオプショングループの名前と説明
- 型情報(数値か文字か、環境変数値を展開するかどうか、オプションの有効値など)
- SAS セッション内での設定可能なタイミング
- システム管理者が制限できるかどうか

- OPTSAVE プロシジャまたは DMOPTSAVE コマンドでオプションが保存されるかどうか

たとえば、次のステートメントではシステムオプション ERRORCHECK に関する説明情報を含むメッセージを SAS ログに書き込みます。

```
proc options option=errorcheck define;
run;
```

ログ1.6 システムオプション ERRORCHECK に関する説明情報

```
5 proc options option=errorcheck define;
6 run;

SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1B0

ERRORCHECK=NORMAL
Option Definition Information for SAS Option ERRORCHECK
Group= ERRORHANDLING
Group Description: Error messages and error conditions settings
Description: Level of special error processing to be performed
Type: The option value is of type CHARACTER
Maximum Number of Characters: 10
Casing: The option value is retained uppercased
Quotes: If present during "set", start and end quotes are removed
Parentheses: The option value does not require enclosure within parentheses. If present, the parentheses are retained.
Expansion: Environment variables, within the option value, are not expanded
Number of valid values: 2
Valid value: NORMAL
Valid value: STRICT
When Can Set: Startup or anytime during the SAS Session
Restricted: Your Site Administrator can restrict modification of this option
Optsave: PROC Optsave or command Dmoptsave will save this option
```

SAS システムオプション設定の変更

SAS では、SAS システムオプションのデフォルト値が用意されています。制限されていないシステムオプションのデフォルト設定は、システムオプションの機能に応じて複数の方法で無効にできます。

- コマンドラインまたは構成ファイル:

制限されていない SAS システムオプション設定を、SAS コマンドラインから、または構成ファイルで指定します。同じオプション設定を頻繁に使用する場合、通常は、コマンドラインからではなく構成ファイルにオプションを指定した方が便利です。どちらの方法でも、SAS 起動時に SAS システムオプションが設定されます。多くの SAS システムオプション設定は、SAS 起動時にのみ指定できます。詳細は、個々のオプションの説明を参照してください。

- OPTIONS ステートメント:

OPTIONS ステートメントは、データ行と parmc card 行を除き、セッション中であればいつでも指定できます。設定は、別の OPTIONS ステートメントでリセットするか、SAS システム オプション ウィンドウ で変更するか、OPTLOAD プロシジャを使用して以前に保存したオプションをデータセットからロードするまで、現在のプログラムまたはプロセス全体を通して有効な状態が続きます。OPTIONS ステートメントは自動実行ファイルに置くこともできます。

OPTIONS ステートメントに INSERT または APPEND オプションを指定することで、AUTOEXEC オプションや FMTSEARCH オプションなど、ライブラリまたはファイル指定する特定のシステムオプションに値を追加できます。詳細については、“INSERT システムオプションと APPEND システムオプションを使用したオプション値の変更” (13 ページ)を参照してください。

- OPTLOAD プロシジャまたは DMOPTLOAD コマンド:
OPTSAVE プロシジャで指定され、SAS データセットに保存されたオプション設定を読み込むには、OPTLOAD プロシジャまたは DMOPTLOAD コマンドを使用します。
- SAS システム オプションウィンドウ:
ウィンドウ環境の場合、ツールバーかコマンドラインに options と入力して、SAS システム オプションウィンドウを開きます。SAS システム オプションウィンドウに、SAS システムオプショングループ名のリストが表示されます。グループを展開して、オプション名を表示したり、現在の設定を新しい値やデフォルト値に変更したりできます。または、オプションポップアップメニューの【Find Option | オプション検索】コマンドを使用してオプションに直接移動できます。変更はただちに有効になり、OPTIONS ステートメントでリセットするか、SAS システム オプションウィンドウで変更しない限り、セッション中は有効な状態が続きます。

SAS システムオプションは、サイト管理者が制限できるため、管理者が設定した後、ユーザーは変更できなくなります。動作環境に応じて、システムオプションはグローバル、グループ単位またはユーザー単位に制限できます。制限されているオプションを確認するには、OPTIONS プロシジャを使用します。詳細については、[Chapter 4, “OPTIONS Procedure,” \(285 ページ\)](#)および動作環境向け SAS ドキュメントを参照してください。オプションの制限方法の詳細については、サイト管理者にお問い合わせください。

INSERT システムオプションと APPEND システムオプションを使用したオプション値の変更

次のオプションの値を変更するには、INSERT および APPEND オプションを使用します。

オプション	オプションを設定可能な場所
AUTOEXEC	構成ファイル、SAS 起動時
CMPLIB	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ
FMTSEARCH	OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
HELPLOC	構成ファイル、SAS 起動時
MAPS	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
MSG	構成ファイル、SAS 起動時

オプション	オプションを設定可能な場所
SASAUTOS	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
SASHELP	構成ファイル、SAS 起動時
SASSCRIPT	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
SET	構成ファイル、SAS 起動時

これらのオプションでは、値として 1 つ以上のライブラリ、ファイルまたは環境変数を指定します。現在の値の前に値を挿入するには、INSERT オプションを使用します。現在の値の末尾に値を追加するには、APPEND オプションを使用します。INSERT オプションと APPEND オプションと一緒に使用できるオプションのリストを SAS ログに表示するには、PROC OPTIONS ステートメントに LISTINSERTAPPEND オプションを使用します。

```
1 proc options listinsertappend; 2 run; SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1B0 C
```

INSERT オプションと APPEND オプションの構文は、SAS 起動時と SAS 起動後に OPTIONS ステートメントを使用する場合とで異なります。SAS 起動時に使用する正確な構文については、動作環境向けドキュメントを参照してください。

- UNIX 版 SAS
- Windows 版 SAS
- z/OS 版 SAS

SAS 起動後に INSERT オプションまたは APPEND オプションを指定する場合、すべての動作環境で同じ構文を使用し、構文にはかっこが必要になります。

```
insert=(system-option-1=argument-1 system-option-n=argument-n)
```

```
append=(system-option-1=argument-1 system-option-n=argument-n)
```

構文中の *system-option=argument* は、指定されたシステムオプションに必要な構文を示します。

2 つの例を次に示します。

```
options insert=(fmtsearch="c:/myformats"); options append=(fmtsearch=("c:/mysasfmt" "u:/mysa
```

詳細については、“INSERT=システムオプション” (141 ページ) および“APPEND=システムオプション” (50 ページ)を参照してください。

オプション値に挿入または追加された値を表示するには、PROC OPTIONS ステートメントで VALUE オプションを使用します。

```
26 proc options option=fmtsearch value; 27 run; SAS (r) Proprietary Software Release xxx
```

INSERT および APPEND システムオプションに指定されたとおりに、値が挿入または追加されます。SAS では重複する値があるかどうかはチェックされません。

INSERT および APPEND システムオプションでは、システムオプション値への値の追加のみを行います。システムオプションから値を削除するには、このオプションを必要な値に設定します。

システムオプションをデフォルト値または開始値にリセット

SAS システム オプションウィンドウを使用したオプションのデフォルト値へのリセット

SAS システム オプションウィンドウを使用してシステムオプションをデフォルトオプションにリセットするには、次の操作を実行します。

1. SAS メニューバーから、ツール ⇒ オプション ⇒ システムを選択します。
2. オプションを右クリックし、【Find Option | オプション検索】をクリックします。
3. オプション名を入力し、OK をクリックします。
4. オプション名を右クリックし、デフォルトに設定オプションを選択します。

%Put マクロおよびGETOPTIONS 関数を使用したオプションのデフォルト値または開始値へのリセット

SAS システム オプションウィンドウか、マクロ処理と GETOPTION 関数を一緒に使用して、システムオプションをデフォルト値または SAS 起動時に指定された値に設定できます。

システムオプションをデフォルト値に設定するには、GETOPTION 関数の DEFAULTVALUE オプションを使用します。システムオプションを開始値に設定するには、GETOPTION 関数の STARTUPVALUE オプションを使用します。

次のコード例では、PAPERSIZE=システムオプションをデフォルト値と開始値に設定します。

```
/* Check the value of papersize before we change it. */
/* The initial value is A4 as this value was used when */
/* SAS started. */

%put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));

/* Change the PAPERSIZE value and check the change. */

options papersize="600x800 Pixels";

%put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));

/* Change PAPERSIZE back to the default value and check it. */
/* RESULT: LETTER */

%let defsize = %sysfunc(getoption(papersize,keyword,defaultvalue)) ;
options &defsize; run;
%put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));

/* Change the value to the startup value and check it. */
/* RESULT: A4 */

%let defsize = %sysfunc(getoption(papersize,keyword,startupvalue)) ;
options &defsize; run;
%put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));
```

SAS ログには次の行が表示されます。

```

22 /* Check the value of papersize before we change it. */
23 /* The initial value is A4 as this value was used when */
24 /* SAS started. */
25
26 %put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));
PAPERSIZE=A4
27
28 /* Change the PAPERSIZE value and check the change. */
29
30 options papersize="600x800 Pixels";
31
32 %put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));
PAPERSIZE=600X800 PIXELS
33
34 /* Change PAPERSIZE back to the default value and check it. */
35 /* RESULT: LETTER */
36
37 %let defsize = %sysfunc(getoption(papersize,keyword,defaultvalue)) ;
38 options &defsize; run;
39 %put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));
PAPERSIZE=LETTER
40
41 /* Change the value to the startup value and check it. */
42 /* RESULT: A4 */
43
44 %let defsize = %sysfunc(getoption(papersize,keyword,startupvalue)) ;
45 options &defsize; run;
46 %put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));
PAPERSIZE=A4

```

詳細については、[GETOPTION 関数 \(21 ページ\)](#)を参照してください。

システムオプション設定の有効期間

SAS システムオプション設定を指定すると、設定は、次のステップと、SAS セッション継続中のすべての後続ステップに適用されます。または、次のようにシステムオプション設定をリセットするまで適用されます。

```

data one;
set items;
run;

/* option applies to all subsequent steps */
options obs=5;

/* printing ends with the fifth observation */
proc print data=one;
run;

/* the SET statement stops reading
after the fifth observation */
data two;
set items;
run;

```

5 個を超えるオブザベーションを読み込むには、OBS=システムオプションをリセットする必要があります。詳細については、“[OBS=システムオプション](#)” (165 ページ) を参照してください。

優先順序

同じシステムオプションが複数の場所にある場合、優先順序(高い順)は次のようになります。

1. 制限されたオプションテーブル(存在する場合)
2. OPTIONS ステートメントおよび SAS システム オプションウィンドウ
3. 自動実行ファイル(OPTIONS ステートメントが含まれる場合)
4. コマンドラインでの指定
5. 構成ファイルでの指定
6. SAS システムのデフォルト設定

動作環境の情報

動作環境によっては、システムオプションを上記以外の場所に指定できる場合があります。動作環境向け SAS ドキュメントを参照してください。

次の表は、SAS が実行モードオプションに使用する優先順序です。これらのオプションは SAS 起動時オプションのサブセットであり、SAS 起動時にコマンドラインで指定されます。

表 1.2 SAS 実行モードオプションの優先順序

実行モードオプション	優先順序
OBJECTSERVER	1 番目
DMR	2 番目
SYSIN	3 番目
INITCMD	4 番目
DMS	4 番目
DMSEXP	4 番目
EXPLORER	4 番目
なし(デフォルトは、UNIX では対話型行モード、z/OS では対話型フルスクリーンモード)	5 番目

SAS 実行モードオプションの優先順序は次のルールで決定されます。

- SAS では、優先順序の高い順に実行モードオプションを使用します。
- 優先順序が同じ実行モードオプションを複数指定すると、最後に表示されるオプションのみが使用されます。

詳細については、個々のオプションの説明を参照してください。

データセットオプションとの相互作用

システムオプションおよびデータセットオプションの多くは、同じ名前を共有し、同じ関数を使用します。システムオプションは、設定が変更されるまで、SAS ジョブまたはセ

セッション内のすべての DATA および PROC ステップに対して有効な状態を保ちます。ただし、データセットオプションは、指定されたステップ内の特定のデータセットについてのみシステムオプションより優先されます。

この例では、OPTIONS ステートメント内の OBS=システムオプションで、SAS ジョブ内のデータセットから最初の 100 件のオブザベーションのみを読み取るように指定しています。ただし、SET ステートメント内の OBS=データオプションが、システムオプションよりも優先され、データセット TWO から最初の 5 件のオブザベーションのみを読み込むように指定されます。PROC PRINT ステップでは、システムオプション設定を使用し、データセット THREE から最初の 100 件のオブザベーションを読み取り、印刷します。

```
options obs=100;

data one;
set two(obs=5);
run;

proc print data=three;
run;
```

比較

システムオプション、データセットオプション、ステートメントオプション間には違いがあります。

システムオプション

設定が変更されない限り、SAS ジョブまたは現在のプロセス内のすべての DATA および PROC ステップに対して有効な状態を保ちます。

データセットオプション

データセットオプションが指定された SAS データセットの処理に適用されます。一部のデータセットオプションには、対応するシステムオプションまたは LIBNAME ステートメントオプションがあります。個々のデータセットについて、データセットオプションを他のオプションより優先することができます。

ステートメントオプション

指定されたステートメントのアクションをコントロールします。LIBNAME ステートメントなど、グローバルステートメント内のオプションは、影響範囲が広がる場合があります。

2 部

SAS システムオプションの SAS 関数

2 章	システムオプションの関数のディクショナリ.....	21
-----	---------------------------	----

2 章

システムオプションの関数のディクシ
ヨナリ

ディクシヨナリ	21
GETOPTION 関数	21

ディクシヨナリ

GETOPTION 関数

SAS システムまたはグラフィックオプションの値を指定します。

カテゴリ: 特殊関数

構文

GETOPTION(*option-name*<, *return-value-option*><*return-value-formatting-options*>)

必須引数

option-name

システムオプションの名前を指定する文字定数、変数または式です。

ヒン 名前の後に等号記号を付けないでください。たとえば、PAGESIZE=は
ト PAGESIZE と記述します。

EMAILPW や METAPASS など、パスワードである SAS オプションは、実際のパスワードではなく値 **xxxxxxxx** を返します。

return-value-option

DEFAULTVALUE

デフォルトオプション値を返します。

制限 DEFAULTVALUE は、SAS システムオプションでのみ有効です。
事項 DEFAULTVALUE オプションが指定され、*option-name* がグラフィックオプションの場合、SAS から警告メッセージが発行されます。

HOWSCOPE

オプションの範囲を示す文字列を返します。

制限事項 HOWSCOPE は、SAS システムオプションでのみ有効です。HOWSCOPE オプションが指定され、*option-name* がグラフィックオプションの場合、SAS から警告メッセージが発行されます。

HOWSET

オプション値の設定を示す文字列を返します。

制限事項 HOWSET は、SAS システムオプションでのみ有効です。HOWSET オプションが指定され、*option-name* がグラフィックオプションの場合、SAS から警告メッセージが発行されます。

STARTUPVALUE

コマンドラインまたは構成ファイルのいずれかで SAS の起動に使用されたシステムオプション値を返します。

制限事項 STARTUPVALUE は、SAS システムオプションでのみ有効です。STARTUPVALUE オプションが指定され、*option-name* がグラフィックオプションの場合、SAS から警告メッセージが発行されます。

return-value-formatting-options**CM**

グラフィック単位をセンチメートルで報告します。

制限事項 CM は、グラフィックオプションと SAS システムオプションの BOTTOMMARGIN、TOPMARGIN、RIGHTMARGIN、LEFTMARGIN でのみ有効です。CM オプションが指定され、*option-name* がグラフィックオプションまたは余白値を示すオプションのどちらでもない場合、SAS によりログにメモが書き込まれます。

EXPAND

環境変数が含まれるオプションについて、オプション値と環境変数の値を返します。

制限事項 変数展開は、Windows および UNIX 動作環境でのみ有効です。

EXPAND は、文字のシステムオプション値でのみ有効です。CENTER や NOCENTER など、*option-name* のオプションタイプがブール式か、オプションの値が数値の場合、EXPAND は無視されます。

注 ブール式オプションや数値のオプションに EXPAND が指定されると、SAS からメモが発行されます。EXPAND オプションが指定され、オプションがグラフィックオプションの場合、SAS から警告が発行されます。

ヒント デフォルトでは、一部のオプション値は展開された変数値と一緒に表示されます。その他のオプション値では、PROC OPTIONS ステートメントに EXPAND オプションが必要です。オプション値がデフォルトで変数を展開するのか、EXPAND オプションが必要なのかを確認するには、PROC OPTIONS ステートメントで DEFINE オプションを使用します。PROC OPTIONS DEFINE からの出力に次の情報が表示された場合、変数値を展開するには EXPAND オプションを使用する必要があります。

Expansion: Environment variables, within the option value, are not expanded

KEYEXPAND

環境変数が含まれるオプションについて、`option-name=value` の出力形式で値を返します。

- 制限** KEYEXPAND は、文字のシステムオプション値でのみ有効です。
- 事項** KEYEXPAND オプションが指定され、`option-name` がグラフィックオプションの場合、SAS からエラーメッセージが発行されます。CENTER や NOCENTER など、`option-name` のオプションタイプがブール式か、オプションの値が数値の場合、KEYEXPAND は無視されます。

KEYWORD

SAS OPTIONS または GOPTIONS グローバルステートメントで直接使用するのに適した `option-name=value` 出力形式でオプション値を返します。

- 制限** KEYWORD は、HEXVALUE、EXPAND、KEYEXPAND、LOGNUMBERFORMAT オプションとともに使用すると、有効ではありません。
- 事項** GETOPTION 関数に競合するオプションが含まれていると、SAS によりログにメモが書き込まれます。

KEYWORD は、文字または数値のシステムオプション値でのみ有効です。KEYWORD は、CENTER や NOCENTER など、オプションタイプがブール式のシステムオプションでは無視されます。KEYWORD オプションが指定され、`option-name` がグラフィックオプションの場合、SAS からエラーメッセージが発行されます。

- 注** null 値を含むシステムオプションの場合、GETOPTION 関数は値 ' ' (単一引用符で囲まれた 1 個の空白) を返します。たとえば、EMAILID=' ' のように返されます。

HEXVALUE

オプション値を 16 進値で返します。

- 制限** HEXVALUE は、文字または数値のシステムオプション値でのみ有効です。
- 事項** HEXVALUE が、CENTER や NOCENTER など、オプションタイプがブール式のシステムオプションに指定されたか、`option-name` がグラフィックオプションの場合、SAS によりエラーメッセージが発行されます。

IN

グラフィック単位をインチで報告します。

- 制限** IN は、グラフィックオプションと SAS システムオプションの
- 事項** BOTTOMMARGIN、TOPMARGIN、RIGHTMARGIN、LEFTMARGIN でのみ有効です。IN オプションが指定され、`option-name` がグラフィックオプションまたは余白値を示すオプションのどちらでもない場合、SAS によりログにメモが書き込まれます。

LOGNUMBERFORMAT

ロケール固有の句読点を使用して SAS システムオプション値に出力形式を適用します。

- 制限** OPTIONS ステートメントを使用したオプション値の設定に戻り値を使用する場合、LOGNUMBERFORMAT を使用しないでください。OPTIONS ステートメントでは、カンマを含む数値を受け入れません。

例**例 1: GETOPTION を使用した YEARCUTOFF オプションの保存と復元**

この例では、YEARCUTOFF オプションの値を保存し、YEARCUTOFF オプションの値に基づいて SAS ステートメントを処理し、値が 1920 でない場合は 1920 にリセットします。

```
/* Save the value of the YEARCUTOFF system option */
%let cutoff=%sysfunc(getoption(yearcutoff,keyword));

data ages;
if getoption('yearcutoff') = '1920' then
do;
...more SAS statements...
end;
else do;
...more SAS statements...
/* Reset YEARCUTOFF */
options &cutoff;
end;
run;
```

例 2: GETOPTION を使用した別のレポートオプションの取得

この例では、GETOPTION 関数の使用方法を説明するマクロを定義し、さまざまなレポートオプションを使用して、システムおよびグラフィックオプションの値を取得します。

```
%macro showopts;
%put MAPS= %sysfunc(
getoption(MAPS));
%put MAPSEXPANDED= %sysfunc(
getoption(MAPS, EXPAND));
%put PAGESIZE= %sysfunc(
getoption(PAGESIZE));
%put PAGESIZESETBY= %sysfunc(
getoption(PAGESIZE, HOWSET));
%put PAGESIZESCOPE= %sysfunc(
getoption(PAGESIZE, HOWSCOPE));
%put PS= %sysfunc(
getoption(PS));
%put LS= %sysfunc(
getoption(LS));
%put PS(keyword form)= %sysfunc(
getoption(PS,keyword));
%put LS(keyword form)= %sysfunc(
getoption(LS,keyword));
%put FORMCHAR= %sysfunc(
getoption(FORMCHAR));
%put HSIZE= %sysfunc(
getoption(HSIZE));
%put VSIZE= %sysfunc(
getoption(VSIZE));
%put HSIZE(in/keyword form)= %sysfunc(
getoption(HSIZE,in,keyword));
%put HSIZE(cm/keyword form)= %sysfunc(
getoption(HSIZE,cm,keyword));
```



```
%put VSIZE(in/keyword form)= %sysfunc(  
getoption(VSIZE,in,keyword));  
%put HSIZE(cm/keyword form)= %sysfunc(  
getoption(VSIZE,cm,keyword));  
%mend;  
goptions VSIZE=8.5 in HSIZE=11 in;  
options PAGESIZE=67;  
%showopts
```

SAS ログは次のようになります。

```

NOTE: PROCEDURE PRINTTO used (Total process time):
real time 0.00 seconds
cpu time 0.00 seconds

6 %macro showopts;
7 %put MAPS= %sysfunc(
8 getoption(MAPS));
9 %put MAPSEXPANDED= %sysfunc(
10 getoption(MAPS, EXPAND));
11 %put PAGESIZE= %sysfunc(
12 getoption(PAGESIZE));
13 %put PAGESIZESETBY= %sysfunc(
14 getoption(PAGESIZE, HOWSET));
15 %put PAGESIZESCOPE= %sysfunc(
16 getoption(PAGESIZE, HOWSCOPE));
17 %put PS= %sysfunc(
18 getoption(PS));
19 %put LS= %sysfunc(
20 getoption(LS));
21 %put PS(keyword form)= %sysfunc(
22 getoption(PS,keyword));
23 %put LS(keyword form)= %sysfunc(
24 getoption(LS,keyword));
25 %put FORMCHAR= %sysfunc(
26 getoption(FORMCHAR));
27 %put HSIZE= %sysfunc(
28 getoption(HSIZE));
29 %put VSIZE= %sysfunc(
30 getoption(VSIZE));
31 %put HSIZE(in/keyword form)= %sysfunc(
32 getoption(HSIZE,in,keyword));
33 %put HSIZE(cm/keyword form)= %sysfunc(
34 getoption(HSIZE,cm,keyword));
35 %put VSIZE(in/keyword form)= %sysfunc(
36 getoption(VSIZE,in,keyword));
37 %put HSIZE(cm/keyword form)= %sysfunc(
38 getoption(VSIZE,cm,keyword));
39 %mend;
40 goptions VSIZE=8.5 in HSIZE=11 in;
41 options PAGESIZE=67;
42 %showopts
MAPS= (!sasroot\maps-path\en\maps)
MAPSEXPANDED= (C:\maps-path\en\maps)
PAGESIZE= 67
PAGESIZESETBY= Options Statement
PAGESIZESCOPE= Line Mode Process
PS= 67
LS= 78
PS(keyword form)= PS=67
LS(keyword form)= LS=78
FORMCHAR= ,f_n...††%Š<€+=|-/\<>*
HSIZE= 11.0000 in
VSIZE= 8.5000 in
HSIZE(in/keyword form)= HSIZE=11.0000 in
HSIZE(cm/keyword form)= HSIZE=27.9400 cm
VSIZE(in/keyword form)= VSIZE=8.5000 in
HSIZE(cm/keyword form)= VSIZE=21.5900 cm
43 proc printto; run;

```

例 3: デフォルト値と開始値を返す

この例では、PAPERSIZE システムオプションの値を特定の値、PAPERSIZE オプションのデフォルト値、および SAS 起動時に PAPERSIZE オプションに割り当てられた値に変更します。

```
/* Check the value of papersize before we change it. */
```

```

/* The initial value is A4 as this value was used when */
/* SAS started. */

%put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));

/* Change the PAPERSIZE value and check the change. */

options papersize="600x800 Pixels";

%put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));

/* Change PAPERSIZE back to the default value and check it. */
/* RESULT: LETTER */

%let defsize = %sysfunc(getoption(papersize,keyword,defaultvalue)) ;
options &defsize; run;
%put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));

/* Change the value to the startup value and check it. */
/* RESULT: A4 */

%let defsize = %sysfunc(getoption(papersize,keyword,startupvalue)) ;
options &defsize; run;
%put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));

```

SAS ログには次の行が表示されます。

```

22 /* Check the value of papersize before we change it. */
23 /* The initial value is A4 as this value was used when */
24 /* SAS started. */
25
26 %put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));
PAPERSIZE=A4
27
28 /* Change the PAPERSIZE value and check the change. */
29
30 options papersize="600x800 Pixels";
31
32 %put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));
PAPERSIZE=600X800 PIXELS
33
34 /* Change PAPERSIZE back to the default value and check it. */
35 /* RESULT: LETTER */
36
37 %let defsize = %sysfunc(getoption(papersize,keyword,defaultvalue)) ;
38 options &defsize; run;
39 %put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));
PAPERSIZE=LETTER
40
41 /* Change the value to the startup value and check it. */
42 /* RESULT: A4 */
43
44 %let defsize = %sysfunc(getoption(papersize,keyword,startupvalue)) ;
45 options &defsize; run;
46 %put %sysfunc(getoption(papersize,keyword));
PAPERSIZE=A4

```

注: PAGESIZE=および LINESIZE=オプションのデフォルト設定は、SAS の実行に使用するモードに依存します。

3 部

SAS システムオプション

3 章	システムオプションのディクショナリ	31
-----	-------------------------	----

3 章

システムオプションのディクショナリ

他の SAS ドキュメントで説明されている SAS システムオプション	35
カテゴリ別の SAS システムオプション	35
ディクショナリ	50
APPEND=システムオプション	50
APPLETLOC=システムオプション	52
AUTHPROVIDERDOMAIN システムオプション	53
AUTOCORRECT システムオプション	55
AUTOSAVELOC=システムオプション	57
BINDING=システムオプション	57
BOTTOMMARGIN=システムオプション	58
BUFNO=システムオプション	59
BUFSIZE=システムオプション	61
BYERR システムオプション	62
BYLINE システムオプション	63
BYSORTED システムオプション	64
CAPS システムオプション	65
CARDIMAGE システムオプション	66
CATCACHE=システムオプション	67
CBUFNO=システムオプション	68
CENTER システムオプション	69
CGOPTIMIZE=システムオプション	70
CHARCODE システムオプション	70
CHKPTCLEAN システムオプション	72
CLEANUP システムオプション	73
CMPLIB=システムオプション	75
CMPMODEL=システムオプション	76
CMPOPT=システムオプション	77
COLLATE システムオプション	79
COLORPRINTING システムオプション	80
COMPRESS=システムオプション	81
COPIES=システムオプション	83
CPUCOUNT=システムオプション	83
CPUID システムオプション	85
DATASTMTCHK=システムオプション	86
DATE システムオプション	86
DATESTYLE=システムオプション	87
DEFLATION=システムオプション	88
DETAILS システムオプション	89
DEVICE=システムオプション	90
DKRICOND=システムオプション	91

DKROCOND=システムオプション	92
DLCREATEDIR システムオプション	93
DLDMGACTION=システムオプション	93
DMR システムオプション	94
DMS システムオプション	95
DMSEXP システムオプション	96
DMSLOGSIZE=システムオプション	97
DMSOUTSIZE=システムオプション	98
DMSPGMLINESIZE=システムオプション	99
DMSSYNCHK システムオプション	100
DSNFERR システムオプション	101
DTRESET システムオプション	102
DUPLEX システムオプション	102
ECHOAUTO システムオプション	103
EMAILAUTHPROTOCOL=システムオプション	104
EMAILFROM システムオプション	105
EMAILHOST=システムオプション	106
EMAILID=システムオプション	107
EMAILPORT システムオプション	108
EMAILPW=システムオプション	109
EMAILUTCOFFSET=システムオプション	110
ENGINE=システムオプション	111
ERRORABEND システムオプション	112
ERRORBYABEND システムオプション	113
ERRORCHECK=システムオプション	114
ERRORS=システムオプション	114
EVENTDS=システムオプション	115
EXPLORER システムオプション	117
FILESYNC=システムオプション	118
FIRSTOBS=システムオプション	119
FMTERR システムオプション	121
FMTSEARCH=システムオプション	121
FONTEMBEDDING システムオプション	124
FONTRENDERING=システムオプション	125
FONTSLC=システムオプション	127
FORMCHAR=システムオプション	127
FORMDLIM=システムオプション	128
FORMS=システムオプション	129
GSTYLE システムオプション	130
GWINDOW システムオプション	131
HELPPBROWSER=システムオプション	131
HELPPENCMD システムオプション	132
HELPHOST システムオプション	133
HELPPORT=システムオプション	134
HTTPSERVERPORTMAX=システムオプション	135
HTTPSERVERPORTMIN=システムオプション	135
IBUFNO=システムオプション	136
IBUFSIZE=システムオプション	137
INITCMD システムオプション	139
INITSTMT=システムオプション	140
INSERT=システムオプション	141
INTERVALDS=システムオプション	143
INVALIDDATA=システムオプション	144
JPEGQUALITY=システムオプション	144
LABEL システムオプション	145
LABELCHKPT システムオプション	146

LABELCHKPTLIB=システムオプション	148
LABELRESTART システムオプション	149
LAST =システムオプション	151
LEFTMARGIN=システムオプション	151
LINESIZE=システムオプション	152
LOGPARM=システムオプション	153
LRECL=システムオプション	158
MAPS=システムオプション	159
MERGENOBY システムオプション	160
MISSING=システムオプション	161
MSGLEVEL=システムオプション	161
MULTENVAPPL システムオプション	162
NEWS=システムオプション	163
NOTES システムオプション	164
NUMBER システムオプション	165
OBS=システムオプション	165
ORIENTATION=システムオプション	174
OVP システムオプション	177
PAGEBREAKINITIAL システムオプション	177
PAGENO=システムオプション	178
PAGESIZE=システムオプション	179
PAPERDEST=システムオプション	180
PAPERSIZE=システムオプション	180
PAPERSOURCE=システムオプション	182
PAPERTYPE=システムオプション	183
PARM=システムオプション	184
PARMCARDS=システムオプション	184
PDFACCESS システムオプション	185
PDFASSEMBLY システムオプション	186
PDFCOMMENT システムオプション	187
PDFCONTENT システムオプション	188
PDFCOPY システムオプション	189
PDFFILLIN システムオプション	190
PDFPAGELAYOUT=システムオプション	192
PDFPAGEVIEW=システムオプション	193
PDFPASSWORD=システムオプション	194
PDFPRINT=システムオプション	195
PDFSECURITY=システムオプション	197
PRIMARYPROVIDERDOMAIN=システムオプション	199
PRINTERPATH=システムオプション	200
PRINTINIT システムオプション	202
PRINTMSGLIST システムオプション	202
QUOTELENMAX システムオプション	203
REPLACE システムオプション	204
REUSE=システムオプション	205
RIGHTMARGIN=システムオプション	206
RLANG システムオプション	207
RSASUSER システムオプション	208
S=システムオプション	208
S2=システムオプション	211
S2V=システムオプション	213
SASHELP=システムオプション	215
SASUSER=システムオプション	216
SEQ=システムオプション	216
SETINIT システムオプション	217
SKIP=システムオプション	218

SOLUTIONS システムオプション	219
SORTDUP=システムオプション	219
SORTEQUALS システムオプション	220
SORTSIZE=システムオプション	221
SORTVALIDATE システムオプション	222
SOURCE システムオプション	223
SOURCE2 システムオプション	224
SPOOL システムオプション	225
STARTLIB システムオプション	226
STEPCHKPT システムオプション	227
STEPCHKPTLIB=システムオプション	228
STEPRESTART システムオプション	230
SUMSIZE=システムオプション	231
SVGCONTROLBUTTONS	232
SVGHEIGHT=システムオプション	233
SVGPRESERVEASPECTRATIO=システムオプション	235
SVGTITLE=システムオプション	238
SVGVIEWBOX=システムオプション	239
SVGWIDTH=システムオプション	241
SVGX=システムオプション	243
SVGY=システムオプション	244
SYNTAXCHECK システムオプション	245
SYSPRINTFONT=システムオプション	247
TERMINAL システムオプション	249
TERMSTMT=システムオプション	250
TEXTURELOC=システムオプション	251
THREADS システムオプション	252
TOOLSMENU システムオプション	253
TOPMARGIN=システムオプション	254
TRAINLOC=システムオプション	255
UPRINTCOMPRESSION システムオプション	255
URLENCODING=システムオプション	256
USER=システムオプション	257
UTILLOC=システムオプション	258
UUIDCOUNT=システムオプション	259
UIDGENDHOST=システムオプション	260
V6CREATEUPDATE=システムオプション	262
VALIDFMTNAME=システムオプション	262
VALIDMEMNAME=システムオプション	264
VALIDVARNAME=システムオプション	266
VARLENCHK=システムオプション	268
VBUFSIZE=システムオプション	271
VIEWMENU システムオプション	273
VNFERR システムオプション	273
WORK=システムオプション	278
WORKINIT システムオプション	279
WORKTERM システムオプション	280
YEARCUTOFF=システムオプション	281

他の SAS ドキュメントで説明されている SAS システムオプション

一部のシステムオプションは、他の SAS ドキュメントの関連する題材で説明されています。

- Encryption in SAS
- [Grid Computing in SAS](http://support.sas.com) (support.sas.com)
- SAS Interface to Application Response Measurement (ARM): Reference
- SAS Companion for Windows
- SAS Companion for UNIX Environments
- SAS Companion for z/OS
- SAS Data Quality Server: Reference
- [SAS Intelligence Platform: Application Server Administration Guide](http://support.sas.com)(support.sas.com)
- SAS Language Interfaces to Metadata
- SAS Logging: Configuration and Programming Reference
- SAS Macro Language: Reference
- SAS National Language Support (NLS): Reference Guide
- SAS Output Delivery System User's Guide
- SAS Scalable Performance Data Engine: Reference
- SAS SQL Procedure User's Guide
- SAS VSAM Processing for z/OS
- SAS/ACCESS for Relational Databases: Reference
- SAS/CONNECT User's Guide
- SAS/GRAPH: Reference
- SAS/SHARE User's Guide

カテゴリ別の SAS システムオプション

SAS システムオプションのカテゴリは、SAS システムオプショングループおよびサブグループに対応します。

コミュニケーション: 電子メール	SAS を使用した電子メールの送受信に関連付けられたオプション
コミュニケーション: ネットワークと暗号化	リモートコミュニケーション、共有設定、暗号化に関連するオプション
コミュニケーション: メタデータ	SAS のメタデータの使用を構成するオプション

環境コントロール: 表示	SAS ウィンドウと表示のプリファレンスを設定するオプション
環境コントロール: エラー処理	エラー条件とエラーメッセージ関連付けられたオプション
環境コントロール: ファイル	SAS ライブラリとファイルの場所のプリファレンスを設定するオプション
環境コントロール: ヘルプ	SAS ヘルプの構成に使用するオプション
環境コントロール: 初期化および操作	SAS 動作環境を確立するオプション
環境コントロール: 言語コントロール	言語と翻訳のプリファレンスを設定するオプション
ファイル: 外部ファイル	SAS で作成されていないファイルを処理する方法を定義するオプション
ファイル: SAS ファイル	SAS ファイルを処理する方法を定義するオプション
入力コントロール: データ処理	データ入力とデータ処理のプリファレンスのオプション
入力コントロール: Data Quality	SAS Data Quality Server を構成するオプション
グラフィック: ドライバ設定	デバイス、グラフィック、マップのプリファレンスを定義するオプション
ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ	SAS ログに書き込まれるメッセージの表示を制御するオプション
ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力	プロシジャ出力と表示のプリファレンスを定義するオプション
ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログおよびプロシジャ出力	SAS ログおよびプロシジャ出力の両方のプリファレンスを制御するオプション
ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷	ODS 出力先に印刷するプリファレンスを定義するオプション
ログおよびプロシジャ出力コントロール: PDF	ODS ファイルのプリファレンスを定義するオプション
ログおよびプロシジャ出力コントロール: SVG	SVG ファイルのプリファレンスを定義するオプション
ログおよびプロシジャ出力コントロール: アニメーション	アニメーション SVG ファイルのプリファレンスを定義するオプション
マクロ: SAS マクロ	SAS マクロのプリファレンスを定義するオプション
並べ替え: プロシジャオプション	SAS ファイルの並べ替えのプリファレンスを定義するオプション
システム管理: インストール	サイトのインストール設定を定義するオプション
システム管理: メモリ	コンピュータのメモリのプリファレンスを定義するオプション
システム管理: 処理速度	処理速度のプリファレンスを定義するオプション

システム管理: コードの生成	SAS 言語ステートメントを生成するプリファレンスを定義するオプション
システム管理: セキュリティ	セキュリティ設定を定義するオプション
システム管理: SQL	SQL プロシジャの設定を定義するオプション

カテゴリ	言語要素	説明
環境コントロール: エラー処理	AUTOCORRECT システムオプション (p. 55)	プロシジャ名のスペルミス、プロシジャキーワードのスペルミス、グローバルステートメント名のスペルミスの自動修正を SAS で試みるかどうかを指定します。
	BYERR システムオプション (p. 62)	SORT プロシジャが <code>_NULL_</code> データセットを処理しようとしたときに、SAS でエラーを生成するかどうかを指定します。
	CHKPTCLEAN システムオプション (p. 72)	SAS がチェックポイントモードまたは再開モードの場合、バッチプログラムが正常に実行された後に Work ライブラリの内容を消去するかどうかを指定します。
	CLEANUP システムオプション (p. 73)	リソース不足の場合、自動クリーンアップを実行するか、ユーザー指定のクリーンアップを実行するかを指定します。
	DKRICOND=システムオプション (p. 91)	DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に入力データセットの変数が欠損しているときに、報告するエラー検出のレベルを指定します。
	DKROCOND=システムオプション (p. 92)	DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に出力データセットの変数が欠損しているときに、報告するエラー検出のレベルを指定します。
	DMSSYNCHK システムオプション (p. 100)	SAS ウィンドウ環境で、DATA ステップおよび PROC ステップ処理の構文チェックモードを有効にするかどうかを指定します。
	DSNFERR システムオプション (p. 101)	SAS データセットが見つからないときに、SAS でエラーメッセージを発行するかどうかを指定します。
	ERRORABEND システムオプション (p. 112)	エラーが発生した場合に、SAS を終了するかどうかを指定します。
	ERRORBYABEND システムオプション (p. 113)	BY グループ処理でエラーが発生したときにプログラムが終了されるかどうかを指定します。
	ERRORCHECK=システムオプション (p. 114)	LIBNAME、FILENAME、%INCLUDE、LOCK ステートメントでエラーが検出されたときに SAS が構文チェックモードになるかどうかを指定します。
	ERRORS=システムオプション (p. 114)	詳細なエラーメッセージが発行されるオブザベーションの最大数を指定します。
	FMTERR システムオプション (p. 121)	変数の出力形式が見つからない場合、SAS でエラーを生成するのか、または処理を続行するのかを指定します。
	FORMS=システムオプション (p. 129)	用紙を印刷に使用する場合、使用するデフォルトの用紙を指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	LABELCHKPT システムオプション (p. 146)	ラベル付きコードセクションのチェックポイント-再開データをバッチプログラムで記録するかどうかを指定します。
	LABELCHKPTLIB=システムオプション (p. 148)	ラベル付きコードセクションのチェックポイント-再開データを保存するライブラリのライブラリ参照名を指定します。
	LABELRESTART システムオプション (p. 149)	ラベル付きコードセクションで収集したデータのチェックポイント-再開データを使用してバッチプログラムを実行するかどうかを指定します。
	QUOTELENMAX システムオプション (p. 203)	引用符で囲まれた文字列が最大許容長を超えている場合、SAS で警告メッセージを SAS ログに書き込むかどうかを指定します。
	STEPCHKPT システムオプション (p. 227)	DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データをバッチプログラムで記録するかどうかを指定します。
	STEPCHKPTLIB=システムオプション (p. 228)	DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データを保存するライブラリのライブラリ参照名を指定します。
	STEPRESTART システムオプション (p. 230)	DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データを使用して、バッチプログラムを実行するかどうかを指定します。
	SYNTAXCHECK システムオプション (p. 245)	非対話型またはバッチ SAS セッションで、複数のステップの構文チェックモードを有効にするかどうかを指定します。
	VNFERR システムオプション (p. 273)	BY 変数があるデータセットに存在して別のデータセットに存在せず、その他のデータセットが <code>_NULL_</code> のときに、エラーまたは警告を発行するかどうかを指定します。このオプションは、SET、MERGE、UPDATE、MODIFY のいずれかのステートメントを処理するときに適用されます。
環境コントロール: 言語コントロール	DATESTYLE=システムオプション (p. 87)	ANYDTE、ANYDTDM または ANYDTIME 入力形式があいまいな場合の月、日、年の順序を指定します。
	PAPERSIZE=システムオプション (p. 180)	印刷に使用する用紙サイズを指定します。
	URLENCODING=システムオプション (p. 256)	SAS セッションエンコーディングと UTF-8 エンコーディングのどちらを使用して URLENCODE 関数と URLDECODE 関数の引数が解釈されるのかを指定します。
環境コントロール: 初期化および操作	AUTHPROVIDERDOMAIN システムオプション (p. 53)	ドメイン接尾辞を認証プロバイダに関連付けます。
	DMR システムオプション (p. 94)	SAS/CONNECT クライアントで使用するサーバーセッションを SAS で起動できるようにするかどうかを指定します。
	DMS システムオプション (p. 95)	SAS ウィンドウ環境を起動し、ログウィンドウ、エディタウィンドウ、出力ウィンドウを表示するかどうかを指定します。
	DMSEXP システムオプション (p. 96)	SAS ウィンドウ環境を起動し、エクスペローラウィンドウ、エディタウィンドウ、ログウィンドウ、出力ウィンドウ、結果ウィンドウを表示するかどうかを指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	EXPLORER システムオプション (p. 117)	SAS ウィンドウ環境を起動し、エクスプローラウィンドウとプログラム エディタウィンドウのみを表示するかどうかを指定します。
	INITCMD システムオプション (p. 139)	SAS 起動時に AUTOEXEC=ファイルを処理する前に SAS が実行する、アプリケーション起動コマンドと SAS ウィンドウ環境またはテキストエディタコマンド(省略可能)を指定します。
	INITSTMT=システムオプション (p. 140)	SAS ステートメントを、AUTOEXEC=ファイルのすべてのステートメントより後、かつ SYSIN=ファイルのすべてのステートメントより前に実行するように指定します。
	MULTENVAPPL システムオプション (p. 162)	SAS アプリケーションフォントの選択ウィンドウで選択できるフォントとして、すべての動作環境で使用できる SAS フォントのみを表示するかどうかを指定します。
	PRIMARYPROVIDERDOMAIN=システムオプション (p. 199)	主認証プロバイダのドメイン名を指定します。
	TERMINAL システムオプション (p. 249)	端末デバイスを SAS セッションと関連付けるかどうかを指定します。
	TERMSTMT=システムオプション (p. 250)	SAS の終了時に SAS ステートメントを実行するように指定します。
環境コントロール: 表示	AUTOSAVELOC=システムオプション (p. 57)	プログラムエディタの自動保存ファイルの場所を指定します。
	CHARCODE システムオプション (p. 70)	キーボードにない特殊文字を特定のキーボードの組み合わせで代用するかどうかを指定します。
	DMSLOGSIZE=システムオプション (p. 97)	SAS ログウィンドウに表示できる最大行数を指定します。
	DMSOUTSIZE=システムオプション (p. 98)	SAS 出力ウィンドウに表示できる最大行数を指定します。
	DMSPGMLINESIZE=システムオプション (p. 99)	プログラムエディタの 1 行の最大文字数を指定します。
	FONTSLC=システムオプション (p. 127)	SAS で提供されるフォントの場所を指定し、FONTREG プロシージャを使用してフォントを登録するためのデフォルトのフォントファイルの場所の名前を指定します。
	SOLUTIONS システムオプション (p. 219)	SAS ウィンドウにソリューションメニューを含めるかどうかを指定します。
	TOOLSMENU システムオプション (p. 253)	SAS ウィンドウにツールメニューを表示するかどうかを指定します。
	VIEWMENU システムオプション (p. 273)	SAS ウィンドウに表示メニューを表示するかどうかを指定します。
環境コントロール: ファイル	APPEND=システムオプション (p. 50)	指定されたシステムオプションの既存の値に値を追加します。

カテゴリ	言語要素	説明
	APPLETLOC=システムオプション (p. 52)	Java アプレットの場所を指定します。
	FMTSEARCH=システムオプション (p. 121)	出力形式カタログを検索する順序を指定します。
	INSERT=システムオプション (p. 141)	指定した値を指定したシステムオプションの先頭の値として挿入します。
	NEWS=システムオプション (p. 163)	SAS ログのヘッダーの直後に書き込まれるメッセージを含む外部ファイルを指定します。
	PARM=システムオプション (p. 184)	外部プログラムに渡されるパラメータ文字列を指定します。
	PARMCARDS=システムオプション (p. 184)	プロシジャで PARMCARDS ステートメントを検出したときに開くファイル参照を指定します。
	RSASUSER システムオプション (p. 208)	SASUSER ライブラリを読み取りアクセスと読み取り/書き込みアクセスのどちらで開くかを指定します。
	SASHELP=システムオプション (p. 215)	SASHELP ライブラリの場所を指定します。
	SASUSER=システムオプション (p. 216)	SASUSER ライブラリとして使用する SAS ライブラリを指定します。
	TRAINLOC=システムオプション (p. 255)	SAS のオンライントレーニングコースの URL を指定します。
	USER=システムオプション (p. 257)	デフォルトの永久 SAS ライブラリを指定します。
	UUIDCOUNT=システムオプション (p. 259)	UUID ジェネレータデーモンから取得する UUID の数を指定します。
	UUIDGENHOST=システムオプション (p. 260)	UUID ジェネレータデーモンが実行されるホストとポートまたは LDAP URL を示します。
	WORK=システムオプション (p. 278)	Work ライブラリを指定します。
	WORKINIT システムオプション (p. 279)	SAS の起動時に Work ライブラリを初期化するかどうかを指定します。
	WORKTERM システムオプション (p. 280)	SAS が終了するときに Work ファイルを消去するかどうかを指定します。
環境コントロール: ヘルプ	HELPBROWSER=システムオプション (p. 131)	ブラウザを SAS ヘルプと ODS 出力に使用するよう指定します。
	HELPCMD システムオプション (p. 132)	コマンドラインヘルプで英語バージョンと翻訳バージョンのどちらのキーワードリストを使用するかを指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	HELPHOST システムオプション (p. 133)	リモートブラウザによるヘルプと ODS 出力の送信先となるコンピュータの名前を指定します。
	HELPPORT=システムオプション (p. 134)	リモートブラウザクライアント用のポート番号を指定します。
グラフィック: ドライバ設定	DEVICE=システムオプション (p. 90)	SAS/GRAPH のプロシジャ出力先のデバイスドライバを指定します。
	GSTYLE システムオプション (p. 130)	GRSEG カタログエントリとして保存されるグラフの生成に ODS スタイルを使用できるかどうかを指定します。
	GWINDOW システムオプション (p. 131)	GRAPH ウィンドウに SAS/GRAPH 出力を表示するかどうかを指定します。
	MAPS=システムオプション (p. 159)	SAS/GRAPH マップデータセットを含む SAS ライブラリの場所を指定します。
コミュニケーション: 電子メール	EMAILAUTHPROTOCOL=システムオプション (p. 104)	SMTP 電子メールの認証プロトコルを指定します。
	EMAILFROM システムオプション (p. 105)	SMTP を使用して電子メールを送信するときに、FILE または FILENAME ステートメントのいずれかで電子メールオプション FROM が必要かどうかを指定します。
	EMAILHOST=システムオプション (p. 106)	電子メールアクセスをサポートする SMTP サーバーを指定します。
	EMAILID=システムオプション (p. 107)	ログオン ID、電子メールプロファイル、電子メールアドレスのいずれかを指定して、電子メールの送信者を識別します。
	EMAILPORT システムオプション (p. 108)	SMTP サーバーが接続されるポートを指定します。
	EMAILPW=システムオプション (p. 109)	電子メールのログオンパスワードを指定します。
	EMAILUTCOffset=システムオプション (p. 110)	FILENAME ステートメントの電子メール(SMTP)アクセス方式を使用して送信される電子メールに、電子メールメッセージの日時ヘッダーフィールドで使用される UTC オフセットを指定します。
コミュニケーション: ネットワークと暗号化	HTTPSERVERPORTMAX=システムオプション (p. 135)	SAS HTTP サーバーでリモートブラウズに使用可能な最大のポート番号を指定します。
	HTTPSERVERPORTMIN=システムオプション (p. 135)	SAS HTTP サーバーでリモートブラウズに使用可能な最小のポート番号を指定します。
システム管理: インストール	SETINIT システムオプション (p. 217)	サイトライセンス情報を変更できるかどうかを指定します。
システム管理: コードの生成	CGOPTIMIZE=システムオプション (p. 70)	コードコンパイル中に実行する最適化レベルを指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
システム管理: 処理速度	BUFNO=システムオプション (p. 59)	SAS データセットの処理用に割り当てるバッファ数を指定します。
	BUFSIZE=システムオプション (p. 61)	出力 SAS データセット用の永久バッファページのサイズを指定します。
	CGOPTIMIZE=システムオプション (p. 70)	コードコンパイル中に実行する最適化レベルを指定します。
	CMPMODEL=システムオプション (p. 76)	MODEL プロシジャの出力モデルタイプを指定します。
	CMPOPT=システムオプション (p. 77)	SAS 言語コンパイラで使用するコード生成の最適化の種類を指定します。
	COMPRESS=システムオプション (p. 81)	SAS データセットの出力に使用するオブザベーションの圧縮の種類を指定します。
	CPUCOUNT=システムオプション (p. 83)	スレッド対応アプリケーションで並行処理に使用可能とみなされるプロセッサ数を指定します。
	SORTSIZE=システムオプション (p. 221)	SORT プロシジャで使用できるメモリ量を指定します。
システム管理: セキュリティ	THREADS システムオプション (p. 252)	使用可能の場合は SAS でスレッド処理を使用するように指定します。
	PDFPASSWORD=システムオプション (p. 194)	PDF ドキュメントを開くために使用するパスワードと、PDF ドキュメントの所有者によって使用されるパスワードを指定します。
	PDFSECURITY=システムオプション (p. 197)	PDF 文書の暗号化のレベルを指定します。
システム管理: メモリ	RLANG システムオプション (p. 207)	SAS で R 言語ステートメントを実行するかどうかを指定します。
	SORTSIZE=システムオプション (p. 221)	SORT プロシジャで使用できるメモリ量を指定します。
並べ替え: プロシジャオプション	SUMSIZE=システムオプション (p. 231)	分類変数がアクティブな場合にデータ要約プロシジャで使用可能なメモリ量の制限を指定します。
	SORTDUP=システムオプション (p. 219)	SORT プロシジャで、データセット内のすべての変数、または DROP または KEEP データセットオプションの適用後も残っている変数に基づいて、重複した変数を削除するかどうかを指定します。
	SORTEQUALS システムオプション (p. 220)	出力データセット内の同一 BY 変数値を持つオブザベーションが特定の順序で並べられているかどうかを指定します。
	SORTSIZE=システムオプション (p. 221)	SORT プロシジャで使用できるメモリ量を指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	SORTVALIDATE システムオプション (p. 222)	ユーザー指定の並べ替え順序が並べ替えインジケータに指示されている場合、SORT プロシジャで、データセットが BY ステートメント内の変数に従って並べ替えられていることを検証するかどうかを指定します。
入力コントロール: データ処理	BYSORTED システムオプション (p. 64)	1 つ以上のデータセットのオブザベーションがアルファベット順または番号順に並べ替えられているか、別の論理的順序でグループ化されているかを指定します。
	CAPS システムオプション (p. 65)	特定の種類の入力を大文字に変換するかどうかを指定します。
	CARDIMAGE システムオプション (p. 66)	SAS でソースおよびデータ行を 80 バイトのカードとして処理するかどうかを指定します。
	DATESTYLE=システムオプション (p. 87)	ANYDTDTTE、ANYDTDTM または ANYDTTME 入力形式があいまいな場合の月、日、年の順序を指定します。
	EVENTDS=システムオプション (p. 115)	イベントを定義するデータセットを指定します。
	INTERVALDS=システムオプション (p. 143)	1 つ以上の間隔の名前/値ペアを指定します。この値は、ユーザー指定の間隔を含む SAS データセットです。間隔は INTNX および INTCK 関数の引数として使用できます。
	INVALIDDATA=システムオプション (p. 144)	無効な数値データが発生したときに SAS で変数に割り当てる値を指定します。
	S=システムオプション (p. 208)	ソースステートメントの各行のステートメント長と DATALINES ステートメント以降の行のデータ長を指定します。
	S2=システムオプション (p. 211)	%INCLUDE ステートメント、AUTOEXEC=ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力されるソースステートメントの各行のステートメント長を指定します。
	S2V=システムオプション (p. 213)	%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルに指定されたファイルを、可変長レコード形式で読み取る場合の読み取り開始位置を指定します。
	SEQ=システムオプション (p. 216)	入力ソース行またはデータ行に含まれるシーケンスフィールドの数値部分の長さを指定します。
	SPOOL システムオプション (p. 225)	SAS ステートメントを WORK ライブラリ内のユーティリティデータセットに書き込むかどうかを指定します。
	VBUFSIZE=システムオプション (p. 271)	表示バッファのサイズを指定します。
	YEARCUTOFF=システムオプション (p. 281)	2 桁の年を読み込むために日付入力形式および関数で使用する 100 年の期間の第 1 年を指定します。
ファイル: SAS ファイル	BUFNO=システムオプション (p. 59)	SAS データセットの処理用に割り当てるバッファ数を指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	BUFSIZE=システムオプション (p. 61)	出力 SAS データセット用の永久バッファページのサイズを指定します。
	CATCACHE=システムオプション (p. 67)	キャッシュメモリでオープン状態を維持する SAS カタログ数を指定します。
	CBUFNO=システムオプション (p. 68)	開かれた各 SAS カタログに割り当てる追加ページバッファ数を指定します。
	CMPLIB=システムオプション (p. 75)	プログラムのコンパイル時に挿入するコンパイラサブルーチンを含む、1 つ以上の SAS データセットを指定します。
	COMPRESS=システムオプション (p. 81)	SAS データセットの出力に使用するオブザベーションの圧縮の種類を指定します。
	DATASTMTCHK=システムオプション (p. 86)	入力データセットの上書きを防ぐため、1 レベルの DATA ステップ名としての指定を禁止する SAS ステートメントのキーワードを指定します。
	DKRICOND=システムオプション (p. 91)	DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に入力データセットの変数が欠損しているときに、報告するエラー検出のレベルを指定します。
	DKROCOND=システムオプション (p. 92)	DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に出力データセットの変数が欠損しているときに、報告するエラー検出のレベルを指定します。
	DLCREATEDIR システムオプション (p. 93)	LIBNAME ステートメントで指定する SAS ライブラリのディレクトリが存在しない場合に、ディレクトリを作成するように指定します。
	DLDMGACTION=システムオプション (p. 93)	SAS データセットまたは SAS カタログの損傷が検出されたときに実行するアクションの種類を指定します。
	ENGINE=システムオプション (p. 111)	SAS ライブラリのデフォルトアクセスメソッドを指定します。
	FILESYNC=システムオプション (p. 118)	永続的 SAS ファイルの内容が含まれるオペレーティングシステムバッファをいつディスクに書き込むかを指定します。
	FIRSTOBS=システムオプション (p. 119)	SAS で最初に処理するオブザベーション番号または外部ファイルレコードを指定します。
	IBUFNO=システムオプション (p. 136)	インデックスファイルのナビゲーション用に割り当てる追加バッファ数を指定します(省略可能)。
	IBUFSIZE=システムオプション (p. 137)	インデックスファイルのバッファページサイズを指定します。
	LAST=システムオプション (p. 151)	最後に作成されたデータセットを指定します。
	MERGENOBY システムオプション (p. 160)	関連付けられた BY ステートメントを使用せずに MERGE 処理が行われるときに発行されるメッセージの種類を指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	OBS=システムオプション (p. 165)	最後に処理するオブザベーションを判断するために使用するオブザベーションを指定するか、最後に処理するレコードを指定します。
	REPLACE システムオプション (p. 204)	永続的に保存された SAS データセットを置き換えるかどうかを指定します。
	REUSE=システムオプション (p. 205)	オブザベーションが圧縮 SAS データセットに追加されたとき、SAS で空き領域を再利用するかどうかを指定します。
	UTILLOC=システムオプション (p. 258)	有効にされたスレッド化アプリケーションがユーティリティファイルを保存できるファイルシステムの場所を指定します。
	V6CREATEUPDATE=システムオプション (p. 262)	バージョン 6 のデータセットを作成または更新するときに SAS ログに書き込まれるメッセージの種類を指定します。
	VALIDFMTNAME=システムオプション (p. 262)	これを超えるとエラーまたは警告が発行される、ユーザー作成の出力形式名および入力形式名の最大サイズ(32 文字または 8 文字)を指定します。
	VALIDMEMNAME=システムオプション (p. 264)	SAS データセット、SAS データビューおよび項目ストアの命名規則を指定します。
	VALIDVARNAME=システムオプション (p. 266)	SAS セッション中に作成および処理可能な有効な SAS 変数名の規則を指定します。
	VARLENCHK=システムオプション (p. 268)	SET、MERGE、UPDATE、MODIFY のいずれかのステートメントを使用して入力データセットが読み込まれるときに SAS ログに書き込まれるメッセージの種類を指定します。
ファイル: 外部ファイル	LRECL=システムオプション (p. 158)	外部ファイルの読み込みと書き込みに使用するデフォルトの論理レコード長を指定します。
	STARTLIB システムオプション (p. 226)	SAS の起動時にユーザー定義の永久ライブラリ参照名を割り当てるかどうかを指定します。
ログおよびプロシ ジャ出力コントロ ール: ODS 印刷	BINDING=システムオプション (p. 57)	両面印刷出力する場合のドキュメントのどじ辺を指定します。
	BOTTOMMARGIN=システムオプション (p. 58)	印刷ページの下之余白のサイズを指定します。
	COLLATE システムオプション (p. 79)	印刷される出力の複数のコピーを部単位で印刷するかどうかを指定します。
	COLORPRINTING システムオプション (p. 80)	カラー印刷がサポートされている場合にカラーで印刷するかどうかを指定します。
	COPIES=システムオプション (p. 83)	印刷する部数を指定します。
	DEFLATION=システムオプション (p. 88)	Deflate 圧縮アルゴリズムをサポートするデバイスドライバの圧縮レベルを指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	DUPLEX システムオプション (p. 102)	両面印刷が有効かどうかを指定します。
	FONTEMBEDDING システムオプション (p. 124)	ユニバーサルプリンタと SAS/GRAPH 印刷でフォント埋め込みを有効にするかどうかを指定します。
	FONTRENDERING=システムオプション (p. 125)	SASGDGIF、SASGDTIF および SASGDIMG モジュールをベースにした SAS/GRAPH デバイスで、フォントの表示にオペレーティングシステムと FreeType エンジンのどちらを使用するかを指定します。
	GSTYLE システムオプション (p. 130)	GRSEG カタログエントリとして保存されるグラフの生成に ODS スタイルを使用できるかどうかを指定します。
	JPEGQUALITY=システムオプション (p. 144)	SAS/GRAPH JPEG デバイスドライバによって生成される JPEG ファイルの圧縮レベルに対する、イメージ品質の比率を決定する JPEG 品質係数を指定します。
	LEFTMARGIN=システムオプション (p. 151)	ページの左側の印刷余白を指定します。
	ORIENTATION=システムオプション (p. 174)	プリンタで印刷するとき使用する用紙の向きを指定します。
	PAPERDEST=システムオプション (p. 180)	印刷出力を受け取る排紙ビンの名前を指定します。
	PAPERSIZE=システムオプション (p. 180)	印刷に使用する用紙サイズを指定します。
	PAPERSOURCE=システムオプション (p. 182)	印刷に使用する用紙ビンの名前を指定します。
	PAPERTYPE=システムオプション (p. 183)	印刷に使用する用紙の種類を指定します。
	PRINTERPATH=システムオプション (p. 200)	ユニバーサル印刷に使用する登録済みプリンタの名前を指定します。
	RIGHTMARGIN=システムオプション (p. 206)	ページの右側の印刷余白を指定します。
	TEXTURELOC=システムオプション (p. 251)	ODS スタイルで使用されるテクスチャとイメージの場所を指定します。
	TOPMARGIN=システムオプション (p. 254)	ページの上の印刷余白を指定します。
	UPRINTCOMPRESSION システムオプション (p. 255)	一部のユニバーサルプリンタおよび SAS/GRAPH デバイスで作成されたファイルの圧縮を有効にするかどうかを指定します。
ログおよびプロシ ジャ出力コントロ ール: PDF	PDFACCESS システムオプション (p. 185)	PDF ドキュメントのテキストとグラフィックを視覚障害者のためのスクリーンリーダーで読み上げできるようにするかどうかを指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	PDFASSEMBLY システムオプション (p. 186)	PDF ドキュメントのアセンブリを許可するかどうかを指定します。
	PDFCOMMENT システムオプション (p. 187)	PDF ドキュメントの注釈を変更できるかどうかを指定します。
	PDFCONTENT システムオプション (p. 188)	PDF ドキュメントの内容を変更できるかどうかを指定します。
	PDFCOPY システムオプション (p. 189)	PDF ドキュメントのテキストとグラフィックをコピーできるかどうかを指定します。
	PDFFILLIN システムオプション (p. 190)	PDF フォームに入力できるかどうかを指定します。
	PDFPAGELAYOUT=システムオプション (p. 192)	PDF ドキュメントのページレイアウトを指定します。
	PDFPAGEVIEW=システムオプション (p. 193)	PDF ドキュメントのページ表示モードを指定します。
	PDFPASSWORD=システムオプション (p. 194)	PDF ドキュメントを開くために使用するパスワードと、PDF ドキュメントの所有者によって使用されるパスワードを指定します。
	PDFPRINT=システムオプション (p. 195)	PDF ドキュメントの印刷の解像度を指定します。
	PDFSECURITY=システムオプション (p. 197)	PDF 文書の暗号化のレベルを指定します。
ログおよびプロシ ジャ出力コントロ ール: SAS ログ	CPUID システムオプション (p. 85)	CPU ID 番号を SAS ログに書き込むかどうかを指定します。
	DATE システムオプション (p. 86)	SAS プログラムが開始された日時を表示するかどうかを指定します。
	DETAILS システムオプション (p. 89)	SAS ライブラリにファイルのリストが表示されるときに追加情報を含めるかどうかを指定します。
	DMSLOGSIZE=システムオプション (p. 97)	SAS ログウィンドウに表示できる最大行数を指定します。
	DTRESET システムオプション (p. 102)	SAS ログとプロシジャ出力ファイルの日時を更新するかどうかを指定します。
	ECHOAUTO システムオプション (p. 103)	AUTOEXEC=ファイル内のステートメントが実行されるとき、ステートメントを SAS ログに書き込むかどうかを指定します。
	ERRORS=システムオプション (p. 114)	詳細なエラーメッセージが発行されるオブザベーションの最大数を指定します。
	LINESIZE=システムオプション (p. 152)	SAS ログと SAS プロシジャ出力の行サイズを指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	LOGPARM=システムオプション (p. 153)	SAS ログファイルを開くタイミング、閉じるタイミング、および LOG=システムオプションと連動して命名する方法を指定します。
	MISSING=システムオプション (p. 161)	欠損数値の代わりに印刷する文字を指定します。
	MSGLEVEL=システムオプション (p. 161)	SAS ログに書き込まれるメッセージの詳細のレベルを指定します。
	NEWS=システムオプション (p. 163)	SAS ログのヘッダーの直後に書き込まれるメッセージを含む外部ファイルを指定します。
	NOTES システムオプション (p. 164)	メモが SAS ログに書き込まれるかどうかを指定します。
	NUMBER システムオプション (p. 165)	SAS 出力の各ページのタイトル行にページ番号を印刷するかどうかを指定します。
	OVP システムオプション (p. 177)	エラーメッセージを太字で表示するために重ね打ちを有効にするかどうかを指定します。
	PAGEBREAKINITIAL システムオプション (p. 177)	LISING 出力先の SAS ログおよびプロシジャ出力ファイルを新しいページで始めるかどうかを指定します。
	PAGESIZE=システムオプション (p. 179)	SAS ログおよび SAS 出力のページを構成する行数を指定します。
	PRINTMSGLIST システムオプション (p. 202)	すべてのメッセージを SAS ログに出力するか、トップレベルのメッセージのみを SAS ログに出力するかを指定します。
	SOURCE システムオプション (p. 223)	SAS により、ソースステートメントを SAS ログに書き込むかどうかを指定します。
	SOURCE2 システムオプション (p. 224)	SAS により、インクルードされたファイルから 2 次ソースステートメントを SAS ログに書き込むかどうかを指定します。
ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログおよびプロシジャ出力	DATE システムオプション (p. 86)	SAS プログラムが開始された日時を表示するかどうかを指定します。
	DETAILS システムオプション (p. 89)	SAS ライブラリにファイルのリストが表示されるときに追加情報を含めるかどうかを指定します。
	DTRESET システムオプション (p. 102)	SAS ログとプロシジャ出力ファイルの日時を更新するかどうかを指定します。
	LINESIZE=システムオプション (p. 152)	SAS ログと SAS プロシジャ出力の行サイズを指定します。
	MISSING=システムオプション (p. 161)	欠損数値の代わりに印刷する文字を指定します。
	NUMBER システムオプション (p. 165)	SAS 出力の各ページのタイトル行にページ番号を印刷するかどうかを指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	PAGEBREAKINITIAL システムオプション (p. 177)	LISING 出力先の SAS ログおよびプロシジャ出力ファイルを新しいページで始めるかどうかを指定します。
	PAGESIZE=システムオプション (p. 179)	SAS ログおよび SAS 出力のページを構成する行数を指定します。
ログおよびプロシジャ出力コントロール: SVG	SVGCONTROLBUTTONS (p. 232)	複数ページの SVG ドキュメントにページ制御ボタンとインデックスを表示するかどうかを指定します。
	SVGHEIGHT=システムオプション (p. 233)	SVG 出力が別の SVG 出力に埋め込まれていない場合のビューポートの高さを指定します。SVG ファイルの最も外側の<svg>要素の height 属性で値を指定します。
	SVGPRESERVEASPECTRATIO=システムオプション (p. 235)	SVG 出力の均一スケールを強制するかどうかを指定します。最も外側の<svg>要素で preserveAspectRatio 属性を指定します。
	SVGTITLE=システムオプション (p. 238)	SVG 出力のタイトルバーのタイトルを指定します。SVG ファイルの<title>要素の値を指定します。
	SVGVIEWBOX=システムオプション (p. 239)	最も外側の<svg>要素の viewBox 属性を設定するために使用する座標、幅および高さを指定します。これにより、ビューポートに合わせて SVG 出力のサイズを調整できます。
	SVGWIDTH=システムオプション (p. 241)	SVG 出力が別の SVG 出力に埋め込まれていない場合のビューポートの幅を指定します。SVG ファイルの最も外側の<svg>要素の width 属性で値を指定します。
	SVGX=システムオプション (p. 243)	埋め込まれた<svg>要素が含まれる四角形の 1 つの角の x 軸座標を指定します。SVG ファイルの最も外側の<svg>要素で x 属性を指定します。
	SVGY=システムオプション (p. 244)	埋め込まれた<svg>要素が含まれる四角形の 1 つの角の y 軸座標を指定します。SVG ファイルの最も外側の<svg>要素で y 属性を指定します。
ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力	BYLINE システムオプション (p. 63)	各 BY グループの上に BY 行を表示するかどうかを指定します。
	CENTER システムオプション (p. 69)	SAS プロシジャ出力を中央揃えにするか左揃えにするかを指定します。
	DATE システムオプション (p. 86)	SAS プログラムが開始された日時を表示するかどうかを指定します。
	DETAILS システムオプション (p. 89)	SAS ライブラリにファイルのリストが表示されるときに追加情報を含めるかどうかを指定します。
	DMSOUTSIZE=システムオプション (p. 98)	SAS 出力ウィンドウに表示できる最大行数を指定します。
	DTRESET システムオプション (p. 102)	SAS ログとプロシジャ出力ファイルの日時を更新するかどうかを指定します。

カテゴリ	言語要素	説明
	FORMCHAR=システムオプション (p. 127)	デフォルトの出力形式文字を指定します。
	FORMDLIM=システムオプション (p. 128)	LISTING 出力先の SAS 出力で改ページを区切る文字を指定します。
	FORMS=システムオプション (p. 129)	用紙を印刷に使用する場合、使用するデフォルトの用紙を指定します。
	LABEL システムオプション (p. 145)	SAS プロシジャで変数ラベルを使用できるかどうかを指定します。
	LINESIZE=システムオプション (p. 152)	SAS ログと SAS プロシジャ出力の行サイズを指定します。
	MISSING=システムオプション (p. 161)	欠損数値の代わりに印刷する文字を指定します。
	NUMBER システムオプション (p. 165)	SAS 出力の各ページのタイトル行にページ番号を印刷するかどうかを指定します。
	PAGEBREAKINITIAL システムオプション (p. 177)	LISTING 出力先の SAS ログおよびプロシジャ出力ファイルを新しいページで始めるかどうかを指定します。
	PAGENO=システムオプション (p. 178)	SAS 出力のページ番号をリセットします。
	PAGESIZE=システムオプション (p. 179)	SAS ログおよび SAS 出力のページを構成する行数を指定します。
	PRINTINIT システムオプション (p. 202)	SAS プロシジャ出力ファイルを LISTING 出力先用に初期化するかどうかを指定します。
	SKIP=システムオプション (p. 218)	LISTING 出力先への SAS 出力の各ページ先頭でスキップする行数を指定します。
	SYSPRINTFONT=システムオプション (p. 247)	印刷に使用するデフォルトフォントを指定します。フォントと ODS スタイルの明示的な指定はこのデフォルトよりも優先されます。

ディクショナリ

APPEND=システムオプション

指定されたシステムオプションの既存の値に値を追加します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** ENVFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: SAS 起動時に動作環境で使用する構文については、動作環境向けドキュメントを参照してください。

“APPEND System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)

“APPEND System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)

“APPEND= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

APPEND=(*system-option-1* =*argument-1* <*system-option-n* =*argument-n*>)

構文の説明

system-option

AUTOEXEC、CMPLIB、FMTSEARCH、HELPLLOC、MAPS、MSG、SASAUTOS、SASHELP、SASSCRIPT、SET のいずれかを指定できます。

注 これらのオプションの一部は、SAS 起動時にのみ使用できます。これらのオプションを APPEND=オプションに指定できるのは、APPEND=オプションが構成ファイルまたは SAS コマンドに指定される場合のみです。

引数

system-option の現在の値に追加する新しい値を指定します。

argument は、*system-option* が OPTIONS ステートメントを使用して設定されている場合、*system-option* に指定可能な値にすることができます。

詳細

AUTOEXEC、CMPLIB、FMTSEARCH、SASHELP、MAPS、MSG、SASAUTOS、SASSCRIPT、SET システムオプションで新しい値を指定すると、新しい値でオプションの値が置き換えられます。APPEND=システムオプションを使用すると、値を置き換える代わりに、新しい値をオプションの現在の値に追加することができます。

SAS 起動時に使用可能なシステムオプションを含む、APPEND=システムオプションと INSERT=システムオプションでサポートされるシステムオプションのリストについては、次の OPTIONS プロシジャをサブミットします。

```
proc options listinsertappend;
run;
```

比較

APPEND=システムオプションでは、AUTOEXEC、CMPLIB、FMTSEARCH、HELPLLOC、MAPS、MSG、SASAUTOS、SASSCRIPT、SET システムオプションの現在の値の末尾に新しい値が追加されます。INSERT=システムオプションでは、これらのシステムオプションの最初の値として新しい値が追加されます。

例

次の表に、FMTSEARCH=オプション値の末尾に値を追加した結果を示します。

現在の FMTSEARCH=値	APPEND=システムオプションの値	新しい FMTSEARCH=値
(WORK LIBRARY)	(fmtsearch=(abc def))	(WORK LIBRARY ABC DEF)

関連項目:

- “INSERT システムオプションと APPEND システムオプションを使用したオプション値の変更” (13 ページ)

システムオプション:

- “INSERT=システムオプション” (141 ページ)
- “INSERT System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)
- “INSERT System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)
- “INSERT= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

APPLETLOC=システムオプション

Java アプレットの場所を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: ファイル

PROC OPTIONS ENVFILES

GROUP=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

APPLETLOC=“*base-URL*”

構文の説明

“*base-URL*”

SAS Java アプレットが存在する場所のアドレスを指定します。アドレスは 256 文字以内で指定します。

詳細

APPLETLOC=システムオプションでは、Java アプレットのベース位置(通常は URL)を指定します。これらのアプレットには通常、イントラネットサーバーまたはローカル CD-ROM からアクセスします。

例

base-URL の例を次に示します。

- “file://e:\java”

- "http://server.abc.com/SAS/applets"

AUTHPROVIDERDOMAIN システムオプション

ドメイン接尾辞を認証プロバイダに関連付けます。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時
カテゴリ:	環境コントロール: 初期化および操作
PROC OPTIONS GROUP=	EXECMODES
別名:	AUTHPD
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション (6 ページ) ”を参照してください。

構文

Windows および z/OS 動作環境:

AUTHPROVIDERDOMAIN *provider* : *domain*

AUTHPROVIDERDOMAIN (*provider-1* : *domain-1*<, ...*provider-n* : *domain-n*>)

UNIX 動作環境:

AUTHPROVIDERDOMAIN *(provider-1* : *domain-1*<, ...*provider-n* : *domain-n*> \)

構文の説明

provider

ドメインに関連付けられる認証プロバイダを指定します。*provider* の有効値は次のとおりです。

ADIR

認証用にユーザー名とパスワードを含むバインドを受け入れる Microsoft Active Directory サーバーを認証プロバイダとして指定します。

HOSTUSER

ホストオペレーティングシステムが提供する認証処理を使用してユーザー名とパスワードを認証するように指定します。

Windows 固有 Windows 動作環境では、HOSTUSER ドメインを使用した認証プロバイダの割り当てと、AUTHSERVER システムオプションを使用した認証プロバイダの割り当ては同じです。複数の認証プロバイダを指定する場合、AUTHPROVIDERDOMAIN システムオプションの使用が必要になる場合があります。

LDAP

認証プロバイダがディレクトリサーバーを使用して認証用のバインド識別名 (BINDDN)とパスワードを指定するように指定します。

domain

サイト固有のドメイン名を指定します。ドメイン名に空白が含まれる場合は、引用符が必要です。

詳細

SAS では、多くの認証プロバイダを使用してユーザーを認証することができます。AUTHPROVIDERDOMAIN=システムオプションでは、ドメイン接尾辞を認証プロバイダに関連付けます。この関連付けにより、SAS サーバーは指定されたドメイン名で認証プロバイダを選択できます。

ドメイン接尾辞が指定されていないか不明な場合、認証はユーザー ID とパスワードに基づいてホストオペレーティングシステムにより実行されます。

provider : *domain* ペアを複数セット指定する場合は、かつこが必要です。

AUTHPROVIDERDOMAIN オプション値の最大長は 1,024 文字です。

Microsoft Active Directory または LDAP 認証プロバイダを使用するには、次の環境変数をサーバーまたはスポンサーの起動スクリプトに設定する必要があります。

- Microsoft Active Directory サーバー:
 - AD_PORT=*Microsoft Active Directory port number*
 - AD_HOST=*Microsoft Active Directory host name*
- LDAP サーバー:
 - LDAP_PORT=*LDAP port number*
 - LDAP_BASE=*base distinguished name*
 - LDAP_HOST=*LDAP host_name*
- 識別名(DN)ではなくユーザー ID で接続するユーザー用の LDAP サーバー:
 - LDAP_PRIV_DN=*privileged DN(ユーザー検索が許可されているもの)*
 - LDAP_PRIV_PW=*LDAP_PRIV_DN password*

注: LDAP サーバーで匿名バインドが許可されている場合、LDAP_PRIV_DN および LDAP_PRIV_PW は必要ありません。

これらの環境変数の設定に加え、ユーザー ID が保存されるユーザーエントリ LDAP 属性にデフォルト値 *uid* が含まれていなければ、LDAP_IDATTR 環境変数にこの属性の名前を設定できます。

例

次の例は、AUTHPROVIDERDOMAIN オプションの指定方法を示します。

- `-authpd ldap:sas` と指定すると、*anything@sas* としてログオンするユーザーの資格情報が、認証のために SAS サーバーから LDAP に送信されます。
- `-authpd adir:sas` と指定すると、*anything@sas* としてログインするユーザーの資格情報が、認証のために SAS サーバーから Active Directory に送信されます。
- `-authproviderdomain (hostuser:'my domain', ldap:sas)` と指定すると、次のようにログオンするユーザーの資格情報が SAS サーバーから送信されます。
 - ユーザーが *anything@'my domain'* としてログオンすると、認証はオペレーティングシステムの認証システムによって行われる
 - ユーザーが *anything@sas* としてログオンすると、認証は LDAP によって行われる

関連項目:**システムオプション:**

- [“PRIMARYPROVIDERDOMAIN=システムオプション” \(199 ページ\)](#)

AUTOCORRECT システムオプション

プロシジャ名のスペルミス、プロシジャキーワードのスペルミス、グローバルステートメント名のスペルミスの自動修正を SAS で試みるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: エラー処理

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、[“制限されたオプション” \(6 ページ\)](#)を参照してください。

構文

AUTOCORRECT | NOAUTOCORRECT

構文の説明**AUTOCORRECT**

プロシジャ名のスペルミス、プロシジャキーワードのスペルミス、グローバルステートメント名のスペルミスの自動修正を SAS で試みるように指定します。これがデフォルト設定です。

NOAUTOCORRECT

プロシジャ名のスペルミス、プロシジャキーワードのスペルミス、グローバルステートメント名のスペルミスの自動修正を SAS で試みないように指定します。

詳細

以前のリリースの SAS では、常にスペルミスの修正が試みられていました。AUTOCORRECT オプションにより自動修正をオフにできます。

AUTOCORRECT が設定され、SAS プログラムのプロシジャ名、プロシジャキーワードまたはグローバルステートメント名にスペルミスがある場合、SAS はプログラムのコンパイル時にスペルミスの解釈を試みます。解釈が成功すると、SAS はエラーを修正し、警告メッセージをログに出力して処理を続行します。エラーを修正できない場合、SAS はエラーメッセージをログに書き込みます。

NOAUTOCORRECT が設定されている場合、SAS はスペルミス通知を SAS ログに書き出し、プログラムを終了します。

例

次の例は、グローバルステートメント名のスペルミス、プロシジャオプション名のスペルミスおよびプロシジャ名のスペルミスを示します。

```
/* AUTOCORRECT is the default value */
options autocorrect;
```

```
data numbers;
input x y z;
datalines;
14.2 25.2 96.8
10.8 51.6 96.8
33.5 27.4 66.5
run;

optionss obs=1;

proc print ddata=numbers;
run;

options noautocorrect;

proc prints ddata=numbers;
run;
```

```
6 options autocorrect;
7 data numbers;
8 input x y z;
9 datalines;
NOTE: The data set WORK.NUMBERS has 3 observations and 3 variables.
NOTE: DATA statement used (Total process time):
real time 2.75 seconds
cpu time 0.64 seconds

13 run;
14
15 optionss obs=1;
-----
14
WARNING 14-169: Assuming the symbol OPTIONS was misspelled as optionss.

16
17 proc print ddata=numbers;
-----
1
WARNING 1-322: Assuming the symbol DATA was misspelled as ddata.

18 run;
NOTE: There were 1 observations read from the data set WORK.NUMBERS.
NOTE: PROCEDURE PRINT used (Total process time):
real time 3.84 seconds
cpu time 1.07 seconds

19
20 options noautocorrect;
21
22 proc prints ddata=numbers;
-----
181
ERROR 181-322: Procedure name misspelled.

23 run;
NOTE: The SAS System stopped processing this step because of errors.
```

AUTOSAVELOC=システムオプション

プログラムエディタの自動保存ファイルの場所を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: 表示

**PROC OPTIONS
GROUP=** ENVDISPLAY

制限事項: AUTOSAVELOC=システムオプションで指定された場所は、プログラムエディタでのみ有効です。このオプションは、拡張エディタには適用されません。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “AUTOSAVELOC System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)

構文

AUTOSAVELOC= “*location*”

構文の説明

location

自動保存ファイルのパス名を指定します。*location* が空白を含むか、OPTIONS ステートメント内に指定されている場合、*location* を引用符で囲みます。

関連項目:

- “Saving Program Editor Files Using Autosave” (SAS Companion for Windows 3 章)
- SAS ヘルプおよびドキュメントのプログラムエディタウィンドウ

BINDING=システムオプション

両面印刷出力する場合のドキュメントのとじ辺を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷

**PROC OPTIONS
GROUP=** ODSPRINT

制限事項: プリンタが両面印刷をサポートしていない場合、このオプションは無視されます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

BINDING=DEFAULTEDGE | LONGEDGE | SHORTEDGE

構文の説明

DEFAULT | DEFAULTEDGE

デフォルトのドキュメントのとじ辺を使用して両面印刷を行うように指定します。

LONG | LONGEDGE

両面印刷出力のドキュメントのとじ辺として長辺を使用するように指定します。

SHORT | SHORTEdge

両面印刷出力のドキュメントのとじ辺として短辺を使用するように指定します。

詳細

ドキュメントのとじ辺設定により、出力が裏面に印刷される前に用紙の向きが決まります。

関連項目:

- “ODS PRINTER ステートメント” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド)
- 15 章: “SAS を用いた印刷” (SAS 言語リファレンス: 解説編)

システムオプション:

- “[DUPLEX システムオプション](#)” (102 ページ)

BOTTOMMARGIN=システムオプション

印刷ページの下の余白のサイズを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷

PROC OPTIONS GROUP= ODSPRINT

デフォルト:デフォルト: 0.00 in

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

BOTTOMMARGIN=*margin-size*<*margin-unit*>

構文の説明

margin-size

余白のサイズを指定します。

制限事項 下の余白は、上下の余白の合計が用紙の高さよりも小さくなるようなサイズで指定する必要があります。

操作 このオプションの値を変更すると、PAGESIZE=システムオプションの値が変更される可能性があります。

<margin-unit>

余白サイズの単位を指定します。margin-unit には、*in*(インチ)または *cm*(センチメートル)を使用できます。<margin-unit>は、BOTTOMMARGIN システムオプションの値の一部として保存されます。

デフォルト インチ

詳細

すべての余白には、プリンタと用紙サイズに応じた最小値があります。

関連項目:

- 15 章: “SAS を用いた印刷” (SAS 言語リファレンス: 解説編)
- “ODS 出力先について” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド 3 章)

システムオプション:

- “LEFTMARGIN=システムオプション” (151 ページ)
- “RIGHTMARGIN=システムオプション” (206 ページ)
- “TOPMARGIN=システムオプション” (254 ページ)

BUFNO=システムオプション

SAS データセットの処理用に割り当てるバッファ数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システム オプション** ウィンドウ

カテゴリ: ファイル: SAS ファイル
システム管理: 処理速度

PROC OPTIONS GROUP= SASFILES
PERFORMANCE

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “BUFNO System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)
“BUFNO System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)

構文

BUFNO=*n* | *nK* | *nM* | *nG* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n | *nK* | *nM* | *nG*

割り当てるバッファ数を 1、1,024(キロ)、1,048,576(メガ)、1,073,741,824(ギガ)の倍数で指定します。たとえば、値 8 では 8 個のバッファ、値 3m では 3,145,728 個のバッファが指定されます。

ヒント システムのメモリサイズに最適な表記を使用します。

hexX

バッファ数を 16 進値で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2dx では 45 個のバッファが指定されます。

MIN

最小バッファ数を 0 に設定します。これにより SAS では動作環境に最適な最小値が使用されます。これがデフォルト設定です。

MAX

バッファ数を動作環境で可能な最大数に設定します。4 バイト符号付き整数の最大値である $2^{31}-1$ (約 20 億)以下の値になります。

詳細

バッファ数は、データセットの永続的的属性ではなく、現在の SAS セッションまたはジョブでのみ有効です。

BUFNO=は、入力、出力または更新用に開かれている SAS データセットに適用されません。

BUFNO=を使用すると、特定の SAS データセットに必要な入力/出力(I/O)操作の数を制限して、実行時間を改善できます。ただし、実行時間が改善するかわりにメモリ消費が増えます。

システムのデータセットページサイズとメモリ量から必要なバッファ数を見積もることができます。データセットページサイズは BUFSIZE=システムオプションまたは BUFSIZE=データセットオプションで指定できます。デフォルトが使用されている場合、SAS では動作環境に最適な最小ページサイズが使用されます。データセットのページサイズは、CONTENTS プロシジャの出力で確認できます。データセットページサイズと使用可能なメモリ量がわかると、必要なバッファ数を見積もることができます。バッファ数が多すぎると、メモリが不足して DATA または PROC ステップを処理できなくなる可能性があります。データセットのページサイズを変更するには、BUFSIZE=データセットオプションを使用してデータセットを再作成します。

動作環境の情報

Windows 動作環境では、SGIO システムオプションが設定されている場合、1 回の I/O 操作で処理できる最大バイト数は 64MB です。したがって、*number-of-buffers* x *page-size* <= 64MB となります。

比較

- BUFNO=システムオプションより BUFNO=データセットオプションを優先することができます。
- SAS でデータセットページとインデックスファイルページの数に基づいてバッファ数が割り当てられるように要求するには、SASFILE ステートメントを使用します。

関連項目:**データセットオプション:**

- “BUFNO=データセットオプション” (SAS データセットオプション: リファレンス)

プロシジャ:

- “CONTENTS プロシジャ” (Base SAS プロシジャガイド)

ステートメント:

- “SASFILE ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)

システムオプション:

- “BUFSIZE=システムオプション” (61 ページ)

BUFSIZE=システムオプション

出力 SAS データセット用の永久バッファページのサイズを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル: SAS ファイル
システム管理: 処理速度

PROC OPTIONS GROUP= SASFILES
PERFORMANCE

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “BUFSIZE System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)
“BUFSIZE System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)

構文

BUFSIZE=*n* | *nK* | *nM* | *nG* | *nT* | *hexX* | **MAX**

構文の説明

n* | *nK* | *nM* | *nG* | *nT

ページサイズを 1(バイト)、1,024(キロバイト)、1,048,576(メガバイト)、1,073,741,824(ギガバイト)、1,099,511,627,776(テラバイト)のいずれかの倍数で指定します。たとえば、値 8 では 8 バイト、値 3m では 3,145,728 バイトが指定されます。

注: システムオプションとデータセットオプションのどちらも指定されていない場合、デフォルトは 0 です。これにより、動作環境に最適な最小ページサイズが使用されます。次のいずれかの場合は BUFSIZE=システムオプションが使用されません。

- BUFSIZE=データセットオプションが設定されていない
- BUFSIZE=データセットオプションがゼロに設定されている

バッファページサイズを動作環境のデフォルト値にリセットするには、BUFSIZE=0 を使用します。

hexX

ページサイズを 16 進値で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2ax ではページサイズが 45 バイトに設定されます。

MAX

ページサイズを動作環境で可能な最大値に設定します。4 バイト符号付き整数の最大値である $2^{31}-1$ (約 20 億バイト)以下の値になります。

詳細

ページサイズは、1 回の入力/出力(I/O)操作で 1 個のバッファに転送できるデータ量です。ページサイズは、データセットの永続的属性であり、データセットが処理されるときに使用されます。

ページサイズが大きいほど、ストレージメディアに対する必要な読み取りまたは書き込み回数を減らして、実行時間を改善できます。ただし、実行時間が改善するかわりにメモリ消費が増えます。

ページサイズを変更するには、DATA ステップを使用してデータセットをコピーし、新しいページを指定するか、SAS デフォルトを使用します。

注: COPY プロシジャを使用してデータセットを別のエンジンで割り当てられた別のライブラリにコピーする場合、指定されたデータのページサイズは保持されません。

動作環境の情報

BUFSIZE=のデフォルト値は、動作環境に応じて決まり、順次アクセスを最適化するように設定されます。直接(ランダム)アクセスの処理速度を向上させるには、BUFSIZE=の値を変更する必要があります。直接アクセスのデフォルト設定と使用可能な設定については、動作環境向け SAS ドキュメントの BUFSIZE=システムオプションを参照してください。

比較

BUFSIZE=システムオプションは、BUFSIZE=データセットオプションでオーバーライドできます。

関連項目:

データセットオプション:

- “BUFSIZE=データセットオプション” (SAS データセットオプション: リファレンス)

システムオプション:

- “BUFNO=システムオプション” (59 ページ)

BYERR システムオプション

SORT プロシジャが NULL_データセットを処理しようとしたときに、SAS でエラーを生成するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: エラー処理

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

BYERR | **NOBYERR**

構文の説明

BYERR

SORT プロシジャが `_NULL_` データセットを並べ替えようとしたときに、SAS がエラーメッセージを発行して処理を停止するように指定します。

NOBYERR

SORT プロシジャが `_NULL_` データを並べ替えようとしたときに、SAS がエラーメッセージを無視して処理を続行するように指定します。

詳細

VNFERR システムオプションでは、`_NULL_` データセットが使用されると、欠損変数に対してエラーフラグを設定します。DSNFERR システムオプションでは、SAS データセットが見つからないときの SAS の対応方法を指定します。

関連項目:

- 20 章: “DATA ステップでの BY グループ処理” (SAS 言語リファレンス: 解説編)

システムオプション:

- “DSNFERR システムオプション” (101 ページ)
- “VNFERR システムオプション” (273 ページ)

BYLINE システムオプション

各 BY グループの上に BY 行を表示するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力

PROC OPTIONS LISTCONTROL

GROUP=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

BYLINE | **NOBYLINE**

構文の説明

BYLINE

各 BY グループの上に BY 行を表示するように指定します。

NOBYLINE

BY 行を自動的に表示しないようにします。

詳細

プロシジャ出力で BY 行を自動的に表示しないようにするには、NOBYLINE を使用します。その後#BYVAL、#BYVAR または#BYLINE を使用して、TITLE ステートメントに BYLINE 情報を表示できます。

次の SAS プロシジャは、同じページに複数の BY グループの出力を表示して独自の BY 行処理を実行します。

- MEANS
- PRINT
- STANDARD
- SUMMARY
- TTEST (SAS/STAT ソフトウェア)

これらのプロシジャでは、NOBYLINE によって BY グループごとに改ページされません。PROC PRINT の場合、BY グループごとの改ページは、PAGEBY ステートメントで右端の BY 変数を指定する場合と同じ結果になります。

関連項目:

- 20 章: “DATA ステップでの BY グループ処理” (SAS 言語リファレンス: 解説編)

ステートメント:

- #BYVAL、#BYVAR および#BYLINE 引数、“TITLE ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)

BYSORTED システムオプション

1 つ以上のデータセットのオブザベーションがアルファベット順または番号順に並べ替えられているか、別の論理的順序でグループ化されているかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール: データ処理

**PROC OPTIONS
GROUP=** INPUTCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

BYSORTED | **NOBYSORTED**

構文の説明

BYSORTED

データセットのオブザベーションがアルファベット順または番号順で並べ替えられていることを指定します。

要件 BYSORTED オプションを使用する場合、オブザベーションが BY 変数の値によって並べ替えられているか、インデックスが付けられている必要があります。

操作 BYSORTED システムオプションと BY ステートメントの NOTSORTED ステートメントオプションの両方が指定されている場合、BY ステートメントの

NOTSORTED オプションが BYSORTED システムオプションよりも優先されます。

ヒント BYSORTED が指定されている場合、SAS はデータセットが BY 変数によって並べ替えられていると見なします。データセットが BY 変数によって並べ替えられている場合、処理速度を向上させるために BYSORTED を使用してください。

NOBYSORTED

同じ BY 値のオブザベーションがグループ化されていて、アルファベット順または番号順に並べ替えられているとは限らないことを指定します。

注 プロシジャで BY ステートメントの NOTSORTED オプションが無視される場合、NOBYSORTED システムオプションも無視されます。

ヒント NOBYSORTED オプションが指定されている場合、データセットにアクセスするためにすべての BY ステートメントで NOTSORTED を指定する必要はありません。

NOBYSORTED は、日付順や言語順などの他の論理的グループに属するデータがある場合に役立ちます。NOBYSORTED では、データセットが実際にアルファベット順または番号順に並べ替えられていない場合に BY 処理をエラーなしで実行できます。

詳細

BY 変数の値によるオブザベーションの並べ替えまたはインデックス付けの要件は、NOBYSORTED オプションを使用した場合の BY グループ処理では適用されません。デフォルトでは、BY グループ処理ではデータがアルファベット順または番号順に並べ替えられている必要があります。データがアルファベット順または番号順以外の方法でグループ化されている場合、BY-処理の実行でエラーが発生しないように NOBYSORTED オプションを使用する必要があります。BY グループ処理の詳細については、20 章: “DATA ステップでの BY グループ処理” (SAS 言語リファレンス: 解説編)を参照してください。

関連項目:

ステートメント:

- NOTSORTED オプション、“NOTSORTED” (SAS ステートメント: リファレンス 2 章)

CAPS システムオプション

特定の種類の入力を大文字に変換するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール: データ処理

**PROC OPTIONS
GROUP=** INPUTCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

CAPS | NOCAPS

構文の説明

CAPS

SAS で次の種類の入力を小文字から大文字に変換するように指定します。

- CARDS、CARDS4、DATALINES、DATALINES4、PARMCARDS ステートメントの後のデータ
- 一重引用符または二重引用符で囲まれたテキスト
- FORMAT プロシジャの VALUE および INVALUE ステートメントの値
- タイトル、フットノート、変数ラベル、データセットラベル
- マクロ定義の定数テキスト
- マクロ変数の値
- マクロに渡されるパラメータ値

注 外部ファイルおよび SAS データセットから読み込まれるデータは、大文字には変換されません。

NOCAPS

上のリストに示されている入力の種類で、小文字を大文字に変換しないように指定します。

比較

CAPS システムオプションと CAPS コマンドの両方とも、入力を大文字に変換するかどうかを指定します。テキストの編集ウィンドウで使用可能な CAPS コマンドは、トグルとして機能します。CAPS コマンドでは、キーボードから入力されたすべてのテキストを大文字に変換します。CAPS システムオプションまたは CAPS コマンドのいずれかが有効になっている場合、該当するすべての入力が大文字に変換されます。

関連項目:

コマンド:

- SAS ヘルプおよびドキュメントの“CAPS コマンド”

CARDIMAGE システムオプション

SAS でソースおよびデータ行を 80 バイトのカードとして処理するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール: データ処理

**PROC OPTIONS
GROUP=** INPUTCONTROL

動作環境: 通常、CARDIMAGE は z/OS 動作環境で使用されます。NOCARDIMAGE はその他の動作環境で使用されます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: z/OS の CARDIMAGE システムオプション

構文

CARDIMAGE | NOCARDIMAGE

構文の説明

CARDIMAGE

SAS ソースおよびデータ行をパンチカードイメージとして処理するため、すべてが 80 バイトの長さになるように空白で埋め込むことを指定します。つまり、各行の列 1 は、前の行の列 80 のすぐ後に続いているように扱われます。そのため、トークンを複数行に分割できます (トークンとは、SAS で個別のワードとして扱われる文字または文字列です)。

ある行で始まり別の行で終わる、引用符で囲まれた文字列(リテラルトークン)は、最初の行の列 80 まで空白が含まれているとして扱われます。80 バイトより長いデータ行は、2 つ以上の 80 バイトの行に分割されます。その長さに関わらず、データ行は切り捨てられません。

NOCARDIMAGE

SAS ソースおよびデータ行を 80 バイトのカードイメージとして処理しないように指定します。NOCARDIMAGE が有効になっている場合、引用符で囲まれた文字列以外では、常に最後のトークンの末尾が行の末尾になります。引用符で囲まれた文字列は複数行に分割できます。その他の種類のトークンは、いかなる状況でも複数行に分割することはできません。引用符で囲まれ複数行に分割された文字列は、空白で埋め込まれません。

例

次の DATA ステップを考えます。

```
data;
x='A
B';
run;
```

CARDIMAGE が有効になっている場合、変数 X は A、76 個の空白および B の 78 文字で構成される値を受け取ります。NOCARDIMAGE が有効になっている場合、変数 X は間に空白を含まない AB の 2 文字で構成される値を受け取ります。

CATCACHE=システムオプション

キャッシュメモリでオープン状態を維持する SAS カタログ数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ファイル: SAS ファイル

PROC OPTIONS GROUP= SASFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “CATCACHE System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)
 “CATCACHE System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)
 “CATCACHE= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

CATCACHE=*n* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n

0以上の整数をバイトで指定します。*n* > 0の場合、カタログを閉じる代わりに、キャッシュメモリにその数のオープン状態のファイルディスクリプタを保持します。

hexX

キャッシュメモリに保持されるオープン状態のファイルディスクリプタ数を16進数で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾がXの値を指定する必要があります。たとえば、値2dxではオープン状態を維持するカタログ数が45に設定されます。

MIN

キャッシュメモリに保持されるオープン状態のファイルディスクリプタ数を0に設定します。

MAX

キャッシュメモリに保持されるオープン状態のファイルディスクリプタ数を動作環境で最大の符号付き4バイト整数表現に設定します。

ヒント 推奨されるこのオプションの最大設定は10です。

詳細

CATCACHE=システムオプションを使用して、同じSASカタログを繰り返し開いたり閉じたりするオーバーヘッドを避けることで、アプリケーションを調整します。

注意:

CBUFNO=オプションとCATCACHE=オプションの両方を使用していて、いずれかのオプションの値が0よりも高い場合、もう一方のオプションを0に設定する必要があります。

CBUFNO=システムオプション

開かれた各SASカタログに割り当てる追加ページバッファ数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS起動時、OPTIONSステートメント、SASシステムオプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル: SASファイル

PROC OPTIONS SASFILES

GROUP=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6ページ)を参照してください。

構文

CBUFNO=*n* | *nK* | *nM* | *nG* | *nT* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n | **nK** | **nM** | **nG** | **nT**

追加ページバッファ数を 1 (バイト)、1,024 (キロバイト)、1,048,576 (メガバイト)、1,073,741,824 (ギガバイト)、1,099,511,627,776 (テラバイト)のいずれかの倍数で指定します。たとえば、値 **8** では 8 バイト、値 **3m** では 3,145,728 バイトが指定されます。

MIN

追加ページバッファ数を 0 に設定します。

MAX

追加ページバッファ数を 20 に設定します。

hexX

追加ページバッファ数を 16 進数で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が **X** の値を指定する必要があります。たとえば、値 **0ax** では追加ページバッファ数が 10 バッファに設定されます。

詳細

CBUFNO=オプションは、SAS データセット処理に使用される BUFNO=オプションに似ています。

CBUFNO=オプションの値を増やすと、アプリケーションがカタログから非常に大きなオブジェクトを読み込む場合の I/O 操作が少なくなる可能性があります。また、この値を増やすことで、処理速度とメモリ使用量が相殺されます。システムでのメモリ制約が重要な場合、CBUFNO=オプションの値は増やさないでください。CATCACHE=オプションの値を増やしている場合、CBUFNO=オプションの値は増やさないでください。

注意:

CBUFNO=オプションと CATCACHE=オプションの両方を使用していて、いずれかのオプションの値が 0 よりも高い場合、もう一方のオプションを 0 に設定する必要があります。

CENTER システムオプション

SAS プロシジャ出力を中央揃えにするか左揃えにするかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力

PROC OPTIONS LISTCONTROL

GROUP=

別名: CENTRE

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

CENTER | **NOCENTER**

構文の説明

CENTER

SAS プロシジャ出力を中央揃えにします。

NOCENTER

SAS プロシジャ出力を左揃えにします。

CGOPTIMIZE=システムオプション

コードコンパイル中に実行する最適化レベルを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: システム管理: 処理速度
システム管理: コードの生成

PROC OPTIONS PERFORMANCE

GROUP= CODEGEN

別名: CGOPT

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

CGOPTIMIZE=0 | 1 | 2 | 3

構文の説明

0

最適化を実行しないように指定します。

1

ステージ 1 最適化を実行するように指定します。ステージ 1 最適化は、配列予約設定の冗長な指示、欠損値の確認、反復計算を削除し、指示のパターンを検出してより効率的なシーケンスと置き換えます。

2

ステージ 2 最適化を実行するように指定します。ステージ 2 は、SAS 登録に関連する最適化を実行します。

操作 大きい DATA ステッププログラムに対するステージ 2 最適化は、コンパイル時間が大幅に長くなり、全体の実行時間も長くなる可能性があります。

3

ステージ 1 とステージ 2 を組み合わせた完全な最適化を実行するように指定します。これがデフォルト値です。

関連項目:

“プログラムコンパイルの最適化を変更して CPU 時間を削減する” (SAS 言語リファレンス: 解説編 12 章)

CHARCODE システムオプション

キーボードにない特殊文字を特定のキーボードの組み合わせで代用するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: 表示
 PROC OPTIONS
 GROUP= ENVDISPLAY

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

CHARCODE | NOCHARCODE

構文の説明

CHARCODE

キーボードにない可能性のある特殊文字を特定の文字の組み合わせで代用できるようにします。

NOCHARCODE

特定のキーボード文字で代用しません。

詳細

キーボードに次の記号がない場合、CHARCODE がアクティブであれば次の文字の組み合わせを使用して必要な記号を作成できます。

記号	文字
逆引用符(`)	?:
バックスラッシュ(\)	?,
左中かっこ({)	?{(
右中かっこ(})	?)
論理否定記号(~または^)	?=
左角かっこ([)	?<
右角かっこ(])	?>
アンダースコア(_)	?-
縦棒()	?/

例

次のステートメントでは[TEST TITLE]が出力されます。

```
title '?<TEST TITLE?>';
```

CHKPTCLEAN システムオプション

SAS がチェックポイントモードまたは再開モードの場合、バッチプログラムが正常に実行された後に Work ライブラリの内容を消去するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: エラー処理

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

CHKPTCLEAN | NOCHKPTCLEAN

構文の説明

CHKPTCLEAN

チェックポイントモードまたは再開モードでバッチプログラムが正常に実行された後に Work ライブラリ内のファイルを消去するように指定します。

NOCHKPTCLEAN

チェックポイントモードまたは再開モードでバッチプログラムが正常に実行された後に Work ライブラリ内のファイルを消去しないように指定します。これがデフォルト設定です。

詳細

通常、チェックポイントモードまたは再開モードは、NOWORKTERM および NOWORKINIT システムオプションのセットで開始されます。これらのオプションが設定されている場合、SAS セッション間で Work ライブラリが保持されます。チェックポイントモードまたは再開モードでバッチプログラムが正常に実行された後にファイルが不要な場合、CHKPTCLEAN システムオプションを使用して Work ライブラリからすべてのファイルを消去できます。

このオプションは、次の条件を満たす場合にのみ有効です。

- SAS がチェックポイントモードまたは再開モードである。STEPCHKPT オプションまたは LABELCHKPT オプションが設定されているときに SAS がチェックポイントモードになる。STEPRESTART オプションまたは LABELRESTART オプションが設定されているときに SAS が再開モードになる。
- チェックポイントライブラリが Work である。
- プログラムがバッチモードで正常に実行される。

プログラムが正常に実行されない場合、CHKPTCLEAN オプションが設定されているかどうかに関わらず、Work ライブラリ内のファイルは消去されません。

比較

CHKPTCLEAN オプションは、チェックポイントモードまたは再開モードのみでバッチプログラムが正常に完了した後に Work ライブラリの内容を消去します。

WORKTERM オプションは、SAS セッションの終了時に Work ライブラリの内容を消去します。

関連項目:

システムオプション:

- “LABELCHKPT システムオプション” (146 ページ)
- “LABELRESTART システムオプション” (149 ページ)
- “STEPCHKPT システムオプション” (227 ページ)
- “STEPRESTART システムオプション” (230 ページ)
- “WORKTERM システムオプション” (280 ページ)

CLEANUP システムオプション

リソース不足の場合、自動クリーンアップを実行するか、ユーザー指定のクリーンアップを実行するかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: エラー処理

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: UNIX、Windows の CLEANUP システムオプション

構文

CLEANUP | NOCLEANUP

構文の説明

CLEANUP

セッション全体で、実行には重要でないリソースの継続的な自動クリーンアップの実行を SAS で試行するように指定します。重要でないリソースには、ユーザーには表示されないリソース(キャッシュメモリなど)およびユーザーに表示されるリソース(KEYS ウィンドウなど)が含まれます。

CLEANUP が有効になっていてリソース不足が発生した場合(ディスクがいっぱいの場合を除く)、ダイアログボックスは表示されず、ユーザーによる操作は不要です。CLEANUP が有効になっていてディスクがいっぱいになった場合、続行する方法をユーザーが決定できるダイアログボックスが表示されます。

NOCLEANUP

SAS でユーザーがリソース不足の処理方法を選択できるように指定します。NOCLEANUP が有効になっていてリソース不足のために SAS が実行できない場合、SAS はユーザーに表示されないリソース(キャッシュメモリなど)の自動クリーンアップを試行します。ただし、ユーザーに表示されるリソース(ウィンドウなど)は自動的にクリーンアップされません。代わりに、ユーザーが続行方法を選択できるダイアログボックスが表示されます。

詳細

次の表に、ダイアログボックスの選択肢を示します。

ダイアログボックスの選択肢	アクション
【Free windows ウィンドウの解放】	実行に重要でないすべてのウィンドウを消去します。
【Clear paste buffers 貼り付けバッファを解除】	貼り付けバッファの内容を削除します。
【Deassign inactive librefs 非アクティブなライブラリ参照名の割り当て取り消し】	ユーザーにライブラリ参照名の削除を促します。
【Delete definitions of all SAS macros and macro variables すべての SAS マクロ定義およびマクロ変数の削除】	すべてのマクロ定義および変数を削除します。
【Delete SAS files SAS ファイルの削除】	ユーザーが削除するファイルを選択できません。
【Clear Log window ログ ウィンドウを消去】	ログウィンドウの内容を消去します。
【Clear Output window 出力ウィンドウを消去】	出力ウィンドウの内容を消去します。
【Clear Program Editor window プログラムエディタ ウィンドウを消去】	プログラムエディタウィンドウの内容を消去します。
【Clear source spooling/DMS recall buffers ソース スプール/DMS リコール バッファを解除】	リコールバッファを消去します。
【More items to clean up クリーンアップするその他の項目】	クリーンアップできるその他のリソースのリストを表示します。
【Clean up everything すべてクリーンアップ】	ダイアログに表示された他のすべてのオプションをクリーンアップします。この選択は、SAS セッション全体ではなく現在のクリーンアップ要求にのみ適用されます。
【Continuous clean up 継続クリーンアップ】	継続的な自動クリーンアップを実行します。 【Continuous clean up 継続クリーンアップ】が選択されている場合、SAS は実行を続行するために可能な限り多くのリソースをクリーンアップし、要求ウィンドウを非表示にします。 【Continuous clean up 継続クリーンアップ】を選択した場合の動作は、CLEANUP を指定した場合と同じです。この選択は、現在のクリーンアップ要求および残りの SAS セッションに適用されます。

動作環境によっては、ダイアログボックスに次の選択肢が含まれる場合があります。

ダイアログボックスの選択肢	アクション
【Execute X command X コマンドの実行】	ユーザーがファイルの消去およびその他のクリーンアップ操作を実行できます。
何もしない	クリーンアップ要求を停止して SAS セッションに戻ります。この選択は、SAS セッション全体ではなく現在のクリーンアップ要求にのみ適用されます。

リソース不足が解消できない場合、ダイアログボックスが継続して表示されます。その場合の SAS セッションの終了方法については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。ウィンドウ環境以外のモードで実行する場合、CLEANUP の操作は動作環境によって異なります。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

CMPLIB=システムオプション

プログラムのコンパイル時に挿入するコンパイラサブルーチンを含む、1 つ以上の SAS データセットを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル: SAS ファイル

PROC OPTIONS GROUP= SASFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、「[制限されたオプション \(6 ページ\)](#)」を参照してください。

ヒント: APPEND または INSERT システムオプションを使用して SAS データセットを追加できます。

構文

```
CMPLIB=libref.data-set | (libref.data-set-1...libref.data-set-n)
| (libref.data-set-n-libref.data-set-m)
```

構文の説明

libref.data-set

プログラムのコンパイル時に挿入するコンパイラサブルーチンのライブラリ参照名およびデータセットを指定します。*libref* および *data-set* は有効な SAS 名である必要があります。

libref.data-set-n – libref.data-set-m

プログラムのコンパイル時に挿入するコンパイラサブルーチンの範囲を指定します。ライブラリ参照名およびデータセットの名前は、数値の接尾辞を含む有効な SAS 名である必要があります。

詳細

非線形統計モデリングまたは最適化を実行する SAS プロシジャ、DATA ステップおよびマクロプログラムは、SAS プログラムをコンパイルして実行する SAS 言語コンパイラサブシステムを使用します。このコンパイラサブシステムは、SAS が実行されているコ

コンピュータのマシン言語コードを生成します。SAS 言語コンパイラを使用する SAS プロシジャは、CALIS、COMPILE、GA、GENMOD、MODEL、NLIN、NLMIXED、NLP、PHREG、Risk Dimensions プロシジャ、SQL です。

挿入するサブルーチンはコンパイル済みである必要があります。*libref.data-set* 内のすべてのサブルーチンが挿入されます。

1 つの *libref.data-set*、*libref.data-set* の名前のリスト、または数値の接尾辞を含む *libref.data-set* の名前の範囲を指定できます。複数の *libref.data-set* の名前を指定する場合、名前を空白で区切って全体をカッコで囲みます。

例

ライブラリ数	OPTIONS ステートメント
1 つのライブラリ	<code>options cmplib=sasuser.cmpl;</code>
複数のライブラリ	<code>options cmplib=(sasuser.cmpl sasuser.cmplA sasuser.cmpl3);</code>
ライブラリの範囲	<code>options cmplib=(sasuser.cmpl1 - sasuser.cmpl6);</code>

関連項目:

システムオプション:

- “APPEND=システムオプション” (50 ページ)
- “INSERT=システムオプション” (141 ページ)

CMPMODEL=システムオプション

MODEL プロシジャの出力モデルタイプを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、システムオプションウィンドウ

カテゴリ: システム管理: 処理速度

**PROC OPTIONS
GROUP=** 処理速度

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

CMPMODEL=[BOTH](#) | [CATALOG](#) | [XML](#)

構文の説明

BOTH

MODEL プロシジャでモデルの 2 つの出力タイプ(SAS カタログエントリと XML ファイル)を作成するように指定します。これがデフォルト設定です。

CATALOG

出力モデルタイプを SAS カタログのエントリとして指定します。

XML

出力モデルタイプを XML ファイルとして指定します。

関連項目:**プロシジャ:**

- *MODEL* プロシジャ - SAS/ETS User's Guide

CMPOPT=システムオプション

SAS 言語コンパイラで使用するコード生成の最適化の種類を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、システムオプションウィンドウ

カテゴリ: システム管理: 処理速度

PROC OPTIONS GROUP= PERFORMANCE

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、「[制限されたオプション \(6 ページ\)](#)」を参照してください。

構文

CMPOPT=*optimization-value* | (*optimization-value-1*...*optimization-value-n*)
| "*optimization-value-1*... *optimization-value-n*" | ALL | NONE

NOCMPOPT**構文の説明****最適化**

SAS コンパイラで使用する最適化の種類を指定します。有効値は次のとおりです。

EXTRAMATH | NOEXTRAMATH

ステートメントの結果に影響しない算術演算を保持または削除するように指定します。EXTRAMATH を指定した場合、コンパイラで追加算術演算が保持されます。NOEXTRAMATH を指定した場合、追加算術演算は削除されます。

FUNCDIFFERENCING | NOFUNCDIFFERENCING

ユーザー定義関数で分析導関数が計算されるかどうかを指定します。NOFUNCDIFFERENCING を指定した場合、ユーザー定義関数で分析導関数が計算されます。FUNCDIFFERENCING を指定した場合、ユーザー定義関数の導関数の計算には数値の差分が使用されます。デフォルトは NOFUNCDIFFERENCING です。

GUARDCHECK | NOGUARDCHECK

配列の境界の問題を確認するかどうかを指定します。GUARDCHECK を指定した場合、コンパイラは配列の境界の問題を確認します。NOGUARDCHECK を指定した場合、コンパイラは配列の境界の問題を確認しません。

操作 CMPOPT が ALL または NONE に設定されている場合、NOGUARDCHECK が設定されます。

MISSCHECK | NOMISSCHECK

データ内の欠損値を確認するかどうかを指定します。データに大量の欠損値が含まれる場合、MISSCHECK を指定することでコンパイルを最適化できます。データに欠損値が含まれることはほとんどない場合、NOMISSCHECK を指定することでコンパイルを最適化できます。

PRECISE | NOPRECISE

操作の境界またはステートメントの境界で例外を処理するように指定します。PRECISE を指定した場合、例外は操作の境界で処理されます。NOPRECISE を指定した場合、例外はステートメントの境界で処理されます。

ヒント EXTRAMATH、MISSCHECK、PRECISE、GUARDCHECK、FUNCDIFFERENCING の 1 つ以上の値を指定する場合は、どのような組み合わせでも指定できます。

ALL

(NOEXTRAMATH NOMISSCHECK NOPRECISE NOGUARDCHECK NOFUNCDIFFERENCING)の最適化値を使用して、コンパイラがマシン言語コードを最適化するように指定します。これがデフォルト設定です。

制限事項 ALL を他の値と組み合わせて指定することはできません。

NONE

(EXTRAMATH MISSCHECK PRECISE NOGUARDCHECK FUNCDIFFERENCING)の最適化値を使用して、コンパイラがマシン言語コードを最適化しないように指定します。

制限事項 NONE を他の値と組み合わせて指定することはできません。

NOCMPOPT

CMPOPT の値を ALL に設定するように指定します。(NOEXTRAMATH NOMISSCHECK NOPRECISE NOGUARDCHECK NOFUNCDIFFERENCING)の最適化値を使用して、コンパイラがマシン言語コードを最適化します。

制限事項 NOCMPOPT を CMPOPT オプションの値と組み合わせて指定することはできません。

注 NOGENSYMNAMES は SAS でのみ使用される値で、このオプションでは設定できません。

詳細

非線形統計モデリングまたは最適化を実行する SAS プロシジャは、SAS プログラムをコンパイルして実行する SAS 言語コンパイラサブシステムを使用します。このコンパイラサブシステムは、SAS が実行されているコンピュータのマシン言語コードを生成します。CMPOPT オプションで値を指定することで、マシン言語コードが効率的に実行されるように最適化できます。SAS 言語コンパイラを使用する SAS プロシジャは、CALIS、COMPILE、GENMOD、MODEL、PHREG、NLIN、NLMIXED、NLP、RISK です。

複数の最適化値を指定するには、かっこ、一重引用符、二重引用符のいずれかで値全体を囲む必要があります。

特定の値が複数回入力されている場合、最後の設定が使用されます。たとえば、CMPOPT=(PRECISE NOEXTRAMATH NOPRECISE)と指定した場合、設定される値

は NOEXTRAMATH と NOPRECISE です。先頭の空白、末尾の空白、埋め込まれた空白はすべて削除されます。

EXTRAMATH または NOEXTRAMATH を指定した場合、マシン言語コードで含めたり除外したりできる算術演算の一部は次のとおりです。

```
x * 1    x * -1
x ÷ 1    x ÷ -1
x + 0    x
x - x    x ÷ x
-x       2つのリテラル定数に対する演算子
```

例

OPTIONS ステートメント	結果
<code>options cmpopt=(extramath);</code>	(NOPRECISE EXTRAMATH NOMISSCHECK NOGUARDCHECK NOGENSYMNames NOFUNCDIFFERENCING)
<code>options cmpopt=(extramath missscheck precise);</code>	(PRECISE EXTRAMATH MISSCHECK NOGUARDCHECK NOGENSYMNames NOFUNCDIFFERENCING)
<code>options nocmpopt;</code>	(NOEXTRAMATH NOMISSCHECK NOPRECISE NOGUARDCHECK NOGENSYMNames NOFUNCDIFFERENCING)

COLLATE システムオプション

印刷される出力の複数のコピーを部単位で印刷するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷

**PROC OPTIONS
GROUP=** ODSPRINT

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

COLLATE | **NOCOLLATE**

構文の説明

COLLATE

印刷される出力の複数のコピーを部単位で印刷するように指定します。

NOCOLLATE

印刷される出力の複数のコピーを部単位で印刷しないように指定します。これがデフォルト設定です。

詳細

印刷ジョブをプリンタに送信するときに複数ページの複数のコピーが必要な場合、COLLATE オプションでページの印刷順序を制御します。

- COLLATE では、連続して 123、123、123...の順序でページを印刷します。
- NOCOLLATE では、同一ページをまとめて 111、222、333...の順序で印刷します。

注: 部単位の印刷は、DMPAGESETUP コマンドで呼び出される SAS ウィンドウ環境のページ設定ウィンドウでも制御できます。

ほとんどの SAS システムオプションは、SAS が呼び出されるときにデフォルト設定で初期化されます。ただし、一部の SAS システムオプションのデフォルト設定とオプションの値は、動作環境とサイト両方に応じて変化します。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

関連項目:

- 15 章: “SAS を用いた印刷” (SAS 言語リファレンス: 解説編)
- “ODS 出力先について” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド 3 章)

システムオプション:

- “COPIES=システムオプション” (83 ページ)

COLORPRINTING システムオプション

カラー印刷がサポートされている場合にカラーで印刷するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷

**PROC OPTIONS
GROUP=** ODSPRINT

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

COLORPRINTING | NOCOLORPRINTING

構文の説明**COLORPRINTING**

カラーでの印刷を試行するように指定します。

NOCOLORPRINTING

カラーで印刷しないように指定します。

詳細

ほとんどの SAS システムオプションは、SAS が呼び出されるときにデフォルト設定で初期化されます。ただし、一部の SAS システムオプションのデフォルト設定とオプションの値は、動作環境とサイト両方に応じて変化します。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

関連項目:

- SAS での印刷

ステートメント:

- “ODS PRINTER ステートメント” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド)

COMPRESS=システムオプション

SAS データセットの出力に使用するオブザベーションの圧縮の種類を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル: SAS ファイル
システム管理: 処理速度

PROC OPTIONS GROUP= SASFILES
PERFORMANCE

制限事項: TAPE エンジンでは COMPRESS=システムオプションはサポートされません。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション \(6 ページ\)](#)”を参照してください。

構文

COMPRESS=NO | Yes | CHAR | BINARY

構文の説明

NO

新しく作成された SAS データセット内でオブザベーションは圧縮されないこと(固定長レコード)を指定します。

YES | CHAR

新しく作成された SAS データセット内でオブザベーションは SAS により RLE (Run Length Encoding)を使用して圧縮されること(可変長レコード)を指定します。RLE では、繰り返し連続する文字(空白を含む)を 2 バイトまたは 3 バイト表現に減らすことでオブザベーションを圧縮します。

別名 ON

注 COMPRESS=CHAR はバージョン 7 以降のバージョンで使用できます。

ヒント 文字データにはこの圧縮アルゴリズムを使用します。

BINARY

新しく作成された SAS データセット内でオブザベーションは SAS により RDC (Ross Data Compression)を使用して圧縮されること(可変長レコード)を指定します。RDC

では、RLE (Run Length Encoding)とスライディングウィンドウ圧縮を組み合わせ、ファイルを圧縮します。

ヒント この方法は、サイズが中～大(数百バイト以上)のバイナリデータ(数値変数)のブロックを圧縮する場合に非常に効果的です。この圧縮関数は一度に1つのレコードに対してのみ動作するため、効果的に圧縮するには数百バイト以上のレコード長が必要です。

詳細

ファイルの圧縮は、各オブザベーションの表現に必要なバイト数を減らすプロセスです。ファイル圧縮の利点として、ファイルのストレージ要件の削減、処理中のデータ読み取り/書き込みに必要な I/O 操作数の削減などがあります。ただし、圧縮ファイルの読み取りには(各オブザベーションの圧縮を解除するオーバーヘッドのために)より多くの CPU リソースが必要になります。状況によっては、圧縮後のファイルサイズが減らずに増えることがあります。

SAS セッション中に作成されたすべての出力データセットを圧縮する場合に COMPRESS=システムオプションを使用します。このオプションは、SAS データファイル(メンバの種類が DATA)を作成する場合にのみ使用します。SAS ビューは、データが含まれていないため圧縮できません。

ファイルが圧縮された後、設定はファイルの永続的属性になります。つまり、設定を変更するには、ファイルを再作成する必要があります。そのため、ファイルを圧縮解除するには、圧縮ファイルをコピーする DATA ステップに COMPRESS=NO を指定します。

注: COPY プロシジャの場合、デフォルト値 CLONE では入力データセットの圧縮属性を出力データセットに使用します。入力データセットのエンジンが圧縮属性をサポートしていない場合、PROC COPY は COMPRESS=システムオプションの現在の値を使用します。CLONE と NOCLONE の詳細については、COPY ステートメントオプション、“DATASETS プロシジャ”(Base SAS プロシジャガイド)を参照してください。この操作は、SAS/SHARE または SAS/CONNECT 使用時には適用されません。

比較

COMPRESS=システムオプションよりも LIBNAME ステートメントの COMPRESS=オプションおよび COMPRESS=データセットオプションが優先されます。

データセットオプション POINTOBS=YES(デフォルト)により、圧縮データセットを順次アクセスではなく、ランダムアクセス(オブザベーション番号を指定)で処理できるように定義されます。ランダムアクセスでは、オブザベーション番号を FSEDIT プロシジャや、SET および MODIFY ステートメントの POINT=オプションに指定できます。

圧縮ファイルを作成するとき、空き領域の追跡と再利用のために(データセットオプションまたはシステムオプションとして)REUSE=YES を指定することもできます。REUSE=YES を指定すると、新しいオブザベーションは、他のオブザベーションの更新または削除によって空いた領域に挿入されます。デフォルトの REUSE=NO が有効な場合、新しいオブザベーションは既存のファイルに追加されます。

POINTOBS=YES と REUSE=YES は相互排他的です。つまり、一緒に使用することはできません。REUSE=YES は、POINTOBS=YES よりも優先されます。そのため、REUSE=YES を設定すると、POINTOBS=NO が自動的に設定されます。

TAPE エンジンでは COMPRESS=システムオプションはサポートされませんが、COMPRESS=データセットオプションはサポートされます。

XPORT エンジンでは圧縮はサポートされません。

関連項目:

- “圧縮の定義” (SAS 言語リファレンス: 解説編 26 章)

データセットオプション:

- “COMPRESS=データセットオプション” (SAS データセットオプション: リファレンス)
- “POINTOBS=データセットオプション” (SAS データセットオプション: リファレンス)
- “REUSE=データセットオプション” (SAS データセットオプション: リファレンス)

ステートメント:

- “LIBNAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)

システムオプション:

- “REUSE=システムオプション” (205 ページ)

COPIES=システムオプション

印刷する部数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷

**PROC OPTIONS
GROUP=** ODSPRINT

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

COPIES=*n*

構文の説明

n
部数を指定します。

関連項目:

- 15 章: “SAS を用いた印刷” (SAS 言語リファレンス: 解説編)
- “ODS 出力先について” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド 3 章)

システムオプション:

- “COLLATE システムオプション” (79 ページ)

CPUCOUNT=システムオプション

スレッド対応アプリケーションで並行処理に使用可能とみなされるプロセッサ数を指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
カテゴリ:	システム管理: 処理速度
PROC OPTIONS GROUP=	PERFORMANCE
デフォルト:デフォルト:	Windows および z/OS の場合、デフォルトは ACTUAL です。UNIX の場合、デフォルトは ACTUAL か、5 つ以上のプロセッサがあるシステムでは 4 です。
操作:	THREADS システムオプションが NOTHEADS に設定されている場合、CPUCOUNT= オプションは適用されません。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。

構文

CPUCOUNT= 1 - 1024 | ACTUAL

構文の説明

1-1024

SAS によってスレッド対応アプリケーションで使用可能とみなされる CPU 数です。

ヒント 通常、この値は構成によって現在のプロセスで使用可能な実際の CPU 数に設定されます。

CPUCOUNT=に実際に使用可能な CPU 数よりも大きい値を設定した場合、SAS 全体の処理速度が低下する可能性があります。

ACTUAL

SAS が実行されているオペレーティングシステムに関連付けられた物理プロセッサ数を返します。オペレーティングシステムがパーティション内で実行されている場合、CPUCOUNT システムの値はそのパーティションのオペレーティングシステムに関連付けられた物理プロセッサ数です。

ヒント SAS プロセスがシステム管理ツールによって制限されている場合、この数は物理 CPU 数よりも少なくなる可能性があります。

CPUCOUNT=を ACTUAL に設定するたびに、このオプションはその時点でオペレーティングシステムに関連付けられている物理プロセッサ数にリセットされます。オペレーティングシステムがパーティション内で実行されている場合、CPUCOUNT システムの値はそのパーティションのオペレーティングシステムに関連付けられた物理プロセッサ数です。

システムが同時マルチスレッディング(SMT)、ハイパースレッディングまたはチップマルチスレッディング(CMT)をサポートしている場合、CPUCOUNT=オプションの値はシステム上のそのスレッドの数を表します。

詳細

特定のプロシジャは、プロシジャ処理をスレッド化することで複数の CPU を活用するように変更されています。Base SAS エンジンもスレッドを使用してインデックスを作成します。CPUCOUNT=オプションは、スレッドの配分に関する決定に必要な情報を提供します。

CPUCOUNT=の値を変更すると、各スレッド対応プロセスが実行する並行処理の割合に影響します。CPUCOUNT に実際に使用可能な CPU 数よりも大きい値を設定した場合、SAS 全体の処理速度が低下する可能性があります。

比較

関連するシステムオプション THREADS が有効になっている場合、使用可能な場合はスレッドがアクティブになります。CPUCOUNT=オプションの値はスレッド対応 SAS プロシジャで使用できるシステム CPU の数を提供し、THREADS の処理速度に影響を及ぼします。

関連項目:

- 並行処理のサポート

システムオプション:

- [“THREADS システムオプション” \(252 ページ\)](#)
- [“UTILLOC=システムオプション” \(258 ページ\)](#)

CPUID システムオプション

CPU ID 番号を SAS ログに書き込むかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ

**PROC OPTIONS
GROUP=** LOGCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、[“制限されたオプション” \(6 ページ\)](#)を参照してください。

構文

CPUID | **NOCPUID**

構文の説明

CPUID

CPU ID 番号を SAS ログの上部のライセンス情報の後に表示するように指定します。

NOCPUID

CPU ID 番号を SAS ログに書き込まないように指定します。

関連項目:

“SAS ログ” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

DATASTMTCHK=システムオプション

入力データセットの上書きを防ぐため、1レベルの DATA ステップ名としての指定を禁止する SAS ステートメントのキーワードを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル: SAS ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** SASFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

DATASTMTCHK=[COREKEYWORDS](#) | [ALLKEYWORDS](#) | [NONE](#)

構文の説明

COREKEYWORDS

特定の単語を DATA ステートメントの 1レベルの SAS データセット名として使用することを禁止します。これらの単語は 2レベルの名前として使用できます。1レベルの SAS データセット名として使用できないキーワードを次に示します。

- MERGE
- RETAIN
- SET
- UPDATE

たとえば、DATA ステートメントに SET は使用できませんが、SAVE.SET や WORK.SET は使用できます。COREKEYWORDS がデフォルト設定です。

ALLKEYWORDS

DATA ステップでステートメントを開始できるすべてのキーワード(ABORT、ARRAY、INFILE など)を DATA ステートメントの 1レベルのデータセット名として使用することを禁止します。

NONE

SAS データセットの上書きが許可されます。

詳細

DATA ステートメントでセミコロンを省略した場合、次のステートメントが SET、MERGE または UPDATE の場合は入力データセットを上書きできます。次のステートメントが RETAIN の場合は、別の重大な問題が発生します。DATASTMTCHK=では、入力データセットの上書きを防ぐことができます。

DATE システムオプション

SAS プログラムが開始された日時を表示するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログおよびプロシジャ出力
 ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ
 ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力

**PROC OPTIONS
GROUP=** LOG_LISTCONTROL
 LISTCONTROL
 LOGCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

DATE | NODATE

構文の説明

DATE

SAS ログの各ページおよび SAS によって作成されたすべての出力の上部に、SAS プログラムが開始された日時を表示するように指定します。

注 対話型 SAS セッションでは、日時は出力ウィンドウのみに表示されます。

NODATE

日時を表示しないように指定します。

関連項目:

“SAS ログ” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

DATESTYLE=システムオプション

ANYDTE、ANYDTM または ANYDTM 入力形式があいまいな場合の月、日、年の順序を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: 言語コントロール
 入力コントロール: データ処理

**PROC OPTIONS
GROUP=** INPUTCONTROL
 LANGUAGECONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

DATESTYLE= MDY | YMD | DMY | LOCALE

構文の説明

MDY

SAS に設定される順序を月、日、年に指定します。

YMD

SAS に設定される順序を年、月、日に指定します。

DMY

SAS に設定される順序を日、月、年に指定します。

LOCALE

LOCALE=システムオプション値に対応する値に基づいて、SAS に設定する順序を MDY、YMD、DMY のいずれかに指定します。

詳細

システムオプション DATESTYLE=は、月、日、年の順序を識別します。デフォルト値は LOCALE です。デフォルトの LOCALE システムオプション値は English のため、デフォルトの DATESTYLE の順序は MDY です。

各ロケールオプション値のデフォルト設定については、ロケール値を参照してください。

関連項目:**入力形式:**

- “ANYDTDTEw. 入力形式” (SAS 出力形式と入力形式: リファレンス)
- “ANYDTDTMw. 入力形式” (SAS 出力形式と入力形式: リファレンス)
- “ANYDTTMEw. 入力形式” (SAS 出力形式と入力形式: リファレンス)

システムオプション:

- “LOCALE システムオプション” (SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド)

DEFLATION=システムオプション

Deflate 圧縮アルゴリズムをサポートするデバイスドライバの圧縮レベルを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷

**PROC OPTIONS
GROUP=** ODSPRINT

別名: DEFLATE

要件 ファイルを圧縮するには、UPRINTCOMPRESSION システムオプションを設定する必要があります。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション \(6 ページ\)](#)”を参照してください。

構文

DEFLATION=*n* | MIN | MAX

構文の説明

n

圧縮レベルを指定します。値を大きくすると、圧縮率が高くなります。たとえば、 $n=0$ は最小圧縮レベル(まったく圧縮しない)で、 $n=9$ は最大圧縮レベルです。

デフォルト 6

範囲 0–9

MIN

最小圧縮レベルの 0 を指定します。

MAX

最大圧縮レベルの 9 を指定します。

詳細

DEFLATION=システムオプションは、PDF や SVG などの、Deflate をサポートするデバイスドライバの圧縮レベルを制御します。

ODS PRINTER ステートメントオプション COMPRESS=は、DEFLATION システムオプションよりも優先されます。

関連項目:

ステートメント:

- “ODS PRINTER ステートメント” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド)

システムオプション:

- “[PRINTERPATH=システムオプション](#)” (200 ページ)
- “[UPRINTCOMPRESSION システムオプション](#)” (255 ページ)

DETAILS システムオプション

SAS ライブラリにファイルのリストが表示されるときに追加情報を含めるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログおよびプロシジャ出力
ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ
ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力

**PROC OPTIONS
GROUP=** LOG_LISTCONTROL
LISTCONTROL
LOGCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

[DETAILS](#) | [NODETAILS](#)

構文の説明**DETAILS**

一部の SAS プロシジャとウィンドウに SAS ライブラリのファイルのリストが表示されるときに、追加情報を含めます。

NODETAILS

追加情報を含めません。

詳細

DETAILS の指定によって、SAS の次のコンポーネントのデフォルト表示を設定します。

- CONTENTS プロシジャ
- DATASETS プロシジャ

表示される追加情報の種類と量は、使用するプロシジャまたはウィンドウによって異なります。

関連項目:

“SAS ログ” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

DEVICE=システムオプション

SAS/GRAPH のプロシジャ出力先のデバイスドライバを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: グラフィック: ドライバ設定

**PROC OPTIONS
GROUP=** GRAPHICS

別名: DEV=

要件 このオプションは、SAS を非対話型モードで実行するときに LISTING 出力先に必要です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション \(6 ページ\)](#)”を参照してください。

参照項目: “DEVICE System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments),
“DEVICE System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)
“DEVICE= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

DEVICE=*device-driver-specification*

構文の説明

device-driver-specification

デバイスドライバの名前を指定します。

詳細

デバイスドライバ名を省略すると、開いている出力先のデバイスドライバが Output Delivery System によって選択されます。開いている出力先と互換性のないデバイスを指定すると、Output Delivery System によって有効なデバイスが選択されます。無効なデバイスドライバを入力すると、グラフィックを生成するプロシジャを実行するときにデバイスドライバの入力を求められます。

ベストプラクティスは、LISTING 出力先を使用する場合を除き、Output Delivery System にデバイスドライバの選択を任せることです。LISTING 出力先が開いている場合、デフォルトのデバイスは **グラフウィンドウ** になります。

関連項目:

6 章: “Using Graphics Devices” (SAS/GRAPH: Reference)

DKRCOND=システムオプション

DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に入力データセットの変数が欠損しているときに、報告するエラー検出のレベルを指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
カテゴリ:	ファイル: SAS ファイル 環境コントロール: エラー処理
PROC OPTIONS GROUP=	ERRORHANDLING SASFILES
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。

構文

DKRCOND=[ERROR](#) | [警告](#) | [WARNING](#) | [NOWARN](#) | [NOWARNING](#)

構文の説明

ERROR

DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に入力データセットの変数が欠損している場合、エラーフラグを設定し、SAS ログにエラーメッセージを書き込みます。

WARN | WARNING

DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に入力データセットの変数が欠損している場合、SAS ログに警告メッセージを書き込みます。

NOWARN | NOWARNING

DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に入力データセットの変数が欠損している場合、SAS ログに警告メッセージを書き込みません。

例

次のステートメントでは、データセット B で変数 X が欠損していて、DKRCOND=ERROR の場合、エラーフラグが 1 に設定され、エラーメッセージが表示されます。

```
data a;
set b(drop=x);
run;
```

関連項目:

システムオプション:

- [“DKROCOND=システムオプション” \(92 ページ\)](#)

DKROCOND=システムオプション

DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に出力データセットの変数が欠損しているときに、報告するエラー検出のレベルを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル: SAS ファイル
環境コントロール: エラー処理

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING
SASFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、[“制限されたオプション” \(6 ページ\)](#)を参照してください。

構文

DKROCOND=[ERROR](#) | [警告](#) | [WARNING](#) | [NOWARN](#) | [NOWARNING](#)

構文の説明

ERROR

DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に出力データセットの変数が欠損している場合、エラーフラグを設定し、SAS ログにエラーメッセージを書き込みます。

WARN | WARNING

DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に出力データセットの変数が欠損している場合、SAS ログに警告メッセージを書き込みます。

NOWARN | NOWARNING

DROP=、KEEP=または RENAME=データセットオプションの処理時に出力データセットの変数が欠損している場合、SAS ログに警告メッセージを書き込みません。

例

次のステートメントでは、データセット A で変数 X が欠損していて、DKROCOND=ERROR の場合、エラーフラグが 1 に設定され、エラーメッセージが表示されます。

```
data a;
drop x;
run;
```

関連項目:**システムオプション:**

- “DKRICOND=システムオプション” (91 ページ)

DLCREATEDIR システムオプション

LIBNAME ステートメントで指定する SAS ライブラリのディレクトリが存在しない場合に、ディレクトリを作成するように指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル: SAS ファイル

PROC OPTIONS GROUP= SASFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “DLCREATEDIR System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

DLCREATEDIR | NODLCREATEDIR

構文の説明**DLCREATEDIR**

LIBNAME ステートメントで指定する SAS ライブラリのディレクトリが存在しない場合に、ディレクトリを作成するように指定します。

NODLCREATEDIR

LIBNAME ステートメントで指定する SAS ライブラリのディレクトリを作成しないように指定します。これがデフォルト設定です。

詳細

SAS ライブラリのディレクトリが作成されると、ログにメモが発行されます。

関連項目:**ステートメント:**

- “LIBNAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)

DLDMGACTION=システムオプション

SAS データセットまたは SAS カタログの損傷が検出されたときに実行するアクションの種類を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル: SAS ファイル

PROC OPTIONS SASFILES
GROUP=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

DLDMGACTION=FAIL | ABORT | REPAIR | NOINDEX | PROMPT

構文の説明

FAIL

ただちにステップを停止し、エラーメッセージをログに発行します。これはバッチモードのデフォルトです。

ABORT

ステップを終了し、エラーメッセージをログに発行し、SAS セッションを終了します。

REPAIR

データファイルの場合は、データファイルが切り捨てられていなければ、インデックスと一貫性制約を自動的に修復して再構築します。切り捨てられたデータセットをリストアするには、REPAIR ステートメントを使用します。警告メッセージがログに発行されます。これは対話型モードのデフォルトです。カタログの場合は、修復プロセス中にエラーが発生したカタログエントリを自動的に削除します。

NOINDEX

データファイルの場合は、インデックスと一貫性制約なしでデータファイルを自動的に修復し、インデックスファイルを削除し、無効にしたインデックスと一貫性制約を反映してデータファイルを更新して、データファイルを INPUT モードでのみ開くように制限します。無効になったインデックスと一貫性制約を修正または削除するには PROC DATASETS REBUILD ステートメントを実行するように指示する警告が SAS ログに書き込まれます。

制限事項 NOINDEX は損傷したカタログやライブラリには適用されず、データファイルにのみ適用されます。

参照項目 REBUILD ステートメント、“DATASETS プロシジャ” (Base SAS プロシジャガイド)

“無効化されたインデックスと一貫性制約の修復” (SAS 言語リファレンス: 解説編 36 章)

PROMPT

データセットの場合は、FAIL、ABORT、REPAIR、NOINDEX のいずれかを選択できるダイアログボックスを表示します。損傷したカタログまたはライブラリの場合は、FAIL、ABORT、REPAIR のいずれかを選択できるダイアログボックスを表示します。

DMR システムオプション

SAS/CONNECT クライアントで使用するサーバーセッションを SAS で起動できるようにするかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: 初期化および操作

**PROC OPTIONS
GROUP=** EXECMODES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

DMR | **NODMR**

構文の説明

DMR

SAS/CONNECT クライアントに接続するためにリモート SAS セッションを起動できるようにします。

NODMR

リモート SAS セッションを起動できないようにします。

詳細

通常は、TYPE ステートメントを含むスクリプト内の SAS コマンドで DMR を含めることにより、ローカルセッションからリモート SAS セッションを起動します (スクリプトはローカル SAS セッションとリモート SAS セッション間の SAS/CONNECT リンクを確立または終了するステートメントを含むテキストファイルです)。

SAS 実行モード起動オプションの OBJECTSERVER は、DMR オプションよりも優先されます。DMR は、その他すべての SAS 実行モード起動オプションよりも優先されません。起動オプションの優先順位の詳細については“[優先順序](#)” (17 ページ)を参照してください。

関連項目:

次のドキュメントの DMR に関する情報: *SAS/CONNECT User's Guide*

DMS システムオプション

SAS ウィンドウ環境を起動し、ログウィンドウ、エディタウィンドウ、出カウィンドウを表示するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: 初期化および操作

**PROC OPTIONS
GROUP=** EXECMODES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

DMS | **NODMS**

構文の説明

DMS

SAS ウィンドウ環境を起動し、ログウィンドウ、エディタウィンドウ、出力ウィンドウを表示します。

NODMS

対話型ラインモードで SAS セッションを起動します。

詳細

SAS を起動し、構成ファイルまたはコマンドラインを使用してシステムオプション設定を制御している場合に、一部のシステムオプション設定が他のシステムオプション設定と競合する状況が発生する可能性があります。次の起動システムオプションは、上から順に、DMS 起動システムオプションより優先順位が高くなっています。

1. OBJECTSERVER.
2. DMR
3. SYSIN

SAS を起動するために、優先順位が同等の別の起動オプションを使用しているときに DMR を指定すると、最後に指定したオプションが使用されます。起動オプションの優先順位の詳細については“[優先順序](#)” (17 ページ)を参照してください。

関連項目:

システムオプション:

- “DMR システムオプション” (94 ページ)
- “DMSEXP システムオプション” (96 ページ)
- “EXPLORER システムオプション” (117 ページ)

DMSEXP システムオプション

SAS ウィンドウ環境を起動し、エクスプローラウィンドウ、エディタウィンドウ、ログウィンドウ、出力ウィンドウ、結果ウィンドウを表示するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: 初期化および操作

**PROC OPTIONS
GROUP=** EXECMODES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

DMSEXP | NODMSEXP

構文の説明

DMSEXP

エクスプローラウィンドウ、エディタウィンドウ、ログウィンドウ、出力ウィンドウ、結果ウィンドウがアクティブな状態で SAS を起動します。

NODMSEXP

エディタウィンドウ、ログウィンドウ、出力ウィンドウがアクティブな状態で SAS を起動します。

詳細

DMSEXP または NODMSEXP を設定するには、DMS オプションを設定する必要があります。次の SAS 実行モード起動オプションは、上から順に、このオプションより優先順位が高くなっています。

1. OBJECTSERVER.
2. DMR
3. SYSIN

優先順位が同等の別の実行モード起動オプションと一緒に DMSEXP を指定すると、最後に表示されるオプションのみが使用されます。起動オプションの優先順位の詳細については“[優先順序](#)” (17 ページ)を参照してください。

関連項目:

システムオプション:

- “[DMS システムオプション](#)” (95 ページ)
- “[DMR システムオプション](#)” (94 ページ)
- “[EXPLORER システムオプション](#)” (117 ページ)

DMSLOGSIZE=システムオプション

SAS ログウィンドウに表示できる最大行数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: 表示
ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ

PROC OPTIONS ENVDISPLAY
GROUP= LOGCONTROL

制限事項: このオプションは、SAS ウィンドウ環境でのみ有効です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

DMSLOGSIZE=*n* | *nK* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

$n | nK$

SAS ウィンドウ環境のログウィンドウに表示できる最大行数を、 $1(n)$ または $1024(nK)$ の倍数で指定します。たとえば、値 800 では 800 行、値 3K では 3,072 行が指定されます。有効な値の範囲は 500 から 999999 です。デフォルトは 999999 です。

$hexX$

SAS ウィンドウ環境のログウィンドウに表示できる最大行数を 16 進値で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、 $2ffx$ では 767 行、 $0A00x$ では 2,560 行が指定されます。

MIN

SAS ウィンドウ環境のログウィンドウに表示できる最大行数を 500 に設定するように指定します。

MAX

SAS ウィンドウ環境のログウィンドウに表示できる最大行数を 999999 に設定するように指定します。

詳細

ログウィンドウに最大行数が表示されると、ログウィンドウのファイル、印刷、保存、消去のいずれかを行うように求められます。

関連項目:

- “SAS ログ” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

システムオプション:

- “DMSOUTSIZE=システムオプション” (98 ページ)

DMSOUTSIZE=システムオプション

SAS 出力ウィンドウに表示できる最大行数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: 表示
ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力

PROC OPTIONS GROUP= ENVDISPLAY
LOGCONTROL

制限事項: このオプションは、SAS ウィンドウ環境でのみ有効です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

DMSOUTSIZE= $n | nK | hexX | MIN | MAX$

構文の説明

$n | nK$

SAS ウィンドウ環境の出力ウィンドウに表示できる最大行数を、 $1(n)$ または $1024(nK)$ の倍数で指定します。たとえば、値 800 では 800 行、値 3K では 3,072 行が指定されます。有効な値の範囲は 500 から 999999 です。デフォルトは 999999 です。

hexX

SAS ウィンドウ環境の出力ウィンドウに表示できる最大行数を 16 進値で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、`2ffx` では 767 行、`0A00x` では 2,560 行が指定されます。

MIN

SAS ウィンドウ環境の出力ウィンドウに表示できる最大行数を 500 に設定するように指定します。

MAX

SAS ウィンドウ環境の出力ウィンドウに表示できる最大行数を 999999 に設定するように指定します。

詳細

出力ウィンドウに最大行数が表示されると、出力ウィンドウのファイル、印刷、保存、消去のいずれかを行うように求められます。

関連項目:

システムオプション:

- [“DMSLOGSIZE=システムオプション” \(97 ページ\)](#)

DMSPGMLINESIZE=システムオプション

プログラムエディタの 1 行の最大文字数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: 表示

PROC OPTIONS GROUP= ENVDISPLAY

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

DMSPGMLINESIZE= n

構文の説明

n

プログラムエディタの 1 行の最大文字数を指定します。

デフォルト 136

DMSSYNCHK システムオプション

SAS ウィンドウ環境で、DATA ステップおよび PROC ステップ処理の構文チェックモードを有効にするかどうかを指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
カテゴリ:	環境コントロール: エラー処理
PROC OPTIONS GROUP=	ERRORHANDLING
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。

構文

[DMSSYNCHK](#) | [NODMSSYNCHK](#)

構文の説明

DMSSYNCHK

SAS ウィンドウ環境内から送信されるステートメントに対し構文チェックモードを有効にします。

NODMSSYNCHK

SAS ウィンドウ環境内から送信されるステートメントに対し構文チェックモードを有効にしません。

詳細

DMSSYNCHK オプションが設定された後に DATA ステップで構文または意味エラーが発生すると、SAS は構文チェックモードになります。このモードはエラーが発生した部分から、送信されたコードの末尾まで有効になります。SAS が構文チェックモードになった後は、それ以降のすべての DATA ステップステートメントおよび PROC ステップステートメントが検証されます。

構文チェックモード中は、限られた処理のみが実行されます。構文チェックモードの詳細については、“[構文チェックモード](#)” (SAS 言語リファレンス: 解説編 8 章)を参照してください。

注意:

対象とするステップの前に、DMSSYNCHK を有効にする OPTIONS ステートメントを挿入します。ステップ内に OPTIONS ステートメントを挿入すると、DMSSYNCHK は次のステップの開始まで有効になりません。

NODMSSYNCHK が有効であれば、前のステップでエラーが発生した場合でも、残りのステップが処理されます。

比較

SAS ウィンドウ環境を使用して対話型セッションで構文を検証するには、DMSSYNCHK システムオプションを使用します。非対話型セッションまたはバッチ SAS セッションで構文を検証するには、SYNTAXCHECK システムオプションを使用し

まず、SAS/SHARE で LIBNAME ステートメント、FILENAME ステートメント、%INCLUDE ステートメント、LOCK ステートメントに構文チェックモードを指定するには、ERRORCHECK=オプションを使用できます。

関連項目:

- 8章: “エラー処理とデバッグ” (SAS 言語リファレンス: 解説編)

システムオプション:

- “ERRORCHECK=システムオプション” (114 ページ)
- “SYNTAXCHECK システムオプション” (245 ページ)

DSNFERR システムオプション

SAS データセットが見つからないときに、SAS でエラーメッセージを発行するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: エラー処理

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

DSNFERR | **NODSNFERR**

構文の説明

DSNFERR

存在しない SAS データセットが参照された場合、エラーメッセージを発行して処理を停止するように指定します。

NODSNFERR

存在しない SAS データセットが参照された場合、エラーメッセージを無視して処理を続行するように指定します。データセットの参照は、_NULL_ が設定されている場合と同様に処理されます。

詳細

- DSNFERR は、BYERR システムオプションに似ています。BYERR システムオプションでは、SORT プロシジャが _NULL_ データセットを並べ替えようとした場合に、エラーメッセージを発行して処理が停止されます。
- DSNFERR は、VNFERR システムオプションに似ています。VNFERR システムオプションでは、_NULL_ データセットが使用されると欠損変数にエラーフラグが設定されます。

関連項目:

システムオプション:

- “BYERR システムオプション” (62 ページ)
- “VNFERR システムオプション” (273 ページ)

DTRESET システムオプション

SAS ログとプロシジャ出力ファイルの日時を更新するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログおよびプロシジャ出力
 ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ
 ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力

**PROC OPTIONS
GROUP=** LOG_LISTCONTROL
 LISTCONTROL
 LOGCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

DTRESET | NODTRESET

構文の説明

DTRESET

SAS ログとプロシジャ出力ファイルのタイトルの日時が更新されるように指定します。

NODTRESET

SAS ログとプロシジャ出力ファイルのタイトルの日時が更新されないように指定します。

詳細

DTRESET システムオプションでは、SAS ログとプロシジャ出力ファイルのタイトルの日時が更新されます。この更新は、ページが書き込まれているときに行われます。反映される最小の時間増分は分です。

DTRESET オプションは、長い SAS ジョブを実行するときに、より正確な日時スタンプを取得する場合に特に役立ちます。

NODTRESET を使用すると、ジョブが最初に開始された日時が表示されます。

関連項目:

“SAS ログ” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

DUPLEX システムオプション

両面印刷が有効かどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ:	ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷
PROC OPTIONS GROUP=	ODSPRINT
制限事項:	プリンタが両面印刷をサポートしていない場合、このオプションは無視されます。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。

構文

DUPLEX | **NODUPLEX**

構文の説明

DUPLEX

両面印刷が有効であることを指定します。

操作 DUPLEX が選択されると、出力が裏面に印刷される前に、BINDING=オプションの設定によって用紙の向きが決まります。

NODUPLEX

両面印刷が有効でないことを指定します。これがデフォルト設定です。

詳細

両面印刷は、両面出力がサポートされているプリンタでのみ使用できます。

関連項目:

- “ODS PRINTER ステートメント” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド)
- “ユニバーサルプリント” (SAS 言語リファレンス: 解説編 15 章)

システムオプション:

- “[BINDING=システムオプション](#)” (57 ページ)

ECHOAUTO システムオプション

AUTOEXEC=ファイル内のステートメントが実行される時、ステートメントを SAS ログに書き込むかどうかを指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時
カテゴリ:	ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ
PROC OPTIONS GROUP=	LOGCONTROL
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。

構文

ECHOAUTO | **NOECHOAUTO**

構文の説明**ECHOAUTO**

AUTOEXEC=ファイル内の SAS ステートメントが実行されるとき、ステートメントを SAS ログに書き込むように指定します。

要件 SAS ログの autoexec ファイルのステートメントを印刷するには、SOURCE システムオプションを設定する必要があります。

NOECHOAUTO

AUTOEXEC=ファイル内の SAS ステートメントが実行されても、ステートメントを SAS ログに書き込まないように指定します。

詳細

このオプションの設定に関係なく、AUTOEXEC=ファイル中のエラーによって生成されたメッセージは SAS ログに印刷されます。

関連項目:

- “SAS ログ” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

システムオプション:

- “SOURCE システムオプション” (223 ページ)

EMAILAUTHPROTOCOL=システムオプション

SMTP 電子メールの認証プロトコルを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: コミュニケーション: 電子メール

**PROC OPTIONS
GROUP=** EMAIL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

EMAILAUTHPROTOCOL= NONE | LOGIN

構文の説明**LOGIN**

LOGIN 認証プロトコルが使用されるように指定します。

注 LOGIN を指定するときには、EMAILID と EMAILPW も指定する必要があります。EMAILID を省略すると、使用しているユーザーのユーザー ID を参照して使用されます。EMAILPW を省略すると、パスワードは使用されません。

**参照
項目** 認証の順序の詳細については、“SMTP を経由した電子メールの送付” (SAS 言語リファレンス: 解説編 38 章)を参照してください。

NONE

認証プロトコルが使用されないように指定します。

詳細

SMTP アクセス方式の場合、このオプションは、EMAILID=、EMAILPW=、EMAILPORT、EMAILHOST システムオプションと同時に使用します。EMAILID=はユーザー名を指定します。EMAILPW=はパスワードを指定します。EMAILPORT はSMTP サーバーが接続されるポートを指定します。EMAILHOST はサイトの電子メールアクセスをサポートする SMTP サーバーを指定します。EMAILAUTHPROTOCOL=はプロトコルを指定します。

関連項目:**システムオプション:**

- “EMAILHOST=システムオプション” (106 ページ)
- “EMAILID=システムオプション” (107 ページ)
- “EMAILPORT システムオプション” (108 ページ)
- “EMAILPW=システムオプション” (109 ページ)

EMAILFROM システムオプション

SMTP を使用して電子メールを送信するときに、FILE または FILENAME ステートメントのいずれかで電子メールオプション FROM が必要かどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
カテゴリ: コミュニケーション: 電子メール

PROC OPTIONS GROUP= EMAIL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

EMAILFROM | NOEMAILFROM

構文の説明**EMAILFROM**

FILE または FILENAME ステートメントのいずれかを使用して電子メールを送信するときに、FROM 電子メールオプションが必要であることを指定します。

NOEMAILFROM

FILE または FILENAME ステートメントのいずれかを使用して電子メールを送信するときに、FROM 電子メールオプションが必要ではないことを指定します。

関連項目:**ステートメント:**

- “FILE ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)
- “FILENAME ステートメント, EMAIL (SMTP)アクセス方式” (SAS ステートメント: リファレンス)

EMAILHOST=システムオプション

電子メールアクセスをサポートする SMTP サーバーを指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
カテゴリ:	コミュニケーション: 電子メール
PROC OPTIONS GROUP=	EMAIL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション \(6 ページ\)](#)”を参照してください。

構文

EMAILHOST= *サーバー*

EMAILHOST=('*server-1*' '*server-2*' <...'*server-n*'>)

構文の説明

サーバー

サイトで使用する Simple Mail Transfer Protocol(SMTP)サーバーのドメイン名を指定します。

範囲 SMTP サーバーに指定できる最大文字数は 1,024 です。

要件 複数のサーバー名を指定するときには、リストをカッコで囲み、各サーバー名を一重または二重引用符で囲む必要があります。

注 この情報はサイトのシステム管理者が提供します。

詳細

複数の SMTP サーバーが指定されている場合は、指定されている順に電子メールサーバーへの接続が試行されます。電子メールは SAS が接続している最初のサーバーに配信されます。指定されたサーバーのどれにも接続できない場合は、電子メールの配信が失敗し、エラーが返されます。

動作環境の情報

SAS が提供する SMTP インターフェイスを有効にするには、EMAILSYS=SMTP システムオプションも指定する必要があります。EMAILSYS の詳細については、現在の動作環境向けのドキュメントを参照してください。

比較

SMTP アクセス方式の場合、このオプションは、EMAILID=、EMAILAUTHPROTOCOL=、EMAILPORT、EMAILPW システムオプションと同時に使用します。EMAILID=はユーザー名を指定します。EMAILPW=はパスワードを指定します。EMAILPORT は SMTP サーバーが接続されるポートを指定します。

EMAILHOST はサイトの電子メールアクセスをサポートする SMTP サーバーを指定します。EMAILAUTHPROTOCOL=はプロトコルを指定します。

関連項目:

システムオプション:

- “EMAILAUTHPROTOCOL=システムオプション” (104 ページ)
- “EMAILID=システムオプション” (107 ページ)
- “EMAILPORT システムオプション” (108 ページ)
- “EMAILPW=システムオプション” (109 ページ)

EMAILID=システムオプション

ログオン ID、電子メールプロファイル、電子メールアドレスのいずれかを指定して、電子メールの送信者を識別します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: コミュニケーション: 電子メール

**PROC OPTIONS
GROUP=** EMAIL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

EMAILID =*logonid* | *profile* | *email-address*

構文の説明

logonid

SAS を実行しているユーザーのログオン ID を指定します。

注 最大文字数は 32,000 です。

profile

プロファイル名を判断するには、電子メールシステムのドキュメントを参照してください。

email-address

SAS を実行しているユーザーの完全修飾電子メールアドレスを指定します。

要件 電子メールアドレスは、SMTP が有効になっている場合にのみ有効です。

詳細

EMAILID=システムオプションは、電子メールシステムで使用するログオン ID、プロファイルまたは電子メールアドレスを指定します。

比較

SMTP アクセス方式の場合、このオプションは、EMAILAUTHPROTOCOL=、EMAILPW=、EMAILPORT、EMAILHOST システムオプションと同時に使用します。EMAILID=はユーザー名を指定します。EMAILPW=はパスワードを指定します。EMAILPORT は SMTP サーバーが接続されるポートを指定します。EMAILHOST はサイトの電子メールアクセスをサポートする SMTP サーバーを指定します。EMAILAUTHPROTOCOL=はプロトコルを指定します。

関連項目:

システムオプション:

- “EMAILAUTHPROTOCOL=システムオプション” (104 ページ)
- “EMAILHOST=システムオプション” (106 ページ)
- “EMAILPORT システムオプション” (108 ページ)
- “EMAILPW=システムオプション” (109 ページ)

EMAILPORT システムオプション

SMTP サーバーが接続されるポートを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: コミュニケーション: 電子メール

**PROC OPTIONS
GROUP=** EMAIL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

EMAILPORT <port-number>

構文の説明

port-number

EMAILHOST オプションで指定した SMTP サーバーで使用されるポート番号を指定します。

注 この情報はサイトのシステム管理者が提供します。

詳細

動作環境の情報

SAS が提供する SMTP プロトコルを使用するには、EMAILSYS SMTP システム オプションも指定する必要があります。EMAILSYS の詳細については、現在の動作環境向けのドキュメントを参照してください。

比較

SMTP アクセス方式の場合、このオプションは、EMAILID=、EMAILAUTHPROTOCOL=、EMAILPW=、EMAILHOST システムオプションと同時に使用します。EMAILID=はユーザー名を指定します。EMAILPW=はパスワードを指定します。EMAILPORT は SMTP サーバーが接続されるポートを指定します。EMAILHOST はサイトの電子メールアクセスをサポートする SMTP サーバーを指定します。EMAILAUTHPROTOCOL=はプロトコルを指定します。

関連項目:

システムオプション:

- “EMAILAUTHPROTOCOL=システムオプション” (104 ページ)
- “EMAILHOST=システムオプション” (106 ページ)
- “EMAILID=システムオプション” (107 ページ)
- “EMAILPW=システムオプション” (109 ページ)

EMAILPW=システムオプション

電子メールのログオンパスワードを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: コミュニケーション: 電子メール

**PROC OPTIONS
GROUP=** EMAIL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

EMAILPW= "*password*"

構文の説明

password

ログオン名のログオンパスワードを指定します。

制限事項 “*password*”に空白が含まれる場合、値を二重引用符で囲む必要があります。

詳細

エンコードされた電子メールパスワードを使用できます。パスワードが PROC PWENCODE でエンコードされていると、出力文字列にはその文字列がエンコードされたものとして識別するタグが含まれます。たとえば、{sas001}のようなタグが使用されます。このタグは、エンコーディング方法を示します。パスワードをエンコードすると、プレーンテキストのパスワードを使用した電子メールアクセス認証を回避できます。“{sas”で始まるパスワードが起因となってデコードの実行が開始されます。デコードに成功すると、デコードされたパスワードが使用されます。デコードに失敗すると、パスワ

ードは現状のまま使用されます。詳細については、“PWENCODE プロシジャ” (Base SAS プロシジャガイド)を参照してください。

Windows 固有

Windows オペレーティングシステムでは、EMAILSYS システムオプションが MAPI または VIM に設定されている場合、起動時に EMAILID および EMAILPW システムオプションを指定しない場合、または電子メールシステムにログインしていない場合、電子メール ID とパスワードの入力が求められます。EMAILSYS システムオプションが SMTP に設定されている場合、電子メール ID とパスワードの入力は求められません。

比較

SMTP アクセス方式の場合、このオプションは、EMAILID=、EMAILAUTHPROTOCOL=、EMAILPORT、EMAILHOST システムオプションと同時に使用します。EMAILID=はユーザー名を指定します。EMAILPW=はパスワードを指定します。EMAILPORT は SMTP サーバーが接続されるポートを指定します。EMAILHOST はサイトの電子メールアクセスをサポートする SMTP サーバーを指定します。EMAILAUTHPROTOCOL=はプロトコルを指定します。

関連項目:

システムオプション:

- “EMAILAUTHPROTOCOL=システムオプション” (104 ページ)
- “EMAILHOST=システムオプション” (106 ページ)
- “EMAILID=システムオプション” (107 ページ)
- “EMAILPORT システムオプション” (108 ページ)

EMAILUTCOFFSET=システムオプション

FILENAME ステートメントの電子メール(SMTP)アクセス方式を使用して送信される電子メールに、電子メールメッセージの日時ヘッダーフィールドで使用される UTC オフセットを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: コミュニケーション: 電子メール

PROC OPTIONS GROUP= EMAIL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

```
EMAILUTCOFFSET="+hhmm" | "-hhmm"
```

構文の説明

```
" +hhmm" | "-hhmm"
```

電子メールの日時ヘッダーフィールドの UTC オフセットとして使用される時間数と分数を指定します。UTC オフセットを使用してローカル時間を確立します。

要件 EMAILUTCOFFSET=システムオプションの値は、二重または一重引用符で囲む必要があります。

詳細

コンピュータの時刻設定がローカル時間の場合、またはコンピュータの時刻設定に夏時間が適用されない場合、EMAILUTCOFFSET=システムオプションを使用して、SMTP 電子メールの日時ヘッダーフィールドに UTC オフセットを設定できます。日時ヘッダーフィールドに UTC オフセットが含まれていない場合は、EMAILUTCOFFSET=システムオプションで指定した値でこの UTC オフセットが置き換えられます。

例

この例では、2011 年 1 月 1 日の午前 1 時 1 分 1 秒を使用します。

OPTIONS ステートメント	日時: ヘッダー
<code>options emailutcoffset="+0930";</code>	日時: Sat, 01 Jan2011 01:01:01 +0930
<code>options emailutcoffset="-0600";</code>	日時: Sat, 01 Jan2011 01:01:01 -0600

関連項目:

- 38 章: “SMTP 電子メールインターフェイス” (SAS 言語リファレンス: 解説編)

ステートメント:

- “FILENAME ステートメント, EMAIL (SMTP)アクセス方式” (SAS ステートメント: リファレンス)

ENGINE=システムオプション

SAS ライブラリのデフォルトアクセスメソッドを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ファイル: SAS ファイル

PROC OPTIONS GROUP= SASFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “ENGINE= System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments), “ENGINE System Option: Windows” (SAS Companion for Windows), “ENGINE= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

ENGINE=*engine-name*

構文の説明

engine-name

エンジン名を指定します。

詳細

ENGINE=システムオプションは、SAS ライブラリに関連付けられるデフォルトのエンジン名を指定します。デフォルトのエンジンは、SAS ライブラリが空のディレクトリまたは新しいファイルを示すときに使用されます。デフォルトのエンジンは、ディレクトリ内に複数の SAS ファイルの種類を保存できる、ディレクトリベースのシステムでも使用されます。たとえば、一部の動作環境では、同じディレクトリに複数のバージョンの SAS ファイルを保存できます。

動作環境の情報

有効なエンジン名は動作環境によって異なります。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

関連項目:

35 章: “SAS Engine” (SAS 言語リファレンス: 解説編)

ERRORABEND システムオプション

エラーが発生した場合に、SAS を終了するかどうかを指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
カテゴリ:	環境コントロール: エラー処理
PROC OPTIONS GROUP=	ERRORHANDLING
別名:	ERRABEND NOERRABEND
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。

構文

ERRORABEND | NOERRORABEND

構文の説明

ERRORABEND

通常エラーメッセージが発行される、ほとんどのエラー(構文エラーやファイルが見つからないエラーなど)に対して、SAS を終了し、OBS=0 を設定して構文チェックモード(構文チェックが有効になっている場合)になるように指定します。LIBNAME および FILENAME ステートメント以外のグローバルステートメントでエラーが発生した場合でも、SAS が終了します。

ヒン エラーが発生しないことが前提の SAS プロダクションプログラムで
ト ERRORABEND システムオプションを使用します。エラーが発生し、ERRORABEND が有効な場合は、SAS が終了することで、ただちにエラーの発生を知らせます。ERRORABEND は、無効なデータメッセージなどのメモの処理には影響しません。

NOERRORABEND

エラーが通常どおりに処理されるように指定します。つまり、エラーメッセージを発行し、OBS=0を設定し、構文チェックモード(構文チェックが有効になっている場合)になります。

関連項目:

- “グローバルステートメント”(SAS ステートメント: リファレンス 1 章)

システムオプション:

- “ERRORBYABEND システムオプション”(113 ページ)
- “ERRORCHECK=システムオプション”(114 ページ)

ERRORBYABEND システムオプション

BY グループ処理でエラーが発生したときにプログラムが終了されるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: エラー処理

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)”(6 ページ)を参照してください。

構文

ERRORBYABEND | NOERRORBYABEND

構文の説明**ERRORBYABEND**

通常エラーメッセージが発行される原因となる BY グループエラー状態に対して、プログラムが終了されるように指定します。

NOERRORBYABEND

BY グループエラーが通常どおりに処理されるように指定します。つまり、エラーメッセージを発行して処理を続行します。

詳細

ERRORBYABEND が有効なときに BY グループエラーが発生すると、プログラムを終了することにより、エラーの発生をただちに知らせます。ERRORBYABEND は、SAS ログに書き込まれるメモの処理には影響しません。

注: エラーが発生しないことが前提の SAS プロダクションプログラムで ERRORBYABEND システムオプションを使用します。

関連項目:**システムオプション:**

- “ERRORABEND システムオプション”(112 ページ)

ERRORCHECK=システムオプション

LIBNAME、FILENAME、%INCLUDE、LOCK ステートメントでエラーが検出されたときに SAS が構文チェックモードになるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: エラー処理

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

ERRORCHECK=[NORMAL](#) | [STRICT](#)

構文の説明

NORMAL

LIBNAME または FILENAME ステートメント、または SAS/SHARE ソフトウェアの LOCK ステートメントでエラーが発生したときに、SAS プログラムが構文チェックモードにならないように指定します。さらに、ファイルが存在しないために%INCLUDE ステートメントが失敗しても、プログラムまたはセッションは終了しません。

STRICT

LIBNAME または FILENAME ステートメント、または SAS/SHARE ソフトウェアの LOCK ステートメントでエラーが発生したときに、SAS プログラムが構文チェックモードになるように指定します。ERRORABEND システムオプションが設定されていて、LIBNAME または FILENAME ステートメントのいずれかでエラーが発生した場合は、SAS が終了します。さらに、ファイルが存在しないために%INCLUDE ステートメントが失敗すると、SAS が終了します。

関連項目:

システムオプション:

- “[ERRORABEND システムオプション](#)” (112 ページ)

ERRORS=システムオプション

詳細なエラーメッセージが発行されるオブザベーションの最大数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: エラー処理
ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING
LOGCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

ERRORS=*n* | *nK* | *nM* | *nG* | *nT* | **MIN** | **MAX** | *hexX*

構文の説明

n | *nK* | *nM* | *nG* | *nT*

エラーメッセージが発行されるオブザベーションの数を、1(*n*)、1,024(*nK*)、1,048,576(*nM*)、1,073,741,824(*nG*)、1,073,741,824(*nG*)、1,099,511,627,776(*nT*)のいずれかで指定します。たとえば、値 **8** では 8 個、値 **3M** では 3,145,728 個のオブザベーションが指定されます。

MIN

エラーメッセージが発行されるオブザベーションの数を 0 に設定します。

MAX

エラーメッセージが発行されるオブザベーションの最大数を動作環境で表現できる 4 バイト符号付き整数の最大値に設定します。

hexX

エラーメッセージが発行されるオブザベーションの最大数を 16 進値で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が *X* の値を指定する必要があります。たとえば、値 **2dx** は、エラーメッセージが発行されるオブザベーションの最大数が 45 に設定されます。

詳細

データエラーが *n* 個を超えるオブザベーションで検出されると、処理は続行されますが、追加のエラーに対するメッセージは発行されません。

注: **ERRORS=0** を設定し、エラーが発生した場合、またはエラーの最大数に達した場合、**ERRORS** オプションで設定された制限に達したという警告メッセージがログに表示されます。

関連項目:

“SAS ログ” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

EVENTDS=システムオプション

イベントを定義するデータセットを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システム オプション** ウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール: データ処理

PROC OPTIONS GROUP= INPUTCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

EVENTDS=(`<DEFAULTS | NODEFAULTS> event-data-set-1 <...event-data-set-n>`)

構文の説明

DEFAULTS

SAS の事前定義された祝日イベントを使用するように指定します。これがデフォルト設定です。

NODEFAULTS

デフォルトのイベント定義を使用しないように指定します。`event-data-set` リストで指定されるイベントのみが使用されます。

event-data-set

イベント定義を含むデータセット名を指定します。データセットは、1 レベルの名前の *dataset*、または 2 レベルの名前の *libref.dataset* として指定できます。

詳細

SAS イベントは、時系列を生成するプロセスの通常のフローを中断するできごとをモデル化するために使用されます。一般に使用されるイベントの例として、自然災害、小売店プロモーション、ストライキ、宣伝キャンペーン、ポリシー変更、データ記録エラーがあります。独自のイベントのセットを作成するか、SAS の事前定義されたイベントを使用できます。

`event-data-set` リストで指定されるイベントは、SAS Forecast Studio のイベントリポジトリに表示されます。SAS High-Performance Forecasting では、HPFDIAGNOSE および HPFENGINE プロシジャの INEVENT=オプションの値としてイベントデータセットを使用できます。SAS/ETS では、イベントデータセットは X12 プロシジャの INEVENT=オプションで使用されます。

EVENTDS=オプションを設定すると、以前の EVENTDS=オプションで指定された値はすべて置き換えられます。オプションの新しい指定は、既存の値には追加されません。このオプションは、デフォルトのイベントを無効にするか、イベントデータセットを追加または削除するために使用できます。

イベントデータセットの作成については、*SAS High-Performance Forecasting User's Guide* の HPFEVENTS プロシジャに関する説明を参照してください。

例

例 1

デフォルトでは、EVENTDS=オプションで NODEFAULTS が指定されていない限り、SAS の事前定義された祝日イベントが有効なイベントです。次の EVENTDS=オプションを使用して設定される有効なイベントは、SAS の事前定義された祝日イベントと、`events.WorldCup` データセットで指定されるイベントです。

```
options eventds=(events.WorldCup);
```

例 2

NODEFAULTS が指定されていないため、EVENTDS=オプションが設定された後は、SAS の事前定義された祝日イベントは有効なイベントではなくなります。`dubai_holidays` データセットで定義されるイベントのみが有効なイベントになります。

```
options eventsds=(nodefaults dubai_holidays);
```

例 3

有効なイベントを、SAS 祝日イベントの事前定義リストにリセットします。

```
options eventds=(defaults);
```

関連項目:

- *SAS/ETS User's Guide*
- *SAS Forecast Studio User's Guide*
- *SAS High-Performance Forecasting: User's Guide*

システムオプション:

- [“INTERVALDS=システムオプション” \(143 ページ\)](#)

EXPLORER システムオプション

SAS ウィンドウ環境を起動し、エクスプローラウィンドウとプログラム エディタウィンドウのみを表示するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: 初期化および操作

**PROC OPTIONS
GROUP=** EXECMODES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、[“制限されたオプション” \(6 ページ\)](#)を参照してください。

構文

EXPLORER | NOEXPLORER

構文の説明**EXPLORER**

エクスプローラウィンドウとプログラム エディタウィンドウのみで SAS セッションを起動するように指定します。

NOEXPLORER

エクスプローラウィンドウなしで SAS セッションを起動するように指定します。

詳細

次の SAS 実行モード起動オプションは、上から順に、このオプションより優先順位が高くなっています。

1. OBJECTSERVER.
2. DMR
3. SYSIN

優先順序が同等の別の実行モード起動オプションと一緒に EXPLORER を指定すると、最後に表示されるオプションのみが使用されます。起動オプションの優先順序の詳細については、“優先順序” (17 ページ) を参照してください。

関連項目:

システムオプション:

- “DMS システムオプション” (95 ページ)
- “DMSEXP システムオプション” (96 ページ)

FILESYNC=システムオプション

永続的 SAS ファイルの内容が含まれるオペレーティングシステムバッファをいつディスクに書き込むかを指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時
カテゴリ:	ファイル: SAS ファイル
PROC OPTIONS GROUP=	SASFILES
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“制限されたオプション” (6 ページ) を参照してください。
参照項目:	“FILESYNC= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

FILESYNC= SAS | CLOSE | ホスト | SAVE

構文の説明

SAS

SAS ファイルの一貫性にとって最適なときにバッファデータをディスクに強制的に書き込むことを、SAS がオペレーティングシステムに要求するように指定します。

CLOSE

SAS ファイルを閉じるときにバッファデータをディスクに強制的に書き込むことを、SAS がオペレーティングシステムに要求するように指定します。

ホスト

SAS ファイルのバッファデータをいつディスクに強制的に書き込むかを、オペレーティングシステムがスケジュールするように指定します。これがデフォルト設定です。

SAVE

SAS ファイルが保存されるときにバッファをディスクに書き込むように指定します。

詳細

FILESYNC=システムオプションを使用すると、オペレーティングシステムバッファに一時的に保存されているデータをいつ強制的にディスクに書き込むかを、SAS からオペレーティングシステムに指示できます。影響を受けるのは永続的 SAS ライブラリ内の SAS ファイルのみで、一時ライブラリ内のファイルは影響されません。

デフォルト値の HOST 以外の値を指定すると、次のような変化があります。

- SAS ジョブの実行所要時間が長くなる
- システム障害時にデータが失われる可能性がさらに小さくなる

FILESYNC=システムオプション値をデフォルト値以外の値に変更する前に、システム管理者にお問い合わせください。

z/OS 固有

z/OS では、FILESYNC=システムオプションは UNIX ファイルシステム(UFS)ライブラリ内の SAS ファイルにのみ影響を与えます。詳細については、“FILESYNC=System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)を参照してください。

FIRSTOBS=システムオプション

SAS で最初に処理するオブザベーション番号または外部ファイルレコードを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル: SAS ファイル

PROC OPTIONS GROUP= SASFILES

操作: FIRSTOBS=オプションを指定し、EXTENDOBSCOUNTER=YES がデータセットオプションまたは LIBNAME オプションのいずれかとして指定されていると、2G-1 個以上のオブザベーションを含むデータセットは、32 ビット環境の方が優れた処理速度を示す場合があります。詳細については、“SAS データファイルのオブザベーションカウントの拡張” (SAS 言語リファレンス: 解説編 26 章)を参照してください。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“制限されたオプション” (6 ページ)を参照してください。

構文

FIRSTOBS= *n* | *nK* | *nM* | *nG* | *nT* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n | *nK* | *nM* | *nG* | *nT*

最初に処理するオブザベーションまたは外部ファイルレコードの番号を整数 *n* で指定します。いずれかの文字表記を使用すると、整数が特定の値で乗算されます。具体的には、指定表記が K (キロ)の場合は 1,024、M (メガ)の場合は 1,048,576、G (ギガ)の場合は 1,073,741,824、T (テラ)の場合は 1,099,511,627,776 で整数が乗算されます。たとえば、値 8 では 8 番目のオブザベーションまたはレコード、値 3m では 3,145,728 番目のオブザベーションまたはレコードが指定されます。

hexX

最初に処理するオブザベーションまたは外部ファイルレコードの番号を 16 進値で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2dx では 45 番目のオブザベーションが指定されます。

MIN

最初に処理するオブザベーションまたは外部ファイルレコードの番号を 1 に設定します。これがデフォルト設定です。

MAX

最初に処理するオブザベーションの番号を、データセットの最大オブザベーション数または外部ファイルの最大レコード数に設定します。8 バイト符号付き整数の最大値である $2^{63}-1$ (約 920 京オブザベーション) 以下の値になります。

詳細

FIRSTOBS=システムオプションは、現在の SAS セッション存続中のすべてのステップで、設定を変更するまで有効です。1 つの SAS データセットでのみ有効にするには、FIRSTOBS=データセットオプションを使用します。

WHERE 処理には FIRSTOBS=処理を適用できます。詳細については、“条件選択によるサブセットデータの処理” (SAS 言語リファレンス: 解説編 11 章) を参照してください。

比較

- FIRSTOBS=システムオプションは、FIRSTOBS=データセットオプションか、INFILE ステートメントの一部として FIRSTOBS=オプションを優先させて無効にすることができます。
- FIRSTOBS=システムオプションでは処理の開始点が指定されるのに対し、OBS=システムオプションでは終了点を指定します。この 2 つのオプションは、多くの場合、処理するオブザベーションまたはレコードの範囲を定義するために一緒に使用されます。

例

FIRSTOBS=50 と指定すると、データセットの 50 番目のオブザベーションが最初に処理されます。

このオプションは、プログラムまたは SAS プロセスで使用されるすべての入力データセットに適用されます。この例では、SAS はデータセット OLD、A および B の 11 番目のオブザベーションから読み込みを開始します。

```
options firstobs=11;
data a;
set old; /* 100 observations */
run;
data b;
set a;
run;
data c;
set b;
run;
```

データセット OLD には 100 個、データセット A には 90 個、B には 80 個、C には 70 個のオブザベーションがあります。後続のデータセットでオブザベーション数が減るのを避けるには、SET ステートメントに FIRSTOBS=データセットオプションを使用します。DATA ステップと PROC ステップの間で FIRSTOBS=1 にリセットすることもできます。

関連項目:**データセットオプション:**

- “FIRSTOBS=データセットオプション” (SAS データセットオプション: リファレンス)

ステートメント:

- “INFILE ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)

システムオプション:

- “OBS=システムオプション” (165 ページ)

FMTERR システムオプション

変数の出力形式が見つからない場合、SAS でエラーを生成するのか、または処理を続行するのかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: エラー処理

**PROC OPTIONS
GROUP=** ERRORHANDLING

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

FMTERR | **NOFMTERR**

構文の説明

FMTERR

指定された変数の出力形式が見つからない場合、SAS でエラーメッセージを生成し、デフォルトの出力形式に置き換えません。

NOFMTERR

見つからない出力形式をデフォルトの出力形式 *w*. または \$*w*. で置き換え、メモを発行し、処理を続行します。

関連項目:

システムオプション:

- “FMTSEARCH=システムオプション” (121 ページ)

FMTSEARCH=システムオプション

出力形式カタログを検索する順序を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** ENVFILES

要件 カタログ仕様は空白文字で区切る必要があります。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

ヒント: APPEND または INSERT システムオプションを使用すると、さらに *catalog-specification* を追加できます。

構文

FMTSEARCH=(*catalog-specification-1*... *catalog-specification-n*)

構文の説明

catalog-specification

目的のメンバが見つかるまで、リストの順序で出力形式カタログを検索します。

catalog-specification の値には、次のいずれかを指定できます。

libref</LOCALE>

libref で指定された場所にある FORMATS カタログを検索するように指定します。カタログなしで *libref* が指定されると、FORMATS がデフォルトのカタログ名として使用されます。

/LOCALE を指定すると、現在の SAS ロケールに関連付けられたカタログが検索されてから、FORMATS カタログが検索されます。ロケールカタログ名は、現在のロケールの POSIX ロケール名に基づいています。POSIX ロケール名ごとに、*language* に 1 つ、*language_country* に 1 つ、合わせて 2 つのカタログが存在する必要があります。現在の SAS ロケールが *English_India* の場合、POSIX ロケール名は *en_IN* になります。2 つのロケールカタログ名として考えられるのは、*libref.FORMATS_en* と *libref.FORMATS_en_IN* です。SAS では、*libref* 内で次のカタログを順序に従って検索します。

1. *libref.FORMATS_language_country*
2. *libref.FORMATS_language*
3. *libref.FORMATS*

ヒント POSIX ロケール値は、GETPXLOCALE 関数を使用して取得できます。現在の SAS ロケールは、GETLOCENV 関数を使用して取得できます。詳細については、*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*を参照してください。

参照項目 POSIX ロケール値と対応する SAS ロケール名のリストについては、“ENCODING、PAPERSIZE、DFLANG、DATESTYLE オプションの LOCALE=値とデフォルト設定” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド* 18 章)を参照してください。

libref.catalog</LOCALE>

特定のライブラリとカタログを検索するように指定します。

/LOCALE を指定すると、*libref.catalog* 内で現在の SAS ロケールに関連付けられたカタログが検索されます。ロケールカタログ名は、現在のロケールの POSIX ロケール名に基づいています。POSIX ロケール名ごとに、*language* に 1 つ、*language_country* に 1 つ、合わせて 2 つのカタログが存在する必要があります。現在の SAS ロケールが *English_India* の場合、POSIX ロケール名は *en_IN* になります。2 つのロケールカタログとして考えられるのは、*libref.catalog_en* と *libref.catalog_en_IN* です。

SAS では、*libref* 内で次のカタログを順序に従って検索します。/LOCALE を指定した場合、次の順序になります。

1. *libref.catalog_language_country*

2. *libref.catalog_language*

3. *libref.catalog*

ヒント POSIX ロケール値は、GETPXLOCALE 関数を使用して取得できます。現在の SAS ロケールは、GETLOCENV 関数を使用して取得できます。詳細については、*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*を参照してください。

参照項目 POSIX ロケール値と対応する SAS ロケール名のリストについては、“ENCODING、PAPERSIZE、DFLANG、DATESTYLE オプションの LOCALE=値とデフォルト設定” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド 18 章*)を参照してください。

詳細

FMTSEARCH のデフォルト値は(WORK LIBRARY)です。カタログ WORK.FORMATS および LIBRARY.FORMATS は、検索リストに存在するかどうかに関係なく常に検索されます。このカタログのいずれかが FMTSEARCH=リストにない限り、WORK.FORMATS カタログが常に最初に検索され、LIBRARY.FORMATS カタログが次に検索されます。

たとえば、FMTSEARCH=(MYLIB LIBRARY)と指定すると、これらのカタログが MYLIB.FORMATS、LIBRARY.FORMATS、WORK.FORMATS の順に検索されます。

カタログが FMTSEARCH=リスト内に存在する場合、リストに現れる順序でカタログが検索されます。リスト内のカタログが存在しない場合、その特定のカタログは無視され、検索は続行されます。

例

例 1: デフォルトのライブラリを最初に検索する場合の出力形式カタログの検索順序

FMTSEARCH=(ABC DEF.XYZ GHI)と指定すると、要求された出力形式または入力形式が次の順序で検索されます。

1. WORK.FORMATS
2. LIBRARY.FORMATS
3. ABC.FORMATS
4. DEF.XYZ
5. GHI.FORMATS

例 2: デフォルトのライブラリを最後に検索する場合の出力形式カタログの検索順序

FMTSEARCH=(ABC WORK LIBRARY)と指定すると、次の順序で検索されます。

1. ABC.FORMATS
2. WORK.FORMATS
3. LIBRARY.FORMATS

WORK は FMTSEARCH リストに存在するため、WORK.FORMATS が自動的に最初に検索されることはありません。

例 3: POSIX ロケール値が指定された場合の出力形式カタログの検索順序
 FMTSEARCH=(ABC/LOCALE)と指定し、現在のロケールが German_Germany の場合、次の順序で検索されます。

1. WORK.FORMATS
2. LIBRARY.FORMATS
3. ABC.FORMATS_de_DE
4. ABC.FORMATS_de
5. ABC.FORMATS

関連項目:

プロシジャ:

- “FORMAT プロシジャ” (Base SAS プロシジャガイド)

システムオプション:

- “APPEND=システムオプション” (50 ページ)
- “INSERT=システムオプション” (141 ページ)
- “FMTERR システムオプション” (121 ページ)

FONTEMBEDDING システムオプション

ユニバーサルプリンタと SAS/GRAPH 印刷でフォント埋め込みを有効にするかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷

**PROC OPTIONS
GROUP=** ODSPRINT

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

FONTEMBEDDING | NOFONTEMBEDDING

構文の説明

FONTEMBEDDING

フォント埋め込みを有効にするように指定します。これがデフォルト設定です。

NOFONTEMBEDDING

フォント埋め込みを無効にするように指定します。

詳細

フォント埋め込みは主にユニバーサル印刷で使用されます。フォント埋め込みをサポートしていないプリンタもあります。使用するプリンタがフォント埋め込みをサポートしているかどうかを確認するには、QDEVICE プロシジャを使用します。SAS ログに **Font**

Embedding と表示された場合、そのプリンタはフォント埋め込みをサポートしていません。QDEVICE プロシジャの部分的なログ出力を次に示します。

```
369 proc qdevice report=general;
370 printer pdf;
371 run;
```

```
Name: PDF
Description: Portable Document Format Version 1.4
Type: Universal Printer
Registry: SASHELP
Prototype: PDF Version 1.4
Default Typeface: Cumberland AMT
Font Style: Regular
Font Weight: Normal
Font Height: 8 points
Maximum Colors: 16777216
Visual Color: Direct Color
Color Support: RGBA
Destination: sasprt.pdf
I/O Type: DISK
Data Format: PDF
```

...more registry settings...

Compression Method: FLATE

Font Embedding: Option

FONTEMBEDDING が設定されていると、ユニバーサルプリンタまたは SAS/GRAPH で作成された出力ファイルにフォントの埋め込みまたは組み込みができます。フォントが埋め込まれた出力ファイルは、出力ファイルの表示または印刷に使用されるコンピュータにインストールされたフォントに依存しません。PDF や PostScript などのプリンタのベクトル出力では、ファイルサイズが大きくなります。

NOFONTEMBEDDING が設定されていると、出力ファイルは、フォントの表示または印刷に使用されるコンピュータにインストールされたフォントに依存します。フォントがコンピュータで見つからない場合、プリンタまたは出力を表示するアプリケーションでフォント置換が行われる可能性があります。イメージ出力は、NOFONTEMBEDDING が設定されていても影響を受けません。

特定のプリンタで置換されるフォントを確認するには、**印刷設定** ウィンドウまたは QDEVICE プロシジャを使用して印刷設定プロパティを表示します。フォントの下に表示される個々のフォントはプリンタで認識されます。ドキュメント内のそれ以外のすべてのフォントは、SAS ライブラリのリンク経由で使用できるフォントも含め、ドキュメントが作成されるときに置換されます。

関連項目:

- *SAS/GRAPH: Reference*
- “ユニバーサルプリント” (SAS 言語リファレンス: 解説編 15 章)

FONTRENDERING=システムオプション

SASGDGIF、SASGDTIF および SASGDIMG モジュールをベースにした SAS/GRAPH デバイスで、フォントの表示にオペレーティングシステムと FreeType エンジンのどちらを使用するかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ:	ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷
PROC OPTIONS GROUP=	ODSPRINT
制限事項:	このオプションは、「Z」で開始するデバイスの HOST_PIXELS に設定されます。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、「 制限されたオプション (6 ページ) 」を参照してください。

構文

FONTRENDERING=HOST_PIXELS | FREETYPE_POINTS

構文の説明

HOST_PIXELS

オペレーティングシステムでフォントを表示し、フォントサイズはピクセル単位で要求されることを指定します。

z/OS 固有 z/OS では、HOST_PIXELS はサポートされていません。HOST_PIXELS が指定された場合、このオプションの値として FREETYPE_POINTS が使用されます。

FREETYPE_POINTS

FreeType エンジンでフォントを表示し、フォントサイズはポイント単位で要求されることを指定します。これがデフォルト設定です。

詳細

FONTRENDERING=システムオプションは、SASGDGIF、SASGDTIF および SASGDIMG モジュールをベースにした SAS/GRAPH デバイスでのフォント表示方法を指定するために使用します。オペレーティングシステムでフォントを表示する場合、フォントサイズはピクセル単位で要求されます。FreeType エンジンでフォントを表示する場合、フォントサイズはポイント単位で要求されます。

SAS/GRAPH デバイスで使用されるモジュールを確認するには GDEVICE プロシジャを使用します。

```
proc gdevice c=sashelp.devices browse nofs; list devicename; quit;
```

たとえば、次のように使用します。

```
proc gdevice c=sashelp.devices browse nofs;
list gif;
quit;
```

GDEVICE プロシジャの部分的な出力を次に示します。

```
GDEVICE procedure
Listing from SASHELP.DEVICES - Entry GIF
Orig Driver: GIF Module: SASGDGIF Model: 6031
Description: GIF File Format Type: EXPORT
*** Institute-supplied ***
Lrows: 43 Xmax: 8.333 IN Hsize: 0.000 IN Xpixels: 800
Lcols: 88 Ymax: 6.250 IN Vsize: 0.000 IN Ypixels: 600
Prows: 0 Horigin: 0.000 IN
Pcols: 0 Vorigin: 0.000 IN
Aspect: 0.000 Rotate:
Driver query: Y Queued messages: N
Paperfeed: 0.000 IN
```

Module エントリに表示されているのがデバイスで使用されるモジュールです。

関連項目:

13 章: “Specifying Fonts in SAS/GRAPH Programs” (SAS/GRAPH: Reference)

FONTSLC=システムオプション

SAS で提供されるフォントの場所を指定し、FONTREG プロシジャを使用してフォントを登録するためのデフォルトのフォントファイルの場所の名前を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: 表示

PROC OPTIONS GROUP= ENVDISPLAY

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “FONTSLC System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)
 “FONTSLC System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)
 “FONTSLC= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

FONTSLC=“*location*”

構文の説明

“*location*”

ファイル参照名、または SAS セッション中に使用される SAS フォントの場所を指定します。

注 “*location*”がファイル参照名の場合、値を引用符で囲む必要はありません。

FORMCHAR=システムオプション

デフォルトの出力形式文字を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ:	ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力
PROC OPTIONS GROUP=	LISTCONTROL
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。
参照項目:	“FORMCHAR System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)

構文

FORMCHAR= *'formatting-characters'*

構文の説明

'formatting-characters'

最大 64 バイト長の文字列または文字列のリストを指定します。64 バイト未満が指定された場合、文字列の右側に空白が埋め込まれます。

ヒ ドキュメントを別のコンピュータに移動しても一貫した結果を得るには、
 ント LISTING 出力先以外の ODS 出力先を使用する前に、次の OPTIONS ステートメントを発行します。

```
options formchar" |----|+|---+=|-\<>*" ;
```

詳細

出力形式文字は、FREQ、REPORT、TABULATE プロシジャなど、さまざまなプロシジャでテーブル形式の出力の外枠線と分割線を作成するのに使用されます。プロシジャで出力形式文字をオプションとして指定しないと、FORMCHAR=システムオプションで指定されたデフォルトの仕様が使用されます。出力形式文字として 16 進表現の文字定数も指定できます。このオプションで 16 進表現の定数を使用する場合、16 進表現の定数値がオペレーティングシステムに応じて適切に解釈されます。

注: 標準の出力形式文字を使用したときに行と列の分割線と外枠線の付いたテーブル形式のレポートが明瞭に印刷されるようにするには、次のリソースを使用する必要があります。

- SAS Monospace または SAS Monospace Bold フォントのいずれか
- TrueType フォントをサポートするプリンタ

関連項目:

- Base SAS プロシジャでの出力形式文字の使用に関する詳細については、*Base SAS プロシジャガイド*を参照してください。出力形式文字を使用する他の製品のプロシジャについては、その製品のドキュメントを参照してください。
- 14 章: “SAS レジストリ” (SAS 言語リファレンス: 解説編)

FORMDLIM=システムオプション

LISTING 出力先の SAS 出力で改ページを区切る文字を指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
カテゴリ:	ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力

PROC OPTIONS LISTCONTROL
GROUP=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

FORMDLIM= *'delimiting-character'*

構文の説明

'delimiting-character'

ページを区切るために書き込まれる文字を引用符で囲んで指定します。通常、区切り文字は次のステートメントのように null です。

```
options formdlim='';
```

詳細

区切り文字が null の場合、改ページが行われると常に新しい物理ページが開始します。ただし、同じページに複数のページ出力を表示できるようにして用紙を節約することもできます。たとえば、次のステートメントは、通常は改ページが行われる場所にハイフンの行(-)を書き込みます。

```
options formdlim='-';
```

新しいページを開始するとき、SAS では 1 行をスキップし、ページ幅いっぱいには繰り返すハイフンで構成される行を書き込み、さらに 1 行スキップします。新しい物理ページの先頭ではスキップは行われません。FORMDLIM=を null にリセットすると、物理ページが再び通常どおりに書き込まれます。

FORMS=システムオプション

用紙を印刷に使用する場合、使用するデフォルトの用紙を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: エラー処理
ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力

PROC OPTIONS ENVDISPLAY
GROUP= LISTCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

FORMS=*form-name*

構文の説明

form-name

用紙の名前を指定します。

ヒント カスタマイズした用紙を作成するには、ウィンドウ環境で FSFORM コマンドを使用します。

詳細

デフォルトの用紙には、プリンタの選択、テキスト本文、余白など、対話型ウィンドウ出力のさまざまな要素をコントロールする設定が含まれます。FORMS=システムオプションではまた、PRINT コマンドの出力(FORM=の省略時)または対話型ウィンドウプロシジャの出力もカスタマイズされます。

GSTYLE システムオプション

GRSEG カタログエントリとして保存されるグラフの生成に ODS スタイルを使用できるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: グラフィック: ドライバ設定
ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷

**PROC OPTIONS
GROUP=** GRAPHICS
ODSPRINT

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

GSTYLE | NOGSTYLE

構文の説明

GSTYLE

GRSEG カタログエントリとして保存されるグラフの生成に ODS スタイルを使用できることを指定します。スタイルが指定されないと、指定された出力先のデフォルトのスタイルが使用されます。これがデフォルト設定です。

NOGSTYLE

GRSEG カタログエントリとして保存されるグラフの生成に ODS スタイルを使用しないことを指定します。

ヒント SAS 9.2 より前に生成されたグラフとの互換性を持たせるには NOGSTYLE を使用します。

詳細

GSTYLE システムオプションは、GRSEG を使用して生成されるグラフィック出力にのみ影響します。次の手段で生成されたグラフで ODS スタイルを使用する場合、GSTYLE オプションによる影響はありません。

- Java デバイスドライバ
- ActiveX デバイスドライバ
- SAS/GRAPH 統計グラフィックプロシジャ
- SAS/GRAPH テンプレート言語

- ODS GRAPHICS ON ステートメント

GWINDOW システムオプション

GRAPH ウィンドウに SAS/GRAPH 出力を表示するかどうかを指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
カテゴリ:	グラフィック: ドライバ設定
PROC OPTIONS GROUP=	GRAPHICS
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。

構文

GWINDOW | **NOGWINDOW**

構文の説明

GWINDOW

サイトに SAS/GRAPH ソフトウェアのライセンスが供与されていて、パーソナルコンピュータにグラフィック機能がある場合、SAS/GRAPH ソフトウェアの出力を GRAPH ウィンドウに表示します。

NOGWINDOW

ウィンドウ環境の外側にグラフィックを表示します。

HELPBROWSER=システムオプション

ブラウザを SAS ヘルプと ODS 出力に使用するように指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
カテゴリ:	環境コントロール: ヘルプ
PROC OPTIONS GROUP=	HELP
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。

構文

HELPBROWSER=REMOTE | **SAS**

構文の説明

REMOTE

リモートブラウザをヘルプに使用するように指定します。リモートブラウザの場所は、HELPHOST および HELPPORT システムオプションによって決定されます。これは、OpenVMS、UNIX、z/OS、Windows 64 ビット動作環境のデフォルトです。

SAS

SAS ブラウザをヘルプに使用するように指定します。これは、Windows 32 ビット動作環境のデフォルトです。

関連項目:

- 6章: “Viewing Output and Help in the SAS Remote Browser” (SAS Companion for UNIX Environments)
- “Viewing Output and Help in the SAS Remote Browser ” (SAS Companion for Windows 2 章)
- “Using the SAS Remote Browser” (SAS Companion for z/OS 1 章)

システムオプション:

- “HELPHOST システムオプション” (133 ページ)
- “HELPPORT=システムオプション” (134 ページ)

HELPCMD システムオプション

コマンドラインヘルプで英語バージョンと翻訳バージョンのどちらのキーワードリストを使用するかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: ヘルプ

PROC OPTIONS HELP
GROUP=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

HELPCMD | **NOHELPCMD**

構文の説明**HELPCMD**

インデックスには翻訳されたキーワードが表示されますが、コマンドラインヘルプで英語バージョンのキーワードリストを使用するように指定します。これがデフォルト設定です。

NOHELPCMD

コマンドラインヘルプでキーワードリストの翻訳バージョンがあれば使用するように指定します。

詳細

コマンドラインヘルプでローカライズされた用語を使用してキーワードを検索する場合は、NOHELPCMD を設定します。デフォルトでは、コマンドラインのすべての用語は英語として読み取られます。

関連項目:**システムオプション:**

- “HELINDEX System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)
- “HELINDEX System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)
- “HELLOC System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)
- “HELLOC System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)
- “HELLOC= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)
- “HELPTOC System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)
- “HELPTOC System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)

HELPHOST システムオプション

リモートブラウザによるヘルプと ODS 出力の送信先となるコンピュータの名前を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: ヘルプ

PROC OPTIONS GROUP= HELP

デフォルト:デフォルト: NULL

参照項目: “HELPHOST System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)
 “HELPHOST System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)
 “HELPHOST System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

HELPHOST="*host*"

構文の説明

"*host*"

リモートヘルプが表示されるコンピュータの名前を指定します。引用符またはかっこが必要です。最大文字数は 2,048 です。

詳細**動作環境の情報**

HELPHOST オプションを指定しない場合、ヘルプが表示される場所は動作環境に依存します。動作環境向けドキュメントの HELPHOST システムオプションを参照してください。

関連項目:

- 6 章: “Viewing Output and Help in the SAS Remote Browser” (SAS Companion for UNIX Environments)

- “Viewing Output and Help in the SAS Remote Browser” (SAS Companion for Windows 2 章)
- “Using the SAS Remote Browser” (SAS Companion for z/OS 1 章)

システムオプション:

- “HELPBROWSER=システムオプション” (131 ページ)
- “HELPPORT=システムオプション” (134 ページ)

HELPPORT=システムオプション

リモートブラウザクライアント用のポート番号を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: ヘルプ

**PROC OPTIONS
GROUP=** HELP

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

HELPPORT=*port-number*

構文の説明

port-number

SAS リモートブラウザサーバー用のポート番号を指定します。

デフォルト 0

範囲 0–65535

詳細

HELPPORT が 0 に設定されていると、リモートブラウザサーバー用のデフォルトポート番号が使用されます。

関連項目:

- 6 章: “Viewing Output and Help in the SAS Remote Browser” (SAS Companion for UNIX Environments)
- “Viewing Output and Help in the SAS Remote Browser” (SAS Companion for Windows 2 章)
- “Using the SAS Remote Browser” (SAS Companion for z/OS 1 章)

システムオプション:

- “HELPBROWSER=システムオプション” (131 ページ)
- “HELPHOST システムオプション” (133 ページ)

HTTPSERVERPORTMAX=システムオプション

SAS HTTP サーバーでリモートブラウザに使用可能な最大のポート番号を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: コミュニケーション: ネットワークと暗号化

**PROC OPTIONS
GROUP=** コミュニケーション

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

HTTPSERVERPORTMAX=*max-port-number*

構文の説明

max-port-number

SAS HTTP サーバーでリモートブラウザに使用可能な最大のポート番号を指定します。

デフォルト 0

範囲 0–65535

詳細

HTTPSERVERPORTMAX=および HTTPSERVERPORTMIN=システムオプションは、SAS と HTTP サーバーの間にファイアウォールが構成されている場合に、リモートブラウザの HTTP サーバーで動的なポート番号割り当てに使用できるポート値の範囲を指定するために使用します。

関連項目:

システムオプション:

- “[HTTPSERVERPORTMIN=システムオプション](#)” (135 ページ)

HTTPSERVERPORTMIN=システムオプション

SAS HTTP サーバーでリモートブラウザに使用可能な最小のポート番号を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: コミュニケーション: ネットワークと暗号化

**PROC OPTIONS
GROUP=** コミュニケーション

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

HTTPSERVERPORTMIN=*min-port-number*

構文の説明

min-port-number

SAS HTTP サーバーでリモートブラウザに使用可能な最小のポート番号を指定します。

デフォルト 0

範囲 0-65535

詳細

HTTPSERVERPORTMIN および HTTPSERVERPORTMAX システムオプションは、SAS と HTTP サーバーの間にファイアウォールが構成されている場合に、リモートブラウザの HTTP サーバーで動的なポート番号割り当てに使用できるポート値の範囲を指定するために使用します。

関連項目:

システムオプション:

- [“HTTPSERVERPORTMAX=システムオプション” \(135 ページ\)](#)

IBUFNO=システムオプション

インデックスファイルのナビゲーション用に割り当てる追加バッファ数を指定します(省略可能)。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル: SAS ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** SASFILES

デフォルト:デフォルト: 0

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション \(6 ページ\)](#)”を参照してください。

構文

IBUFNO=*n* | *nK* | *nM* | *nG* | *nT* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n | *nK* | *nM* | *nG* | *nT*

割り当てる追加インデックスバッファ数を 1(バイト)、1,024(キロバイト)、1,048,576(メガバイト)、1,073,741,824(ギガバイト)、1,099,511,627,776(テラバイト)

のいずれかの倍数で指定します。たとえば、値 8 では 8 個のバッファ、値 3k では 3,072 個のバッファが指定されます。

制限事項 最大値は、10,000 です。

hexX

追加インデックスバッファ数を 16 進値で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2dx では 45 個のバッファが指定されます。

MIN

追加インデックスバッファ数を 0 に設定します。これがデフォルト設定です。

MAX

追加インデックスバッファの最大数を 10,000 に設定します。

詳細

インデックスは、特定のオブザベーションに直接アクセスできるように、SAS データファイルに対して作成可能な SAS ファイルです(省略可能)。インデックスファイルは、ツリー構造など、階層レベルに編成されるエントリで構成され、ポインタによって接続されます。WHERE 処理などの要求の処理にインデックスが使用されると、SAS によりインデックスファイルでバイナリ検索が実行され、適合した値が含まれる最初のエントリにインデックスが位置付けられます。SAS では、値の識別子を使用して値が含まれるオブザベーションに直接アクセスします。SAS では、インデックスが実際に使用されるときにバッファ用のメモリが必要になります。バッファは、SAS でインデックスが使用されない限り必要ありませんが、インデックスの使用に備えて割り当てておく必要があります。

SAS では、インデックスファイルをナビゲートするために、最小数のバッファを自動的に割り当てます。通常、追加バッファを指定する必要はありません。ただし、IBUFNO=を使用すると、特定のインデックスファイルに必要な入力/出力(I/O)操作の数を制限して、実行時間を改善できます。ただし、実行時間が改善するかわりにメモリ消費が増えます。

注: インデックスファイルに割り当てられたバッファが少なすぎると処理速度が低下する一方で、割り当てたインデックスバッファ数が多すぎても処理速度の問題が発生します。最適なインデックスバッファ数を判別するには、実際に試してみることが最も効果的です。たとえば、ibufno=3、次に ibufno=4 というように、満足のいく処理速度結果が出る最小バッファ数が見つかるまで試します。

関連項目:

- “SAS インデックスについて” (SAS 言語リファレンス: 解説編 26 章)

システムオプション:

- “IBUFSIZE=システムオプション” (137 ページ)

IBUFSIZE=システムオプション

インデックスファイルのバッファページサイズを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル: SAS ファイル

PROC OPTIONS SASFILES
GROUP=

制限事項: インデックスファイルが作成される前にページサイズを指定します。インデックスファイルの作成後はページサイズを変更できません。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション \(6 ページ\)](#)”を参照してください。

構文

IBUFSIZE=*n* | *nK* | *nM* | *nG* | *nT* | *hexX* | **MAX**

構文の説明

n* | *nK* | *nM* | *nG* | *nT

処理するページサイズを 1 (バイト)、1,024 (キロバイト)、1,048,576 (メガバイト)、1,073,741,824 (ギガバイト)、1,099,511,627,776 (テラバイト)のいずれかの倍数で指定します。たとえば、値 8 では 8 バイト、値 3k では 3,072 バイトが指定されます。

デフォルト 0(動作環境に最適な最小ページサイズが SAS で使用されます)

hexX

ページサイズを 16 進値で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2dx ではページサイズが 45 バイトに設定されます。

MAX

インデックスファイルのページサイズを可能な最大値に設定します。IBUFSIZE=では、この値は 32,767 バイトです。

詳細

インデックスは、特定のオブザベーションに直接アクセスできるように、SAS データファイルに対して作成可能な SAS ファイルです(省略可能)。インデックスファイルは、ツリー構造など、階層レベルに編成されるエントリで構成され、ポインタによって接続されます。WHERE 処理などの要求の処理にインデックスが使用されると、SAS は要求されたレコードを迅速に見つけるためインデックスファイルを検索します。

通常、インデックスページサイズを指定する必要はありません。ただし、次の状況では異なるページサイズが必要な場合があります。

- ページサイズは、インデックスのレベル数に影響します。ページ数が多いほど、インデックスのレベル数も多くなります。レベル数が多くなると、インデックスの検索にかかる時間が長くなります。ページサイズを増やすことで、各ページにより多くのインデックス値を保存できるため、ページ数(およびレベル数)が少なくなります。インデックスに必要なページ数は、ページサイズ、インデックス値の長さおよび値自体によって異なります。インデックスのレベル数を減らした場合に節約できる主なりソースは I/O です。アプリケーションでインデックスファイルの I/O が多数発生する場合、ページサイズを増やすと役立つ可能性があります。ただし、ページサイズを増やした後にインデックスを再作成する必要があります。
- インデックスファイル構造では、ページに少なくとも 3 つのインデックス値を保存する必要があります。インデックス値の長さが非常に大きい場合、3 つのインデックス値を保持するにはページサイズが小さすぎるためにインデックスを作成できないことを示すエラーメッセージが表示される可能性があります。このエラーはページサイズを増やすことで解消されます。

注: 最適なインデックスページサイズを判断するには、実際に試してみることが最も効果的です。

関連項目:

- “SAS インデックスについて” (SAS 言語リファレンス: 解説編 26 章)

システムオプション:

- “IBUFNO=システムオプション” (136 ページ)

INITCMD システムオプション

SAS 起動時に AUTOEXEC=ファイル进行处理する前に SAS が実行する、アプリケーション起動コマンドと SAS ウィンドウ環境またはテキストエディタコマンド(省略可能)を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: 初期化および操作

PROC OPTIONS GROUP= EXECMODES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

INITCMD "*command-1* <*windowing-command-n*> "

構文の説明

command-1

アプリケーションウィンドウを起動する SAS コマンドを指定します。有効値として次のようなものがあります。

AF	LAB
ANALYST	MINER
ASSIST	PHCLINICAL
DESIGN	PHKINETICS
EIS	PROJMAN
FORECAST	QUERY
GRAPH	RUNEIS
HELP	SQC
IMAGE	XADX

制限事項 *command-1* に FORECAST を指定すると、*windowing-command-n* を使用できません。

windowing-command-n

有効なウィンドウコマンドまたはテキストエディタコマンドを指定します。複数のコマンドはセミコロンで区切ります。これらのコマンドは順序どおりに処理されます。BYE コマンドなど、フローに影響を与えるウィンドウ環境を使用する場合、処理が遅延または禁止される場合があります。

制限事項 アプリケーションの初期化中、つまり自動実行ファイルの初期化中に、SAS ステートメントまたはコマンドをサブミットするアプリケーションのコマンドを入力する場合は、*windowing-command-n* 引数を使用しないでください。

詳細

INITCMD システムオプションによって、ログウィンドウ、出力ウィンドウ、プログラム エディタウィンドウ、エクスペローラウィンドウが表示されなくなるため、最初に表示される画面はアプリケーションウィンドウです。表示されないウィンドウも有効化できます。ログ出力を表示用に転送するには、ALTLOG オプションを使用します。ウィンドウが自動実行ファイルまたは INITSTMT オプションで開始される場合、INITCMD オプションで表示されるウィンドウは最後に表示されます。INITCMD オプションで起動されたアプリケーションを終了すると、SAS セッションが終了します。

INITCMD オプションはウィンドウ環境でのみ使用できます。それ以外の場合、オプションは無視され、警告メッセージが発行されます。*command-1* が有効なコマンドではない場合、オプションは無視され、警告メッセージが発行されます。

次の SAS 実行モード起動オプションは、上から順に、このオプションより優先順位が高くなっています。

1. OBJECTSERVER.
2. DMR
3. SYSIN

優先順位が同等の別の実行モード起動オプションと一緒に INITCMD を指定すると、最後に表示されるオプションのみが使用されます。起動オプションの優先順位の詳細については、“[優先順序](#)” (17 ページ)を参照してください。

例

```
INITCMD "AFA c=mylib.myapp.primary.frame dsname=a.b"
INITCMD "ASSIST; FSVIEW SASUSER.CLASS"
```

INITSTMT=システムオプション

SAS ステートメントを、AUTOEXEC=ファイルのすべてのステートメントより後、かつ SYSIN=ファイルのすべてのステートメントより前に実行するように指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: 初期化および操作

PROC OPTIONS GROUP= EXECMODES

別名: IS=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: Windows の INITSTMT=システムオプション

構文

```
INITSTMT='statement'
```

構文の説明

'statement'

SAS ステートメントを指定します。

要件 *statement* は、ステップ境界で実行できる必要があります。

比較

INITSTMT=では、SAS ステートメントを SAS 初期化時に実行するように指定し、TERMSTMT=システムオプションでは、SAS ステートメントを SAS 終了時に実行するように指定します。

例

UNIX でのこのオプションの使用例を次に示します。

```

sas -initstmt '%put you have used the initstmt; data x; x=1;
run;'
```

関連項目:

システムオプション:

- [“TERMSTMT=システムオプション” \(250 ページ\)](#)

INSERT=システムオプション

指定した値を指定したシステムオプションの先頭の値として挿入します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** ENVFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション” \(6 ページ\)](#)を参照してください。

参照項目: SAS の起動時に使用する構文については、動作環境向けドキュメントを参照してください。
 “INSERT System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)
 “INSERT System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)
 “INSERT= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

INSERT=(*system-option-1* =*argument-1* <*system-option-n* =*argument-n*>)

構文の説明

system-option

AUTOEXEC、CMPLIB、FMTSEARCH、HELPLLOC、MAPS、MSG、SASAUTOS、SASHELP、SASSCRIPT、SET のいずれかを指定できます。

注 これらのオプションの一部は、SAS 起動時にのみ使用できます。これらのオプションを INSERT=オプションで指定できるのは、INSERT=オプションが構成ファイルまたは SAS コマンドに指定されている場合のみです。

引数

system-option の先頭の値として挿入する新しい値を指定します。

argument は、*system-option* が OPTIONS ステートメントを使用して設定されている場合、*system-option* に指定可能な値にすることができます。

詳細

AUTOEXEC、CMPLIB、FMTSEARCH、HELPLLOC、MAPS、MSG、SASAUTOS、SASHELP、SASSCRIPT、SET システムオプションで新しい値を指定すると、新しい値でオプションの値が置き換えられます。INSERT=システムオプションを使用すると、値を置き換える代わりに、オプションの先頭の値として値をオプションに追加できます。

SAS 起動時に使用可能なシステムオプションを含む、INSERT=システムオプションと APPEND=システムオプションでサポートされるシステムオプションのリストについては、次の OPTIONS プロシジャをサブミットします。

```
proc options listinsertappend;
run;
```

比較

INSERT=システムオプションでは、AUTOEXEC、CMPLIB、FMTSEARCH、HELPLLOC、MAPS、MSG、SASAUTOS、SASHELP、SASSCRIPT、SET システムオプションの現在の値の先頭に新しい値を追加されます。APPEND=システムオプションでは、これらのシステムオプションの末尾に新しい値が追加されます。

例

次の表に、FMTSEARCH=オプション値の先頭に値を追加した結果を示します。

現在の FMTSEARCH=値	INSERT=システムオプションの値	新しい FMTSEARCH=値
(WORK LIBRARY)	(fmtsearch=(abc def))	(ABC DEF WORK LIBRARY)

関連項目:

- [“INSERT システムオプションと APPEND システムオプションを使用したオプション値の変更” \(13 ページ\)](#)

システムオプション:

- [“APPEND=システムオプション” \(50 ページ\)](#)
- [“APPEND System Option: UNIX” \(SAS Companion for UNIX Environments\)](#)
- [“APPEND System Option: Windows” \(SAS Companion for Windows\)](#)
- [“APPEND= System Option: z/OS” \(SAS Companion for z/OS\)](#)

INTERVALDS=システムオプション

1 つ以上の間隔の名前/値ペアを指定します。この値は、ユーザー指定の間隔を含む SAS データセットです。間隔は INTNX および INTCK 関数の引数として使用できます。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール: データ処理

PROC OPTIONS GROUP= INPUTCONTROL

要件 間隔/値ペアのセットはかっこで囲む必要があります。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

INTERVALDS=(*interval-1=libref.dataset-name-1* <...*interval-n=libref.dataset-name-n* >)

構文の説明

interval

間隔名を指定します。*interval* の値は、*libref.dataset-name* で命名されたデータセットです。

要件 複数の間隔を指定する場合、間隔名を別の間隔と同じ名前にはできません。

libref.dataset-name

ユーザー定義の祝日を含むファイルのライブラリ参照名とデータセット名を指定します。

詳細

INTCK および INTNX 関数では、*interval* を関数の引数リスト内にある間隔名で指定して、ユーザー指定の間隔を示すデータセットを参照します。

同じ *libref.dataset-name* を異なる間隔に割り当てることができます。INTERVALDS システムオプションに同じ名前の複数の *interval* が定義されている場合、エラーが発生します。

例

この例では、SAS コマンドラインまたは構成ファイルで間隔に 1 つのデータセットを割り当てます。

```
-intervals (mycompany=mycompany.storeHours)
```

次の例では、OPTIONS ステートメントを使用して複数の間隔を割り当てます。間隔 *subsid1* と *subsid2* は、同じライブラリ参照名とデータセット名に割り当てられています。

```
options intervals=(mycompany=mycompany.storeHours
subsid1=subsid.storeHours subsid2=subsid.storeHours);
```

関連項目:

- “カスタム時間間隔” (*SAS/ETS User's Guide*)
- “日付と時間の間隔について” (SAS 言語リファレンス: 解説編 7 章)

関数:

- “INTCK 関数” (SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス)
- “INTNX 関数” (SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス)

INVALIDDATA=システムオプション

無効な数値データが発生したときに SAS で変数に割り当てる値を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール: データ処理

PROC OPTIONS GROUP= INPUTCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

INVALIDDATA=*character*'

構文の説明

'character'

割り当てる値を指定します。英字(A~Z、a~z)、ピリオド(.)、アンダースコア(_)を使用できます。デフォルト値はピリオドです。

詳細

INVALIDDATA=システムオプションでは、無効な数値データが INPUT ステートメントまたは INPUT 関数で読み込まれたときに、SAS で変数に割り当てる値を指定します。

JPEGQUALITY=システムオプション

SAS/GRAPH JPEG デバイスドライバによって生成される JPEG ファイルの圧縮レベルに対する、イメージ品質の比率を決定する JPEG 品質係数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷

PROC OPTIONS GROUP= ODSPRINT

注: このオプションは、DEVICE グラフィックオプションが JPEG に設定されていない場合は無視されます。

サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

JPEGQUALITY=*n* | MIN | MAX

構文の説明

n

JPEG 品質係数を示す整数を指定します。イメージの品質は、数値を大きくすると向上し、小さくすると低下します。JPEG ファイルは、高品質のイメージでは圧縮率が低くなります。そのため、高品質のイメージでは JPEG ファイルサイズが大きくなります。たとえば、*n*=100 では圧縮は行われず、イメージ品質が最も高くなります。*n*=0 の場合、最大圧縮レベルで最も低い品質のイメージが生成されます。

デフォルト 75

範囲 0-100

MIN

JPEG 品質係数を 0 に設定するように指定します。これは最も低いイメージ品質で、最大レベルのファイル圧縮です。

MAX

JPEG 品質係数を 100 に設定するように指定します。これは最も高いイメージ品質で、ファイルは圧縮されません。

詳細

最適な品質値はイメージによって異なります。デフォルト値の 75 は、圧縮ファイル内のイメージ品質の最適化に使用する開始値として適しています。望ましいイメージ品質になるまで値を増やしたり減らしたりできます。50~95 の値で最適な品質のイメージが生成されます。

値が 24 以下の場合、一部のビューアではその JPEG ファイルを表示できない可能性があります。このようなファイルを作成した場合、SAS によって次の注意が SAS ログに書き込まれます。

Caution: quantization tables are too coarse for baseline JPEG.

関連項目:

6 章: “Using Graphics Devices” (SAS/GRAPH: Reference)

LABEL システムオプション

SAS プロシジャで変数ラベルを使用できるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力

PROC OPTIONS GROUP= LISTCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

LABEL | NOLABEL

構文の説明

LABEL

SAS プロシジャで変数ラベルを使用できるように指定します。プロシジャの LABEL オプションを使用するには、LABEL システムオプションが有効になっている必要があります。

NOLABEL

SAS プロシジャで変数ラベルを使用できないように指定します。NOLABEL が指定されている場合、プロシジャの LABEL オプションは無視されます。

詳細

label は、変数の名前の代わりに特定のプロシジャで書き込みできる 256 文字までの文字列です。

関連項目:

データセットオプション:

- “LABEL=データセットオプション” (SAS データセットオプション: リファレンス)

ステートメント:

- “ODS PROCLABEL ステートメント” (SAS Output Delivery System: User's Guide)

LABELCHKPT システムオプション

ラベル付きコードセクションのチェックポイント-再開データをバッチプログラムで記録するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: エラー処理

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING

制限事項: LABELCHKPT システムオプションは、SAS の起動時に STEPCHKPT システムオプションが指定されていない場合にのみ指定できます。

チェックポイントモードは、SAS にコマンドをサブミットする DM ステートメントを含むバッチプログラムでは無効です。チェックポイントモードが有効になっていて SAS で DM ステートメントが検出された場合、チェックポイントモードが無効にされ、チェックポイントカタログエントリが削除されて警告が SAS ログに書き込まれます。

要件 このオプションは、バッチモードでのみ使用できます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

LABELCHKPT | NOLABELCHKPT

構文の説明

LABELCHKPT

ラベル付きコードセクションのチェックポイントモードを有効にします。これにより、チェックポイント-再開データが記録されます。

NOLABELCHKPT

ラベル付きコードセクションのチェックポイントモードを無効にします。チェックポイント-再開データは記録されません。これがデフォルト設定です。

詳細

LABELCHKPT システムオプションを使用することで、バッチで実行する SAS プログラムで SAS がチェックポイントモードになります。ラベルが検出されるたびに、SAS はチェックポイント-再開ライブラリにデータを記録します。プログラムが完了せずに終了した場合、プログラムが終了されたときに実行していたラベル付きコードセクションで開始するようにプログラムを再サブミットできます。

チェックポイント-再開データを確実に正確にするには、ERRORCHECK STRICT オプションを指定して ERRORABEND オプションを設定します。これらのオプションを設定することで、ほとんどのエラーが発生した場合に SAS が終了されます。

SAS はラベル付きコードセクションまたは DATA ステップと PROC ステップのいずれかのチェックポイント-再開モードで実行できますが、両方で実行することはできません。

比較

LABELCHKPT システムオプションは、完了前に終了したバッチプログラムでラベル付きコードセクションのチェックポイントモードを有効にします。エラーが発生したときに実行されていたラベル付きコードセクションで実行が再開されます。

STEPCHKPT システムオプションは、完了前に終了したバッチプログラムで DATA ステップと PROC ステップのチェックポイントモードを有効にします。エラーが発生したときに実行されていた DATA ステップまたは PROC ステップで実行が再開されます。

関連項目:

- “チェックポイントモードと再起動モード” (SAS 言語リファレンス: 解説編 8 章)

ステートメント:

- “CHECKPOINT EXECUTE_ALWAYS ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)

システムオプション:

- “CHKPTCLEAN システムオプション” (72 ページ)
- “LABELCHKPTLIB=システムオプション” (148 ページ)
- “LABELRESTART システムオプション” (149 ページ)
- “STEPCHKPT システムオプション” (227 ページ)

LABELCHKPTLIB=システムオプション

ラベル付きコードセクションのチェックポイント-再開データを保存するライブラリのライブラリ参照名を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: エラー処理

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING

制限事項: LABELCHKPTLIB=システムオプションは、SAS の起動時に STEPCHKPT システムオプションが指定されていない場合にのみ指定できます。

要件 このオプションは、バッチモードでのみ使用できます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション \(6 ページ\)](#)”を参照してください。

構文

LABELCHKPTLIB=*libref*

構文の説明

libref

チェックポイント-再開データを保存するライブラリを識別するライブラリ参照名を指定します。

デフォルト Work

要件 チェックポイント-再開ライブラリを識別する LIBNAME ステートメントは、BASE エンジンを使用し、バッチプログラムの最初のステートメントである必要があります。

詳細

LABELCHKPT システムオプションが指定されている場合、バッチプログラムのラベル付きコードセクションのチェックポイント-再開データは、LABELCHKPTLIB=システムオプションで指定されたライブラリ参照名に保存されます。ライブラリ参照名が指定されていない場合、SAS は Work ライブラリを使用してチェックポイントデータを保存します。ライブラリ参照名を定義する LIBNAME ステートメントは、バッチプログラムの最初のステートメントである必要があります。

チェックポイントデータの保存に Work ライブラリを使用する場合、NOWORKTERM および NOWORKINIT システムオプションを指定する必要があります。これらのオプションを設定した場合、バッチプログラムが再サブミットされたときにチェックポイント-再開データを使用できます。これら 2 つのオプションによって、Work ライブラリが確実に SAS の終了時に保存され、SAS の起動時に復元されます。NOWORKTERM オプションが指定されていない場合、Work ライブラリは SAS セッションの最後に削除され、チェックポイント-再開データは失われます。NOWORKINIT オプションが指定されていない場合、新しい Work ライブラリが SAS の起動時に作成され、この場合もチェックポイント-再開データは失われます。

LABELCHKPTLIB=オプションは、ラベルポイントで収集されて Work ライブラリには保存されないチェックポイント-再開データにアクセスする、すべての SAS セッションで指定する必要があります。

動作環境の情報

Work ライブラリが UNIX または z/OS 動作環境の UNIX ディレクトリ内に存在している CLEANWORK ユーティリティを実行する場合、Work ライブラリディレクトリとその内容は、SAS セッションの終了後にユーティリティが実行されたときに削除されます。z/OS 動作環境で SAS をバッチモードで実行する場合、通常、Work ライブラリは SAS ジョブの最後に削除される一時データセットに割り当てられます。このような場合にチェックポイント-再開データを保持するには、STEPCHKPTLIB オプションの値に永久ライブラリを指定します。

比較

LABELCKPT システムオプションが設定されている場合、LABELCHKPTLIB システムオプションによって指定されたライブラリで、ラベル付きコードセクションのチェックポイント-再開データを保存するライブラリ名が指定されます。LABELRESTART システムオプションが設定されている場合、LABELCHKPTLIB システムオプションによって指定されたライブラリで、ラベル付きコードセクションの実行の再開に使用されるチェックポイント-再開データのライブラリ名が指定されます。

STEPCHKPT システムオプションが設定されている場合、STEPCHKPTLIB システムオプションによって指定されたライブラリで、DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データを保存するライブラリ名が指定されます。STEPRESTART システムオプションが設定されている場合、STEPCHKPTLIB システムオプションによって指定されたライブラリで、DATA ステップと PROC ステップの実行の再開に使用されるチェックポイント-再開データのライブラリ名が指定されます。

関連項目:

- “チェックポイントモードと再起動モード” (SAS 言語リファレンス: 解説編 8 章)

ステートメント:

- “CHECKPOINT EXECUTE_ALWAYS ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)

システムオプション:

- “LABELCHKPT システムオプション” (146 ページ)
- “LABELRESTART システムオプション” (149 ページ)
- “STEPCHKPT システムオプション” (227 ページ)
- “WORKINIT システムオプション” (279 ページ)
- “WORKTERM システムオプション” (280 ページ)

LABELRESTART システムオプション

ラベル付きコードセクションで収集したデータのチェックポイント-再開データを使用してバッチプログラムを実行するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: エラー処理

PROC OPTIONS ERRORHANDLING
GROUP=

制限事項: LABELRESTART システムオプションは、SAS の起動時に STEPCHKPT システムオプションが指定されていない場合にのみ指定できます。

要件 このオプションは、バッチモードでのみ使用できます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション \(6 ページ\)](#)”を参照してください。

構文

LABELRESTART | NOLABELRESTART

構文の説明

LABELRESTART

再開モードを有効にし、チェックポイント-再開データを使用してバッチプログラムが実行されるように指定します。

NOLABELRESTART

再開モードを無効にし、チェックポイント-再開データを使用してバッチプログラムが実行されないように指定します。

詳細

ラベル付きコードセクションのチェックポイントモードで実行して完了前に終了したバッチプログラムを再サブミットするときに、LABELRESTART オプションを指定します。バッチプログラムを再サブミットすると、チェックポイントデータから、プログラムが終了されたときに実行中だったラベルが判断されます。バッチプログラムをそのラベルから実行してプログラムが再開されます。

比較

LABELRESTART オプションを指定すると、ラベル付きコードセクションのチェックポイント-再開データを使用してバッチプログラムの実行が再開されます。

STEPRESTART オプションを指定すると、DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データを使用してバッチプログラムの実行が再開されます。

関連項目:

- “チェックポイントモードと再起動モード” (SAS 言語リファレンス: 解説編 8 章)

ステートメント:

- “CHECKPOINT EXECUTE_ALWAYS ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)

システムオプション:

- “CHKPTCLEAN システムオプション” (72 ページ)
- “LABELCHKPT システムオプション” (146 ページ)
- “LABELCHKPTLIB=システムオプション” (148 ページ)
- “STEPCHKPT システムオプション” (227 ページ)

- “STEPRESTART システムオプション” (230 ページ)

`_LAST_`=システムオプション

最後に作成されたデータセットを指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
カテゴリ:	ファイル: SAS ファイル
PROC OPTIONS GROUP=	SASFILES
制限事項:	<code>_LAST_</code> はデータセットオプションでは使用できません。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。

構文

`_LAST_=SAS-data-set`

構文の説明

SAS-data-set

SAS データセット名を指定します。

制限事項 データセットオプションは使用できません。

ヒント 引用符で囲まれた文字列ではなく、*libref.membername* または *membername* 構文を使用して SAS データセット名を指定します。引用または名前リテラル(n リテラル)の指定が必要な構文でのメンバ名をサポートする SAS/ACCESS エンジンにライブラリ参照名またはメンバ名が関連付けられている場合、*libref.membername* または *membername* 構文で引用符を使用できません。詳細については、*SAS/ACCESS for Relational Databases: Reference* を参照してください。

詳細

デフォルトでは、SAS は最後に作成された SAS データセットを自動的に追跡します。`_LAST_`=システムオプションを優先させてデフォルト値を無効にできます。

LEFTMARGIN=システムオプション

ページの左側の印刷余白を指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
カテゴリ:	ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷
PROC OPTIONS GROUP=	ODSPRINT
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。

構文

LEFTMARGIN=*margin-size*<*margin-unit*>

構文の説明

margin-size

左の印刷余白のサイズを指定します。

制限事項 左の余白は、左右の余白の合計が用紙の幅よりも小さくなるようなサイズで指定する必要があります。

操作 このオプションの値を変更すると、LINESIZE=システムオプションの値が変更される可能性があります。

<*margin-unit*>

余白サイズの単位を指定します。margin-unit には、in(インチ)または cm(センチメートル)を使用できます。<*margin-unit*>は、指定されているかどうかに関わらず、LEFTMARGIN システムオプションの値の一部として保存されます。

デフォルト インチ

詳細

すべての余白には、プリンタと用紙サイズに応じた最小値があります。LEFTMARGIN システムオプションのデフォルト値は 0.00 in です。

関連項目:

- 15 章: “SAS を用いた印刷” (SAS 言語リファレンス: 解説編)
- “ODS 出力先について” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド 3 章)

システムオプション:

- “BOTTOMMARGIN=システムオプション” (58 ページ)
- “LINESIZE=システムオプション” (152 ページ)
- “RIGHTMARGIN=システムオプション” (206 ページ)
- “TOPMARGIN=システムオプション” (254 ページ)

LINESIZE=システムオプション

SAS ログと SAS プロシジャ出力の行サイズを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログおよびプロシジャ出力
ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ
ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力

PROC OPTIONS LOG_LISTCONTROL
GROUP= LISTCONTROL

LOGCONTROL

別名: LS=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “LINESIZE System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments),
 “LINESIZE System Option: Windows” (SAS Companion for Windows),
 “LINESIZE= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

LINESIZE=*n* | MIN | MAX | *hexX*

構文の説明

n

1 行の文字数を指定します。

MIN

1 行の文字数を 64 に設定します。

MAX

1 行の文字数を 256 に設定します。

hexX

1 行の文字数を 16 進値で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 0FAx では SAS プロシジャ出力の行サイズが 250 に設定されます。

詳細

LINESIZE=システムオプションは、DATA ステップおよびプロシジャで使用される SAS ログおよび SAS 出力の行サイズ(プリンタの行幅)を文字数で指定します。LINESIZE=システムオプションは、次の出力に影響します。

- ODS LISTING 出力先の出力ウィンドウ
- FILE ステートメント出力先が PRINT になっている DATA ステップによって ODS マークアップ出力先に生成される出力(FILE PRINT ODS ステートメントは LINESIZE=システムオプションの影響を受けません)
- PLOT プロシジャ、CALENDAR プロシジャ、TIMEPLOT プロシジャ、FORMS プロシジャ、CHART プロシジャなど、調整できない文字のみを生成するプロシジャ

関連項目:

“SAS ログ” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

LOGPARM=システムオプション

SAS ログファイルを開くタイミング、閉じるタイミング、および LOG=システムオプションと連動して命名する方法を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ

PROC OPTIONS LOGCONTROL
GROUP=

制限事項: LOGPARM=は、ラインモードとバッチモードでのみ有効です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “LOGPARM= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

LOGPARM=

```
“<OPEN= APPEND | REPLACE | REPLACEOLD>
< ROLLOVER= AUTO | NONE | SESSION | n | nK | nM | nG>
< WRITE= BUFFERED | IMMEDIATE> ”
```

構文の説明

OPEN=APPEND | REPLACE | REPLACEOLD

ログファイルがすでに存在する場合、既存のファイル内容の処理方法を指定します。

APPEND

既存のファイルを開くときにログを追加します。ファイルが存在しない場合は、新しいファイルが作成されます。

REPLACE

既存のファイルを開くときに現在の内容を上書きします。ファイルが存在しない場合は、新しいファイルが作成されます。

REPLACEOLD

2 日以上経過したファイルを置き換えます。ファイルが存在しない場合は、新しいファイルが作成されます。

デフォルト REPLACE

z/OS 固有 OPEN=REPLACEOLD の使用の制限については、動作環境向け SAS ドキュメントを参照してください。

ROLLOVER=AUTO|NONE|SESSION | n | nK | nM | nG

SAS ログを“ロールオーバー”するタイミングまたはロールオーバーするかどうかを指定します。ロールオーバーでは、現在のログが閉じられたときに新しいログが開かれます。

AUTO

LOG=オプションの値のディレクティブが変更されたときに、自動的にログの“ロールオーバー”が発生します。つまり、現在のログが閉じられて新しいログファイルが開かれます。

制限事項 ロールオーバーは 1 分間に 1 回のみ発生します。

操作 ロールオーバーは LOG=オプションの値の変更によってトリガされます。

新しいログファイルの名前は、LOG=システムオプションの値によって決定されます。ただし、LOG=にディレクティブが含まれていない場合は名前が変更されることはないため、ROLLOVER=AUTO が設定されている場合でもログのロールオーバーは発生しません。

NONE

LOG=オプションで指定された名前が変更された場合でも、ロールオーバーが発生しないように指定します。

操作 LOG=値にディレクティブが含まれている場合、ディレクティブは解決されません。たとえば、Log="#b.log"が指定されている場合、ディレクティブ“#”は解決されず、ログファイルの名前は"#b.log"のままになります。

SESSION

各 SAS セッションの開始時にログファイルを開き、LOG=システムオプションで指定されたディレクティブを解決し、その解決された値を使用して新しいログファイルを命名します。セッションの進行中にロールオーバーは実行されません。

n | nK | nM | nG

ログが 1 (バイト)、1,024 (キロバイト)、1,048,576 (メガバイト)、1,073,741,824 (ギガバイト)のいずれかの倍数で指定されたサイズに達したときに、ログのロールオーバーが発生します。ログは指定されたサイズに達したときに閉じられ、ログファイル名、および存在する場合はサーバーログのロックファイル名に“old”が追加されます。たとえば、mylog.log のファイル名は mylogold.log に変更されます。新しいログファイルは、LOG=オプションで指定された名前を使用して開かれます。

制限事項 最小ログファイルサイズは、10K です。

操作 サイズによってロールオーバーが発生し、LOG=値にディレクティブが含まれている場合、ディレクティブは解決されません。たとえば、Log="#b.log"が指定されている場合、ディレクティブ“#”は解決されず、ログファイルの名前は"#b.log"のままになります。

注 ROLLOVER=n を使用してファイルがロールオーバーされた場合、OPEN=パラメータは無視され、OPEN=APPEND を使用して最初のログファイルが開かれます。

参照項目 “SAS ログのロールオーバー” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

注意 **古いログファイルは上書きされる可能性があります。** SAS は開かれたログファイルと同じ名前の 1 つの古いログファイルのみを保持します。複数回ロールオーバーが発生した場合、古いログファイルは上書きされます。

デフォルト NONE

参照項目 “LOG System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)

“LOG System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)

“LOG= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

WRITE=BUFFERED | IMMEDIATE

内容が SAS ログに書き込まれるタイミングを指定します。

BUFFERED

効率性を高めるため、バッファがいっぱいになったときにのみ SAS ログに内容を書き込みます。

IMMEDIATE

SAS ログの内容を生成するステートメントがサブミットされるたびに、SAS ログに書き込まれます。SAS はログメッセージをバッファしません。

デフォルト BUFFERED

Windows 固有 SAS で指定された間隔を使用して、バッファされたログの内容が定期的に書き込まれます。

詳細

LOGPARM=システムオプションは、SAS がバッチモードまたはラインモードで実行されているときに SAS ログファイルを開いたり閉じたりすることを制御します。また、このオプションは LOG=システムオプションと連動して LOG=の値のディレクティブを使用し、新しいログファイルの命名も制御します。

LOG=システムオプションの値のディレクティブを使用することで、時間、月および曜日などの実際の時間イベントに基づいて、ログを開いたり閉じたりするタイミングとその命名方法を制御できます。

動作環境の情報

Windows および UNIX 動作環境の場合、ディレクティブは%記号または#記号のいずれかで開始し、同じディレクティブに両方の記号を使用できます。たとえば、-log=mylog%b#C.log と指定します。z/OS の場合、ディレクティブは#記号でのみ開始できます。たとえば、-log=mylog#b#c.log と指定します。OpenVMS の場合、ディレクティブは%記号でのみ開始できます。たとえば、-log=mylog%b%c.log と指定します。

次の表に、LOG=値で有効なディレクティブのリストを示します。

表 3.1 SAS ログファイルの名前を制御するディレクティブ

ディレクティブ	説明	範囲
%a または#a	ロケールの短縮された曜日	Sun~Sat
%A または#A	ロケールの完全な曜日	Sunday~Saturday
%b または#b	ロケールの短縮された月	Jan~Dec
%B または#B	ロケールの完全な月	January~December
%C または#C	年の上 2 桁	00-99
%d または#d	月の日	01-31
%H または#H	時	00-23
%j または#j	ユリウス日	001-366

ディレクティブ	説明	範囲
%l または #l *	ユーザー名	SAS を起動したユーザーの名前を表す英数字の文字列
%M または #M	分	00-59
%m または #m	月の番号	01-12
%n または #n	現在のシステムノード名 (ドメイン名なし)	なし
%p または #p *	プロセス ID	SAS セッションプロセス ID を表す英数字の文字列
%s または #s	秒	00-59
%u または #u	曜日	1=月曜日～7=日曜日
%v または #v *	一意の識別子	現在存在しないログファイル名を作成する英数字の文字列
%w または #w	曜日	0=Sunday-6=Saturday
%W または #W	週数(月曜日を週の始まりとし、新年の最初の月曜日より前の日はすべて週 00)	00-53
%y または #y	年の下 2 桁	00-99
%Y または #Y	完全な年	1970-9999
%%	パーセントエスケープはログファイル名に 1 つのパーセント記号を書き出します。	%
##	シャープエスケープはログファイル名に 1 つのシャープ記号を書き出します。	#

* %v、%l および %p は時間ベースの出力形式ではないため、ログファイル名が生成後に変更されることはありません。そのため、ログはロールオーバーされません。このような場合、ROLLOVER=AUTO の指定は ROLLOVER=SESSION の指定と同等です。

動作環境の情報

z/OS でのログファイル名の長さの制限については、z/OS 版 SAS を参照してください。

注: LOG=システムオプションで指定するディレクティブは、ログ機能のログの出力形式を指定する変換文字とは異なります。ディレクティブはログ名の出力形式を指定します。変換文字はログメッセージの出力形式を指定します。同じ文字を使用するディレクティブと変換文字の機能は異なる可能性があります。

注: SAS をバッチモードまたはサーバーモードで起動し、LOGCONFIGLOC=オプションが指定されている場合、SAS ログ機能によってログが記録されます。従来の SAS ログオプション LOGPARM=は無視されます。従来の SAS ログオプション LOG=は、%S{App.Log} 変換文字がログ構成ファイルで指定されている場合にの

み適用されます。詳細については、1章: “The SAS Logging Facility” (SAS Logging: Configuration and Programming Reference)を参照してください。

例

動作環境の情報

LOGPARM=システムオプションは、SAS が呼び出されたときに実行されます。サイトで SAS を呼び出した場合、構文の形式はサイトの動作環境に固有です。詳細については、動作環境向け SAS ドキュメントを参照してください。

特定の時間にログをロールオーバーし、ディレクティブを使用して時間に応じたログ名を付ける

このコマンドが 9:43 AM にサブMITされた場合、この例では test0943.log という名前のログファイルが作成され、ログファイル名が変更されるたびにログのロールオーバーが発生します。この例では、9:44 AM に test0943.log ファイルが閉じられ、test0944.log ファイルが開かれます。

```
sas -log "test%H%M.log" -logparm "rollover=auto"
```

ログのロールオーバーを防ぎ、ディレクティブを使用してログ名を付ける

9:34 AM に開始する SAS セッションの場合、この例では test0934.log という名前のログファイルが作成され、ログファイルのロールオーバーは実行されません。

```
sas -log "test%H%M.log" -logparm "rollover=session"
```

ログのロールオーバーを防ぎ、ディレクティブの解決を防ぐ

この例では、test%H%M.log という名前のログファイルを作成してディレクティブを無視し、セッション中にログファイルがロールオーバーされないようにします。

```
sas -log "test%H%M.log" -logparm "rollover=none"
```

一意の識別子でログファイルを作成する

この例では、一意の識別子を使用して一意の名前のログファイルを作成します。

```
sas -log "test%v.log" -logparm "rollover=session"
```

SAS はディレクティブ%v を *process ID**v*n で置き換えます。*process ID* はオペレーティングシステムによって決定される数値のプロセス ID で、*n* は 1 で開始する整数です。*process ID* と *n* の間にある文字 *v* は常に小文字です。

この例では、*process ID* は 3755 です。ファイルが存在しない場合、SAS は test3755v1.log の名前でログファイルを作成します。test3755v1.log が存在する場合、SAS は *n* を 1 ずつ増分してログファイルの作成を試行し、ログファイルが作成されるまでこの処理を続行します。たとえば、ファイル test3755v1.log が存在する場合、SAS はファイル test3755v2.log の作成を試行します。

SAS を起動したユーザー名を使用してログファイル名を付ける

この例では、SAS セッションを開始したユーザー名を含むログファイル名を作成します。

```
sas -log "%1.log" -logparm "rollover=session";
```

関連項目:

“SAS ログ” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

LRECL=システムオプション

外部ファイルの読み込みと書き込みに使用するデフォルトの論理レコード長を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システム オプション**ウィンドウ

カテゴリ: ファイル: 外部ファイル

PROC OPTIONS GROUP= EXTFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

LRECL=*n* | *n*K | *hexX* | **MIN** | **MAX**

構文の説明

n

論理レコード長を 1(バイト)または 1,024(キロバイト)の倍数で指定します。たとえば、値 32 では 32 バイト、値 32k では 32,767 バイトが指定されます。

デフォルト 256

範囲 1–32767

hexX

論理レコード長を 16 進値で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2dx では論理レコード長が 45 文字に設定されます。

MIN

論理レコード長を 1 に指定します。

MAX

論理レコード長を 32,767 に指定します。

詳細

外部ファイルの読み込みまたは書き込みの論理レコード長は、最初に個々のファイルの読み込みと書き込みに使用されるアクセスメソッドステートメント、関数、コマンドの **LRECL**=オプション、または z/OS 動作環境の DDName 値によって判断されます。論理レコード長がこれらのどの手段でも指定されない場合は、**LRECL**=システムオプションで指定する値が使用されます。

LRECL=システムオプションには、任意の大きな値を指定しないようにします。このオプションの値を大きくすると、メモリが過剰に使用され、処理速度が低下する可能性があります。

z/OS 固有

z/OS では、**LRECL** システムオプションは HFS ファイルの読み込みと書き込みのみで認識されます。

MAPS=システムオプション

SAS/GRAPH マップデータセットを含む SAS ライブラリの場所を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ:	グラフィック: ドライバ設定
PROC OPTIONS GROUP=	GRAPHICS
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。
ヒント:	APPEND または INSERT システムオプションを使用すると、さらに <i>location-of-maps</i> を追加できます。
参照項目:	“MAPS System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments) “MAPS System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)

構文

MAPS=*location-of-maps*

構文の説明

location-of-maps

SAS/GRAPH マップデータセットの場所を示す物理パス、環境変数、ライブラリ参照名のいずれかを指定します。

デフォルト MAPS

関連項目:

- “Using SAS/GRAPH Map Data Sets” (SAS/GRAPH: Reference 46 章)

システムオプション:

- “APPEND=システムオプション” (50 ページ)
- “INSERT=システムオプション” (141 ページ)

MERGENOBY システムオプション

関連付けられた BY ステートメントを使用せずに MERGE 処理が行われるときに発行されるメッセージの種類を指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
カテゴリ:	ファイル: SAS ファイル
PROC OPTIONS GROUP=	SASFILES
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。

構文

MERGENOBY= [NOWARN](#) | [警告](#) | [ERROR](#)

構文の説明

NOWARN

警告メッセージが発行されないように指定します。これがデフォルト設定です。

警告

警告メッセージが発行されるように指定します。

ERROR

エラーメッセージが発行されるように指定します。

MISSING=システムオプション

欠損数値の代わりに印刷する文字を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログおよびプロシジャ出力

ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ

ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力

PROC OPTIONS LOG_LISTCONTROL

GROUP= LISTCONTROL

LOGCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

MISSING=< >*character*< >

構文の説明

character

印刷する値を指定します。値にはどの文字でも指定できます。一重または二重引用符は省略可能です。デフォルトはピリオドです。

詳細

MISSING=システムオプションは、.A や.Z などの特殊欠損値には適用されません。

関連項目:

“SAS ログ” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

MSGLEVEL=システムオプション

SAS ログに書き込まれるメッセージの詳細のレベルを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ

PROC OPTIONS LOGCONTROL

GROUP=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

MSGLEVEL= N | I

構文の説明

N

メモ、警告、CEDA メッセージ、エラーメッセージのみが印刷されるように指定します。N がデフォルトです。

I

標準のメモ、警告、CEDA メッセージ、エラーメッセージに加え、インデックスの使用、マージ処理、並べ替えユーティリティが印刷されるように指定します。

詳細

MSGLEVEL=システムオプションが適用される状況には、次のようなものがあります。

- MSGLEVEL=I の場合、インデックス処理についての通知メッセージが SAS ログに書き込まれます。一般には、インデックスが使用されているデータセットに対して WHERE 式が実行されると、次の情報が SAS ログに表示されます。
 - インデックスが使用されている場合は、インデックスの名前を示すメッセージが表示されます。
 - インデックスが使用されていないが、WHERE 式の少なくとも 1 つの条件を最適化できるインデックスが存在する場合は、そのインデックスを使用すると SAS にどのような影響があるかを説明する提案がメッセージに含まれます。たとえば、データセットをインデックス順に並べ替えたり、バッファをさらに指定することを提案される場合があります。
 - 設定がインデックス処理に影響する可能性がある場合は、メッセージには IDXWHERE=または IDXNAME=データセットオプション値が表示されます。
- MSGLEVEL=I の場合、MERGE ステートメントによって変数が上書きされる場合には、警告メッセージが SAS ログに書き込まれます。
- MSGLEVEL=I の場合、使用された並べ替え製品を示すメッセージが書き込まれます。
- アプリケーションによる SAS/SHARE サーバーへのクエリに関する通知メッセージについては、SAS/SHARE サーバーが実行されている SAS セッションに MSGLEVEL=I を設定する必要があります。メッセージは、SAS/SHARE サーバーが実行されている SAS セッションの SAS ログに書き込まれます。

関連項目:

“SAS ログ” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

MULTENVAPPL システムオプション

SAS アプリケーションフォントの選択ウィンドウで選択できるフォントとして、すべての動作環境で使用できる SAS フォントのみを表示するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント

カテゴリ:	環境コントロール: 初期化および操作
PROC OPTIONS GROUP=	EXECMODES
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。

構文

MULTENVAPPL | NOMULTENVAPPL

構文の説明

MULTENVAPPL

アプリケーションフォントの選択ウィンドウに SAS フォントのみが表示されるように指定します。

NOMULTENVAPPL

アプリケーションフォントの選択ウィンドウに動作環境フォントのみが表示されるように指定します。

詳細

MULTENVAPPL システムオプションを使用すると、SAS/AF、SAS/FSP、SAS/EIS、SAS/GIS などのフォントの選択ウィンドウをサポートするアプリケーションで、すべての動作環境でサポートされる SAS フォントを選択できるようになります。SAS フォントを選択すると、すべての動作環境でアプリケーションの移植性を確保できます。

NOMULTENVAPPL が有効なとき、アプリケーションフォントの選択ウィンドウには、動作環境に固有のフォントのみが表示されます。SAS では動作環境フォントのサイズ変更が必要な場合があり、テキストが読みにくくなる可能性があります。アプリケーションが別の環境に移植され、そのフォントが使用できない場合は、動作環境によってフォントが選択されます。

NEWS=システムオプション

SAS ログのヘッダーの直後に書き込まれるメッセージを含む外部ファイルを指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時
カテゴリ:	環境コントロール: ファイル ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ
PROC OPTIONS GROUP=	ENVFILES LOGCONTROL
動作環境:	一般に、構文は動作環境のコマンドライン構文と一貫性が保たれますが、追加または代替の句読点が含まれることがあります。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。
参照項目:	“NEWS System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments), “NEWS System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)

構文

NEWS=*external-file*

構文の説明

external-file

外部ファイルを指定します。

動作 有効なファイルの指定と構文は、動作環境に固有です。一般に、構文は動作環境のコマンドライン構文と一貫性が保たれますが、追加または代替の句読点が含まれることがあります。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

詳細

NEWS ファイルには、SAS に関するニュース項目も含め、使用に関する情報を含めることができます。

NEWS ファイルの内容は、SAS ログの SAS ヘッダーの直後に書き込まれます。

関連項目:

“SAS ログ” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

NOTES システムオプション

メモが SAS ログに書き込まれるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ

**PROC OPTIONS
GROUP=** LOGCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

NOTES | NONOTES

構文の説明

NOTES

メモが SAS ログに書き込まれるように指定します。

NONOTES

メモが SAS ログに書き込まれないように指定します。NONOTES によって、エラーおよび警告メッセージが非表示にはなりません。

詳細

問題の特定と解決のために SAS に送信する SAS プログラムに NOTES を指定する必要があります。

関連項目:

“SAS ログ” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

NUMBER システムオプション

SAS 出力の各ページのタイトル行にページ番号を印刷するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログおよびプロシジャ出力
 ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ
 ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力

PROC OPTIONS GROUP= LOG_LISTCONTROL
 LISTCONTROL
 LOGCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション \(6 ページ\)](#)”を参照してください。

構文

NUMBER | NONNUMBER

構文の説明**NUMBER**

SAS 出力の各ページの最初のタイトル行にページ番号が印刷されるように指定します。

NONNUMBER

SAS 出力の各ページの最初のタイトル行にページ番号が印刷されないように指定します。

関連項目:

“SAS ログ” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

OBS=システムオプション

最後に処理するオブザベーションを判断するために使用するオブザベーションを指定するか、最後に処理するレコードを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル: SAS ファイル

PROC OPTIONS GROUP= SASFILES

操作: OBS=オプションを指定し、EXTENDOBSCOUNTER=YES がデータセットオプションまたは LIBNAME オプションのいずれかとして設定されていると、2G-1 個以上のオブザベーションを含むデータセットは、32 ビット環境の方が優れた処理速度を示す場合があります。詳細については、“SAS データファイルのオブザベーションカウントの拡張” (SAS 言語リファレンス: 解説編 26 章)を参照してください。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “OBS System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)
 “OBS System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)

構文

OBS=*n* | *n*K | *n*M | *n*G | *n*T | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n | *n*K | *n*M | *n*G | *n*T

処理を停止するタイミングを示す数を整数 *n* で指定します。いずれかの文字表記を使用すると、整数が特定の値で乗算されます。具体的には、指定表記が K (キロ)の場合は 1,024、M (メガ)の場合は 1,048,576、G (ギガ)の場合は 1,073,741,824、T (テラ)の場合は 1,099,511,627,776 で整数が乗算されます。たとえば、値 20 では 20 個のオブザベーションまたはレコード、値 3m では 3,145,728 個のオブザベーションまたはレコードが指定されます。

hexX

処理を停止するタイミングを示す数を 16 進値で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、10 進値の 248 に相当する 16 進値 F8 を指定するには、0F8x と指定する必要があります。値 2dx では、10 進値での 45 が指定されます。

MIN

処理を停止するタイミングを示す数を 0 に設定します。

操作 OBS=0 で NOREPLACE オプションが有効になっている場合、オブザベーションを使用せずに、実際にはプログラムで各 DATA ステップと PROC ステップが実行されるため、SAS は特定の操作を実行できます。たとえば、ライブラリまたは SAS データセットを処理する、CONTENTS および DATASETS などのプロシジャを実行します。また、外部ファイルは開いて閉じられません。したがって、OBS=0 を指定した場合でも、プログラムによって PUT ステートメントを使用して外部ファイルに書き込まれるときに、ファイルの終端記号が書き込まれ、ファイル中の既存のデータは削除されます。

MAX

処理を停止するタイミングを示す数をデータセット内の最大オブザベーションまたはレコード数に設定します。8 バイト符号付き整数の最大値である $2^{63}-1$ (約 920 京)以下の値になります。これがデフォルト設定です。

詳細

OBS=では、オブザベーションまたはレコードの処理を停止するタイミングを SAS に指示します。処理を停止するタイミングを判断するため、SAS は計算式で OBS=の値を使用します。この計算式には OBS=の値と FIRSTOBS=の値が含まれます。式は次のとおりです。

$$(\text{obs} - \text{firstobs}) + 1 = \text{results}$$

たとえば、OBS=10 で FIRSTOBS=1(FIRSTOBS=のデフォルト値)の場合、結果は $(10 - 1) + 1 = 10$ で 10 個のオブザベーションまたはレコードになります。OBS=10 で FIRSTOBS=2 の場合、結果は $(10 - 2) + 1 = 9$ で 9 個のオブザベーションまたはレコードになります。

OBS=は、現在の SAS セッション中のすべてのステップに対して、または設定を変更するまで有効です。

また、PROC ステップの SAS データセットの分析を制御するために OBS=を使用することもできます。

SAS で生データファイルが処理されている場合、OBS=は最後に読み込むデータの行を指定します。複数の SAS データセットのオブザベーションの生データが 1 行に入力されている場合でも、SAS では入力データの 1 行が 1 個のオブザベーションとして数えられます。

比較

- データセットオプションまたは INFILE ステートメントオプションのいずれかから指定した OBS=は、OBS=システムオプションよりも優先されます。
- OBS=システムオプションでは処理の終了点が指定されるのに対し、FIRSTOBS=システムオプションでは開始点を指定します。この 2 つのオプションは、多くの場合、処理するオブザベーションの範囲を定義するために使用されます。

例

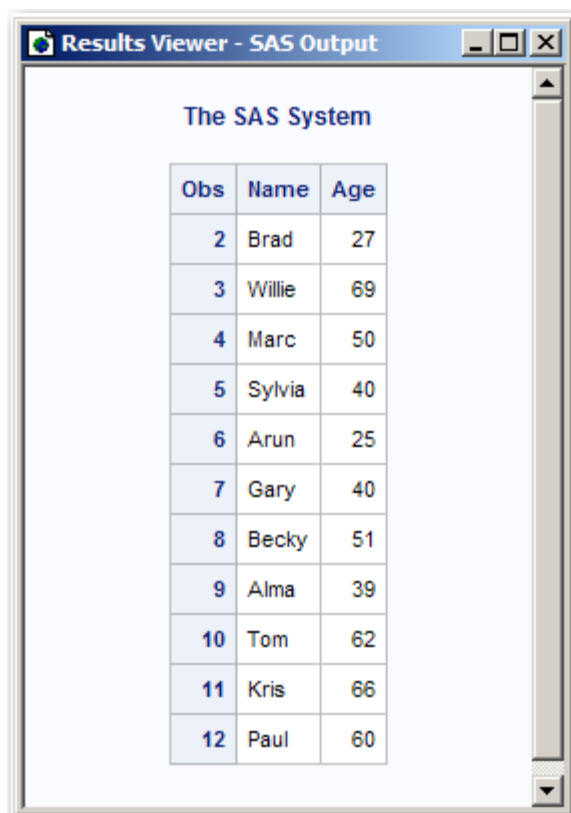
例 1: OBS=を使用したオブザベーションの処理を停止するタイミングを指定する

この例では、OBS=を使用してオブザベーションの処理を停止するタイミングを SAS に指示した結果を示します。この例では、SAS データセットを作成し、FIRSTOBS=2 および OBS=12 を指定した OPTIONS ステートメントを実行し、PRINT プロシジャを実行します。この結果は $(12 - 2) + 1 = 11$ で 11 個のオブザベーションになります。この場合の出力はオブザベーション 2 で開始してオブザベーション 12 で終了するため、OBS=の結果は SAS が最後に処理するオブザベーション番号であるように見えますが、この結果は単なる偶然です。

```
data Ages;
input Name $ Age;
datalines;
Miguel 53
Brad 27
Willie 69
Marc 50
Sylvia 40
Arun 25
Gary 40
Becky 51
Alma 39
Tom 62
Kris 66
Paul 60
Randy 43
Barbara 52
Virginia 72
run;

options firstobs=2 obs=12;
proc print data=Ages;
run;
```

アウトプット 3.1 OBS=およびFIRSTOBS=を使用した PROC PRINT の出力



Obs	Name	Age
2	Brad	27
3	Willie	69
4	Marc	50
5	Sylvia	40
6	Arun	25
7	Gary	40
8	Becky	51
9	Alma	39
10	Tom	62
11	Kris	66
12	Paul	60

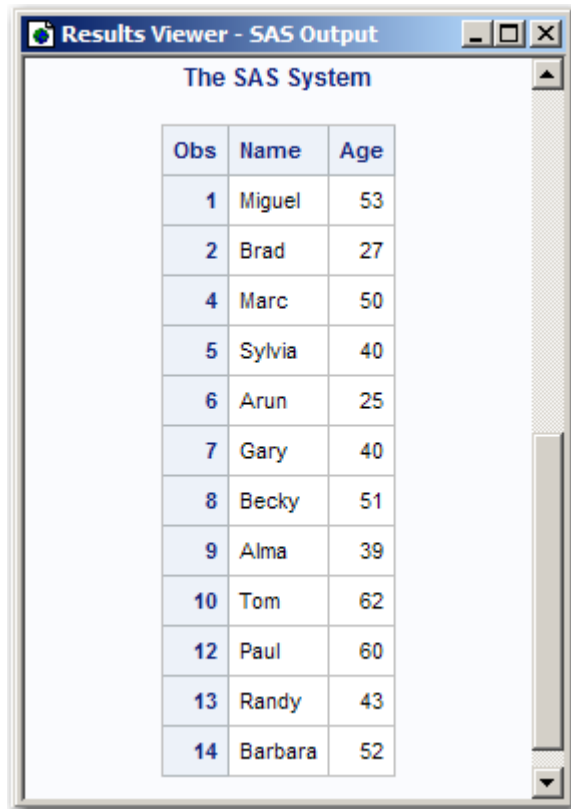
例 2: WHERE 処理で OBS= を使用する

この例では、WHERE 処理とともに OBS= を使用した結果を示します。例 1 で作成された、15 個のオブザベーションを含むデータセットを使用します。新しい SAS セッションではデフォルトの FIRSTOBS=1 と OBS=MAX が使用されると想定します。

最初に、WHERE ステートメントを含む PRINT プロシジャを次に示します。データのサブセットの結果は 12 個のオブザベーションになります。

```
proc print data=Ages;  
  where Age LT 65;  
run;
```


アウトプット 3.2 WHERE ステートメントを使用した PROC PRINT の出力

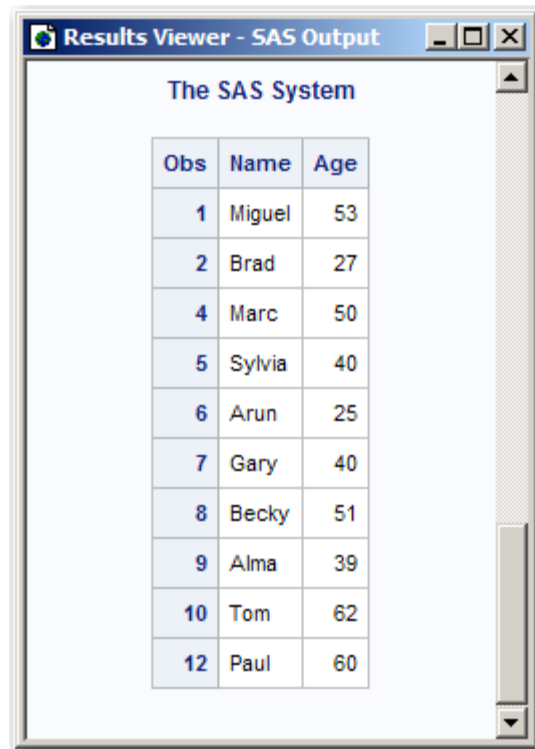


Obs	Name	Age
1	Miguel	53
2	Brad	27
4	Marc	50
5	Sylvia	40
6	Arun	25
7	Gary	40
8	Becky	51
9	Alma	39
10	Tom	62
12	Paul	60
13	Randy	43
14	Barbara	52

OBS=10 を使用した OPTIONS ステートメントと WHERE ステートメントを使用した PRINT プロシジャを実行すると、結果は $(10 - 1) + 1 = 10$ で 10 個のオブザベーションになります。SAS は最初に WHERE 処理でデータをサブセット化し、そのサブセットに OBS= を適用します。

```
options obs=10;
proc print data=Ages;
  where Age LT 65;
run;
```

アウトプット 3.3 WHERE ステートメントおよび OBS=を使用した PROC PRINT の出力



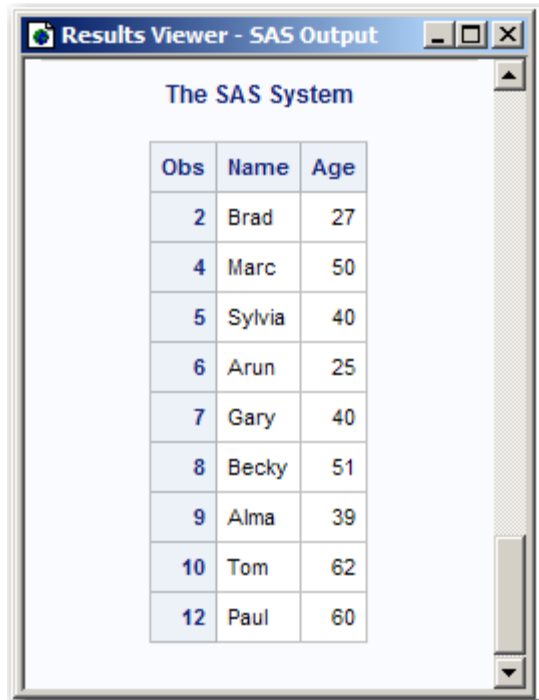
The screenshot shows a window titled "Results Viewer - SAS Output". Inside the window, the text "The SAS System" is displayed above a table. The table has three columns: "Obs", "Name", and "Age". The data rows are as follows:

Obs	Name	Age
1	Miguel	53
2	Brad	27
4	Marc	50
5	Sylvia	40
6	Arun	25
7	Gary	40
8	Becky	51
9	Alma	39
10	Tom	62
12	Paul	60

出力が 10 個のオブザベーションで構成されており、オブザベーション番号 12 で終了するため、OBS=の結果が処理するオブザベーション数であるように見えます。ただし、この結果は単なる偶然に過ぎません。FIRSTOBS=2 および OBS=10 をサブセットに適用した場合、結果は $(10 - 2) + 1 = 9$ で 9 個のオブザベーションになります。この場合の OBS=は最後のオブザベーション番号でも処理するオブザベーション数でもありません。値は処理を停止するタイミングを判別する計算式で使用されます。

```
options firstobs=2 obs=10;
proc print data=Ages;
where Age LT 65;
run;
```

アウトプット 3.4 WHERE ステートメント、OBS=およびFIRSTOBS=を使用した PROC PRINT の出力



The screenshot shows a window titled "Results Viewer - SAS Output". Inside the window, the text "The SAS System" is displayed above a table. The table has three columns: "Obs", "Name", and "Age". The data rows are as follows:

Obs	Name	Age
2	Brad	27
4	Marc	50
5	Sylvia	40
6	Arun	25
7	Gary	40
8	Becky	51
9	Alma	39
10	Tom	62
12	Paul	60

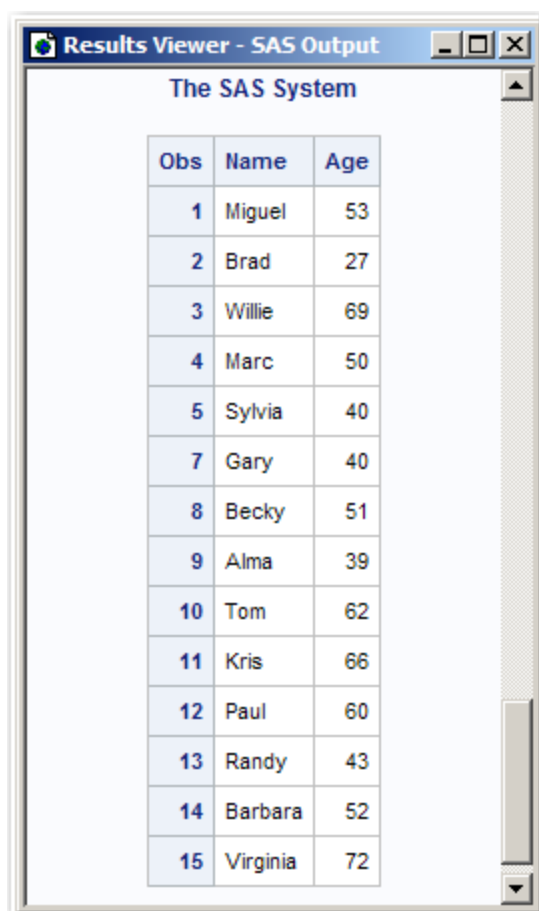
例 3: オブザベーションが削除された場合に OBS=を使用する

この例では、削除されたオブザベーションがあるデータセットに OBS=を使用した結果を示します。例 1 で作成されたデータセットからオブザベーション 6 が削除されたデータセットを使用します。また、新しい SAS セッションではデフォルトの FIRSTOBS=1 と OBS=MAX が使用されると想定します。

最初に、変更されたファイルの PROC PRINT の出力を次に示します。

```
options firstobs=1 obs=max nodate pageno=1;  
  
proc print data=Ages;  
run;
```

アウトプット3.5 オブザベーション6が削除されたことを示すPROC PRINTの出力

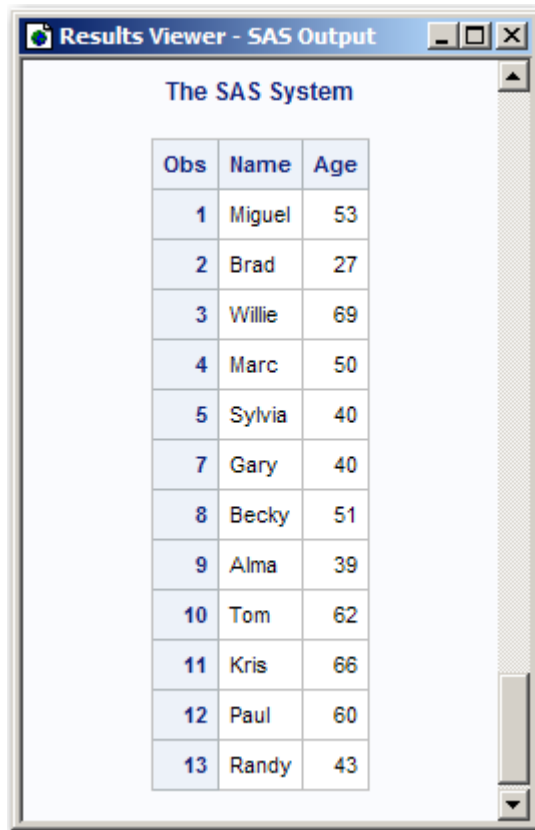


Obs	Name	Age
1	Miguel	53
2	Brad	27
3	Willie	69
4	Marc	50
5	Sylvia	40
7	Gary	40
8	Becky	51
9	Alma	39
10	Tom	62
11	Kris	66
12	Paul	60
13	Randy	43
14	Barbara	52
15	Virginia	72

OBS=12を使用したOPTIONSステートメントを実行してからPRINTプロシジャを実行すると、結果は $(12 - 1) + 1 = 12$ で12個のオブザベーションになります。

```
options obs=12;  
proc print data=Ages;  
run;
```

アウトプット 3.6 OBS=を使用した PROC PRINT の出力

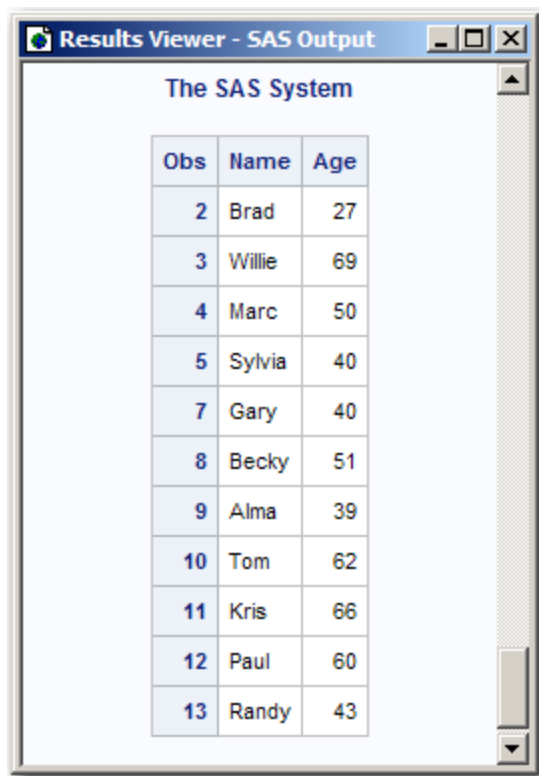


Obs	Name	Age
1	Miguel	53
2	Brad	27
3	Willie	69
4	Marc	50
5	Sylvia	40
7	Gary	40
8	Becky	51
9	Alma	39
10	Tom	62
11	Kris	66
12	Paul	60
13	Randy	43

出力が 12 個のオブザベーションで構成されており、オブザベーション番号 13 で終了するため、OBS=の結果が処理するオブザベーション数であるように見えます。ただし、FIRSTOBS=2 および OBS=12 を適用した場合、結果は $(12 - 2) + 1 = 11$ で 11 個のオブザベーションになります。この場合の OBS=は最後のオブザベーション番号でも処理するオブザベーション数でもありません。値は処理を停止するタイミングを判別する計算式で使用されます。

```
options firstobs=2 obs=12;  
proc print data=Ages;  
run;
```

アウトプット 3.7 OBS=およびFIRSTOBS=を使用した PROC PRINT の出力



The screenshot shows a window titled "Results Viewer - SAS Output" displaying a table of data. The table has three columns: "Obs", "Name", and "Age". The data is as follows:

Obs	Name	Age
2	Brad	27
3	Willie	69
4	Marc	50
5	Sylvia	40
7	Gary	40
8	Becky	51
9	Alma	39
10	Tom	62
11	Kris	66
12	Paul	60
13	Randy	43

関連項目:**データセットオプション:**

- “FIRSTOBS=データセットオプション” (SAS データセットオプション: リファレンス)
- “OBS=データセットオプション” (SAS データセットオプション: リファレンス)
- “REPLACE=データセットオプション” (SAS データセットオプション: リファレンス)

システムオプション:

- “FIRSTOBS=システムオプション” (119 ページ)

ORIENTATION=システムオプション

プリンタで印刷するとき使用する用紙の向きを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷

PROC OPTIONS GROUP= ODSPRINT

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

ORIENTATION=PORTRAIT | LANDSCAPE | REVERSEPORTRAIT | REVERSELANDSCAPE

構文の説明

PORTRAIT

用紙の向きを縦に指定します。これがデフォルト設定です。

LANDSCAPE

用紙の向きを横に指定します。

REVERSEPORTRAIT

用紙の向きを上下逆の縦に指定します。この値は、入力用紙トレイに挿入された用紙に対してページの上部を制御するために使用します。REVERSEPORTRAIT は事前印刷用紙や事前穿孔用紙に印刷するときに使用できます。

REVERSELANDSCAPE

用紙の向きを左右逆の横に指定します。この値は、入力用紙トレイに挿入された用紙に対してページの上部を制御するために使用します。REVERSELANDSCAPE は事前印刷用紙や事前穿孔用紙に印刷するときに使用できます。

詳細

このオプションの値を変更すると、移植可能な LINESIZE=および PAGESIZE=システムオプションの値が変更される場合があります。

次の出力タイプで、ドキュメントの各ページの向きを変更できます。

- LISTING 出力先
- RTF 出力先
- ユニバーサル印刷プリンタ

注: ドキュメントの各ページの向きの変更は、ユニバーサル印刷のみでサポートされています。Windows 印刷ではサポートされていません。

ページの向きを変更する出力を作成する各ステップで OPTIONS ステートメントを使用します。

例

この例では、縦方向と横方向の両方で PDF ファイルを作成します。

```
options orientation=landscape obs=5;
ods pdf file="File3.pdf";
proc print data=sashelp.class;
run;
options orientation=portrait;
proc print data=sashelp.retail; run;
ods pdf close;
```

次のように出力されます。

画面 3.1 横方向で印刷された PDF の 1 ページ目

The screenshot shows a window titled "Results Viewer - File3.pdf". The toolbar includes icons for print, save, back, forward, search, and zoom (50%). A "Find" search box is visible. The main content area displays a table with the following data:

Obs	Name	Sex	Age	Height	Weight
1	Alfred	M	14	69.0	112.5
2	Alice	F	13	56.5	84.0
3	Barbara	F	13	65.3	96.0
4	Carol	F	14	62.0	102.5
5	Henry	M	14	63.5	102.5

画面 3.2 縦方向で印刷された PDF の 2 ページ目

The screenshot shows a window titled "Results Viewer - File3.pdf". The toolbar includes icons for print, save, back, forward, search, and zoom (50%). A "Collaborate" and "Sign" menu is visible. The main content area displays a table with the following data:

Obs	SALES	DATE	YEAR	MONTH	DAY
1	\$220	00Q1	1990	1	1
2	\$257	00Q2	1990	4	1
3	\$258	00Q3	1990	7	1
4	\$295	00Q4	1990	10	1
5	\$247	01Q1	1991	1	1

関連項目:

- “ODS PRINTER ステートメント” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド)
- “ユニバーサルプリント” (SAS 言語リファレンス: 解説編 15 章)

システムオプション:

- “LINESIZE=システムオプション” (152 ページ)
- “PAGESIZE=システムオプション” (179 ページ)

OVP システムオプション

エラーメッセージを太字で表示するために重ね打ちを有効にするかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ

**PROC OPTIONS
GROUP=** LOGCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

OVP | NOOVP

構文の説明

OVP

エラーメッセージの重ね打ちを有効に指定します。

NOOVP

エラーメッセージの重ね打ちを無効に指定します。これがデフォルト設定です。

詳細

OVP が指定されていると、エラーメッセージが重ね打ち文字でさらに 2 回重ね打ちされ、エラーメッセージが強調表示されます。

出力がモニタに表示されるときには、OVP は無効になり、NOOVP に変更されます。

関連項目:

“SAS ログ” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

PAGEBREAKINITIAL システムオプション

LISING 出力先の SAS ログおよびプロシジャ出力ファイルを新しいページで始めるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログおよびプロシジャ出力
 ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ
 ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力

**PROC OPTIONS
GROUP=** LOG_LISTCONTROL
 LISTCONTROL
 LOGCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “PAGEBREAKINITIAL System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

PAGEBREAKINITIAL | **NOPAGEBREAKINITIAL**

構文の説明

PAGEBREAKINITIAL

SAS ログおよびプロシジャ出力ファイルを新しいページで始めるように指定します。

NOPAGEBREAKINITIAL

SAS ログおよびプロシジャ出力ファイルを新しいページで始めないように指定します。NOPAGEBREAKINITIAL がデフォルトです。

詳細

PAGEBREAKINITIAL オプションでは、LISING 出力先の SAS ログおよびプロシジャ出力ファイルを開始するときに改ページが挿入されます。

関連項目:

“SAS ログ” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

PAGENO=システムオプション

SAS 出力のページ番号をリセットします。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力

PROC OPTIONS GROUP= LISTCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション \(6 ページ\)](#)”を参照してください。

参照項目: Windows の PAGENO=システムオプション

構文

PAGENO=*n* | *nK* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n | *nK*

ページ番号を $1(n)$ 、 $1,024(nK)$ の倍数で指定します。たとえば、値 8 ではページ番号が 8、値 3k ではページ番号が 3,072 に設定されます。

hexX

ページ番号を 16 進値で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2dx ではページ番号が 45 に設定されます。

MIN

ページ番号を最小値 1 に設定します。

MAX

最大ページ番号を動作環境で表現できる 4 バイト符号付き整数の最大値に指定します。

詳細

PAGENO=システムオプションは、SAS で生成される出力の次のページの開始ページ番号を指定します。PAGENO=は SAS セッション中にページ番号をリセットするために使用します。

PAGESIZE=システムオプション

SAS ログおよび SAS 出力のページを構成する行数を指定します。

該当要素: Configuration file, SAS invocation, OPTIONS statement, SAS System Options window 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプション ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログおよびプロシジャ出力
 ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ
 ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力

PROC OPTIONS GROUP= LOG_LISTCONTROL
 LISTCONTROL
 LOGCONTROL

別名: PS=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “PAGESIZE System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)
 “PAGESIZE System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)
 “PAGESIZE= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

PAGESIZE=*n* | *nK* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n | *nK*

ページを構成する行数を 1 行単位(*n*)または 1,024 行単位(*nK*)で指定します。

hexX

ページを構成する行数を 16 進値で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2dx ではページを構成する行数が 45 行に設定されます。

MIN

ページを構成する行数を最小設定値 15 に設定します。

MAX

ページを構成する行数を最大設定値 32,767 に設定します。

詳細

PAGESIZE=システムオプションは、次の出力に影響します。

- ODS LISTING 出力先の出カウインドウ
- バッチおよび非対話型モードの SAS ログ

- PRINT オプションが DATA ステップの FILE ステートメントで使用されているときの ODS マークアップ出力先(FILE PRINT ODS ステートメントは PAGESIZE=システムオプションの影響を受けません)
- PLOT プロシジャ、CALENDAR プロシジャ、TIMEPLOT プロシジャ、FORMS プロシジャ、CHART プロシジャなど、調整できない文字を生成するプロシジャ

関連項目:

“SAS ログ” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

PAPERDEST=システムオプション

印刷出力を受け取る排紙ビンの名前を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷

PROC OPTIONS GROUP= ODSPRINT

制限事項: このオプションは、プリンタに複数の排紙ビンがない場合には無視されます。
このオプションは、Windows 動作環境では無効です。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

PAPERDEST=*printer-bin-name*

構文の説明

printer-bin-name

印刷出力を受け取るビンを指定します。

制限事項 最大長は 200 文字です。

関連項目:

- “ODS PRINTER ステートメント” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド)
- “ユニバーサルプリント” (SAS 言語リファレンス: 解説編 15 章)

システムオプション:

- “PAPERSIZE=システムオプション” (180 ページ)
- “PAPERSOURCE=システムオプション” (182 ページ)
- “PAPERTYPE=システムオプション” (183 ページ)

PAPERSIZE=システムオプション

印刷に使用する用紙サイズを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: 言語コントロール
ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷

PROC OPTIONS GROUP= LANGUAGECONTROL
ODSPRINT

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

```
PAPERSIZE=paper_size_name | ("width_value"<,>"height_value")
          | ("width_value"<,>"height_value") | (width_value height_value)
```

構文の説明

paper_size_name

定義されている用紙サイズから指定します。

デフォルト ロケールに応じてレターまたは A4。

制限事項 200 文字まで指定できます。

要件 定義済みの用紙サイズの名前に空白が含まれている場合は、名前を一重または二重引用符で囲みます。

ヒント サポートされている用紙サイズのリストを取得するには、レジストリエディタを参照するか、PROC REGISTRY を使用します。値は追加できません。

("width_value", "height_value")

用紙の幅と高さを正の浮動小数点値で指定します。

デフォルト インチ

範囲 width_value、height_value の in または cm

詳細

プリンタでサポートされない定義済みの用紙サイズまたはカスタムサイズを指定すると、プリンタのデフォルトの用紙サイズが使用されます。プリンタのデフォルトの用紙サイズは、ロケールによって異なり、[ページ設定ダイアログボックス](#)を使用して変更できます。

用紙サイズの値を指定するフィールドは、空白かカンマで区切ることができます。

注: このオプションの値を変更すると、移植可能な LINESIZE=および PAGESIZE=システムオプションの値が変更される場合があります。

比較

最初の OPTIONS ステートメントで、SAS Registry の用紙サイズ名である用紙サイズ値が設定されます。2 番目の OPTIONS ステートメントで、用紙サイズに特定の幅と高さが設定されます。

```
options papersize="480x640 Pixels";
```

```
options papersize=("4.5" "7");
```

最初の例では、名前に空白が使用されているため、引用符が必要です。

2番目の例では引用符は必要ありません。測定単位が指定されていない場合、次の警告が SAS ログに書き込まれます。

警告: PAPERSIZE オプションで単位が指定されていません。インチが使用されます 警告: PAPERSIZE オプションで単位が指定

値と単位タイプが空白で区切られていない値には、単位タイプ in または cm を追加すると、警告メッセージを避けることができます。

```
options papersize=(4.5in 7in);
```

関連項目:

- ODS ステートメントを使用した ODS プリンタ出力先の宣言の詳細については、*SAS Output Delivery System: ユーザーガイド*を参照してください。
- “ユニバーサルプリント” (SAS 言語リファレンス: 解説編 15 章)

システムオプション:

- “PAPERDEST=システムオプション” (180 ページ)
- “PAPERSOURCE=システムオプション” (182 ページ)
- “PAPERTYPE=システムオプション” (183 ページ)

PAPERSOURCE=システムオプション

印刷に使用する用紙ビンの名前を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷

PROC OPTIONS GROUP= ODSPRINT

制限事項: このオプションは、プリンタに複数の給紙ビンがない場合には無視されます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

PAPERSOURCE=*printer-bin-name*

構文の説明

printer-bin-name

プリンタに給紙するビンを指定します。

関連項目:

- “ODS PRINTER ステートメント” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド)
- “ユニバーサルプリント” (SAS 言語リファレンス: 解説編 15 章)

システムオプション:

- “PAPERDEST=システムオプション” (180 ページ)
- “PAPERSIZE=システムオプション” (180 ページ)
- “PAPERTYPE=システムオプション” (183 ページ)

PAPERTYPE=システムオプション

印刷に使用する用紙の種類を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システムオプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷

PROC OPTIONS GROUP= ODSPRINT

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

PAPERTYPE=*paper-type-string*

構文の説明*paper-type-string*

用紙の種類を指定します。最大長は 200 です。

デフォルト 値はサイトと動作環境によって異なります。

範囲 値は、プリンタ、サイトおよび動作環境によって異なります。

動作環境 用紙の種類を指定する方法の詳細については、現在の動作環境向けの SAS ドキュメントを参照してください。このオプションには多数の使用可能な値があります。

関連項目:

- “ODS PRINTER ステートメント” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド)
- “SAS を用いた印刷” (SAS 言語リファレンス: 解説編 15 章)

システムオプション:

- “PAPERDEST=システムオプション” (180 ページ)
- “PAPERSIZE=システムオプション” (180 ページ)
- “PAPERSOURCE=システムオプション” (182 ページ)

PARM=システムオプション

外部プログラムに渡されるパラメータ文字列を指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
カテゴリ:	環境コントロール: ファイル
PROC OPTIONS GROUP=	ENVFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

PARM=<>*string*<>

構文の説明

string

パラメータを含む文字列を指定します。

例

このステートメントでは、パラメータ X=2 が外部プログラムに渡されます。

```
options parm='x=2';
```

動作環境の情報

パラメータを外部プログラムに渡すその他のメソッドは、現在の動作環境と、対話型ラインモードとバッチモードのどちらで実行しているのかによって異なります。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

PARMCARDS=システムオプション

プロシジャで PARMCARDS ステートメントを検出したときに開くファイル参照を指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
カテゴリ:	環境コントロール: ファイル
PROC OPTIONS GROUP=	ENVFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “PARMCARDS= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

PARMCARDS=*file-ref*

構文の説明

file-ref

開くファイル参照を指定します。

詳細

PARMCARDS=オプションは、プロシジャで PARMCARDS(または PARMCARDS4)ステートメントを検出したときに開くファイルのファイル参照を指定します。

1 つまたは 4 つのセミコロンの中のいずれかを使用する区切り文字の行が検出されるまで、PARMCARDS(または PARMCARDS4)以降のすべてのデータ行がファイルに書き込まれます。区切り文字の行が検出されると、ファイルは閉じられ、プロシジャでの読み込みが可能になります。データ行の解析やマクロ展開は行われません。

PDFACCESS システムオプション

PDF ドキュメントのテキストとグラフィックを視覚障害者のためのスクリーンリーダーで読み上げできるようにするかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システム オプション**ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: PDF

PROC OPTIONS GROUP= PDF

要件 Adobe Acrobat Reader または Professional 5.0 以降のバージョン

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

PDFACCESS | NOPDFACCESS

構文の説明

PDFACCESS

PDF ドキュメントのテキストとグラフィックを視覚障害者のためのスクリーンリーダーで読み上げできるように指定します。これがデフォルト設定です。

NOPDFACCESS

PDF ドキュメントのテキストとグラフィックを視覚障害者のためのスクリーンリーダーで読み上げできないように指定します。

詳細

PDFACCESS オプションは、ドキュメントのアクセシビリティを有効にするプロパティに影響する場合があります。

PDF セキュリティのドキュメントのプロパティの値は、PDFSECURITY=NONE を設定したときには変更されません。結果は、オプションを設定しない場合と同じになります。

PDFACCESS オプションを指定し、PDFSECURITY=オプションを LOW または HIGH に設定すると、ドキュメントのアクセシビリティを有効にするプロパティがどのように設定されるかを次の表に示します。

	PDFACCESS		NOPDFACCESS	
	PDFSECURITY =LOW	PDFSECURITY =HIGH	PDFSECURITY =LOW	PDFSECURITY =HIGH
アクセシビリティ を有効にする	許可	許可	許可しない	許可

関連項目:

- “ODS によって生成された PDF ファイルの保護” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド 3 章)

システムオプション:

- “PDFSECURITY=システムオプション” (197 ページ)

PDFASSEMBLY システムオプション

PDF ドキュメントのアセンブリを許可するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システム オプション** ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: PDF

**PROC OPTIONS
GROUP=** PDF

要件 Adobe Acrobat Reader または Professional 5.0 以降のバージョン

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

PDFASSEMBLY | **NOPDFASSEMBLY**

構文の説明

PDFASSEMBLY

PDF ドキュメントのアセンブリを許可するように指定します。

NOPDFASSEMBLY

PDF ドキュメントのアセンブリを許可しないように指定します。これがデフォルト設定です。

詳細

PDF ドキュメントのアセンブリが行われると、ページの回転、挿入および削除、ブックマークとサムネイル画像の追加ができます。

PDFASSEMBLY オプションは、ドキュメントの文書アセンブリプロパティに影響する場合があります。

PDF セキュリティのドキュメントのプロパティの値は、PDFSECURITY=NONE を設定したときには変更されません。結果は、オプションを設定しない場合と同じになります。

PDFASSEMBLY オプションを指定し、PDFSECURITY=オプションを LOW または HIGH に設定すると、ドキュメントの文書アセンブリプロパティがどのように設定されるかを次の表に示します。

	PDFASSEMBLY		NOPDFASSEMBLY	
	PDFSECURITY=LOW	PDFSECURITY=HIGH	PDFSECURITY=LOW	PDFSECURITY=HIGH
文書アセンブリ	許可	許可	許可しない	許可

関連項目:

- “ODS によって生成された PDF ファイルの保護” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド 3 章)

システムオプション:

- “PDFSECURITY=システムオプション” (197 ページ)

PDFCOMMENT システムオプション

PDF ドキュメントの注釈を変更できるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システム オプション** ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: PDF

PROC OPTIONS GROUP= PDF

要件 Adobe Acrobat Reader または Professional 5.0 以降のバージョン

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

PDFCOMMENT | **NOPDFCOMMENT**

構文の説明

PDFCOMMENT

PDF ドキュメントの注釈を変更できるように指定します。

NOPDFCOMMENT

PDF ドキュメントの注釈を変更できないように指定します。これがデフォルト設定です。

詳細

PDFCOMMENT オプションは、ドキュメントの注釈プロパティに影響する場合があります。

PDF セキュリティのドキュメントのプロパティの値は、PDFSECURITY=NONE を設定したときには変更されません。結果は、オプションを設定しない場合と同じになります。

PDFSECURITY=LOW の場合、ドキュメントのフォームフィールドの入力プロパティまたは署名プロパティの設定は、PDFCOMMENT オプションに依存します。PDFCOMMENT オプションを変更すると、フォームフィールドの入力プロパティまたは署名プロパティは、注釈プロパティと同じ設定に変更されます。たとえば、PDFSECURITY=LOW と PDFCOMMENT が指定されている場合、注釈プロパティおよびフォームフィールドの入力プロパティまたは署名プロパティは、両方とも許可に設定されます。NOPDFCOMMENT が指定されていない場合、両方のプロパティは許可しないに設定されます。注釈プロパティは PDFFILLIN オプションの影響を受けません。PDFCOMMENT オプションの値は、PDFFILLIN オプションの値に影響しません。

PDFSECURITY=HIGH の場合は、PDFCOMMENT と PDFFILLIN を別々に設定できます。

PDFCOMMENT オプションを指定し、PDFSECURITY=オプションを LOW または HIGH に設定すると、ドキュメントの注釈プロパティおよびフォームフィールドの入力プロパティまたは署名プロパティがどのように設定されるかを次の表に示します。

	PDFCOMMENT		NOPDFCOMMENT	
	PDFSECURITY=LOW	PDFSECURITY=HIGH	PDFSECURITY=LOW	PDFSECURITY=HIGH
注釈	許可	許可	許可しない	許可しない
フォームフィールドの入力または署名	許可	許可	許可しない	許可しない

関連項目:

- “ODS によって生成された PDF ファイルの保護” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド 3 章)

システムオプション:

- “PDFFILLIN システムオプション” (190 ページ)
- “PDFSECURITY=システムオプション” (197 ページ)

PDFCONTENT システムオプション

PDF ドキュメントの内容を変更できるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システム オプション**ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: PDF

PROC OPTIONS GROUP= PDF

要件 Adobe Acrobat Reader または Professional 3.0 以降のバージョン

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

PDFCONTENT | NOPDFCONTENT

構文の説明

PDFCONTENT

PDF ドキュメントの内容を変更できるように指定します。

NOPDFCONTENT

PDF ドキュメントの内容を変更できないように指定します。これがデフォルト設定です。

詳細

PDFCONTENT オプションは、ドキュメントの文書の変更プロパティに影響する場合があります。

PDF セキュリティのドキュメントのプロパティの値は、PDFSECURITY=NONE を設定したときには変更されません。結果は、オプションを設定しない場合と同じになります。

PDFCONTENT オプションを指定し、PDFSECURITY=オプションを LOW または HIGH に設定すると、ドキュメントの文書の変更プロパティがどのように設定されるかを次の表に示します。

	PDFCONTENT		NOPDFCONTENT	
	PDFSECURITY=LOW	PDFSECURITY=HIGH	PDFSECURITY=LOW	PDFSECURITY=HIGH
文書の変更	使用不可*	許可	使用不可*	許可しない

* 文書の変更プロパティは PDFSECURITY=LOW のときには設定されません。オプションの値は指定したとおりに変更されますが、プロパティの値は最後に設定した値のままになります。

関連項目:

- “ODS によって生成された PDF ファイルの保護” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド 3 章)

システムオプション:

- “PDFSECURITY=システムオプション” (197 ページ)

PDFCOPY システムオプション

PDF ドキュメントのテキストとグラフィックをコピーできるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システム オプション**ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: PDF

PROC OPTIONS GROUP= PDF

要件 Adobe Acrobat Reader または Professional 3.0 以降のバージョン

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション \(6 ページ\)](#)”を参照してください。

構文

PDFCOPY | **NOPDFCOPY**

構文の説明

PDFCOPY

PDF ドキュメントのテキストとグラフィックをコピーできるように指定します。これがデフォルト設定です。

NOPDFCOPY

PDF ドキュメントのテキストとグラフィックをコピーできないように指定します。

詳細

PDFCOPY オプションは、ドキュメントの内容のコピープロパティに影響する場合があります。

PDF セキュリティのドキュメントのプロパティの値は、PDFSECURITY=NONE を設定したときには変更されません。結果は、オプションを設定しない場合と同じになります。

PDFSECURITY=LOW および PDFCOPY または NOPDFCOPY が指定されている場合、オプションの値は設定されますが、内容のコピープロパティの値は変更されません。

PDFCOPY オプションを指定し、PDFSECURITY=オプションを LOW または HIGH に設定すると、ドキュメントの内容のコピープロパティがどのように設定されるかを次の表に示します。

	PDFCOPY		NOPDFCOPY	
	PDFSECURITY=LOW	PDFSECURITY=HIGH	PDFSECURITY=LOW	PDFSECURITY=HIGH
内容のコピー	使用不可*	許可	使用不可*	許可しない

* 内容のコピープロパティは PDFSECURITY=LOW のときには設定されません。オプションの値は指定したとおりに変更されますが、プロパティの値は最後に設定した値のままになります。

関連項目:

- “ODS によって生成された PDF ファイルの保護” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド 3 章)

システムオプション:

- “PDFSECURITY=システムオプション” (197 ページ)

PDFFILLIN システムオプション

PDF フォームに入力できるかどうかを指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、 SAS システム オプション ウィンドウ
カテゴリ:	ログおよびプロシジャ出力コントロール: PDF
PROC OPTIONS GROUP=	PDF
要件	Adobe Acrobat Reader または Professional 5.0 以降のバージョン
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。

構文

PDFFILLIN | NOPDFFILLIN

構文の説明

PDFFILLIN

PDF フォームに入力できるように指定します。これがデフォルト設定です。

NOPDFFILLIN

PDF フォームに入力できないように指定します。

詳細

PDFFILLIN オプションは、ドキュメントのフォームフィールドの入力プロパティまたは署名プロパティに影響する場合があります。

PDF セキュリティのドキュメントのプロパティの値は、PDFSECURITY=NONE を設定したときには変更されません。結果は、オプションを設定しない場合と同じになります。

PDFSECURITY=LOW の場合、フォームフィールドの入力プロパティまたは署名プロパティの設定は、PDFCOMMENT オプションに依存します。PDFCOMMENT オプションを変更すると、フォームフィールドの入力プロパティまたは署名プロパティは、注釈プロパティと同じ設定に変更されます。たとえば、PDFSECURITY=LOW と PDFCOMMENT が指定されている場合、注釈プロパティおよびフォームフィールドの入力プロパティまたは署名プロパティは、両方とも許可に設定されます。

NOPDFCOMMENT が指定されていない場合、両方のプロパティは許可しないに設定されます。注釈プロパティは PDFFILLIN オプションの影響を受けません。

PDFCOMMENT オプションの値は、PDFFILLIN オプションの値に影響しません。

PDFFILLIN オプションは、PDFSECURITY=HIGH の場合にのみ、フォームフィールドの入力プロパティまたは署名プロパティによって設定されます。

PDFSECURITY=HIGH の場合は、PDFCOMMENT と PDFFILLIN を別々に設定できます。

PDFFILLIN オプションを指定し、PDFSECURITY=オプションを LOW または HIGH に設定すると、ドキュメントのフォームフィールドの入力プロパティまたは署名プロパティがどのように設定されるかを次の表に示します。

	PDFFILLIN		NOPDFFILLIN	
	PDFSECURITY=LOW	PDFSECURITY=HIGH	PDFSECURITY=LOW	PDFSECURITY=HIGH

	PDFFILLIN		NOPDFFILLIN	
フォームフィールドの入力または署名	使用不可*	許可	使用不可*	許可しない

* フォームフィールドの入力プロパティまたは署名プロパティは PDFSECURITY=LOW のときには設定されません。プロパティの値は最後に設定された値のままになります。

関連項目:

- “ODS によって生成された PDF ファイルの保護” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド 3 章)

システムオプション:

- “PDFCOMMENT システムオプション” (187 ページ)
- “PDFSECURITY=システムオプション” (197 ページ)

PDFPAGELAYOUT=システムオプション

PDF ドキュメントのページレイアウトを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: PDF

PROC OPTIONS GROUP= PDF

要件 Adobe Acrobat Reader または Professional 5.0 以降のバージョン

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

PDFPAGELAYOUT= [DEFAULT](#) | [SINGLEPAGE](#) | [CONTINUOUS](#)
| [FACING](#) | [CONTINUOUSFACING](#)

構文の説明

DEFAULT

Acrobat Reader の現在のページレイアウトを使用するように指定します。これがデフォルト設定です。

SINGLEPAGE

表示領域内に 1 ページずつ表示されるように指定します。

CONTINUOUS

表示領域内の一列にすべてのページが表示されるように指定します。

FACING

表示領域内に、偶数ページを左側、奇数ページを右側にして 2 ページのみが表示されるように指定します。

要件 Acrobat Reader 5.0 以降のバージョンが必要です。

CONTINUOUSFACING

表示領域内に 2 ページを横に並べてすべてのページが表示されるように指定します。偶数ページは左側、奇数ページは右側に表示されます。

関連項目:

- “ODS によって生成された PDF ファイルの保護” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド 3 章)

システムオプション:

- “PDFPAGEVIEW=システムオプション” (193 ページ)

PDFPAGEVIEW=システムオプション

PDF ドキュメントのページ表示モードを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: PDF

**PROC OPTIONS
GROUP=** PDF

要件 Adobe Acrobat Reader または Professional 5.0 以降のバージョン

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

PDFPAGEVIEW= [DEFAULT](#) | [ACTUAL](#) | [FITPAGE](#) | [FITWIDTH](#) | [FULLSCREEN](#)

構文の説明

DEFAULT

Acrobat Reader の現在のページ表示設定を使用するように指定します。これがデフォルト設定です。

ACTUAL

ページ表示設定を 100% に設定するように指定します。

FITPAGE

高さとの比率を保ちながら、表示ウィンドウの全領域を使用してページが表示されるように指定します。

FITWIDTH

表示ウィンドウの全幅を使用してページが表示されるように指定します。ドキュメントの高さはページに合わせて調整されません。

FULLSCREEN

画面全体を使用してページが表示されるように指定します。このオプションによって、目次、ブックマーク、および指定ページへのアクセスなど、その他すべてのドキュメントアクセス補助機能が無効になります。

関連項目:

- “ODS によって生成された PDF ファイルの保護” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド 3 章)

システムオプション:

- “PDFPAGEVIEW=システムオプション” (193 ページ)

PDFPASSWORD=システムオプション

PDF ドキュメントを開くために使用するパスワードと、PDF ドキュメントの所有者によって使用されるパスワードを指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント
カテゴリ:	ログおよびプロシジャ出力コントロール: PDF システム管理: セキュリティ
PROC OPTIONS GROUP=	PDF SECURITY
別名:	PDFPW
要件	Adobe Acrobat Reader または Professional 3.0 以降のバージョン
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。

構文

```
PDFPASSWORD=(OPEN=password | OPEN="password"
< OWNER=password | OWNER="password">)
```

```
PDFPASSWORD=(OWNER=password | OWNER="password"
< OPEN=password | OPEN="password">)
```

```
PDFPASSWORD=(OPEN=password | OPEN="password")
```

```
PDFPASSWORD=(OWNER=password | OWNER="password")
```

構文の説明

OPEN="*password*"

PDF ドキュメントを開くパスワードを指定します。パスワードを囲む一重または二重引用符は省略可能です。

password

最大 32 文字までの一連の文字を指定します。これは、ユーザーに PDF ドキュメントを開く権限があることを検証するために使用されます。

制限事項 OPEN パスワードには、OWNER パスワードとは異なるパスワードを使用する必要があります。

パスワードの値は NULL(空)または空白文字には設定できません。

OWNER="password"

PDFドキュメントの所有者のパスワードを指定します。パスワードを囲む引用符は省略可能です。

password

最大 32 文字までの一連の文字を指定します。これは、PDFドキュメントの所有者を検証するために使用されます。

制限事項 OWNER パスワードには、OPEN パスワードとは異なるパスワードを使用する必要があります。

パスワードの値は NULL("")または空白文字には設定できません。

詳細

PDFPASSWORD オプションはいつでも設定できますが、PDFSECURITY システムオプションが LOW または HIGH のいずれかに設定されるまで無視されます。PDFSECURITY オプションが NONE に設定されている場合、PDFドキュメントのパスワードは必要ありません。

関連項目:

- “ODS によって生成された PDF ファイルの保護” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド 3 章)

システムオプション:

- “PDFPAGEVIEW=システムオプション” (193 ページ)
- “PDFSECURITY=システムオプション” (197 ページ)

PDFPRINT=システムオプション

PDFドキュメントの印刷の解像度を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、**SAS システム オプション**ウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: PDF

PROC OPTIONS GROUP= PDF

要件 PDFPRINT 設定に応じて、Adobe Acrobat Reader または Professional 3.0 以降のバージョン

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

PDFPRINT= HRES | LRES | NONE

構文の説明

HRES

プリンタで使用できる最高の解像度で PDF ドキュメントが印刷されるように指定します。これは、Adobe Acrobat Reader または Professional 5.0 以降のバージョンのデフォルト設定です。

制限事項 PDFPRINT=HRES は、PDFSECURITY オプションが HIGH に設定されている場合にのみ設定できます。

要件 Acrobat Reader または Professional 5.0 以降のバージョン。

LRES

ドラフト品質のドキュメントに使用される最低の解像度で PDF ドキュメントが印刷されるように指定します。

制限事項 PDFPRINT=LRES は、PDFSECURITY オプションが HIGH に設定されている場合にのみ設定できます。

要件 Acrobat Reader または Professional 3.0 以降のバージョン。

NONE

PDF ドキュメントに印刷解像度を設定しないように指定します。

制限事項 PDFPRINT=NONE は、PDFSECURITY オプションが HIGH または LOW に設定されている場合にのみ設定できます。

要件 Acrobat Reader または Professional のすべてのバージョン。

詳細

PDF セキュリティのドキュメントのプロパティの値は、PDFSECURITY=NONE を設定したときには変更されません。結果は、オプションを設定しない場合と同じになります。

PDFSECURITY=が LOW または HIGH に設定されている場合、印刷ドキュメントプロパティの値は PDFPRINT=オプションの値によって決まります。

PDFPRINT=HRES		
	PDFSECURITY=LOW	PDFSECURITY=HIGH
印刷	高解像度	高解像度
PDFPRINT=LRES		
	PDFSECURITY=LOW	PDFSECURITY=HIGH
印刷	高解像度	低解像度(150dpi)
PDFPRINT=NONE		
	PDFSECURITY=LOW	PDFSECURITY=HIGH
印刷	なし	なし

印刷ドキュメントプロパティは PDFSECURITY=LOW の場合にのみ高解像度に設定できるため、PDFPRINT=が HRES または LRES に設定されている場合、印刷ドキュメントプロパティは高解像度に設定されます。

関連項目:

- “ODS によって生成された PDF ファイルの保護” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド 3 章)

システムオプション:

- “PDFPAGEVIEW=システムオプション” (193 ページ)

PDFSECURITY=システムオプション

PDF 文書の暗号化のレベルを指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、 SAS システム オプション ウィンドウ
カテゴリ:	ログおよびプロシジャ出力コントロール: PDF システム管理: セキュリティ
PROC OPTIONS GROUP=	PDF SECURITY
制限事項:	PDFSECURITY オプションは UNIX、Windows および z/OS オペレーティングシステムのみで有効です。ただし、暗号化ソフトウェアの輸入が合法的な国に限られます。
要件	特に記載のない限り、Adobe Acrobat Reader または Professional 3.0 以降のバージョン。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。

構文

PDFSECURITY= HIGH | LOW | NONE

構文の説明

HIGH

128 ビット暗号化アルゴリズムを使用して PDF ドキュメントが暗号化されるように指定します。

要件 PDFSECURITY=HIGH の場合、Acrobat 5.0 以降のバージョンを使用する必要があります。

操作 PDFSECURITY=HIGH または LOW の場合、PDFPASSWORD=システムオプションを使用してパスワードを少なくとも 1 つ設定する必要があります。

LOW

40 ビット暗号化アルゴリズムを使用して PDF ドキュメントが暗号化されるように指定します。

操作 PDFSECURITY=HIGH または LOW の場合、PDFPASSWORD=システムオプションを使用してパスワードを少なくとも 1 つ設定する必要があります。

NONE

PDF ドキュメントが暗号化されないように指定します。これがデフォルト設定です。

PDF セキュリティのドキュメントのプロパティの値は、PDFSECURITY=NONE を設定したときには変更されません。結果は、オプションを設定しない場合と同じになります。

詳細

PDFSECURITY=オプションが NONE、LOW または HIGH に設定されているときに設定されるデフォルトのドキュメントのプロパティを次の表に示します。

PDFSECURITY=NONE の場合、PDF ドキュメントへの制限はありません。

	NONE	LOW	HIGH
印刷	許可	高解像度	高解像度
文書の変更	許可	許可しない	許可しない
注釈	許可	許可しない	許可しない
フォームフィールドの入力または署名	許可	許可しない	許可
文書アセンブリ	許可	許可しない	許可しない
内容のコピー	許可	許可	許可
アクセシビリティを有効にする	許可	許可	許可
ページの抽出	許可	許可	許可 PDFPASSWORD=(OWNER="pw")が指定されている場合にのみ、許可しない
暗号化レベル	なし	40 ビット RC4	128 ビット RC4

関連項目:

- “ODS によって生成された PDF ファイルの保護” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド 3 章)

システムオプション:

- “PDFACCESS システムオプション” (185 ページ)
- “PDFASSEMBLY システムオプション” (186 ページ)
- “PDFCOMMENT システムオプション” (187 ページ)
- “PDFCONTENT システムオプション” (188 ページ)
- “PDFCOPY システムオプション” (189 ページ)

- “PDFFILLIN システムオプション” (190 ページ)
- “PDFPASSWORD=システムオプション” (194 ページ)
- “PDFPRINT=システムオプション” (195 ページ)

PRIMARYPROVIDERDOMAIN=システムオプション

主認証プロバイダのドメイン名を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: 初期化および操作

PROC OPTIONS GROUP= EXECMODES

別名: PRIMPD=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション \(6 ページ\)](#)”を参照してください。

構文

PRIMARYPROVIDERDOMAIN=*domain-name*

構文の説明

domain-name

ユーザー名を認証するドメインの名前を指定します。

要件 ドメイン名に 1 つ以上の空白が含まれる場合、ドメイン名を引用符で囲む必要があります。

詳細

デフォルトでは、SAS Metadata Server にログオンするユーザーは、SAS Metadata Server をホストするオペレーティングシステムによって認証されます。代替認証プロバイダを指定するには、AUTHPROVIDERDOMAIN=システムオプションを使用します。代替認証プロバイダによって検証されるユーザー ID は、*user-ID@domain-name* の形式である必要があります(*user1@sas.com* など)。

それぞれ AUTHPROVIDERDOMAIN=および PRIMARYPROVIDERDOMAIN=システムオプションを使用する認証プロバイダとドメイン名を指定することで、ユーザーは、ユーザー ID にドメイン名接尾辞を使用せずに通常のユーザー ID を使用して SAS Metadata Server にログオンできるようになります。たとえば、次のシステムオプションを指定することで、*user-ID* または *user-ID@mycompany.com* としてログオンするユーザーを、AUTHPROVIDERDOMAIN=システムオプションで指定された認証プロバイダによって検証できます。

```
-authproviderdomain ldap:mycompany -primaryproviderdomain mycompany.com
```

AUTHPROVIDERDOMAIN システムオプションを指定せずに PRIMARYPROVIDERDOMAIN システムオプションを指定すると、認証はホストプロバイダによって実行されます。

比較

Active Directory プロバイダまたはその他の LDAP プロバイダを登録して指定するには、AUTHPROVIDERDOMAIN システムオプションを使用します。主認証プロバイダを指定するには、PRIMARYPROVIDERDOMAIN システムオプションを使用します。

例

次の例は、構成ファイルで主認証プロバイダのドメイン名の定義に使用できるシステムオプションを示します。

Active Directory

```
/* Environment variables that describe your Active Directory server */
-set AD_HOST myhost
/* Define authentication provider */
-authpd ADIR:mycompany.com
-primpd mycompany.com
```

LDAP

```
/* Environment variables that describe your LDAP server */
-set LDAP_HOST myhost
-set LDAP_BASE "ou=emp, o=us"
/* Define authentication provider */
-authpd LDAP:mycompany.com
-primpd mycompany.com
```

関連項目:

- “Direct LDAP Authentication” (*SAS Intelligence Platform: Security Administration Guide*)

システムオプション:

- “AUTHPROVIDERDOMAIN システムオプション” (53 ページ)
- “AUTHSERVER System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)

PRINTERPATH=システムオプション

ユニバーサル印刷に使用する登録済みプリンタの名前を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷

**PROC OPTIONS
GROUP=** ODSPRINT

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

PRINTERPATH=(*'printer-name'* <fileref>)

構文の説明

'printer-name'

コア ⇒ 印刷設定 ⇒ プリンタの下のレジストリエディタで定義されたプリンタのいずれかである必要があります。

要件 *printer name* に空白が含まれる場合、引用符で囲む必要があります。

fileref

ファイル参照名です(省略可能)。ファイル参照名を指定する場合、そのファイル参照名は FILENAME ステートメントまたは外部割り当てで定義されている必要があります。ファイル参照名を指定しない場合、**ファイル** ⇒ **プリンタ設定** を選択し、プリンタ設定ダイアログ ボックスでデフォルトの出力先にプリンタを指定できます。かっこが必要なのは、*fileref* が指定された場合のみです。

詳細

PRINTERPATH=オプションが null 文字列ではない場合、ユニバーサル印刷が使用されます。PRINTERPATH=オプションで有効なユニバーサル印刷プリンタが指定されていない場合、デフォルトのユニバーサルプリンタが使用されます。

比較

関連するシステムオプション SYSPRINT では、印刷に使用されるオペレーティングシステムプリンタを指定します。PRINTERPATH=では、印刷に使用されるユニバーサル印刷プリンタを指定します。

SYSPRINT オプションで指定されたオペレーティングシステムプリンタは、PRINTERPATH="" (間に空白のない 2 個の二重引用符で設定された null 文字列)の場合に使用されます。

例

次の例では、デフォルトとは異なる出力先を指定します。

```
options PRINTERPATH=(corelab out);
filename out 'your_file';
```

動作環境の情報

動作環境によっては、PRINTERPATH=オプションを設定しても PMENU 印刷ボタンの設定が変更されず、引き続き動作環境の印刷が使用されることがあります。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

PRINTERPATH オプションは、DEVICE=システムオプションが SASPRTC、SASPRTRTG、SASPRTM、SASPRT のいずれかに設定されている場合に、ODS PRINTER にのみ使用されます。DEVICE=WINPRTC、WINPRTG または WINPRTM の場合、デバイスはそれぞれ SASPRTC、SASPRTG または SASPRTM として動作します。

関連項目:

- “ODS PRINTER ステートメント” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド)
- “ユニバーサルプリント” (SAS 言語リファレンス: 解説編 15 章)

PRINTINIT システムオプション

SAS プロシジャ出力ファイルを LISTING 出力先用に初期化するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力

**PROC OPTIONS
GROUP=** LISTCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “PRINTINIT System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

PRINTINIT | **NOPRINTINIT**

構文の説明

PRINTINIT

SAS プロシジャ出力ファイルを LISTING 出力先用に初期化し、ファイル属性をリセットするように指定します。

ヒント PRINTINIT を指定すると、出力が生成されていなくても SAS プロシジャ出力ファイルが消去されます。

NOPRINTINIT

新しい出力が生成されない場合、既存のプロシジャ出力ファイルを LISTING 出力先用に保持するように指定します。これがデフォルト設定です。

ヒント NOPRINTINIT を指定すると、新しい出力が生成された場合にのみ、SAS プロシジャ出力ファイルが上書きされます。

詳細

動作環境の情報

PRINTINIT システムオプションの動作は、動作環境によって異なります。詳細については、動作環境向け SAS ドキュメントを参照してください。

PRINTMSGLIST システムオプション

すべてのメッセージを SAS ログに出力するか、トップレベルのメッセージのみを SAS ログに出力するかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ

**PROC OPTIONS
GROUP=** LOGCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

[PRINTMSGLIST](#) | [NOPRINTMSGLIST](#)

構文の説明

PRINTMSGLIST

メッセージのリスト全体を SAS ログに出力するように指定します。
PRINTMSGLIST はデフォルトです。

NOPRINTMSGLIST

トップレベルメッセージのみを SAS ログに出力するように指定します。

詳細

バージョン 7 以降では、リターンコードサブシステムでリターンコードのリストが認められます。一般に、リスト内のメッセージはすべて 1 つのエラー状況に関連しますが、それぞれ異なるレベルの情報を提供します。このオプションにより、メッセージのリスト全体またはトップレベルメッセージのみを表示できます。

関連項目:

“SAS ログ” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

QUOTELENMAX システムオプション

引用符で囲まれた文字列が最大許容長を超えている場合、SAS で警告メッセージを SAS ログに書き込むかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: エラー処理

**PROC OPTIONS
GROUP=** ERRORHANDLING

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

[QUOTELENMAX](#) | [NOQUOTELENMAX](#)

構文の説明

QUOTELENMAX

引用符で囲まれた文字列の最大長について、SAS で警告メッセージを SAS ログに書き込むように指定します。

NOQUOTELENMAX

引用符で囲まれた文字列の最大長について、SAS で警告メッセージを SAS ログに書き込まないように指定します。

詳細

引用符で囲まれた文字列が長すぎる場合、SAS では次の警告が SAS ログに書き込まれます。

```
WARNING 32-169: The quoted string currently being processed has become
more than 262 characters long. You may have unbalanced
quotation marks.
```

実行するプログラムで長い文字列を引用符で囲んで使用しており、この警告を表示しないようにする場合は、NOQUOTELENMAX システムオプションを使用して警告を無効にします。

REPLACE システムオプション

永続的に保存された SAS データセットを置き換えるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル: SAS ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** SASFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

REPLACE | NOREPLACE

構文の説明

REPLACE

永続的に保存された SAS データセットを同じ名前の別の SAS データセットで置き換えられるように指定します。

NOREPLACE

永続的に保存された SAS データセットを同じ名前の別の SAS データセットで置き換えられないように指定します。既存の SAS データセットが誤って置き換えられることを防止します。

詳細

このオプションは、WORKTERM=システムオプションを使用して WORK ライブラリファイルを永続的に保存している場合も含め、WORK ライブラリのデータセットには影響を与えません。

比較

REPLACE=データセットオプションは、REPLACE システムオプションよりも優先されません。

関連項目:

データセットオプション:

- “PARMCARDS= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

システムオプション:

- “[WORKTERM システムオプション](#)” (280 ページ)

REUSE=システムオプション

オブザベーションが圧縮 SAS データセットに追加されたとき、SAS で空き領域を再利用するかどうかを指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
カテゴリ:	ファイル: SAS ファイル
PROC OPTIONS GROUP=	SASFILES
操作:	REUSE=データセットオプションは、REUSE=システムオプションよりも優先されます。
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。

構文

REUSE=Yes | NO

構文の説明

Yes

空き領域を追跡し、オブザベーションが既存の圧縮データセットに追加されたら常に空き領域を再利用するように指定します。

操作 REUSE=YES は、POINTOBS=YES データセットオプション設定よりも優先されます。

COMPRESS=YES および REUSE=YES システムオプション設定を使用すると、オブザベーションをオブザベーション番号で指定できません。

NO

空き領域を追跡しないように指定します。これがデフォルト設定です。

詳細

空き領域が再利用されると、SAS データセットに追加されるオブザベーションは、SAS データセットの最後に追加されるのではなく、十分な空き領域がある場所に挿入されます。

SAS データセット内で多くのオブザベーションを削除または更新する場合、REUSE=NO を指定すると領域の使用効率が下がります。ただし、APPEND プロシジャ、FSEDIT プロシジャ、その他の SAS データセットにオブザベーションを追加するプロシジャでは、引き続き、非圧縮 SAS データセットの場合と同様にオブザベーションがデータセットの最後に追加されます。

圧縮 SAS データセットの作成後に REUSE=属性を変更することはできません。圧縮 SAS データセットの空き領域は、オブザベーションの追加および削除時ではなく、SAS データセット作成時に指定された REUSE=値に従って追跡され、再利用されます。

REUSE=YES の場合でも、APPEND プロシジャでは最後にオブザベーションが追加されます。

関連項目:

データセットオプション:

- “COMPRESS=データセットオプション” (SAS データセットオプション: リファレンス)
- “REUSE=データセットオプション” (SAS データセットオプション: リファレンス)

システムオプション:

- “COMPRESS=システムオプション” (81 ページ)

RIGHTMARGIN=システムオプション

ページの右側の印刷余白を指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
カテゴリ:	ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷
PROC OPTIONS GROUP=	ODSPRINT
デフォルト:デフォルト:	0.00 in
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。

構文

RIGHTMARGIN=*margin-size*<*margin-unit*>

構文の説明

margin-size

余白のサイズを指定します。

制限事項 右の余白は、左右の余白の合計が用紙の幅よりも小さくなるようなサイズで指定する必要があります。

操作 このオプションの値を変更すると、LINESIZE=システムオプションの値が変更される可能性があります。

<*margin-unit*>

余白サイズの単位を指定します。margin-unit には、in(インチ)または cm(センチメートル)を使用できます。<*margin-unit*>は、RIGHTMARGIN システムオプションの値の一部として保存されます。

デフォルト インチ

詳細

すべての余白には、プリンタと用紙サイズに応じた最小値があります。

関連項目:

- ODS ステートメントを使用した ODS プリンタ出力先の宣言の詳細については、*SAS Output Delivery System: ユーザーガイド*を参照してください。

システムオプション:

- “[BOTTOMMARGIN=システムオプション](#)” (58 ページ)
- “[LEFTMARGIN=システムオプション](#)” (151 ページ)
- “[TOPMARGIN=システムオプション](#)” (254 ページ)

RLANG システムオプション

SAS で R 言語ステートメントを実行するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: システム管理: セキュリティ

**PROC OPTIONS
GROUP=** SECURITY

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

RLANG | NORLANG

構文の説明

RLANG

R 言語をサポートする動作環境で、SAS により R 言語ステートメントを実行できることを指定します。

NORLANG

SAS で R 言語ステートメントを実行しないように指定します。これがデフォルト値です。

詳細

RLANG が指定されていて、動作環境で R 言語がサポートされていないと、SAS によりメッセージが SAS ログに書き込まれます。メッセージでは、R 言語がサポートされていないことを示し、SAS テクニカルサポートに問い合わせるように求められます。SAS テクニカルサポートでは、ユーザーが SAS で R 言語ステートメントを実行しようとする動作環境で R 言語がサポートされていないことを追跡します。

関連項目:

SAS/IML User's Guide

RSASUSER システムオプション

SASUSER ライブラリを読み取りアクセスと読み取り/書き込みアクセスのどちらかで開くかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** ENVFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “RSASUSER System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)
“RSASUSER System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)

構文

RSASUSER | NORSASUSER

構文の説明

RSASUSER

SASUSER ライブラリを読み取り専用モードで開きます。

NORSASUSER

SASUSER ライブラリを読み取り/書き込みモードで開きます。

詳細

RSASUSER システムオプションは、すべてのユーザーに 1 つの SASUSER ライブラリを使用していて、ユーザーによるライブラリの変更を防止する場合に役立ちます。ただし、ユーザーが SAS/ASSIST ソフトウェアを使用する場合は、SASUSER ライブラリへの書き込みが要求されるため、実用的ではありません。

動作環境の情報

RSASUSER システムオプション使用時のネットワークに関する考慮事項については、動作環境向け SAS ドキュメントを参照してください。

S=システムオプション

ソースステートメントの各行のステートメント長と DATALINES ステートメント以降の行のデータ長を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール: データ処理

**PROC OPTIONS
GROUP=** INPUTCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

S= *n* | *nK* | *nM* | *nG* | *nT* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n | *nK* | *nM* | *nG* | *nT*

ステートメントとデータの長さを 1(バイト)、1,024(キロバイト)、1,048,576(メガバイト)、1,073,741,824(ギガバイト)、1,099,511,627,776(テラバイト)のいずれかの単位で指定します。たとえば、値 8 では 8 バイト、値 3m では 3,145,728 バイトが指定されます。

hexX

ステートメントとデータの長さを 16 進数で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2dx ではステートメントとデータの長さが 45 に設定されます。

MIN

ステートメントとデータの長さを 0 に設定します。

MAX

ステートメントとデータの長さを 2,147,483,647 に設定します。

詳細

入力は固定長レコードからの場合と可変長レコードからの場合があります。固定長レコードと可変長レコードのどちらも、順序付けられている場合とそうでない場合があります。通し番号の場所は、ファイルレコード形式が固定長か可変長かによって決まりません。

SAS では、入力の通し番号を探すかどうかと、入力の読み取り方法を決定するために S の値を使用します。

レコードの種類	S の値	SAS で通し番号を検索	SAS での入力読み取り方法
固定長	S>0 または S=MAX	いいえ	S の値はスキャンされるソースまたはデータの長さとして使用され、各行でその長さを超える部分はすべて無視されます。

レコードの種類	S の値	SAS で通し番号を検索	SAS での入力読み取り方法
固定長	S=0 または S=MIN	はい(入力の行の最後)	<p>SAS で、最初のシーケンスフィールドの最後の n 列(n は SEQ=システムオプションの値)が調べられます。</p> <p>これらの列に数値が含まれている場合、その数値は通し番号と見なされ、各行の最後の 8 列は無視されます。</p> <p>n 列に数値以外の文字が含まれている場合、SAS により最後の 8 列がデータ列として読み込まれます。</p>
可変長	S>0 または S=MAX	いいえ	<p>S の値はスキャンされるソースまたはデータの開始列として使用され、各行でその長さより前にある部分はすべて無視されます。</p>
可変長	S=0 または S=MIN	はい(入力の行の先頭)	<p>SAS で、最初のシーケンスフィールドの最後の n 列(n は SEQ=システムオプションの値)が調べられます。</p> <p>これらの列に数値が含まれている場合、その数値は通し番号と見なされ、各行の最初の 8 列は無視されます。</p> <p>n 列に数値以外の文字が含まれている場合、SAS により最初の 8 列がデータ列として読み込まれます。</p>

比較

S2=システムオプションが%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルからのみ入力を制御する点を除き、S=システムオプションは S2=システムオプションとまったく同様に動作します。

関連項目:**システムオプション:**

- “S2=システムオプション” (211 ページ)
- “S2V=システムオプション” (213 ページ)
- “SEQ=システムオプション” (216 ページ)

S2=システムオプション

%INCLUDE ステートメント、AUTOEXEC=ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力されるソースステートメントの各行のステートメント長を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール: データ処理

PROC OPTIONS GROUP= INPUTCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

S2= S | n | nK | nM | nG | nT | hexX | MIN | MAX

構文の説明**S**

%INCLUDE ステートメント、AUTOEXEC=ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力されるテキストのレコード長を計算するには、S=システムオプションの現在の値を使用します。

n | nK | nM | nG | nT

%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイル内に指定されたファイル内のステートメントの長さを、1(バイト)、1,024(キロバイト)、1,048,576(メガバイト)、1,073,741,824(ギガバイト)、1,099,511,627,776 (テラバイト)のいずれかの単位で指定します。たとえば、値 8 では 8 バイト、値 3m では 3,145,728 バイトが指定されます。

hexX

ステートメントの長さを 16 進数で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 2dx ではステートメントの長さが 45 に設定されます。

MIN

ステートメントとデータの長さを 0 に設定します。

MAX

ステートメントとデータの長さを 2,147,483,647 に設定します。

詳細

入力は固定長レコードからの場合と可変長レコードからの場合があります。固定長レコードと可変長レコードのどちらも、順序付けられている場合とそうでない場合があります。

ます。通し番号の場所は、ファイルレコード形式が固定長か可変長かによって決まります。

SAS では、入力の通し番号を探すかどうかと、入力の読み取り方法を決定するために S2 の値を使用します。

レコードの種類	S2 の値	SAS で通し番号を検索	SAS での入力読み取り方法
固定長	S2>0 または S2=MAX	いいえ	S2 の値はスキャンされるソースまたはデータの長さとして使用され、各行でその長さを超える部分はすべて無視されます。
固定長	S2=0 または S2=MIN	はい(入力の行の最後)	SAS で、最初のシーケンスフィールドの最後の n 列(n は SEQ=システムオプションの値)が調べられます。 これらの列に数値が含まれている場合、その数値は通し番号と見なされ、各行の最後の 8 列は無視されます。 n 列に数値以外の文字が含まれている場合、SAS により最後の 8 列がデータ列として読み込まれます。
可変長	S2>0 または S2=MAX	いいえ	S2 の値はスキャンされるソースまたはデータの開始列として使用され、各行でその長さより前にある部分はすべて無視されます。

レコードの種類	S2 の値	SAS で通し番号を検索	SAS での入力読み取り方法
可変長	S2=0 または S2=MIN	はい(入力の行の先頭)	SAS で、最初のシーケンスフィールドの最後の <i>n</i> 列(<i>n</i> は SEQ=システムオプションの値)が調べられます。 これらの列に数値が含まれている場合、その数値は通し番号と見なされ、各行の最初の 8 列は無視されます。 <i>n</i> 列に数値以外の文字が含まれている場合、SAS により最初の 8 列がデータ列として読み込まれます。

比較

S2=システムオプションが%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルからの入力を制御する点を除き、S2=システムオプションは S=システムオプションとまったく同様に動作します。

S2=システムオプションでは、%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルで指定されたファイルから、固定長レコード形式と可変長レコード形式の両方を読み込みます。S2V=システムオプションでは、%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルで指定されたファイルから、可変長レコード形式のみを読み込みます。

関連項目:

システムオプション:

- “S=システムオプション” (208 ページ)
- “S2V=システムオプション” (213 ページ)
- “SEQ=システムオプション” (216 ページ)

S2V=システムオプション

%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルに指定されたファイルを、可変長レコード形式で読み取る場合の読み取り開始位置を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール: データ処理

PROC OPTIONS INPUTCONTROL
GROUP=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

S2V= S2 | S | n | nK | nM | nG | nT | MIN | MAX | hexX

構文の説明

S2

S2=システムオプションの現在の値を使用して、%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力される可変長レコードの読み取り開始位置を計算するように指定します。これがデフォルト設定です。

S

S=システムオプションの現在の値を使用して、%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力される可変長レコードの読み取り開始位置を計算するように指定します。

n | nK | nM | nG | nT

%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力される可変長レコードの読み取り開始位置を、1(バイト)、1,024(キロバイト)、1,048,576(メガバイト)、1,073,741,824(ギガバイト)、1,099,511,627,776 (テラバイト)のいずれかの単位で指定します。たとえば、値 8 では 8 バイト、値 3m では 3,145,728 バイトが指定されます。

MIN

%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力される可変長レコードの読み取り開始位置を 0 に設定します。

MAX

%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力される可変長レコードの読み取り開始位置を 2,147,483,647 に設定します。

hexX

%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力される可変長レコードの読み取り開始位置を 16 進数で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が X の値を指定する必要があります。

詳細

S2V=システムオプションと S2=システムオプションの両方で、%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力される可変長レコードの読み取り開始位置が指定されます。両方のオプションの値が指定されると、S2V=システムオプションの値が S2=システムオプションに指定された値よりも優先されます。

比較

S2=システムオプションでは、%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力される固定長レコード形式と可変長レコード形式の両方の読み取り開始位置を指定します。S2V=システムオプションでは、%INCLUDE ステートメント、自動実行ファイルまたは自動呼び出しマクロファイルから入力される可変長レコード形式のみの読み取り開始位置を指定します。

関連項目:

システムオプション:

- “S=システムオプション” (208 ページ)
- “S2=システムオプション” (211 ページ)
- “SEQ=システムオプション” (216 ページ)

SASHELP=システムオプション

SASHELP ライブラリの場所を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: ファイル

PROC OPTIONS GROUP= ENVFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

ヒント: APPEND または INSERT システムオプションを使用すると、さらに *library-specifications* を追加できます。

参照項目: “SASHELP System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)
“SASHELP System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)
“SASHELP= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

SASHELP=*library-specification*

構文の説明

library-specification

外部ライブラリを示します。

詳細

SASHELP=システムオプションは、インストールプロセス中に設定し、通常、インストール後は変更しません。

動作環境の情報

有効な外部ライブラリ仕様は、動作環境に固有です。コマンドラインまたは構成ファイルでは、動作環境に固有の構文を使用します。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

関連項目:

システムオプション:

- “APPEND=システムオプション” (50 ページ)
- “INSERT=システムオプション” (141 ページ)

SASUSER=システムオプション

SASUSER ライブラリとして使用する SAS ライブラリを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** ENVFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “SASUSER System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments),
“SASUSER System Option: Windows” (SAS Companion for Windows),
“SASUSER= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

SASUSER=*library-specification*

構文の説明

library-specification

ユーザーの PROFILE カタログが含まれるライブラリ参照名または物理名を指定します。

詳細

ライブラリとカタログは SAS により自動的に作成されるため、明示的に作成する必要はありません。

SEQ=システムオプション

入力ソース行またはデータ行に含まれるシーケンスフィールドの数値部分の長さを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール: データ処理

**PROC OPTIONS
GROUP=** INPUTCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

SEQ=*n* | MIN | MAX | *hexX*

構文の説明

n

長さをバイト単位で指定します。

MIN

最小長を 1 に設定します。

MAX

最大長を 8 に設定します。

ヒント SEQ=8 の場合、シーケンスフィールドの 8 文字すべてが数値と見なされません。

hexX

長さを 16 進値で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が X の値を指定する必要があります。

詳細

S=または S2=システムオプションで別途指定しない限り、SAS では 8 文字のシーケンスフィールドを想定します。ただし、エディタによっては、何らかの英字情報(ファイル名など)を最初の数文字に設定することがあります。SEQ=値では、8 文字フィールド内で右揃えされる桁数を指定します。たとえば、シーケンスフィールド AAA00010 に SEQ=5 を指定すると、SAS では 8 文字のシーケンスフィールドの最後の 5 文字のみを参照し、文字が数値の場合、8 文字全体をシーケンスフィールドとして処理します。

関連項目:

システムオプション:

- “S=システムオプション” (208 ページ)
- “S2=システムオプション” (211 ページ)

SETINIT システムオプション

サイトライセンス情報を変更できるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: システム管理: インストール

**PROC OPTIONS
GROUP=** INSTALL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

SETINIT | NOSETINIT

構文の説明

SETINIT

ウィンドウ環境以外で、SETINIT プロシジャを実行してライセンス情報を変更できることを指定します。

NOSETINIT

インストール後、サイトライセンス情報を変更できないことを指定します。

詳細

SETINIT は、インストールプロセスで設定され、通常、インストール後は変更されません。SETINIT オプションは、ウィンドウ SAS セッション以外でのみ有効です。

SKIP=システムオプション

LISTING 出力先への SAS 出力の各ページ先頭でスキップする行数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力

**PROC OPTIONS
GROUP=** LISTCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション \(6 ページ\)](#)”を参照してください。

構文

SKIP= *n* | MIN | MAX | *hexX*

構文の説明

n

スキップする行の範囲を 0~20 に設定します。

MIN

スキップする行数を 0 に設定します。行はスキップされません。

MAX

スキップする行数を 20 に設定します。

hex

スキップする行数を 16 進数で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 0ax では 10 行スキップするように指定されます。

詳細

第 1 行目は、プリンタのキャリッジ制御または用紙制御バッファによって決められた位置に対して相対的に配置されます。多くのサイトでは、用紙の上端から 3 行または 4 行下がった位置から新しいページの第 1 行目が開始するように定義しています。この間隔が十分な場合、それ以上の行がスキップされないように SKIP=0 を指定します。

SKIP=値は、PAGESIZE=システムオプションで制御される各ページの最大印刷行数には影響しません。

SOLUTIONS システムオプション

SAS ウィンドウにソリューションメニューを含めるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: 表示

**PROC OPTIONS
GROUP=** ENVDISPLAY

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

SOLUTIONS | NOSOLUTIONS

構文の説明

SOLUTIONS

SAS ウィンドウにソリューションメニューを含めることを指定します。

NOSOLUTIONS

SAS ウィンドウにソリューションメニューを含めないことを指定します。

SORTDUP=システムオプション

SORT プロシジャで、データセット内のすべての変数、または DROP または KEEP データセットオプションの適用後も残っている変数に基づいて、重複した変数を削除するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 並べ替え: プロシジャオプション

**PROC OPTIONS
GROUP=** SORT

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

SORTDUP=PHYSICAL | LOGICAL

構文の説明

PHYSICAL

データセットに存在するすべての変数に基づいて重複を削除します。これがデフォルト設定です。

LOGICAL

DROP=および KEEP=データセットオプションが処理された後も残っている変数のみに基づいて重複を削除します。

詳細

SORTDUP=オプションでは、SORT プロシジャの NODUPRECS オプションが指定されているときに、重複したオブザベーションを削除するために並べ替え基準にする変数を指定します。

SORTDUP=が LOGICAL に指定され、SORT プロシジャで NODUPRECS が指定されていると、重複したオブザベーションは、入力データセットに対する DROP または KEEP 操作の後に残った変数に基づいて削除されます。SORTDUP=LOGICAL と設定すると、オブザベーションが比較される前に変数が除外されるため、削除される重複オブザベーション数が増えます。SORTDUP=LOGICAL を設定すると、処理速度が向上する可能性があります。

SORTDUP=が PHYSICAL に指定され、SORT プロシジャで NODUPRECS が指定されていると、重複したオブザベーションは、入力データセット内のすべての変数に基づいて削除されます。

関連項目:

プロシジャ:

- 48 章: “SORT プロシジャ” (Base SAS プロシジャガイド)

SORTEQUALS システムオプション

出力データセット内の同一 BY 変数値を持つオブザベーションが特定の順序で並べられているかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 並べ替え: プロシジャオプション

**PROC OPTIONS
GROUP=** SORT

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

SORTEQUALS | NOSORTEQUALS

構文の説明

SORTEQUALS

同一 BY 変数値を持つオブザベーションが、出力データセット内で入力データセット内と同じ相対位置を保持するかどうかを指定します。

NOSORTEQUALS

出力データセット内の同一 BY 変数値を持つオブザベーションの順序コントロールにリソースを使用しないように指定します。

操作 THREADS=システムオプションの使用時に最適な並べ替え処理速度を実現するには、THREADS=YES と NOSORTEQUALS を指定します。

ヒント リソースを節約するには、同一 BY 変数値を持つオブザベーションを特定の順序に維持する必要がない場合、NOSORTEQUALS を使用します。

比較

SORTEQUALS および NOSORTEQUALS システムオプションは、SAS セッションでの PROC SORT の並べ替え動作を設定します。PROC SORT ステートメントの EQUAL または NOEQUAL オプションは、個々の PROC ステップのシステムオプションの設定より優先され、その PROC ステップのみの並べ替え動作を指定します。

関連項目:

プロシジャステートメントオプション:

- PROC SORT ステートメントの EQUALS オプション、“SORT プロシジャ” (Base SAS プロシジャガイド)

システムオプション:

- “THREADS システムオプション” (252 ページ)

SORTSIZE=システムオプション

SORT プロシジャで使用できるメモリ量を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 並べ替え: プロシジャオプション

システム管理: メモリ

システム管理: 処理速度

PROC OPTIONS GROUP= MEMORY
PERFORMANCE
SORT

参照項目: “SORTSIZE System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)
“SORTSIZE System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)
“SORTSIZE= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

SORTSIZE= *n* | *nK* | *nM* | *nG* | *nT* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n* | *nK* | *nM* | *nG* | *nT

メモリ量を 1(バイト)、1,024(キロバイト)、1,048,576(メガバイト)、1,073,741,824(ギガバイト)、1,099,511,627,776(テラバイト)のいずれかの単位で指定します。たとえば、値 4000 では 4,000 バイト、値 2m では 2,097,152 バイトが指定されます。*n*=0 のとき、並べ替えユーティリティではデフォルトが使用されます。SORTSIZE の有効値の範囲は 0~9,223,372,036,854,775,807 です。

hexX

メモリ量を 16 進数で指定します。この数値は、先頭が数値(0~9)、末尾が X である必要があります。たとえば、0ffffx では、4095 バイトのメモリが指定されます。

MIN

使用可能な最小メモリ量を指定します。

参照項目 MIN の値は、動作環境によって異なります。詳細については、動作環境向け SAS ドキュメントを参照してください。

MAX

使用可能な最大メモリ量を指定します。

参照項目 MAX の値は、動作環境によって異なります。詳細については、動作環境向け SAS ドキュメントを参照してください。

詳細

一般に、SORTSIZE=システムオプションの値は、プロセスで使用可能な物理メモリよりも小さくする必要があります。SORT プロシジャが、指定した値よりも多くのメモリを必要とする場合、システムで一時的なユーティリティファイルが作成されます。

処理速度に関する注意事項: SORTSIZE=を適切に指定すると、動作環境で制御されるメモリのスワップを制限して、並べ替えの処理速度を向上させることができます。

関連項目:**プロシジャ:**

- “SORT プロシジャ” (Base SAS プロシジャガイド)

システムオプション:

- “SUMSIZE=システムオプション” (231 ページ)

SORTVALIDATE システムオプション

ユーザー指定の並べ替え順序が並べ替えインジケータに指示されている場合、SORT プロシジャで、データセットが BY ステートメント内の変数に従って並べ替えられていることを検証するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 並べ替え: プロシジャオプション

PROC OPTIONS GROUP= SORT

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

SORTVALIDATE | NOSORTVALIDATE

構文の説明

SORTVALIDATE

SORT プロシジャで、データセット内のオブザベーションが BY ステートメントに指定された変数を基準にして並べ替えられているかどうかを検証するように指定します。

NOSORTVALIDATE

SORT プロシジャで、データセット内のオブザベーションが並べ替えられているか検証しないように指定します。これがデフォルト設定です。

詳細

SORTVALIDATE システムオプションを使用すると、データセットの並べ替えインジケータがユーザー指定の並べ替え順序を示しているときに、SORT プロシジャで、データセットが正しく並べ替えられていることを検証するかどうかを指定できます。ユーザーは、DATA ステートメントで SORTEDBY=データセットオプションを使用するか、DATASETS プロシジャの MODIFY ステートメントで SORTEDBY=オプションを使用して、並べ替え順序を指定できます。並べ替えインジケータをユーザーが設定すると、データセットが BY ステートメントの変数に従って並べ替えられているかどうかは SAS ではわかりません。

SORTVALIDATE システムオプションが設定され、データセット並べ替えインジケータがユーザーによって設定された場合、SORT プロシジャでは各オブザベーションに対してシーケンスチェックを実行し、データセットが BY ステートメントの変数に従って並べ替えられていることを確認します。データセットが正しく並べ替えられていない場合、SAS によりデータセットが並べ替えられます。

シーケンスチェックが正常に行われたか、並べ替えが終了すると、SORT プロシジャにより**バリデート済み**並べ替え情報が「はい」に設定されます。並べ替えが実行されると、SORT プロシジャは**ソート順**並べ替え情報を BY ステートメントに指定された変数に設定します。

出力データセットが指定されている場合、出力データセットの**バリデート済み**並べ替え情報が「はい」に設定されます。並べ替えが必要ない場合、データセットが出力データセットにコピーされます。

関連項目:

- “並べ替えられたデータセット” (SAS 言語リファレンス: 解説編 25 章)

データセットオプション:

- “SORTEDBY=データセットオプション” (SAS データセットオプション: リファレンス)

プロシジャ:

- “DATASETS プロシジャ” (Base SAS プロシジャガイド)
- “SORT プロシジャ” (Base SAS プロシジャガイド)

SOURCE システムオプション

SAS により、ソースステートメントを SAS ログに書き込むかどうかを指定します。

- 該当要素:** 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
- カテゴリ:** ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ

PROC OPTIONS LOGCONTROL
GROUP=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

[SOURCE](#) | [NOSOURCE](#)

構文の説明

SOURCE

SAS ソースステートメントを SAS ログに書き込むように指定します。

NOSOURCE

SAS ソースステートメントを SAS ログに書き込まないように指定します。

詳細

SOURCE システムオプションは、%INCLUDE で読み込まれたファイルから、または自動呼び出しマクロからのステートメントが SAS ログに出力されるかどうかには影響を与えません。

注: SOURCE は、問題の判別と解決のために SAS に送信する SAS プログラムを実行するときに、有効になっている必要があります。

関連項目:

“SAS ログ” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

SOURCE2 システムオプション

SAS により、インクルードされたファイルから 2 次ソースステートメントを SAS ログに書き込むかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SAS ログ

PROC OPTIONS LOGCONTROL
GROUP=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

[SOURCE2](#) | [NOSOURCE2](#)

構文の説明

SOURCE2

%INCLUDE ステートメントでインクルードされたファイルから 2 次ソースステートメントを SAS ログに書き込むように指定します。

NOSOURCE2

2 次ソースステートメントを SAS ログに書き込まないように指定します。

詳細

注: SOURCE2 は、問題の判別と解決のために SAS に送信する SAS プログラムを実行するときに、有効になっている必要があります。

関連項目:

“SAS ログ” (SAS 言語リファレンス: 解説編 9 章)

SPOOL システムオプション

SAS ステートメントを WORK ライブラリ内のユーティリティデータセットに書き込むかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール: データ処理

**PROC OPTIONS
GROUP=** INPUTCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

SPOOL | NOSPOOL

構文の説明**SPOOL**

SAS によりステートメントを WORK ライブラリのユーティリティデータセットに書き込み、後で%INCLUDE または%LIST ステートメント、あるいはウィンドウ環境内の RECALL コマンドで使用できるようにします。

NOSPOOL

SAS でステートメントをユーティリティデータセットに書き込まないように指定します。NOSPOOL を指定すると実行時間が速くなりますが、%INCLUDE および%LIST ステートメントを使用して、セッション内で以前に実行された SAS ステートメントを再サブミットすることはできません。

例

SPOOL を指定すると、行番号でコード行を参照して再サブミットできるため、対話型行モードで特に役立ちます。行番号を含むコード例を次に示します。

```
00001 data test;
00002 input w x y z;
00003 datalines;
00004 411.365 101.945 323.782 512.398
00005 ;
```

SPOOL が有効な場合、次のステートメントをサブミットして行番号 1 を再サブミットできます。

```
%inc 1;
```

行番号の間にコロン(:)またはダッシュ(-)を入れることで行の範囲を再サブミットすることもできます。たとえば、次のステートメントでは上記の例の行 1~3 と 4~5 を再サブミットします。

```
%inc 1:3;
```

```
%inc 4-5;
```

STARTLIB システムオプション

SAS の起動時にユーザー定義の永久ライブラリ参照名を割り当てるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ファイル: 外部ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** EXTFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

STARTLIB | NOSTARTLIB

構文の説明

STARTLIB

SAS の起動時にユーザー定義の永久ライブラリ参照名を割り当てるように指定します。STARTLIB は、ウィンドウ環境のデフォルトです。

NOSTARTLIB

SAS の起動時にユーザー定義の永久ライブラリ参照名を割り当てないように指定します。NOSTARTLIB は、バッチモード、対話型ラインモードおよび非対話型モードのデフォルトです。

詳細

ライブラリの新規作成ウィンドウを使用して**起動時に有効**チェックボックスを選択することで、ウィンドウ環境のみで永久ライブラリ参照名が割り当てられます。SAS は永久ライブラリ参照名を SAS レジストリに保存します。**ライブラリの新規作成**ウィンドウを開くには、**エクスプローラ**ウィンドウで**ライブラリ**を右クリックし、**新規作成**を選択します。または、コマンドボックスに DMLIBASSIGN と入力します。

ウィンドウ環境では STARTLIB がデフォルトのため、SAS の起動時に自動的に永久ライブラリ参照名が割り当てられます。

その他すべての実行モード(バッチ、対話型ラインおよび非対話型)では、コマンドラインまたは構成ファイルで STARTLIB オプションを指定して SAS を起動した場合のみ永久ライブラリ参照名が割り当てられます。

STEPCHKPT システムオプション

DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データをバッチプログラムで記録するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: エラー処理

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING

制限事項: STEPCHKPT システムオプションは、SAS の起動時に LABELCHKPT システムオプションが指定されていない場合にのみ指定できます。

要件 このオプションは、バッチモードでのみ使用できます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション \(6 ページ\)](#)”を参照してください。

構文

STEPCHKPT | NOSTEPCHKPT

構文の説明

STEPCHKPT

チェックポイントモードを有効にし、DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データが記録されるように指定します。

NOSTEPCHKPT

チェックポイントモードを無効にし、チェックポイント-再開データが記録されないように指定します。これがデフォルト設定です。

詳細

STEPCHKPT システムオプションを使用することで、バッチで実行する SAS プログラムで SAS がチェックポイントモードになります。DATA ステップまたは PROC ステップが実行されるたびに、SAS はチェックポイント-再開ライブラリにデータを記録します。プログラムが完了せずに終了した場合、そのプログラムを再サブミットできます。プログラムが終了されたときに実行していたステップで実行が開始されます。

チェックポイント-再開データを確実に正確にするには、STEPCHKPT オプションを指定するときに ERRORCHECK STRICT オプションも指定して ERRORABEND オプションを設定します。これにより、ほとんどのエラーが発生した場合に SAS が終了されます。

チェックポイントモードは、SAS にコマンドをサブミットする DM ステートメントを含むバッチプログラムでは無効です。チェックポイントモードが有効になっていて SAS で DM ステートメントが検出された場合、チェックポイントモードが無効にされ、チェックポイントカタログエントリが削除されます。

比較

STEPCHKPT システムオプションは、完了前に終了したバッチプログラムで DATA ステップと PROC ステップのチェックポイントモードを有効にします。エラーが発生したときに実行されていた DATA ステップまたは PROC ステップで実行が再開されます。

LABELCHKPT システムオプションは、完了前に終了したバッチプログラムでラベル付きコードセクションのチェックポイントモードを有効にします。エラーが発生したときに実行されていたラベル付きコードセクションで実行が再開されます。

関連項目:

- “チェックポイントモードと再起動モード” (SAS 言語リファレンス: 解説編 8 章)

ステートメント:

- “CHECKPOINT EXECUTE_ALWAYS ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)

システムオプション:

- “CHKPTCLEAN システムオプション” (72 ページ)
- “ERRORABEND システムオプション” (112 ページ)
- “ERRORCHECK=システムオプション” (114 ページ)
- “LABELCHKPT システムオプション” (146 ページ)
- “STEPCHKPTLIB=システムオプション” (228 ページ)
- “STEPRESTART システムオプション” (230 ページ)

STEPCHKPTLIB=システムオプション

DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データを保存するライブラリのライブラリ参照名を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: エラー処理

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING

制限事項: STEPCHKPTLIB システムオプションは、SAS の起動時に LABELCHKPT システムオプションが指定されていない場合にのみ指定できます。

要件 このオプションは、バッチモードでのみ使用できます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

STEPCHKPTLIB=*libref*

構文の説明

libref

DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データを保存するライブラリを識別するライブラリ参照名を指定します。

デフォルト Work
ト

要件 チェックポイント-再開ライブラリを識別する LIBNAME ステートメントは、BASE エンジンを使用し、バッチプログラムの最初のステートメントである必要があります。

詳細

STEPCHKPT システムオプションが指定されている場合、バッチプログラムでのチェックポイント-再開データは、STEPCHKPTLIB=システムオプションで指定されたライブラリ参照名に保存されます。ライブラリ参照名が指定されていない場合、SAS は Work ライブラリを使用してチェックポイントデータを保存します。ライブラリ参照名を定義する LIBNAME ステートメントは、バッチプログラムの最初のステートメントである必要があります。

チェックポイントデータの保存に Work ライブラリを使用する場合、NOWORKTERM および NOWORKINIT システムオプションを指定する必要があります。これにより、バッチプログラムが再サブミットされたときにチェックポイント-再開データが使用可能になります。これら 2 つのオプションによって、Work ライブラリが確実に SAS の終了時に保存され、SAS の起動時に復元されます。NOWORKTERM オプションが指定されていない場合、Work ライブラリは SAS セッションの最後に削除され、チェックポイント-再開データは失われます。NOWORKINIT オプションが指定されていない場合、新しい Work ライブラリが SAS の起動時に作成され、この場合もチェックポイント-再開データは失われます。

STEPCHKPTLIB=オプションは、Work ライブラリに保存されないチェックポイント-再開データにアクセスする、すべての SAS セッションで指定する必要があります。

動作環境の情報

Work ライブラリが UNIX または z/OS 動作環境の UNIX ディレクトリ内に存在している CLEANWORK ユーティリティを実行する場合、Work ライブラリディレクトリとその内容は、SAS セッションの終了後にユーティリティが実行されたときに削除されます。z/OS 動作環境で SAS をバッチモードで実行する場合、通常、Work ライブラリは SAS ジョブの最後に削除される一時データセットに割り当てられます。このような場合にチェックポイント-再開データを保持するには、STEPCHKPTLIB オプションの値に永久ライブラリを指定します。

比較

STEPCHKPT システムオプションが設定されている場合、STEPCHKPTLIB システムオプションによって指定されたライブラリで、DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データを保存するライブラリ名が指定されます。STEPRESTART システムオプションが設定されている場合、STEPCHKPTLIB システムオプションによって指定されたライブラリで、DATA ステップと PROC ステップの実行の再開に使用されるチェックポイント-再開データのライブラリ名が指定されます。

LABELCHKPT システムオプションが設定されている場合、LABELCHKPTLIB システムオプションによって指定されたライブラリで、ラベル付きコードセクションのチェックポイント-再開データを保存するライブラリ名が指定されます。LABELRESTART システムオプションが設定されている場合、LABELCHKPTLIB システムオプションによって指定されたライブラリで、ラベル付きコードセクションの実行の再開に使用されるチェックポイント-再開データのライブラリ名が指定されます。

関連項目:

- “チェックポイントモードと再起動モード” (SAS 言語リファレンス: 解説編 8 章)

ステートメント:

- “CHECKPOINT EXECUTE_ALWAYS ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)

システムオプション:

- “LABELCHKPT システムオプション” (146 ページ)
- “LABELCHKPTLIB=システムオプション” (148 ページ)
- “STEPCHKPT システムオプション” (227 ページ)
- “STEPRESTART システムオプション” (230 ページ)
- “WORKINIT システムオプション” (279 ページ)
- “WORKTERM システムオプション” (280 ページ)

STEPRESTART システムオプション

DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データを使用して、バッチプログラムを実行するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: エラー処理

PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING

制限事項: STEPRESTART システムオプションは、SAS の起動時に LABELCHKPT システムオプションが指定されていない場合にのみ指定できます。

要件 このオプションは、バッチモードでのみ使用できます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

STEPRESTART | NOSTEPRESTART

構文の説明

STEPRESTART

再開モードを有効にし、DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データを使用してバッチプログラムが実行されるように指定します。

NOSTEPRESTART

再開モードを無効にし、チェックポイント-再開データを使用してバッチプログラムが実行されないように指定します。

詳細

チェックポイントモードで実行して完了前に終了したバッチプログラムを再サブミットするときに、STEPRESTART オプションを指定します。バッチプログラムを再サブミットすると、SAS が DATA ステップまたは PROC ステップで実行されていたチェックポイントデータからプログラムの終了時点を判断し、その DATA ステップまたは PROC ステップを使用してバッチプログラムの実行を再開します。

比較

STEPRESTART オプションを指定すると、DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データを使用してバッチプログラムの実行が再開されます。

LABELRESTART オプションを指定すると、ラベル付きコードセクションのチェックポイント-再開データを使用してバッチプログラムの実行が再開されます。

関連項目:

- “チェックポイントモードと再起動モード” (SAS 言語リファレンス: 解説編 8 章)

ステートメント:

- “CHECKPOINT EXECUTE_ALWAYS ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)

システムオプション:

- “CHKPTCLEAN システムオプション” (72 ページ)
- “LABELCHKPT システムオプション” (146 ページ)
- “LABELRESTART システムオプション” (149 ページ)
- “STEPCHKPT システムオプション” (227 ページ)
- “STEPCHKPTLIB=システムオプション” (228 ページ)

SUMSIZE=システムオプション

分類変数がアクティブな場合にデータ要約プロシジャで使用可能なメモリ量の制限を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: システム管理: メモリ

**PROC OPTIONS
GROUP=** MEMORY

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

SUMSIZE= *n* | *nK* | *nM* | *nG* | *nT* | *hexX* | MIN | MAX

構文の説明

n | *nK* | *nM* | *nG* | *nT*

メモリ量を 1 (バイト)、1,024 (キロバイト)、1,048,576 (メガバイト)、1,073,741,824 (ギガバイト)、1,099,511,627,776 (テラバイト)のいずれかの単位で指定します。*n*=0 (デフォルト値)の場合、メモリ量は MEMSIZE オプションと REALMEMSIZE オプションの値によって決定されます。SUMSIZE の有効な値の範囲は $0 \sim 2^{(n-1)}$ です。*n* はオペレーティングシステムのビット(32 または 64)でのデータ幅です。

hexX

メモリ量を 16 進数で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 0fffX では 4,095 バイトのメモリが指定されます。

MIN

使用可能な最小メモリ量を指定します。

MAX

使用可能な最大メモリ量を指定します。

詳細

SUMSIZE=システムオプションは、MEANS、OLAP、REPORT、SUMMARY、SURVEYFREQ、SURVEYLOGISTIC、SURVEYMEANS、TABULATE プロシジャに影響します。

SUMSIZE=を適切に指定すると、動作環境によって制御されるメモリのスワップを制限して、プロシジャの処理速度を向上させることができます。

一般に、SUMSIZE=システムオプションの値は、プロセスで使用可能な物理メモリよりも小さくする必要があります。使用しているプロシジャが指定した値よりも多くのメモリを必要とする場合、システムで一時的なユーティリティファイルが作成されます。

SUMSIZE の値が MEMSIZE オプションと REALMEMSIZE オプションの値よりも大きい場合、SAS は MEMSIZE オプションと REALMEMSIZE オプションの値を使用します。

関連項目:**システムオプション:**

- “MEMSIZE System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)
- “MEMSIZE System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)
- “REALMEMSIZE System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)
- “REALMEMSIZE System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)
- “REALMEMSIZE= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)
- “SORTSIZE=システムオプション” (221 ページ)

SVGCONTROLBUTTONS

複数ページの SVG ドキュメントにページ制御ボタンとインデックスを表示するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SVG

PROC OPTIONS SVG

GROUP=

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

SVGCONTROLBUTTONS | NOSVGCONTROLBUTTONS

構文の説明

SVGCONTROLBUTTONS

SVG ドキュメントにページ制御ボタンを表示するように指定します。

NOSVGCONTROLBUTTONS

SVG ドキュメントにページ制御ボタンを表示しないように指定します。これがデフォルト設定です。

詳細

SVGCONTROLBUTTONS が指定されている場合、SVG ドキュメントのページを制御するスクリプトが含まれるため、SVG のサイズが増加します。

SVGView プリンタではオプションを SVGCONTROLBUTTONS に設定します。

SVGHEIGHT=システムオプション

SVG 出力が別の SVG 出力に埋め込まれていない場合のビューポートの高さを指定します。SVG ファイルの最も外側の<svg>要素の height 属性で値を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SVG

PROC OPTIONS SVG

GROUP=

制限事項: SVGHEIGHT=オプションでは、最も外側の<svg>要素でのみ height 属性を設定します。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

SVGHEIGHT= *number-of-units*<*unit-of-measure*> | "" | "

構文の説明

number-of-units

unit-of-measure の数値で高さを指定します。

要件 *number-of-units* は正の整数値にする必要があります。

操作 *number-of-units* が負の数の場合、SVG ドキュメントはブラウザに表示されません。

unit-of-measure

次のいずれかの測定単位を指定します。

%	percentage
cm	センチメートル
em	要素のフォントの高さ
ex	文字 x の高さ
in	インチ

mm ミリメートル
 pc パイカ
 pt ポイント
 px ピクセル

デフォルト px

""|"

高さをデフォルト値の 600 ピクセルにリセットするように指定します。

要件 間に空白を含まない 2 つの二重引用符または 2 つの一重引用符を使用します。

詳細

埋め込まれた<svg>要素の場合、SVGHEIGHT=オプションでは<svg>要素が含まれる四角形の高さを指定します。SVG 出力は、SVGHEIGHT="100%"の場合はviewBox に合うようにサイズが調整されます。

SVGHEIGHT=オプションが指定されていない場合、<svg>要素の height 属性は設定されず、100%の高さを使用して完全なスケーラビリティを提供します。

SVGHEIGHT=オプションの値は、区切り文字を使用せず、一重引用符か二重引用符またはかっこで囲んで指定できます。

例

次の OPTIONS ステートメントでは、SVG 出力を縦のレターサイズに設定し、ビューポートの 100%に調整するように指定します

```
options printerpath=svg orientation=portrait svgheight="100%" svgwidth="100%" papersize=letter
```

これらのオプション値を使用した場合、SAS によって次の<svg>要素が作成されます。

```
<svg> xmlns="http://www.w3.org/2000/svg"
xmlns:xlink="http://www.w3.org/1999/xlink"
xml:space="preserve"
onload='Init(evt)' version="1.1"
width="100%" height="100%"
viewBox="-1 -1 817 1057"
</svg>
```

SVGHEIGHT=オプションの値を"100%"にすると、SVG 出力の高さが PAPERSIZE=オプションの値に基づいてビューポートの 100%に調整するように指定されます。用紙サイズは縦方向のレターサイズ(100 dpi で高さは 11 インチ)です。

関連項目:

- “SAS システムオプションの使用” (4 ページ)
- 14 章: “SAS レジストリ” (SAS 言語リファレンス: 解説編)
- “ユニバーサルプリントを用いた SVG (Scalable Vector Graphics)ファイルの作成” (SAS 言語リファレンス: 解説編 15 章)

システムオプション:

- “SVGCONTROLBUTTONS” (232 ページ)
- “SVGPRESERVEASPECTRATIO=システムオプション” (235 ページ)
- “SVGTITLE=システムオプション” (238 ページ)
- “SVGVIEWBOX=システムオプション” (239 ページ)
- “SVGWIDTH=システムオプション” (241 ページ)
- “SVGX=システムオプション” (243 ページ)
- “SVGY=システムオプション” (244 ページ)

SVGPRESERVEASPECTRATIO=システムオプション

SVG 出力の均一スケールを強制するかどうかを指定します。最も外側の<svg>要素で preserveAspectRatio 属性を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SVG

PROC OPTIONS GROUP= SVG

制限事項: SVGPRESERVEASPECTRATIO=オプションでは、最も外側の<svg>要素でのみ preserveAspectRatio 属性を設定します。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

SVGPRESERVEASPECTRATIO=*align* | *meetOrSlice* | NONE | ""

SVGPRESERVEASPECTRATIO="*align meetOrSlice*"

構文の説明

align

使用する配置方法を指定して均一スケールを強制するように指定します。*align* の値には、次のいずれかを指定できます。

xMinYMin

次の配置を使用して均一スケールを強制するように指定します。

- 要素の viewBox の<min-x>をビューポートの最小の X 値に合わせて配置します。
- 要素の viewBox の<min-y>をビューポートの最小の Y 値に合わせて配置します。

xMidYMin

次の配置を使用して均一スケールを強制するように指定します。

- 要素の viewBox の中間点の X 値をビューポートの中間点の X 値に合わせて配置します。
- 要素の viewBox の<min-y>をビューポートの最小の Y 値に合わせて配置します。

xMaxYMin

次の配置を使用して均一スケールを強制するように指定します。

- 要素の `viewBox` の `<min-x>+<width>` をビューポートの最大の X 値に合わせて配置します。
- 要素の `viewBox` の `<min-y>` をビューポートの最小の Y 値に合わせて配置します。

xMinYMid

次の配置を使用して均一スケールを強制するように指定します。

- 要素の `viewBox` の `<min-x>` をビューポートの最小の X 値に合わせて配置します。
- 要素の `viewBox` の中間点の Y 値をビューポートの中間点の Y 値に合わせて配置します。

xMidYMid

次の配置を使用して均一スケールを強制するように指定します。

- 要素の `viewBox` の中間点の X 値をビューポートの中間点の X 値に合わせて配置します。
- 要素の `viewBox` の中間点の Y 値をビューポートの中間点の Y 値に合わせて配置します。これがデフォルト設定です。

xMaxYMid

次の配置を使用して均一スケールを強制するように指定します。

- 要素の `viewBox` の `<min-x>+<width>` をビューポートの最大の X 値に合わせて配置します。
- 要素の `viewBox` の中間点の Y 値をビューポートの中間点の Y 値に合わせて配置します。

xMinYMax

次の配置を使用して均一スケールを強制するように指定します。

- 要素の `viewBox` の `<min-x>` をビューポートの最小の X 値に合わせて配置します。
- 要素の `viewBox` の `<min-y>+<height>` をビューポートの最大の Y 値に合わせて配置します。

xMidYMax

次の配置を使用して均一スケールを強制するように指定します。

- 要素の `viewBox` の中間点の X 値をビューポートの中間点の X 値に合わせて配置します。
- 要素の `viewBox` の `<min-y>+<height>` をビューポートの最大の Y 値に合わせて配置します。

xMaxYMax

次の配置を使用して均一スケールを強制するように指定します。

- 要素の `viewBox` の `<min-x>+<width>` をビューポートの最大の X 値に合わせて配置します。
- 要素の `viewBox` の `<min-y>+<height>` をビューポートの最大の Y 値に合わせて配置します。

meetOrSlice

縦横比の維持と `viewBox` の表示方法を指定します。*meetOrSlice* で有効な値は次のとおりです。

meet

SVG グラフィックのサイズを次のように調整します。

- 縦横比を維持する
- ビューポート内に viewBox 全体を表示する
- その他の基準を満たす最大のサイズに viewBox を拡大する

グラフィックの縦横比がビューポートに一致しない場合、ビューポートの一部は viewBox の境界からはみ出します。

スライス

SVG グラフィックのサイズを次のように調整します。

- 縦横比を維持する
- ビューポートで viewBox 全体を覆う
- その他の基準を満たす最小のサイズに viewBox を縮小する

viewBox の縦横比がビューポートに一致しない場合、viewBox の一部はビューポートの境界からはみ出します。

NONE

均一スケールを強制せず、要素の境界ボックスがビューポートの四角形に完全に一致するように SVG 出力を不均一に調整します。

""

<svg>要素の `preserveAspectRatio` 属性を `xMidYMid meet` のデフォルト値にリセットするように指定します。

要件 間に空白を含まない 2 つの二重引用符を使用します。

詳細

SVGPRESERVEASPECTRATIO=オプションの値に `align` と `meetOrSlice` の両方が含まれる場合、一重引用符か二重引用符またはかっこを使用して値を区切ることができます。

`preserveAspectRatio` 属性は、同じ<svg>要素で `viewBox` の値が指定されている場合にのみ適用されます。`viewBox` 属性が指定されていない場合、`preserveAspectRatio` 属性は無視されます。

例

SVGPRESERVEASPECTRATIO=システムオプションを使用した OPTIONS ステートメントの例を次に示します。

```
options preserveaspectratio=xMinYMax;
options preserveaspectratio="xMinYMin meet";
options preserveaspectratio=(xMinYMin meet);
options preserveaspectratio="";
```

関連項目:

- “ユニバーサルプリントを用いた SVG (Scalable Vector Graphics)ファイルの作成” (SAS 言語リファレンス: 解説編 15 章)

システムオプション:

- “SVGCONTROLBUTTONS” (232 ページ)

- “SVGHEIGHT=システムオプション” (233 ページ)
- “SVGTITLE=システムオプション” (238 ページ)
- “SVGWIDTH=システムオプション” (241 ページ)
- “SVGVIEWBOX=システムオプション” (239 ページ)
- “SVGX=システムオプション” (243 ページ)
- “SVGY=システムオプション” (244 ページ)

SVGTITLE=システムオプション

SVG 出力のタイトルバーのタイトルを指定します。SVG ファイルの<title>要素の値を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SVG

**PROC OPTIONS
GROUP=** SVG

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

```
SVGTITLE="title" | "" | "
```

構文の説明

`"title"`

SVG のタイトルを指定します。

`"" | "`

タイトルを空白にリセットするように指定します。

要件 間に空白を含まない 2 つの二重引用符または 2 つの一重引用符を使用します。

詳細

SVGTITLE オプションが指定されていない場合、SVG 出力のタイトルバーには SVG 出力のファイル名が表示されます。

SVGTITLE=オプションの値は、一重引用符か二重引用符またはかっこで囲む必要があります。

関連項目:

- “[ユニバーサルプリントを用いた SVG \(Scalable Vector Graphics\)ファイルの作成](#)” (SAS 言語リファレンス: 解説編 15 章)

システムオプション:

- “[SVGCONTROLBUTTONS](#)” (232 ページ)
- “[SVGHEIGHT=システムオプション](#)” (233 ページ)

- “SVGPRESERVEASPECTRATIO=システムオプション” (235 ページ)
- “SVGWIDTH=システムオプション” (241 ページ)
- “SVGVIEWBOX=システムオプション” (239 ページ)
- “SVGX=システムオプション” (243 ページ)
- “SVGY=システムオプション” (244 ページ)

SVGVIEWBOX=システムオプション

最も外側の<svg>要素の viewBox 属性を設定するために使用する座標、幅および高さを指定します。これにより、ビューポートに合わせて SVG 出力のサイズを調整できます。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SVG

PROC OPTIONS SVG

GROUP=

制限事項: SVGVIEWBOX=オプションでは、最も外側の<svg>要素でのみ viewBox 属性を設定します。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

SVGVIEWBOX="*min-x min-y width height*" | なし | "" | "

構文の説明

min-x

viewBox の開始 x 座標をユーザー単位で指定します。

要件 *min-x* には、0 または正の整数値か負の整数値を指定できます。

min-y

viewBox の開始 y 座標をユーザー単位で指定します。

要件 *min-y* には、0 または正の整数値か負の整数値を指定できます。

width

viewBox の幅をユーザー単位で指定します。

要件 *width* は正の整数値にする必要があります。

height

viewBox の高さをユーザー単位で指定します。

要件 *height* は正の整数値にする必要があります。

なし

最も外側の<svg>要素に viewBox 属性を設定しないように指定します。これにより、静的 SVG ドキュメントが作成されます。

```
"" | "
```

viewBox の幅と高さを SVG プリンタの用紙サイズの幅と高さのリセットするように指定します。

要件 間に空白を含まない 2 つの二重引用符または 2 つの一重引用符を使用します。

詳細

viewBox 属性が指定されている場合、SVG 出力がビューポート内に表示されるように調整され、現在の座標系は viewBox 属性で指定されたディメンションに更新されません。指定されていない場合、最も外側の <svg> 要素の viewBox 属性の高さと幅の引数は、PAPERSIZE=システムオプションで定義された用紙の高さと幅に設定されます。

viewBox 属性の座標、幅および高さは、preserveAspectRatio 属性の値を考慮して、ビューポートの座標、幅および高さにマッピングする必要があります。

SVGVIEWBOX=オプションの値は、一重引用符か二重引用符またはかっこで囲む必要があります。

出力で SVG ドキュメントを配置する *min-x* と *min-y* に負の値を指定できます。*min-x* が負の値の場合、出力は右にシフトされます。*min-y* が負の値の場合、出力は下にシフトされます。

例

次の OPTIONS ステートメントでは、出力を 100 ユーザー単位の幅と 200 ユーザー単位の高さに調整します。

```
options printerpath=svg svgviewbox="0 0 100 200" dev=sasprtc;
```

これらのオプション値を使用した場合、SAS によって次の <svg> 要素が作成されます。

```
<svg> xmlns="http://www.w3.org/2000/svg"
xmlns:xlink="http://www.w3.org/1999/xlink"
xml:space="preserve"
onload='Init(evt)' version="1.1"
viewBox="0 0 100 200"
</svg>
```

関連項目:

- “ユニバーサルプリントを用いた SVG (Scalable Vector Graphics) ファイルの作成” (SAS 言語リファレンス: 解説編 15 章)

システムオプション:

- “SVGCONTROLBUTTONS” (232 ページ)
- “SVGHEIGHT=システムオプション” (233 ページ)
- “SVGPRESERVEASPECTRATIO=システムオプション” (235 ページ)
- “SVGTITLE=システムオプション” (238 ページ)
- “SVGWIDTH=システムオプション” (241 ページ)
- “SVGX=システムオプション” (243 ページ)
- “SVGY=システムオプション” (244 ページ)

SVGWIDTH=システムオプション

SVG 出力が別の SVG 出力に埋め込まれていない場合のビューポートの幅を指定します。SVG ファイルの最も外側の<svg>要素の width 属性で値を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SVG

**PROC OPTIONS
GROUP=** SVG

制限事項: SVGWIDTH=オプションでは、最も外側の<svg>要素でのみ width 属性を設定します。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

SVGWIDTH= *number-of-units* < *unit-of-measure* > | "" | "

構文の説明

number-of-units

unit-of-measure の数値で幅を指定します。

要件 *number-of-units* は正の整数値にする必要があります。

操作 *number-of-units* が負の数の場合、SVG ドキュメントはブラウザに表示されません。

unit-of-measure

次のいずれかの測定単位を指定します。

%	percentage
cm	センチメートル
em	要素のフォントの高さ
ex	文字 x の高さ
in	インチ
mm	ミリメートル
pc	パイカ
pt	ポイント
px	ピクセル

デフォルト px

"" | "

幅をデフォルト値の 800 ピクセルにリセットするように指定します。

要件 間に空白を含まない 2 つの二重引用符または 2 つの一重引用符を使用します。

詳細

埋め込まれた<svg>要素の場合、SVGWIDTH=オプションでは<svg>要素が含まれる四角形の幅を指定します。SVG 出力は、SVGWIDTH="100%"の場合は viewBox に合うようにサイズが調整されます。

SVGWIDTH=オプションが指定されていない場合、<svg>要素の width 属性は設定されず、100%の幅を使用して完全なスケーラビリティを提供します。

SVGHEIGHT=オプションの値は、区切り文字を使用せず、一重引用符か二重引用符またはかっこで囲んで指定できます。

例

次の OPTIONS ステートメントでは、SVG 出力を縦のレターサイズに設定し、ビューポートの 100%に調整するように指定します

```
options printerpath=svg orientation=portrait svgheight="100%" svgwidth="100%" papersize=letter
```

これらのオプション値を使用した場合、SAS によって次の<svg>要素が作成されます。

```
<svg> xmlns="http://www.w3.org/2000/svg"
xmlns:xlink="http://www.w3.org/1999/xlink"
xml:space="preserve"
onload='Init(evt)' version="1.1"
width="100%" height="100%"
viewBox="-1 -1 817 1057"
</svg>
```

SVGHEIGHT=オプションの値を"100%"にすると、SVG 出力の幅が PAPERSIZE=オプションの値に基づいてビューポートの 100%に調整するように指定されます。用紙サイズは縦方向のレターサイズ(96 dpi で幅は 8.5 インチ)です。

関連項目:

- “SAS システムオプションの使用” (4 ページ)
- 14 章: “SAS レジストリ” (SAS 言語リファレンス: 解説編)
- “ユニバーサルプリントを用いた SVG (Scalable Vector Graphics)ファイルの作成” (SAS 言語リファレンス: 解説編 15 章)

システムオプション:

- “SVGCONTROLBUTTONS” (232 ページ)
- “SVGHEIGHT=システムオプション” (233 ページ)
- “SVGPRESERVEASPECTRATIO=システムオプション” (235 ページ)
- “SVGTITLE=システムオプション” (238 ページ)
- “SVGVIEWBOX=システムオプション” (239 ページ)
- “SVGX=システムオプション” (243 ページ)
- “SVGY=システムオプション” (244 ページ)

SVGX=システムオプション

埋め込まれた<svg>要素が含まれる四角形の 1 つの角の x 軸座標を指定します。SVG ファイルの最も外側の <svg>要素で x 属性を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SVG

**PROC OPTIONS
GROUP=** SVG

制限事項: SVGX=オプションでは、最も外側の<svg>要素でのみ x 属性を設定します。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

SVGX= *number-of-units* < *unit-of-measure* > | "" | "

構文の説明

number-of-units

unit-of-measure の数値で x 軸座標を指定します。

unit-of-measure

次のいずれかの測定単位を指定します。

%	percentage
cm	センチメートル
em	要素のフォントの高さ
ex	文字 x の高さ
in	インチ
mm	ミリメートル
pc	パイカ
pt	ポイント
px	ピクセル

デフォルト px

"" | "

<svg>要素の x 属性を 0 にリセットし、埋め込まれた SVG の x 軸座標を 0 に設定するように指定します。

要件 間に空白を含まない 2 つの二重引用符または 2 つの一重引用符を使用します。

詳細

SVGX=オプションが設定されていない場合、<svg>要素の x 属性の値は 0 になり、埋め込まれた SVG 出力に x 軸座標は設定されません。

SVGX=オプションの値は、区切り文字を使用せず、一重引用符か二重引用符またはかっこで囲んで指定できます。

最も外側の<svg>要素の x 属性は、SAS で作成される SVG ドキュメントには適用されません。SVG ドキュメントが SAS の外部で処理される場合、SVGX=システムオプションを使用して x 軸座標を指定できます。

関連項目:

- “ユニバーサルプリントを用いた SVG (Scalable Vector Graphics)ファイルの作成” (SAS 言語リファレンス: 解説編 15 章)

システムオプション:

- “SVGCONTROLBUTTONS” (232 ページ)
- “SVGHEIGHT=システムオプション” (233 ページ)
- “SVGRESERVEASPECTRATIO=システムオプション” (235 ページ)
- “SVGTITLE=システムオプション” (238 ページ)
- “SVGWIDTH=システムオプション” (241 ページ)
- “SVGVIEWBOX=システムオプション” (239 ページ)
- “SVGY=システムオプション” (244 ページ)

SVGY=システムオプション

埋め込まれた<svg>要素が含まれる四角形の 1 つの角の y 軸座標を指定します。SVG ファイルの最も外側の<svg>要素で y 属性を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: SVG

PROC OPTIONS GROUP= SVG

制限事項: SVGY=オプションでは、最も外側の<svg>要素でのみ y 属性を設定します。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

SVGY= *number-of-units* < *unit-of-measure* > | "" | "

構文の説明

number-of-units

unit-of-measure の数値で y 軸座標を指定します。

unit-of-measure

次のいずれかの測定単位を指定します。

% percentage

cm センチメートル

em	要素のフォントの高さ
ex	文字 x の高さ
in	インチ
mm	ミリメートル
pc	パイカ
pt	ポイント
px	ピクセル
デフォルト	px

"" | "

<svg>要素の y 属性をリセットし、埋め込まれた SVG 出力の y 軸座標を 0 に設定するように指定します。

要件 間に空白を含まない 2 つの二重引用符または 2 つの一重引用符を使用します。

詳細

SVGY=オプションが設定されていない場合、<svg>要素の y 属性の値は 0 になり、埋め込まれた SVG 出力に y 軸座標は設定されません。

SVGY=オプションの値は、区切り文字を使用せず、一重引用符か二重引用符またはかっこで囲んで指定できます。

最も外側の<svg>要素の y 属性は、SAS で作成される SVG ドキュメントには適用されません。SVG ドキュメントが SAS の外部で処理される場合、SVGY=システムオプションを使用して y 軸座標を指定できます。

関連項目:

- “ユニバーサルプリントを用いた SVG (Scalable Vector Graphics)ファイルの作成” (SAS 言語リファレンス: 解説編 15 章)

システムオプション:

- “SVGCONTROLBUTTONS” (232 ページ)
- “SVGHEIGHT=システムオプション” (233 ページ)
- “SVGRESERVEASPECTRATIO=システムオプション” (235 ページ)
- “SVGTITLE=システムオプション” (238 ページ)
- “SVGWIDTH=システムオプション” (241 ページ)
- “SVGVIEWBOX=システムオプション” (239 ページ)
- “SVGX=システムオプション” (243 ページ)

SYNTAXCHECK システムオプション

非対話型またはバッチ SAS セッションで、複数のステップの構文チェックモードを有効にするかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
カテゴリ: 環境コントロール: エラー処理
PROC OPTIONS GROUP= ERRORHANDLING

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

[SYNTAXCHECK](#) | [NOSYNTAXCHECK](#)

構文の説明

SYNTAXCHECK

非対話型またはバッチ SAS セッション内でサブミットされるステートメントの構文チェックモードを有効にします。

NOSYNTAXCHECK

非対話型またはバッチ SAS セッション内でサブミットされるステートメントの構文チェックモードを有効にしません。

注 **NOSYNTAXCHECK** を設定するとデータが失われる可能性があります。テストされていないコードを使用してデータを操作したり削除したりすると、コードに無効な構文が含まれている場合はデータが失われる可能性があります。プロダクション環境で使用する前に、コードを完全にテストしてください。

詳細

SYNTAXCHECK オプションが設定された後に DATA ステップで構文エラーまたはセマンティックエラーが発生すると、SAS は構文チェックモードになります。構文チェックモードは、SAS でエラーが発生した時点から、サブミットされたコードが終了するまで有効です。SAS が構文チェックモードになった後は、それ以降のすべての DATA ステップステートメントおよび PROC ステップステートメントが検証されます。

構文チェックモード中は、限られた処理のみが実行されます。構文チェックモードの詳細については、“[構文チェックモード](#)” (SAS 言語リファレンス: 解説編 8 章)を参照してください。

実行するステップの前に、SYNTAXCHECK を有効にする OPTIONS ステートメントを配置します。OPTIONS ステートメントをステップ内に配置した場合、SYNTAXCHECK は次のステップが開始するまで実行されません。

NOSYNTAXCHECK は、構文エラー状況に関わらずステートメントを継続的に処理できます。

SYNTAXCHECK は、SAS ウィンドウ環境と SAS ラインモードセッションでは無視されます。

比較

SYNTAXCHECK システムオプションは、非対話型またはバッチ SAS セッションで構文を検証するために使用します。SAS ウィンドウ環境を使用して対話型セッションで構文を検証するには、DMSSYNCHK システムオプションを使用します。

ERRORCHECK=オプションを使用して、SAS/SHARE の LIBNAME ステートメント、FILENAME ステートメント、%INCLUDE ステートメント、LOCK ステートメントの構文チェックモードを有効または無効に設定できます。NOSYNTAXCHECK オプションと

ERRORCHECK=STRICT オプションを指定すると、エラーの発生時に SAS は構文チェックモードになりません。

関連項目:

- “SAS のエラー処理” (SAS 言語リファレンス: 解説編 8 章)

システムオプション:

- “DMSSYNCHK システムオプション” (100 ページ)
- “ERRORCHECK=システムオプション” (114 ページ)

SYSPRINTFONT=システムオプション

印刷に使用するデフォルトフォントを指定します。フォントと ODS スタイルの明示的な指定はこのデフォルトよりも優先されます。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: プロシジャ出力

PROC OPTIONS GROUP= LISTCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “SYSPRINTFONT System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)

構文

```
SYSPRINTFONT=(face-name <重み> <style> <character-set> <point-size>
<NAMED printer-name " | UPRINT=printer-name " | DEFAULT | ALL> )
```

構文の説明

“*face-name*”

印刷に使用するフォントフェイス名を指定します。

要件 *face-name* が複数の単語で構成される場合、値を一重引用符または二重引用符で囲む必要があります。引用符は *face-name* とともに保存されます。

操作 UPRINT=*printer-name* を指定する場合、*face-name* は *printer-name* で有効なフォントにする必要があります。

重み

BOLD などのフォントの太さを指定します。SAS: [プリンタのプロパティウィンドウ](#)に、指定したプリンタに有効な値のリストが表示されます。

デフォルト NORMAL

style

ITALIC などのフォントのスタイルを指定します。SAS: [プリンタのプロパティウィンドウ](#)に、指定したプリンタに有効な値のリストが表示されます。

デフォルト REGULAR

character-set

印刷に使用する文字セットを指定します。

デフォルト 指定した文字セットがフォントでサポートされていない場合、デフォルト文字セットが使用されます。このデフォルト文字セットがフォントでサポートされていない場合、フォントのデフォルト文字セットが使用されます。

範囲 SAS: プリンタのプロパティウィンドウのフォントタブに有効な値のリストが表示されます。

point-size

印刷に使用するポイントサイズを指定します。この引数を省略した場合、SAS はデフォルトを使用します。

要件 *Point-size* は整数にする必要があります。また、*face-name*、*weight*、*style*、*character-set* 引数の後に配置する必要があります。

NAMED “*printer-name*”

これらの設定を適用する Windows 動作環境のプリンタを指定します。

制限事項 この引数は、Windows 動作環境のプリンタでのみ有効です。ユニバーサルプリンタを指定するには、UPRINT=引数を使用します。

要件 *printer-name* は、印刷設定ダイアログボックスに表示される名前と完全に一致する必要があります(大文字と小文字は区別されません)。

UPRINT=“*printer-name*”

これらの設定を適用するユニバーサルプリンタを指定します。

制限事項 この引数は、SAS レジストリのリストに含まれるプリンタでのみ有効です。

要件 *printer-name* は、印刷設定ダイアログボックスに表示される名前と完全に一致する必要があります(大文字と小文字は区別されません)。

DEFAULT | ALL

フォント設定をデフォルトプリンタに適用するか、すべてのプリンタに適用するかを指定します。

DEFAULT

SYSPRINT=システムオプションで指定された現在のデフォルトプリンタにフォント設定を適用するように指定します。

ALL

インストールされたすべてのプリンタにフォント設定を適用するように指定します。

詳細

SYSPRINTFONT=システムオプションでは、現在のデフォルトプリンタ、指定したプリンタまたはすべてのプリンタへの印刷時に使用するフォントを設定します。

場合によっては、SAS プログラムからフォントを指定する必要があります。この場合は、SAS: **プリンタのプロパティ**ウィンドウで使用可能なフォントの名前、スタイル、太さ、サイズを確認できます。SAS プログラムで SYSPRINTFONT=オプションを適用する方法の例については、“[比較](#)” (249 ページ)を参照してください。

DEFAULT を使用するかキーワードを使用せずに SYSPRINTFONT=を指定した後に、**印刷設定**ダイアログボックスを使用して現在のデフォルトプリンタを変更した場合、現在のデフォルトプリンタで使用されるフォントは SYSPRINTFONT で指定したフォントになります(プリンタにその指定フォントが存在する場合)。指定したフォントが現在のプリンタでサポートされていない場合、プリンタのデフォルトフォントが使用されます。

次のフォントが一般的にサポートされています。

- Helvetica
- Times
- Courier
- Symbol

通常、SAS プログラムでこのいずれかのフォントを指定することでエラーの発生を防ぐことができます。特定のフォントがサポートされていない場合、その代わりに似たフォントが印刷されます。

すべてのユニバーサルプリンタと多くの SAS/GRAPH デバイスでは、FreeType エンジンを使用して TrueType フォントをレンダリングします。詳細については、“ユニバーサルプリンタと SAS/GRAPH デバイスでのフォントの使用”(SAS 言語リファレンス: 解説編 15 章)を参照してください。

注: SYSPRINTFONT=システムオプションを使用する代わりに、SAS: **プリンタのプロパティ**ウィンドウの**フォント**タブでフォントを設定できます。ドロップダウンメニューから、**ファイル** ⇨ **印刷設定** ⇨ **プロパティ** ⇨ **フォント**を選択します。ダイアログボックスでは選択したプリンタがサポートするオプションのリストからフォント、スタイル、太さ、サイズ、文字セットを選択できるため、ダイアログボックスを使用するとすばやく簡単に設定できます。

比較

デフォルトプリンタのフォントの指定

この例では、デフォルトプリンタに 12 ポイントの Times フォントを指定します。

```
options sysprintfont=("times" 12);
```

Windows プリンタ名によるフォントの指定

この例では、HP LaserJet IIIsi Postscript という名前のプリンタで Courier を使用するよう指定します。SAS **印刷設定**ダイアログボックスで指定されている名前と同じプリンタ名を指定します。

```
options sysprintfont= ("courier" named "hp laserjet 111s, postscript");
```

SAS コマンドラインでのユニバーサルプリンタのフォントの指定

この例では、PDF ユニバーサルプリンタに Albany AMT フォントを指定します。

```
sysprintfont=('courier' 11 uprint='PDF')
```

TERMINAL システムオプション

端末デバイスを SAS セッションと関連付けるかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: 初期化および操作

PROC OPTIONS GROUP= EXECMODES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

TERMINAL | **NOTERMINAL**

構文の説明

TERMINAL

SAS で実行環境を評価し、対話型環境で物理的な表示が不可能な場合はオプションを NOTERMINAL に設定するように指定します。SAS ウィンドウ環境を使用する場合は TERMINAL を指定します。

NOTERMINAL

SAS で実行環境を評価しないように指定します。

詳細

SAS は、セッションがフォアグラウンドで呼び出されるかバックグラウンドで呼び出されるかに基づいて、TERMINAL システムオプションの適切な設定をデフォルトに指定します。NOTERMINAL が指定されている場合、ダイアログボックスは表示されません。

通常、TERMINAL オプションは次の実行モードで使用されます。

- SAS ウィンドウ環境モード
- 対話型ラインモード
- 非対話型モード

TERMSTMT=システムオプション

SAS の終了時に SAS ステートメントを実行するように指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: 初期化および操作

**PROC OPTIONS
GROUP=** EXECMODES

動作環境: 一部のオペレーティングシステム環境では、TERMSTMT=の値のサイズが制限されています。この制限を回避するため、%INCLUDE ステートメントを使用できます。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

TERMSTMT=*statement(s)*

構文の説明

statement(s)

1 つ以上の SAS ステートメントです。

長さ 最大長は 2,048 文字

詳細

バッチモードでは、TERMSTMT=は完全にサポートされています。対話型モードでは、TERMSTMT=はエディタウィンドウから ENDSAS ステートメントをサブミットして SAS セッションを終了した場合にのみ実行されます。対話型モードでその他の方法を使用して SAS を終了した場合、TERMSTMT=は実行されません。

TERMSTMT=を指定する別の方法として、バッチファイルの最後に%INCLUDE ステートメントを配置するか、対話型モードで SAS セッションを終了する前に%INCLUDE ステートメントをサブミットすることもできます。

比較

TERMSTMT=では、SAS の終了時に SAS ステートメントを実行するように指定します。INITSTMT=では、SAS の初期化時に SAS ステートメントを実行するように指定します。

関連項目:

ステートメント:

- “%INCLUDE ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)

システムオプション:

- “INITSTMT=システムオプション” (140 ページ)

TEXTURELOC=システムオプション

ODS スタイルで使用されるテキストとイメージの場所を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷

PROC OPTIONS GROUP= ODSPRINT

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

TEXTURELOC=*location*

構文の説明

location

ODS スタイルで使用されるテキストとイメージの場所を指定します。*location* には、ディレクトリの物理名または URL 参照名を指定できます。

制限事項 ステートメントごとに 1 つの場所のみが許可されています。

要件 *location* がファイル参照名でない場合、値を引用符で囲む必要があります。

関連項目:

6章: “ODS 言語ステートメントの字引” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド)

THREADS システムオプション

使用可能な場合は SAS でスレッド処理を使用するように指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: システム管理: 処理速度

PROC OPTIONS GROUP= PERFORMANCE

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

THREADS | NOTTHREADS

構文の説明

THREADS

スレッド処理をサポートする SAS アプリケーションでスレッド処理を使用するように指定します。

操作 THREADS が SAS システムオプションまたは PROC SORT で指定されていて、別のプログラムで SPD エンジンを使用して読み込み、書き込みまたは更新用に入力 SAS データセットが開かれている場合、プロシジャが失敗してそのメッセージが SAS ログに書き込まれる可能性があります。

NOTTHREADS

スレッド処理をサポートする SAS アプリケーションでスレッド処理を使用しないように指定します。

操作 NOTTHREADS を指定した場合、NOTTHREADS システムオプションより優先されるプロシジャを指定しない限り CPUCOUNT=は無視されます。

詳細

THREADS システムオプションは、スレッドに対応した従来の一部の SAS プロセスを有効にし、処理と I/O 操作をスレッド化することで複数の CPU を活用します。処理と I/O 操作のスレッド化によって、CPU リソースの追加消費が必要な可能性のある特定の操作に対して、多くの場合実際の完了時間が短縮される並行処理を実現できます。SAS 9 と SAS 9.1 では、次のプロセスがスレッドに対応しています。

- Base SAS エンジンインデックス
- Base SAS プロシジャ: SORT、SUMMARY、MEANS、REPORT、TABULATE、SQL
- SAS/STAT プロシジャ: GLM、LOESS、REG、ROBUSTREG

たとえば、小さいデータセットを処理する場合は、SAS で単一スレッド操作が使用される可能性があります。

スレッド化で処理速度が改善されない場合またはスレッド化が不明な問題の原因となっている可能性がある場合は、このオプションを NOTHEADS に設定することで以前のリリースと SAS 9 の互換性が最も高くなります。製品が THREADS オプションで有効になる機能を備えているかどうかを確認するには、各製品固有のドキュメントを参照してください。

比較

システムオプション THREADS では、スレッド処理を実行するかどうかを決定します。SAS システムオプション CPUCOUNT=では、スレッド対応の SAS プロシジャで使用可能なシステム CPU 数を提案します。

関連項目:

- 13 章: “並列処理のサポート” (SAS 言語リファレンス: 解説編)

システムオプション:

- “CPUCOUNT=システムオプション” (83 ページ)
- “UTILLOC=システムオプション” (258 ページ)

TOOLSMENU システムオプション

SAS ウィンドウにツールメニューを表示するかどうかを指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時
カテゴリ:	環境コントロール: 表示
PROC OPTIONS GROUP=	ENVDISPLAY
デフォルト:デフォルト:	TOOLSMENU
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。

構文

TOOLSMENU | **NOTOOLSMENU**

構文の説明

TOOLSMENU

SAS ウィンドウにツールメニューを表示するように指定します。

NOTOOLSMENU

SAS ウィンドウにツールメニューを表示しないように指定します。

TOPMARGIN=システムオプション

ページの上の印刷余白を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷

**PROC OPTIONS
GROUP=** ODSPRINT

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

TOPMARGIN= *margin-size*<*margin-unit*>

構文の説明

margin-size

余白のサイズを指定します。

制限事項 下の余白は、上下の余白の合計が用紙の高さよりも小さくなるようなサイズで指定する必要があります。

操作 このオプションの値を変更すると、PAGESIZE=システムオプションの値が変更される可能性があります。

<*margin-unit*>

余白サイズの単位を指定します。margin-unit には、*in*(インチ)または *cm*(センチメートル)を使用できます。<*margin-unit*>は、TOPMARGIN システムオプションの値の一部として保存されます。

デフォルト インチ

詳細

すべての余白には、プリンタと用紙サイズに応じた最小値があります。TOPMARGIN システムオプションのデフォルト値は 0.00 in です。

関連項目:

- “ユニバーサルプリント” (SAS 言語リファレンス: 解説編 15 章)

ステートメント:

- “ODS PRINTER ステートメント” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド)

システムオプション:

- “BOTTOMMARGIN=システムオプション” (58 ページ)
- “LEFTMARGIN=システムオプション” (151 ページ)
- “RIGHTMARGIN=システムオプション” (206 ページ)

TRAINLOC=システムオプション

SAS のオンライントレーニングコースの URL を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** ENVFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

TRAINLOC="*base-URL*"

構文の説明

base-URL

SAS のオンライントレーニングコースが存在する場所のアドレスを指定します。

詳細

TRAINLOC=システムオプションでは、SAS のオンライントレーニングコースのベース位置(通常は URL)を指定します。通常、これらのオンライントレーニングコースには、イントラネットサーバーかローカル CD-ROM からアクセスします。

例

base-URL の例を次に示します。

- "*file://e:\onlintut*"
- "*http://server.abc.com/SAS/sastrain*"

UPRINTCOMPRESSION システムオプション

一部のユニバーサルプリンタおよび SAS/GRAPH デバイスで作成されたファイルの圧縮を有効にするかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ログおよびプロシジャ出力コントロール: ODS 印刷

**PROC OPTIONS
GROUP=** ODSPRINT

別名: UPC | NOUPC

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

UPRINTCOMPRESSION | NOUPRINTCOMPRESSION

構文の説明

UPRINTCOMPRESSION

一部のユニバーサルプリンタおよび SAS/GRAPH デバイスで作成されたファイルの圧縮が有効になるように指定します。これがデフォルト設定です。

NOUPRINTCOMPRESSION

一部のユニバーサルプリンタおよび SAS/GRAPH デバイスで作成されたファイルの圧縮が無効になるように指定します。

詳細

UPRINTCOMPRESSION システムオプションの影響を受けるユニバーサルプリンタと SAS/GRAPH デバイスを次の表に示します。

ユニバーサルプリンタ	SAS/GRAPH デバイスドライバ
PCL5、PCL5C、PCL5E	PCL5、PCL5C、PCL5E
PDF	PDF、PDFA、PDFC
SVG	SVG
PS	SASPRTC、SASPRTG、SASPRTM
	UEPS、UPSC、UPCL5、UPCL5C、UPCL5E、UPDF、UPSL、UPSLC

NOUPRINTCOMPRESSION が設定されていると、DEFLATION=オプションは無視されます。

ODS PRINTER ステートメントオプションである COMPRESS=は、UPRINTCOMPRESSION システムオプションよりも優先されます。

関連項目:

ステートメント:

- “ODS PRINTER ステートメント” (SAS Output Delivery System: ユーザーガイド)

システムオプション:

- “DEFLATION=システムオプション” (88 ページ)

URLENCODING=システムオプション

SAS セッションエンコーディングと UTF-8 エンコーディングのどちらを使用して URLENCODE 関数と URLDECODE 関数の引数が解釈されるのかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: 言語コントロール

**PROC OPTIONS
GROUP=** LANGUAGECONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

URLENCODING=[SESSION](#) | [UTF8](#)

構文の説明

SESSION

SAS セッションエンコーディングを使用して URLENCODE 関数と URLDECODE 関数の引数が解釈されるように指定します。これがデフォルト設定です。

注 SAS セッションエンコーディングでは、URL エンコーディング標準 RFC1738 が使用されます。

ヒント SESSION は以前の SAS のリリースと互換性があります。

UTF8

UTF-8 エンコーディングを使用して URLENCODE 関数と URLDECODE 関数の引数が解釈されるように指定します。

注 UTF-8 エンコーディングでは、URL エンコーディング標準 RFC3986 が使用されます。

関連項目:

関数:

- “URLDECODE 関数” (SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス)
- “URLENCODE 関数” (SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス)

USER=システムオプション

デフォルトの永久 SAS ライブラリを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** ENVFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “USER System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)
 “USER System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)
 “USER= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

USER= *library-specification*

構文の説明

library-specification

SAS ライブラリのライブラリ参照名または物理名を指定します。

詳細

このオプションが指定されている場合は、SAS ステートメントで永久 SAS ファイルを参照する 1 レベルの名前を使用できます。ただし、USER=WORK が指定されている場合は、1 レベルの名前で参照されるファイルは一時作業ファイルを参照するとみなされます。

UTILLOC=システムオプション

有効にされたスレッド化アプリケーションがユーティリティファイルを保存できるファイルシステムの場所を指定します。

該当要素: 構成ファイルと SAS 起動時

カテゴリ: ファイル: SAS ファイル

PROC OPTIONS GROUP= SASFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “UTILLOC= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

UTILLOC= WORK | *location* | (*location-1*...*location-n*)

構文の説明

WORK

Work ライブラリと同じディレクトリにユーティリティファイルが作成されるように指定します。

これがデフォルト設定です。

location

アプリケーションによって作成されるユーティリティファイルの既存のディレクトリの場所を指定します。*location* に空白が含まれる場合は、一重または二重引用符で囲みます。

z/OS 固有 z/OS では、各 *location* はユーティリティファイルの作成時に使用される DCM および SMS オプションのリストです。

(*location-1* ... *location-n*)

アプリケーションによって作成されるユーティリティファイルの並列アクセスができる既存のディレクトリのリストを指定します。1 つのユーティリティファイルが複数の場所にまたがることはできません。場所に空白が含まれる場合は、一重または二

重引用符で囲みます。存在しない場所は、UTILLOC=システムオプションの値から削除されます。

要件 複数の場所を指定する場合は、場所のリストをカッコで囲む必要があります。

z/OS 固有 z/OS では、各 *location* はユーティリティファイルの作成時に使用される DCM および SMS オプションのリストです。

詳細

UTILLOC オプションでは、SAS 9 アーキテクチャの一部として導入されるユーティリティファイルの種類に場所を指定します。これらのユーティリティファイルは、UTILITY という種類の SAS ファイルと似ていますが、Work ライブラリやそれ以外の SAS ライブラリのいずれのメンバでもありません。UTILLOC ユーティリティファイルは、主に実行のマルチスレッドに対応するアプリケーションで使用されます。

UTILLOC オプションに指定される各場所は、ユーティリティファイルを作成できる 1 つの場所を示します。複数の場所が指定されている場合、ユーティリティファイルが必要とされると、これらの場所が SAS アプリケーションによって順番に使用されます。

同時に複数のユーティリティファイルを使用するアプリケーションの場合は、別個の物理 I/O デバイスに対応する複数の場所を指定し、デバイスリソースの競合を削減することにより、処理速度が向上することがあります。

SORT プロシジャでは、UTILLOC=システムオプションは、マルチスレッド SAS の並べ替えが使用されている場合にのみ、ユーティリティファイルの配置に影響します。マルチスレッド SAS の並べ替えは、THREAD システムオプションが指定されており、CPUCOUNT=システムオプションの値が 1 より大きいときに起動できます。マルチスレッド SAS の並べ替えは、PROC SORT ステートメントで THREADS オプションを指定しているときにも起動できます。マルチスレッド並べ替えでは、UTILLOC=システムオプションで指定される場所のいずれかにある 1 つのユーティリティファイルにすべての一時データが保存されます。このユーティリティファイルのサイズは、入力データセットから読み込まれるデータ量に比例します。入力データセットから読み込まれるデータ量が大きいとき、または SORT プロシジャで使用可能なメモリ量が小さいとき、同じサイズの 2 つ目のユーティリティファイルをこれらの場所のいずれかに作成できます。

関連項目:

- 13 章: “並列処理のサポート” (SAS 言語リファレンス: 解説編)

プロシジャ:

- 48 章: “SORT プロシジャ” (Base SAS プロシジャガイド)

システムオプション:

- “CPUCOUNT=システムオプション” (83 ページ)
- “THREADS システムオプション” (252 ページ)

UUIDCOUNT=システムオプション

UUID ジェネレータデーモンから取得する UUID の数を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: ファイル
PROC OPTIONS
GROUP= ENVFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

UUIDCOUNT= *n* | **MIN** | **MAX**

構文の説明

n

取得する UUID の数を指定します。ゼロは、UUID ジェネレータデーモンが必要ないことを示します。

デフォルト 100

範囲 0-1000

MIN | **MAX**

MIN

取得する UUID の数をゼロに指定し、UUID ジェネレータデーモンが必要ないことを示します。

MAX

UUID ジェネレータデーモンから一度に 1000 個の UUID が取得されるように指定します。

詳細

SAS アプリケーションで多数の UUID が生成される場合は、SAS セッションで SAS UUID ジェネレータデーモンに接続する回数を減らすために、SAS セッション中はいつでもこの値を調整できます。

関連項目:

- “汎用一意識別子と Object Spawner” (SAS 言語リファレンス: 解説編 39 章)

関数:

- “UUIDGEN 関数” (SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス)

システムオプション:

- “[UUIDGENHOST=システムオプション](#)” (260 ページ)

UUIDGENHOST=システムオプション

UUID ジェネレータデーモンが実行されるホストとポートまたは LDAP URL を示します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** ENVFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“制限されたオプション”(6 ページ)を参照してください。

構文

UUIDGENDHOST= *'host-string'*

構文の説明

'host-string'

ホスト名:ポートという形式、または LDAP URL のいずれかです。値は 1 つの文字列にする必要があります。LDAP URL 文字列は引用符で囲みます。

詳細

SAS では、すべての UUID が重複しないという保証はありません。確実に重複しない UUID を取得するには、SAS UUID ジェネレータデーモン(UUIDGEN)を使用してください。

例

- ホスト名:ポートを *'host-string'* として指定する

```
sas -UUIDGENDHOST 'myhost.com:5306'
```

または

```
sas UUIDGENDHOST= 'myhost.com:5306'
```

- LDAP URL を *'host-string'* として指定する

```
"ldap://ldap-host-name/sasSpawner-distinguished-name"
```

- *'host-string'* として指定する LDAP URL の詳細な例

```
"ldap://ldaphost/sasSpawnercn=UUIDGEND,sascomponent=sasServer, cn=ABC,o=ABC Inc,c=US"
```

- LDAP サーバーが保護されている場合は binddn とパスワードを指定する

```
"ldap://ldap-host-name/sasSpawner-distinguished-name????  
bindname=binddn,password=bind-password"
```

- バインド名値とパスワード値を使用した例

```
"ldap://ldaphost/  
sasSpawnercn=UUIDGEND,sascomponent=sasServer,cn=ABC,o=ABC Inc,c=US  
????bindname=cn=me%2co=ABC Inc %2cc=US,  
password=itsme"
```

注: バインド名とパスワードを指定するときには、バインド名とパスワードに含まれるカンマは、文字列 "%2c" で置き換える必要があります。前述の例では、バインド名は次のようになります。

```
cn=me,o=ABC Inc,c=US
```

関連項目:

関数:

- “UIDGEN 関数” (SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス)

システムオプション:

- “UIDCOUNT=システムオプション” (259 ページ)

V6CREATEUPDATE=システムオプション

バージョン 6 のデータセットを作成または更新するときに SAS ログに書き込まれるメッセージの種類を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: ファイル: SAS ファイル

PROC OPTIONS GROUP= SASFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

V6CREATEUPDATE =[ERROR](#) | [NOTE](#) | [WARNING](#) | [IGNORE](#)

構文の説明

ERROR

V6 エンジンを使用して作成または更新するために SAS データセットを開くと、SAS ログにエラーが書き込まれるように指定します。バージョン 6 形式で SAS データセットを作成または更新しようとすると、失敗します。バージョン 6 のデータセットの読み込みではエラーは生成されません。

NOTE

V6 エンジンを使用すると SAS ログにメモが書き込まれるように指定します。その他の処理はすべて正常に行われます。

WARNING

V6 エンジンを使用すると SAS ログに警告が書き込まれるように指定します。その他の処理はすべて正常に行われます。

IGNORE

V6CREATEUPDATE=システムオプションを無効にします。V6 エンジンを使用しても、SAS ログには何も書き込まれません。

VALIDFMTNAME=システムオプション

これを超えるとエラーまたは警告が発行される、ユーザー作成の出力形式名および入力形式名の最大サイズ(32 文字または 8 文字)を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル: SAS ファイル

PROC OPTIONS GROUP= SASFILES

デフォルト:デフォルト: LONG

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“制限されたオプション”(6 ページ)を参照してください。

構文

VALIDFMTNAME=LONG | FAIL | 警告

構文の説明

LONG

出力形式名および入力形式名に最大で 32 文字までの英数字を使用できるように指定します。これがデフォルト設定です。

FAIL

8 文字を超える出力形式名または入力形式名を作成すると、エラーメッセージが表示されるように指定します。

操作 LIBNAME ステートメントなどで V7 または V8 Base SAS エンジンを明示的に指定すると、これらのエンジンに関連付けられているデータセットには自動的に VALIDFMTNAME=FAIL の動作が使用されます。

ヒント この設定は、SAS 9 および以前の SAS リリースの両方で有効な入力形式と出力形式を使用する場合に指定します。

警告

SAS 9 より前のリリースで出力形式または入力形式を使用できないことを通知するために、8 文字を超える出力形式名または入力形式名を作成するとエラーメッセージが表示されるように指定します。

詳細

SAS 9 では、最大で 32 文字までの出力形式名および入力形式名を定義できます。以前のリリースでは上限は 8 文字でした。VALIDFMTNAME=システムオプションは、データセットと出力形式カタログの両方の出力形式名と入力形式名に適用されます。VALIDFMTNAME=では、出力形式名と入力形式名の長さは制御されません。制御されるのは、SAS データセットの作成時に変数に関連付ける出力形式名と入力形式名の長さのみです。

SAS データセットに長い出力形式名または入力形式名を使用した変数がある場合、SAS 9 より前のリリースではこのデータセットを読み込めません。以前のリリースでこのデータセットにアクセスできるようにするには長い名前を削除します。ただし、変数の出力形式属性を保持するには、短い名前を使用した同じ出力形式をこの変数に適用する必要があります。

注: 8 文字を超える名前を使用して出力形式または入力形式を作成した後に、8 文字以下の名前に変更すると、SAS 9 より前のリリースではこの出力形式または入力形式を使用できません。短い名前を使用して出力形式または入力形式を作成し直す必要があります。

関連項目:

- “SAS 言語における命名規則” (SAS 言語リファレンス: 解説編 3 章)
- 33 章: “SAS 9.3 における、以前のリリースの SAS ファイルとの互換性” (SAS 言語リファレンス: 解説編)

プロシジャ:

- “FORMAT プロシジャ” (Base SAS プロシジャガイド)

VALIDMEMNAME=システムオプション

SAS データセット、SAS データビューおよび項目ストアの命名規則を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル: SAS ファイル

PROC OPTIONS GROUP= SASFILES

適用対象: Base SAS エンジンと SPD エンジン

制限事項: VALIDMEMNAME=オプションは、テープエンジン V9TAPE、V8TAPE、V7TAPE、V6TAPE ではサポートされません。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション \(6 ページ\)](#)”を参照してください。

構文

VALIDMEMNAME=[COMPATIBLE](#) | [EXTEND](#)

構文の説明**COMPATIBLE**

SAS データセット名、SAS データビュー名または項目ストア名が次の規則に従う必要があることを指定します。

- 名前の長さは、最大 32 文字まで指定できます。
- 名前は、英字(A~Z、a~z)またはアンダースコアで始める必要があります。開始文字以外には、英字、数字、アンダースコアを使用できます。
- 名前には、空白またはアンダースコア以外の特殊文字を含めることができません。
- 名前には大文字と小文字を混在させることができます。メンバ名は SAS 内部で大文字に変換されます。このため、メンバ名の大文字と小文字の組み合わせを変更して、異なる変数を表すことはできません。たとえば、customer、Customer、CUSTOMER はすべて同じメンバ名を表します。ディスク上に名前がどのように保存されるかは、動作環境によって決まります。

これがデフォルト設定です。

別名 COMPAT

EXTEND

SAS データセット名、SAS データビュー名または項目ストア名が次の規則に従う必要があることを指定します。

- 名前には各国語文字を含めることができます。
- 名前には \ * ? " < > | : - 以外の特殊文字を含めることができます。

注: SPD エンジンでは、メンバ名のどこにも ‘.’ (ピリオド)を使用できません。

- 名前には、少なくとも 1 文字が必要です。
- 名前の長さは、最大 32 バイトまで指定できます。
- NULL のバイトは使用できません。
- 名前は空白または '.' (ピリオド) で始めることはできません。
注: SPD エンジンでは、メンバ名の最初の文字に '\$' を使用できません。
- メンバが作成されるときに先頭と末尾の空白は削除されます。
- 名前には大文字と小文字を混在させることができます。メンバ名は SAS 内部で大文字に変換されます。このため、メンバ名の大文字と小文字の組み合わせを変更して、異なる変数を表すことはできません。たとえば、customer、Customer、CUSTOMER はすべて同じメンバ名を表します。名前がどのように表示されるかは、動作環境によって決まります。

制限事項 ウィンドウ環境では、VALIDMEMNAME=EXTEND が設定されていると、エディタ、ログ、出力ウィンドウで拡張規則がサポートされます。ほとんどの SAS ウィンドウでは、これらの拡張規則はサポートされません。たとえば、これらの規則は SAS エクスプローラ、VIEWTABLE ウィンドウ、および Solutions メニューを使用して開くウィンドウではサポートされません。

要件 VALIDMEMNAME=EXTEND の場合、SAS データセット名、SAS データビュー名および項目ストア名は、SAS 名リテラルとして書き込まれる必要があります。パーセント記号(%)またはアンパサンド(&)のいずれかを使用する場合、SAS マクロ機能との相互作用を避けるために、名前リテラルに一重引用符を使用する必要があります。詳細については、“SAS 名前リテラル” (SAS 言語リファレンス: 解説編 3 章)を参照してください。

ヒント 名前は大文字で表示されます。

参照項目 “SAS 名の長さをバイト数で測定すると何文字使用できるか” (SAS 言語リファレンス: 解説編 3 章)

例 data “August Purchases”n;

data ‘Años de empleo’n.;

注意 SAS 全体を通して、32 バイト制限を超えているか、過剰な埋め込み引用符が使用されている SAS メンバ名で名前リテラル構文を使用すると、予期しない結果が発生する可能性があります。VALIDMEMNAME=EXTEND システムオプションの目的は、埋め込み空白や各国語文字を許可するなど、他の DBMS メンバの命名規則との互換性を持たせることです。

注意 VALIDMEMNAME=EXTEND が指定されているときに特殊文字#を使用すると、SAS データセットが生成データセットで上書きされる可能性があります。VALIDMEMNAME=が EXTEND に設定されていると、生成データセットの命名規則を使用する SAS データセットに名前を付けることができます。その場合、特殊文字#と 3 桁の数字がメンバ名の最後に追加されます。競合を避けるために、SAS データセットには、アーカイブ済みの SAS データセットと類似する名前を付けしないでください。たとえば、A という名前のデータセットの場合、生成データセットには自動的に A#001、A#002 などの名前が付けられます。SAS データセットに A#003 という名前を付けると、生成グループに追加する過程で、SAS データセットが SAS によって削除される可能性があります。

詳細

VALIDMEMNAME=EXTEND の場合、SAS データセット名、SAS データビュー名および項目ストア名でが使用できる有効な文字は、次の文字まで拡張されます。

- 各国語文字
- サードパーティのデータベースでサポートされる文字
- ファイル名で一般的に使用される文字

DATA、VIEW および ITEMSTORE という SAS メンバの種類のみで、文字の拡張がサポートされます。CATALOG や PROGRAM などのその他のメンバの種類では、拡張文字はサポートされません。関連付けられた DATA メンバがある場合のみ存在する INDEX と AUDIT では、拡張文字がサポートされます。

関連項目:

- 3章: “SAS 言語のワードと命名規則について” (SAS 言語リファレンス: 解説編)

システムオプション:

- “VALIDVARNAME=システムオプション” (266 ページ)

VALIDVARNAME=システムオプション

SAS セッション中に作成および処理可能な有効な SAS 変数名の規則を指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
カテゴリ:	ファイル: SAS ファイル
PROC OPTIONS GROUP=	SASFILES
デフォルト:デフォルト:	V7
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション ” (6 ページ)を参照してください。

構文

VALIDVARNAME=V7 | UPCASE | ANY

構文の説明

V7

変数名が次の規則に従う必要があることを指定します。

- SAS 変数名の長さは、最大 32 文字まで指定できます。
- 最初の文字には、英字(A~Z、a~z)またはアンダースコアを使用する必要があります。開始文字以外には、英字、数字、アンダースコアを使用できます。
- 末尾の空白は無視されます。変数名の配置は左揃えになります。
- 変数名には、空白またはアンダースコア以外の特殊文字を含めることができません。

- 変数名には大文字と小文字を混在させることができます。SAS では、変数を初めて参照した際に使用されていた大文字と小文字の組み合わせと同じ組み合わせで変数名の保存、書き込みが行われますが、変数名の処理時には、SAS 内部ではすべて大文字に変換されます。このため、変数名の大文字と小文字の組み合わせを変更して、異なる変数を表すことはできません。たとえば、cat、Cat、CAT はすべて同じ変数を表します。
- 変数には、特殊な SAS 自動変数名(_N_、_ERROR など)や、変数リスト名(_NUMERIC_、_CHARACTER_、_ALL_など)を割り当てないでください。

例 `season='summer';`

`percent_of_profit=percent;`

UPCASE

変数名が V7 と同じ規則に従うように指定します。ただし、SAS の以前のバージョンにある変数名が大文字という規則は除きます。

ANY

SAS 変数名が次の規則に従う必要があることを指定します。

- 名前には、空白、各国語文字、特殊文字、マルチバイト文字など、どの文字でも使用できます。
- 名前の長さは最大 32 バイトです。
- 名前に NULL のバイトを含めることはできません。
- 先頭の空白は保持されますが、末尾の空白は無視されます。
- 名前には、少なくとも 1 文字が必要です。すべて空白の名前は使用できません。
- 名前には大文字と小文字を混在させることができます。SAS では、変数を初めて参照した際に使用されていた大文字と小文字の組み合わせと同じ組み合わせで変数名の保存、書き込みが行われますが、変数名の処理時には、SAS 内部ではすべて大文字に変換されます。このため、変数名の大文字と小文字の組み合わせを変更して、異なる変数を表すことはできません。たとえば、cat、Cat、CAT はすべて同じ変数を表します。

要件 VALIDVARNAME システムオプションが V7 に設定されているときに、有効な文字(英数字またはアンダースコア)以外の文字を使用する場合は、変数名を名前リテラルとして表す必要があり、VALIDVARNAME=ANY に設定する必要があります。名前にパーセント記号(%)またはアンパサンド(&)のいずれかが含まれている場合、SAS マクロ機能との交互作用を避けるために、名前リテラルに一重引用符を使用する必要があります。“SAS 名前リテラル”(SAS 言語リファレンス: 解説編 3 章)および“名前リテラルの使用時のエラーの回避”(SAS 言語リファレンス: 解説編 3 章)を参照してください。

参照項目 “SAS 名の長さをバイト数で測定すると何文字使用できるか”(SAS 言語リファレンス: 解説編 3 章)

例 `'% of profit'n=percent;`

`'items@warehouse'n=itemnum;`

注意 SAS 全体を通して、32 バイト制限を超えているか、過剰な埋め込み引用符が使用されている SAS メンバ名で名前リテラル構文を使用すると、予期しない結果が発生する可能性があります。VALIDVARNAME=ANY システム

オプションの目的は、埋め込み空白や各国語文字を許可するなど、他の DBMS 変数(列)の命名規則との互換性を持たせることです。

関連項目:

- 3章: “SAS 言語のワードと命名規則について” (SAS 言語リファレンス: 解説編)

システムオプション:

- “VALIDMEMNAME=システムオプション” (264 ページ)

VARLENCHK=システムオプション

SET、MERGE、UPDATE、MODIFY のいずれかのステートメントを使用して入力データセットが読み込まれるときに SAS ログに書き込まれるメッセージの種類を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: ファイル: SAS ファイル

PROC OPTIONS GROUP= SASFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

VARLENCHK=NOWARN | WARN | ERROR

構文の説明

NOWARN

読み込まれている変数の長さがその変数に定義されている長さを超えても、警告メッセージが発行されないように指定します。

警告

読み込まれている変数の長さがその変数に定義されている長さを超えると、警告メッセージが発行されるように指定します。これがデフォルト設定です。

ERROR

読み込まれている変数の長さがその変数に定義されている長さを超えると、エラーメッセージが発行されるように指定します。

詳細

変数が定義された後、変数の長さは LENGTH ステートメントのみで変更できます。変数が SET、MERGE、UPDATE、MODIFY のいずれかのステートメントで読み込まれ、変数の長さが同じ名前の変数より長い場合、警告メッセージが発行され、短い元の長さの変数が使用されます。短い変数を使用することにより、データは切り捨てられません。

文字変数からの不要な空白の削除など、ユーザーが意図的にデータを切り捨てた場合に発行される警告メッセージは、ユーザーにとって有用なものではない場合があります。警告メッセージが発行されないように指定、またはゼロ以外のリターンコードを設定するには、VARLENCHK=システムオプションを NOWARN を設定します。

VARLENCHK=NOWARN の場合は、警告メッセージが発行されず、リターンコードが SYSRC=0 に設定されます。

別の方法として、VARLENCHK=ERROR を設定し、読み込まれている変数の長さがその変数に定義されている長さを超えている場合、エラーが発行され、リターンコード SYSRC=8 が設定されます。

VARLENCHECK=システムオプションは、SET、MERGE または UPDATE ステートメントの後の BY ステートメントで指定される BY 変数には影響しません。

VARLENCHK=オプションは、複数のデータセットで長さが異なる同じ名前の変数にのみ適用されます。BY 変数は意図的に除外されています。

注: BY 変数の長さが複数のデータセットで異なる場合、別の警告メッセージが生成されます。これは正常な動作です。

警告: 入力データセットに長さの違う BY 変数 x があります。期待した結果にならないかもしれません。

この警告メッセージを避けるには、SET、MERGE または UPDATE ステートメントの前に LENGTH ステートメントを指定し、BY 変数を同じ長さに設定します。

例

例 1: 変数の長さが異なる 2 つのデータセットを結合すると警告メッセージが発行される

この例では、sashelp.class と exam_schedule という 2 つのデータセットを結合します。変数 Name の長さは、最初の SET ステートメント `set sashelp.class;` によって 8 に設定されます。exam_schedule データセットでは、Name の長さが 10 に設定されます。2 つ目の SET ステートメント `set exam_schedule key=Name;` で exam_schedule が読み込まれると、exam_schedule データセットの Name の長さが sashelp.class データセットの Name の長さより長いいため、警告メッセージが発行され、データが切り捨てられる場合があります。

```
/* Create the exam_schedule data set. */
data exam_schedule(index=(Name));
input Name : $10. Exam_Date : mmdyy10.;
format Exam_Date mmdyy10.;
datalines;
Carol 06/09/2011
Hui 06/09/2011
Janet 06/09/2011
Geoffrey 06/09/2011
John 06/09/2011
Joyce 06/09/2011
Helga 06/09/2011
Mary 06/09/2011
Roberto 06/09/2011
Ronald 06/09/2011
Barbara 06/10/2011
Louise 06/10/2011
Alfred 06/11/2011
Alice 06/11/2011
Henri 06/11/2011
James 06/11/2011
Philip 06/11/2011
Tomas 06/11/2011
William 06/11/2011
;
```

```

run

/* Merge the data sets sashelp.class and exam_schedule */
data exams;
set sashelp.class;
set exam_schedule key=Name;
run;

```

次の SAS ログには警告メッセージが表示されています。

アウトプット 3.8 SAS ログの警告メッセージ

```

34 ods listing;
35 /* Create the exam_schedule data set. */
36 data exam_schedule(index=(Name));
37 input Name : $10. Exam_Date : mmdyy10.;
38 format Exam_Date mmdyy10.;
39 datalines;

NOTE: The data set WORK.EXAM_SCHEDULE has 19 observations and 2 variables.
NOTE: DATA statement used (Total process time):
      real time 0.09 seconds
      cpu time 0.00 seconds

59 ;
60 run;
61
62 /* Merge the data sets sashelp.class and exam_schedule */
63 data exams;
64 set sashelp.class;
65 set exam_schedule key=Name;
66 run;

WARNING: Multiple lengths were specified for the variable Name by input data
set(s). This may cause truncation of data.
Name=Henry Sex=M Age=14 Height=63.5 Weight=102.5 Exam_Date=06/09/2011 _ERROR_=1
_IORC_=1230015 _N_=5
Name=Jane Sex=F Age=12 Height=59.8 Weight=84.5 Exam_Date=06/11/2011 _ERROR_=1
_IORC_=1230015 _N_=7
Name=Jeffrey Sex=M Age=13 Height=62.5 Weight=84 Exam_Date=06/09/2011 _ERROR_=1
_IORC_=1230015 _N_=9
Name=Judy Sex=F Age=14 Height=64.3 Weight=90 Exam_Date=06/09/2011 _ERROR_=1
_IORC_=1230015 _N_=12
Name=Robert Sex=M Age=12 Height=64.8 Weight=128 Exam_Date=06/11/2011 _ERROR_=1
_IORC_=1230015 _N_=16
Name=Thomas Sex=M Age=11 Height=57.5 Weight=85 Exam_Date=06/09/2011 _ERROR_=1
_IORC_=1230015 _N_=18
NOTE: There were 19 observations read from the data set SASHELP.CLASS.
NOTE: The data set WORK.EXAMS has 19 observations and 6 variables.

```

例 2: 警告メッセージをオフにし、LENGTH ステートメントを使用して変数の長さを合わせる

sashelp.class と exam_schedule という 2 つのデータセットを結合するには、exam_schedule の Name の値を確認します。8 文字を超える値がなく、データを失わずに Name の長さを変更できることがわかります。

変数 Name の長さを変更するには、set exam_schedule; ステートメントの前に、DATA ステップで LENGTH=ステートメントを使用します。VARLENCHK の値が WARN(デフォルト)の場合、work.exam_schedule から読み込まれるときに Name の値

が切り捨てられるという警告メッセージが発行されます。データを失わないことがわかっているため、警告メッセージをオフにできます。

```
options varlencchk=nowarn;
data exam_schedule(index=(Name));
length Name $ 8;
set exam_schedule;
run;
```

SAS ログ出力を次に示します。

```
67 options varlencchk=nowarn;
68 data exam_schedule(index=(Name));
69 length Name $ 8;
70 set exam_schedule;
71 run;

NOTE: There were 19 observations read from the data set WORK.EXAM_SCHEDULE.
NOTE: The data set WORK.EXAM_SCHEDULE has 19 observations and 2 variables.
```

関連項目:

“発生しがちな問題の調査” (SAS 言語リファレンス: 解説編 21 章)

VBUFSIZE=システムオプション

表示バッファのサイズを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール: データ処理

PROC OPTIONS INPUTCONTROL

GROUP=

制限事項: VBUFSIZE=システムオプションは SQL ビューには適用されません。

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

VBUFSIZE=*n* | *nK* | *nM* | *nG* | *nT* | *hexX* | MIN | MAX

必須引数

n | *nK* | *nM* | *nG* | *nT*

表示バッファのサイズを 1(バイト)、1,024(キロバイト)、1,048,576(メガバイト)、1,073,741,824(ギガバイト)、1,099,511,627,776(テラバイト)のいずれかの倍数で指定します。たとえば、値 8 では 8 バイト、値 3m では 3,145,728 バイトが指定されます。

デフォルト 32767

hexX

表示バッファのサイズを 16 進値で指定します。先頭が数値(0~9)、末尾が X の値を指定する必要があります。たとえば、値 `fffex` ではバッファサイズが 65,534 バイトに設定されます。

MIN

最小バッファ数を 0 に設定します。

MAX

表示バッファのサイズを $2^{63}-1$ 、つまり約 920 京バイトに設定します。

注 VBUFSIZE=MAX に設定し、システムに十分なメモリがない場合は、ビューの処理が停止されます。

詳細

表示バッファは、ビューに対して生成される出力オブザベーションを保持するために割り当てられたメモリのセグメントです。バッファのサイズによって、一度にメモリ内に保持できるデータ量が決定されます。

表示バッファは、ビューを開く要求(SAS プロシジャなど)とビュー自体の間で共有されます。2つのコンピュータタスクは、データの要求とデータの生成や返送間で次のように調整されます。

- 要求タスク(PRINT プロシジャなど)がデータを要求すると、ビューを実行してオブザベーションを生成するために、要求タスクから表示タスクへのタスクの切り替えが発生します。ビューによって、表示バッファに可能な限り多くのオブザベーションが挿入されます。
- 表示バッファがいっぱいになると、要求されたデータを返すために表示タスクから要求タスクへのタスクの切り替えが発生します。オブザベーションは表示バッファから解除されます。

表示バッファのサイズとオブザベーションのサイズによって、保持できるオブザベーション数が決定されます。オブザベーションの長さを確認するには、ビューの PROC CONTENTS を使用します。次に、オブザベーション数によって、コンピュータが要求タスクと表示タスク間を切り替える必要がある回数が決定されます。表示バッファを大きくすると、ビューの処理に必要なタスクの切り替え数は少なくなり、実行時間が短縮されます。

効率を高めるには、最初にデフォルトのバッファサイズに収まるオブザベーション数を確認してから、より多くの生成されたオブザベーションを保持できるように表示バッファを設定します。

ビューに OBSBUF= が設定されている場合は、VBUFSIZE= の値ではなく、OBSBUF= の値を使用して、表示バッファのサイズが決定されます。

表示バッファはビューの実行が完了すると解放されます。

比較

VBUFSIZE=システムオプションでは、バイト数に基づいて表示バッファのサイズを指定できます。表示バッファに一度に読み込むことができるオブザベーション数は、VBUFSIZE=の値をオブザベーションの長さで除算して計算します。VBUFSIZE=はシステムオプションで、SAS セッションの長さに対して設定されます。

OBSBUF=データセットオプションでは、指定された、表示バッファに一度に読み込むことができるオブザベーション数に基づいて表示バッファのサイズを設定します。表示バッファのサイズは、OBSBUF=の値をオブザベーションの長さで乗算して決定されません。OBSBUF=はデータセットオプションで、ビューの処理の長さに対して設定されません。

関連項目:

データセットオプション:

- “OBSBUF=データセットオプション” (SAS データセットオプション: リファレンス)

VIEWMENU システムオプション

SAS ウィンドウに表示メニューを表示するかどうかを指定します。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時
カテゴリ:	環境コントロール: 表示
PROC OPTIONS GROUP=	ENVDISPLAY
デフォルト:デフォルト:	VIEWMENU
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション (6 ページ) ”を参照してください。

構文

VIEWMENU | **NOVIEWMENU**

構文の説明

VIEWMENU

SAS ウィンドウに表示メニューを表示するように指定します。

NOVIEWMENU

SAS ウィンドウに表示メニューを表示しないように指定します。

VNFERR システムオプション

BY 変数があるデータセットに存在して別のデータセットに存在せず、その他のデータセットが `_NULL_` のときに、エラーまたは警告を発行するかどうかを指定します。このオプションは、SET、MERGE、UPDATE、MODIFY のいずれかのステートメントを処理するときに適用されます。

該当要素:	構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ
カテゴリ:	環境コントロール: エラー処理
PROC OPTIONS GROUP=	ERRORHANDLING
注:	サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“ 制限されたオプション (6 ページ) ”を参照してください。

構文

VNFERR | **NOVNFERR**

構文の説明

VNFERR

BY 変数が、あるデータセットに存在して別のデータセットに存在せず、その他のデータセットが `_NULL_` のときに、エラーを発行するように指定します。このオプションは、SET、MERGE、UPDATE、MODIFY のいずれかのステートメントを処理するときに適用されます。エラーが発生すると、SAS が構文チェックモードになります。

NOVNFERR

BY 変数があるデータセットに存在して別のデータセットに存在せず、その他のデータセットが `_NULL_` のときに、警告を発行するように指定します。このオプションは、SET、MERGE、UPDATE、MODIFY のいずれかのステートメントを処理するときに適用されます。警告が発生しても、SAS は構文チェックモードにはなりません。

詳細

VNF は Variable Not Found(変数が見つかりません)を表します。

このオプションは、マクロ変数にデータセット名が保存され、これらのマクロ変数が SET、MERGE、UPDATE、MODIFY のいずれかのステートメントで使用される場合に役に立ちます。NOVNFERR を設定し、これらのステートメントのいずれかに値 `_NULL_` を使用したマクロ変数が含まれている場合、エラーの代わりに警告が発行され、処理は続行されます。

z/OS 固有

z/OS では、DDNAME で指定するデータセットが DUMMY ライブラリを示している場合に、エラーまたは警告が発行されます。

比較

- VNFERR は、BYERR システムオプションに似ています。BYERR システムオプションでは、SORT プロシジャが `_NULL_` データセットを並べ替えようとした場合に、エラーが発行され構文チェックモードになります。
- VNFERR は、SAS データセットが見つからないときにエラーが発行される DSNFERR システムオプションに似ています。

例

例 1

この例は、VNFERR オプションと NOVNFERR オプションの設定の結果を示しています。

```
/* treat variable not found on _NULL_ SAS data set as an error */

/* turn option off - should not get an error */
options novnferr; run;

data a;
x = 1;
y = 2;
run;

data b;
x = 2;
y = 3;
run;
```

```
data _null;  
y = 2;  
run;  
  
/* option is off - should not get an error */  
data result;  
merge a b _null_;  
by x;  
run;  
  
/* turn option on - should get an error */  
options vnferr; run;  
  
data result2;  
merge a b _null_;  
by x;  
run;
```

SAS ログを次に示します。

```
66 /* treat variable not found on _NULL_ SAS data set as an error */
67
68 /* turn option off - should not get an error */
69 options novnferr; run;
70
71 data a;
72 x = 1;
73 y = 2;
74 run;

NOTE: The data set WORK.A has 1 observations and 2 variables.
NOTE: DATA statement used (Total process time):
      real time 0.01 seconds
      cpu time 0.00 seconds

75
76 data b;
77 x = 2;
78 y = 3;
79 run;

NOTE: The data set WORK.B has 1 observations and 2 variables.
NOTE: DATA statement used (Total process time):
      real time 0.00 seconds
      cpu time 0.00 seconds

80
81 data _null_;
82 y = 2;
83 run;

NOTE: The data set WORK._NULL has 1 observations and 1 variables.
NOTE: DATA statement used (Total process time):
      real time 0.00 seconds
      cpu time 0.00 seconds

84
85 /* option is off - should not get an error */
86 data result;
87 merge a b _null_;
88 by x;
89 run;

WARNING: BY variable x is not on input data set WORK._null_.
NOTE: There were 1 observations read from the data set WORK.A.
NOTE: There were 1 observations read from the data set WORK.B.
NOTE: The data set WORK.RESULT has 2 observations and 2 variables.
NOTE: DATA statement used (Total process time):
      real time 0.00 seconds
      cpu time 0.00 seconds

90
91 /* turn option on - should get an error */
92 options vnferr; run;
93
94 data result2;
95 merge a b _null_;
96 by x;
97 run;

ERROR: BY variable x is not on input data set WORK._null_.
NOTE: The SAS System stopped processing this step because of errors.
WARNING: The data set WORK.RESULT2 may be incomplete. When this step was stopped
there were 0 observations and 2
variables.
```

例 2

この例では、データセット Result は、SET ステートメントを使用して 3 つのデータセットから読み込みます。SET ステートメントの値はすべてマクロ変数です。これらのマクロ変数の 1 つ &dataset3 に値 _NULL_ が設定されています。SAS では、&dataset3 の読み込みを行うときに警告メッセージが発行され、DATA ステップはエラーを起こすことなく完了します。

```
options novnferr;

data a;
x = 1;
y = 2;
run;
data b;
x = 2;
y = 3;
run;

%let dataset1=a;
%let dataset2=b;
%let dataset3=_null_;

data result;
set &dataset1 &dataset2 &dataset3;
by x;
run;
```

SAS ログを次に示します。

```

15 options novnferr;
16
17 data a;
18 x = 1;
19 y = 2;
20 run;

NOTE: The data set WORK.A has 1 observations and 2 variables.
NOTE: DATA statement used (Total process time):
      real time 0.01 seconds
      cpu time 0.01 seconds

21 data b;
22 x = 2;
23 y = 3;
24 run;

NOTE: The data set WORK.B has 1 observations and 2 variables.
NOTE: DATA statement used (Total process time):
      real time 0.00 seconds
      cpu time 0.00 seconds

25
26 %let dataset1=a;
27 %let dataset2=b;
28 %let dataset3=_null_;
29
30 data result;
31 set &dataset1 &dataset2 &dataset3;
32 by x;
33 run;

WARNING: BY variable x is not on input data set WORK._null_.
NOTE: There were 1 observations read from the data set WORK.A.
NOTE: There were 1 observations read from the data set WORK.B.

```

関連項目:

- “構文チェックモード” (SAS 言語リファレンス: 解説編 8 章)

システムオプション:

- “BYERR システムオプション” (62 ページ)
- “DSNFERR システムオプション” (101 ページ)

WORK=システムオプション

Work ライブラリを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** ENVFILES

注: UNIX では、サイト管理者はこのオプションを制限できます。Windows と z/OS では、サイト管理者はこのオプションを制限できません。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “WORK System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)
 “WORK System Option: Windows” (SAS Companion for Windows)
 “WORK= System Option: z/OS” (SAS Companion for z/OS)

構文

WORK=*library-specification*

構文の説明

library-specification

1 レベルの名前のすべてのデータセットが保存されるストレージ領域のライブラリ参照名または物理名を指定します。このライブラリは存在している必要があります。

動作環境 有効なライブラリの指定と構文は、動作環境に固有です。コマンドラインまたは構成ファイルでは、動作環境に固有の構文を使用します。詳細については、動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

詳細

デフォルトでは、このライブラリは SAS セッションの終了時に削除されます。ファイルが削除されないようにするには、NOWORKTERM システムオプションを指定します。

関連項目:

システムオプション:

- “WORKTERM システムオプション” (280 ページ)

WORKINIT システムオプション

SAS の起動時に Work ライブラリを初期化するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時

カテゴリ: 環境コントロール: ファイル

PROC OPTIONS GROUP= ENVFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

参照項目: “WORKINIT System Option: UNIX” (SAS Companion for UNIX Environments)

構文

WORKINIT | **NOWORKINIT**

構文の説明

WORKINIT

SAS の起動時に既存の Work ライブラリ内の以前の SAS セッションのファイルを消去します。

NOWORKINIT

SAS の起動時に Work ライブラリからファイルを消去しません。

詳細

WORKINIT システムオプションでは、SAS の起動時に Work データライブラリを初期化し、以前の SAS セッションのすべてのファイルを消去します。WORKTERM システムオプションでは、SAS セッションの終了時に Work ファイルを消去するかどうかを制御します。

UNIX 固有

WORKINIT には、UNIX 動作環境に固有の動作および関数があります。詳細については、UNIX 動作環境に関する SAS のドキュメントを参照してください。

関連項目:

システムオプション:

- [“WORKTERM システムオプション” \(280 ページ\)](#)

WORKTERM システムオプション

SAS が終了するときに Work ファイルを消去するかどうかを指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 環境コントロール: ファイル

**PROC OPTIONS
GROUP=** ENVFILES

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

WORKTERM | NOWORKTERM

構文の説明

WORKTERM

SAS セッションの終了時に Work ファイルを消去します。

NOWORKTERM

Work ファイルを消去しません。

詳細

NOWORKTERM を使用すると、Work データセットが削除されないようになりますが、SAS による Work ライブラリの初期化には影響しません。SAS では通常、各セッションの開始時に Work ライブラリが初期化され、既存の情報が効率的に破棄されます。

比較

起動時に既存の Work ファイルが消去されないようにするには、NOWORKINIT システムオプションを使用します。終了時に既存の Work ファイルが消去されないようにするには、NOWORKTERM システムオプションを使用します。

関連項目:

システムオプション:

- [“WORKINIT システムオプション” \(279 ページ\)](#)

YEARCUTOFF=システムオプション

2 桁の年を読み込むために日付入力形式および関数で使用される 100 年の期間の第 1 年を指定します。

該当要素: 構成ファイル、SAS 起動時、OPTIONS ステートメント、SAS システム オプションウィンドウ

カテゴリ: 入力コントロール: データ処理

PROC OPTIONS GROUP= INPUTCONTROL

注: サイト管理者はこのオプションを制限できます。詳細については、“[制限されたオプション](#)” (6 ページ)を参照してください。

構文

YEARCUTOFF= *nnnn* | *nnnnn*

構文の説明

nnnn | *nnnnn*

100 年の期間の第 1 年を指定します。

デフォルト 1920

範囲 1582–1990

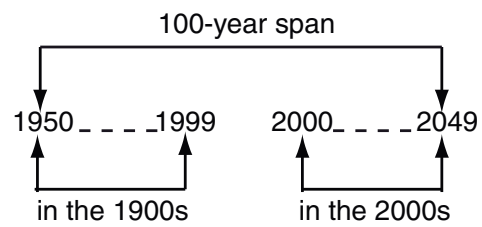
詳細

YEARCUTOFF=値は、さまざまな日付や日時の入力形式および関数で使用されるデフォルトです。

デフォルト値 *nnnn*(1920)が有効な場合、100 年の期間は 1920 年に始まり、2019 年で終了します。そのため、20~99 の 2 桁の年の値を使用する入力形式または関数では、先頭に 19 が付くとみなされます。たとえば、値 92 は 1992 年を参照します。

YEARCUTOFF=で指定する値によっては、年の範囲が世紀をまたぐことがあります。たとえば、YEARCUTOFF=1950 を指定すると、50~99(99 を含む)の 2 桁の値は 100 年の期間の前半を指し、これは 1900 年代になります。00~49(49 を含む)の 2 桁の値は 100 年の期間の後半を指し、これは 2000 年代になります。次の図は、YEARCUTOFF=1950 である場合に、100 年の期間と 2 世紀の関係を示しています。

図3.1 2世紀の値を指定した100年の期間



注: YEARCUTOFF=は、既存の SAS の日付や 4 桁の年(先頭にゼロを使用する年を除く)を含む入力データから読み込まれる日付には影響しません。たとえば、`yearcutoff=1990` を指定した `0076` は `2076` を示します。

関連項目:

“2000 年” (SAS 言語リファレンス: 解説編 7 章)

4 部

SAS システムオプションの SAS プロシジャ

4 章		
	<i>OPTIONS</i> プロシジャ.....	285
5 章		
	<i>OPTLOAD</i> プロシジャ.....	305
6 章		
	<i>OPTSAVE</i> プロシジャ.....	311

4 章

OPTIONS プロシジャ

概要: OPTIONS プロシジャ	285
構文: OPTIONS プロシジャ	286
PROC OPTIONS ステートメント	286
Displaying a List of System Options	291
Displaying Information about One or More Options	292
Displaying Information about System Option Groups	294
Displaying Restricted Options	297
Displaying Options That Can Be Saved	298
Results: OPTIONS Procedure	299
例: OPTIONS プロシジャ	300
例 1: Producing the Short Form of the Options Listing	300
例 2: Displaying the Setting of a Single Option	301
例 3: Displaying Expanded Path Environment Variables	302
例 4: List the Options That Can Be Specified by the INSERT and APPEND Options	303

Overview: OPTIONS Procedure

The OPTIONS procedure lists the current settings of SAS system options in the SAS log.

SAS system options control how SAS formats output, handles files, processes data sets, interacts with the operating environment, and does other tasks that are not specific to a single SAS program or data set. You use the OPTIONS procedure to obtain information about an option or a group of options. Here is some of the information that the OPTIONS procedure provides:

- the current value of an option and how it was set
- a description of an option
- valid syntax for the option, valid option values, and the range of values
- where you can set the system option
- if the option can be restricted by your site administrator
- if the option has been restricted

- system options that belong to a system option group
- system options that are specific for an operating environment
- if an option value has been modified by the INSERT or APPEND system options
- system options that can be saved by the OPTSAVE procedure or the DMOPTSAVE command

For additional information about SAS system options, see *SAS システムオプション: リファレンス*.

Syntax: OPTIONS Procedure

See: “OPTIONS Procedure: UNIX” in SAS Companion for UNIX Environments
 “OPTIONS Procedure: Windows” in SAS Companion for Windows
 “OPTIONS Procedure: z/OS” in SAS Companion for z/OS

PROC OPTIONS <option(s)>;

Statement	Task	Example
PROC OPTIONS	List the current system option settings to the SAS Log	Ex. 1, Ex. 2, Ex. 3, Ex. 4

PROC OPTIONS Statement

Lists the current settings of SAS system options in the SAS log.

Examples: “Example 1: Producing the Short Form of the Options Listing” on page 300
 “Example 2: Displaying the Setting of a Single Option” on page 301
 “Example 3: Displaying Expanded Path Environment Variables” on page 302
 “Example 4: List the Options That Can Be Specified by the INSERT and APPEND Options” on page 303

Syntax

PROC OPTIONS <option(s)>;

Summary of Optional Arguments

LISTGROUPS

lists the system option groups as well as a description of each group.

Choose the format of the listing

DEFINE

displays the short description of the option, the option group, and the option type.

EXPAND

when displaying a character option, replaces an environment variable in the option value with the value of the environment variable. EXPAND is ignored if the option is a Boolean option, such as CENTER or NOCENTER, or if the value of the option is numeric.

HEXVALUE

displays system option character values as hexadecimal values.

LOGNUMBERFORMAT

displays numeric system option values using locale-specific punctuation.

LONG

lists each system option on a separate line with a description.

NOEXPAND

when displaying a path, displays the path using environment variable(s) and not the value of the environment variable(s). This is the default.

NOLOGNUMBERFORMAT

displays numeric system option values without using punctuation, such as a comma or a period. This is the default.

SHORT

specifies to display a compressed listing of options without descriptions.

VALUE

displays the option's value and scope, as well as how the value was set.

Restrict the number of options displayed

GROUP=group-name

GROUP=(group-name-1 ... group-name-n)

displays the options in one or more groups specified by *group-name*.

HOST

displays only host options.

LISTINSERTAPPEND

lists the system options whose value can be modified by the INSERT and APPEND system options.

LISTOPTSAVE

lists the system options that can be saved with PROC OPTSAVE or the DMOPTSAVE command.

LISTRESTRICT

lists the system options that can be restricted by your site administrator.

NOHOST

displays only portable options.

OPTION=option-name

OPTION=(option-name-1 ... option-name-n)

displays information about one or more system options.

RESTRICT

displays system options that the site administrator has restricted from being updated.

Optional Arguments**DEFINE**

displays the short description of the option, the option group, and the option type. SAS displays information about when the option can be set, whether an option can be restricted, the valid values for the option, and whether the OPTSAVE procedure will save the option.

Interaction This option is ignored when SHORT is specified.

Example [“Example 2: Displaying the Setting of a Single Option” on page 301](#)

EXPAND

when displaying a character option, replaces an environment variable in the option value with the value of the environment variable. EXPAND is ignored if the option is a Boolean option, such as CENTER or NOCENTER, or if the value of the option is numeric.

Restriction Variable expansion is valid only in the Windows and UNIX operating environments.

Tip By default, some option values are displayed with expanded variables. Other options require the EXPAND option in the PROC OPTIONS statement. Use the DEFINE option in the PROC OPTIONS statement to determine whether an option value expands variables by default or if the EXPAND option is required. If the output from PROC OPTIONS DEFINE shows the following information, you must use the EXPAND option to expand variable values:

Expansion: Environment variables, within the option value,
are not expanded

See [“NOEXPAND” on page 289](#) option to view paths that display the environment variable

Example [“Example 3: Displaying Expanded Path Environment Variables” on page 302](#)

GROUP=*group-name*

GROUP=(*group-name-1 ... group-name-n*)

displays the options in one or more groups specified by *group-name*.

Requirement When you specify more than one group, enclose the group names in parenthesis and separate the group names by a space.

See [“Displaying Information about System Option Groups” on page 294](#)

HEXVALUE

displays system option character values as hexadecimal values.

HOST

displays only host options.

See [“NOHOST” on page 289](#) option to display only portable options.

LISTINSERTAPPEND

lists the system options whose value can be modified by the INSERT and APPEND system options. The INSERT option specifies a value that is inserted as the first value of a system option value list. The APPEND option specifies a value that is appended as the last value of a system option value list. Use the LISTINERTAPPEND option to display which system options can have values inserted at the beginning or appended at the end of their value lists.

See [“INSERT=システムオプション” on page 141](#) and

[“APPEND=システムオプション” on page 50](#)

Example [“Example 4: List the Options That Can Be Specified by the INSERT and APPEND Options” on page 303](#)

LISTGROUPS

lists the system option groups as well as a description of each group.

See [“Displaying Information about System Option Groups” on page 294](#)

LISTOPTSAVE

lists the system options that can be saved with PROC OPTSAVE or the DMOPTSAVE command.

LISTRESTRICT

lists the system options that can be restricted by your site administrator.

See [“RESTRICT” on page 290](#) option to list options that have been restricted by the site administrator

LONG

lists each system option on a separate line with a description. This is the default. Alternatively, you can create a compressed listing without descriptions.

See [“SHORT” on page 290](#) option to produce a compressed listing without descriptions

Example [“Example 1: Producing the Short Form of the Options Listing” on page 300](#)

LOGNUMBERFORMAT

displays numeric system option values using locale-specific punctuation.

See [“NOLOGNUMBERFORMAT” on page 289](#) option to display numeric option values without using commas

Example [“Example 2: Displaying the Setting of a Single Option” on page 301](#)

NOEXPAND

when displaying a path, displays the path using environment variable(s) and not the value of the environment variable(s). This is the default.

See [“EXPAND” on page 288](#) option to display a path by expanding the value of environment variables

NOHOST

displays only portable options.

Alias PORTABLE or PORT

See [“HOST” on page 288](#) option to display only host options

NOLOGNUMBERFORMAT

displays numeric system option values without using punctuation, such as a comma or a period. This is the default.

See [“LOGNUMBERFORMAT” on page 289](#) option to display numeric system options using commas

OPTION=option-name**OPTION=(option-name-1 ... option-name-n)**

displays a short description and the value (if any) of the option specified by *option-name*. DEFINE and VALUE options provide additional information about the option.

option-name

specifies the option to use as input to the procedure.

Requirement If a SAS system option uses an equal sign, such as PAGESIZE=, do not include the equal sign when specifying the option to OPTION=.

Example [“Example 2: Displaying the Setting of a Single Option” on page 301](#)

RESTRICT

displays the system options that have been set by your site administrator in a restricted options configuration file. These options cannot be changed by the user. For each option that is restricted, the RESTRICT option displays the option's value, scope, and how it was set.

If your site administrator has not restricted any options, then the following message appears in the SAS log:

```
Your Site Administrator has not restricted any SAS options.
```

See [“LISTRESTRICT” on page 289](#) option to list options that can be restricted by the site administrator

SHORT

specifies to display a compressed listing of options without descriptions.

See [“LONG” on page 289](#) option to create a listing with descriptions of the options.

VALUE

displays the option's value and scope, as well as how the value was set. If the value was set using a configuration file, the SAS log displays the name of the configuration file. If the option was set using the INSERT or APPEND system options, the SAS log displays the value that was inserted or appended.

Interactions This option has no effect when SHORT is specified.

When the option is in the TK system options group, the value of **How option value set** is displayed as

```
Internal
```

```
.
```

Note SAS options that are passwords, such as EMAILPW and METAPASS, return the value xxxxxxxx and not the actual password.

Example [“Example 2: Displaying the Setting of a Single Option” on page 301](#)

Displaying a List of System Options

The log that results from running PROC OPTIONS can show the system options for the options that are available for all operating environment and those that are specific to a single operating environment. Options that are available for all operating environments are referred to as portable options. Options that are specific to a single operating environment are referred to as host options.

The following example shows a partial log that displays the settings of portable options.

```
proc options;
run;
```

Log 4.1 The SAS Log Showing a Partial Listing of SAS System Options

Portable Options:

ANIMATION=STOP	Specifies whether to start or stop animation.
ANIMDURATION=MIN	Specifies the number of seconds that each animation frame displays.
ANIMLOOP=YES	Specifies the number of iterations that animated images repeat.
ANIMOVERLAY	Specifies that animation frames are overlaid in order to view all frames.
APPEND=	Specifies an option=value pair to insert the value at the end of the existing option value.
APPLETLOC= <i>site-specific-path</i>	Specifies the location of Java applets, which is typically a URL.
ARMAGENT=	Specifies an ARM agent (which is an executable module or keyword, such as LOG4SAS) that contains a specific implementation of the ARM API.
ARMLOC=ARMLOG.LOG	Specifies the location of the ARM log.
ARMSUBSYS=(ARM_NONE)	Specifies the SAS ARM subsystems to enable or disable.
AUTOCORRECT	Automatically corrects misspelled procedure names and keywords, and global statement names.

The log displays both portable and host options when you submit `proc options;`.

To view only host options, use this version of the OPTIONS procedure:

```
proc options host;
run;
```

Log 4.2 The SAS Log Showing a Partial List of Host Options

```
Host Options:

ACCESSIBILITY=STANDARD
                Specifies whether accessibility features are enabled in the Customize Tool
                dialog box and in some Properties dialog boxes.
ALIGNSSASIOFILES Aligns SAS files on a page boundary for improved performance.
ALTLOG=         Specifies the location for a copy of the SAS log when SAS is running in batch
                mode.
ALTPRINT=      Specifies the location for a copy of the SAS procedure output when SAS is
                running in batch mode.
AUTHPROVIDERDOMAIN=
                Specifies the authentication provider that is associated with a domain.
AUTHSERVER=    Specifies the domain server that finds and authenticates secure server logins.
AWSCONTROL=(SYSTEMMENU MINMAX TITLE)
                Specifies whether the main SAS window includes a title bar, a system control
                menu, and minimize and maximize buttons.
AWSDEF=(0 0 79 80)
                Specifies the location and dimensions of the main SAS window when SAS
                initializes.
AWSMENU        Displays the menu bar in the main SAS window.
```

Displaying Information about One or More Options

To view the setting of one or more particular options, you can use the `OPTION=` and `DEFINE` options in the `PROC OPTIONS` statement. The following example shows a log that `PROC OPTIONS` produces for a single SAS system option.

```
proc options option=errorcheck define;
run;
```

Log 4.3 The Setting of a Single SAS System Option

```

5  proc options option=errorcheck define;
6  run;

SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1M0

ERRORCHECK=NORMAL
Option Definition Information for SAS Option ERRORCHECK
Group= ERRORHANDLING
Group Description: Error messages and error conditions settings
Description: Specifies whether SAS enters syntax-check mode when errors are found in the
              LIBNAME, FILENAME, %INCLUDE, and LOCK statements.
Type: The option value is of type CHARACTER
Maximum Number of Characters: 10
Casing: The option value is retained uppercased
Quotes: If present during "set", start and end quotes are removed
Parentheses: The option value does not require enclosure within parentheses. If
             present, the parentheses are retained.
Expansion: Environment variables, within the option value, are not expanded
Number of valid values: 2
          Valid value: NORMAL
          Valid value: STRICT
When Can Set: Startup or anytime during the SAS Session
Restricted: Your Site Administrator can restrict modification of this option
Optsave: PROC Optsave or command Dmoptsave will save this option

```

To view the settings for more than one option, enclose the options in parentheses and separate the options with a space:

```

proc options option=(pdfsecurity pdfpassword) define;
run;

```

Log 4.4 The Settings of Two SAS System Options

```

7  proc options option=(pdfsecurity pdfpassword) define;
8  run;

SAS (r) Proprietary Software Release 9.4 TS1M0

PDFSECURITY=NONE
Option Definition Information for SAS Option PDFSECURITY
Group= PDF
Group Description: PDF settings
Group= SECURITY
Group Description: Security settings
Description: Specifies the level of encryption to use for PDF documents.
Type: The option value is of type CHARACTER
Maximum Number of Characters: 4
Casing: The option value is retained uppercased
Quotes: If present during "set", start and end quotes are removed
Parentheses: The option value does not require enclosure within parentheses. If
             present, the parentheses are retained.
Expansion: Environment variables, within the option value, are not expanded
Number of valid values: 3
          Valid value: HIGH
          Valid value: LOW
          Valid value: NONE
When Can Set: Startup or anytime during the SAS Session
Restricted: Your Site Administrator can restrict modification of this option
Optsave: PROC Optsave or command Dmoptsave will save this option
PDFPASSWORD=xxxxxxxx

```

```

Option Definition Information for SAS Option PDFPASSWORD
  Group= PDF
  Group Description: PDF settings
  Group= SECURITY
  Group Description: Security settings
  Description: Specifies the password to use to open a PDF document and the password used by a
                PDF document owner.
  Type: The option value is of type CHARACTER
        Maximum Number of Characters: 2048
        Casing: The option value is retained with original casing
        Quotes: If present during "set", start and end quotes are removed
        Parentheses: The option value must be enclosed within parentheses. The parentheses are
                    retained.
        Password Option Value: Can not Print or Display
        Expansion: Environment variables, within the option value, are not expanded
  When Can Set: Startup or anytime during the SAS Session
  Restricted: Your Site Administrator cannot restrict modification of this option
  Optsave: PROC Optsave or command Dmoptsave will not save this option

```

Displaying Information about System Option Groups

Each SAS system option belongs to one or more groups, which are based on functionality, such as error handling or sorting. You can display a list of system-option groups and the system options that belong to one or more of the groups.

Use the LISTGROUPS option to display a list of system-option groups.

```

proc options listgroups;
run;

```

Log 4.5 List of SAS System Option Groups

```

26  proc options listgroups;
27  run;

SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1B0

Option Groups
  GROUP=ADABAS           ADABAS
  GROUP=ANIMATION       Animation
  GROUP=CODEGEN         Code generation
  GROUP=COMMUNICATIONS  Networking and encryption
  GROUP=DATACOM         Datacom
  GROUP=DATAQUALITY     Data Quality
  GROUP=DB2             DB2
  GROUP=EMAIL           E-mail
  GROUP=ENVDISPLAY     Display

```

GROUP=ENVFILES	Files
GROUP=ERRORHANDLING	Error handling
GROUP=EXECMODES	Initialization and operation
GROUP=EXTFILES	External files
GROUP=GRAPHICS	Driver settings
GROUP=HELP	Help
GROUP=IDMS	IDMS
GROUP=IMS	IMS
GROUP=INPUTCONTROL	Data Processing
GROUP=INSTALL	Installation
GROUP=ISPF	ISPF
GROUP=LANGUAGECONTROL	Language control
GROUP=LISTCONTROL	Procedure output
GROUP=LOGCONTROL	SAS log
GROUP=LOG_LISTCONTROL	SAS log and procedure output
GROUP=MACRO	SAS macro
GROUP=MEMORY	Memory
GROUP=META	Metadata
GROUP=ODSPRINT	ODS Printing
GROUP=PDF	PDF
GROUP=PERFORMANCE	Performance
GROUP=REXX	REXX
GROUP=SASFILES	SAS Files
GROUP=SECURITY	Security
GROUP=SMF	SMF
GROUP=SORT	Procedure options
GROUP=SQL	SQL
GROUP=SVG	SVG
GROUP=TK	TK

Use the GROUP= option to display system options that belong to a particular group. You can specify one or more groups.

```
proc options group=(svg graphics);
run;
```

Log 4.6 Sample Output Using the GROUP= Option

```

5  proc options group=(svg graphics);
6  run;

SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1B0

Group=SVG
ANIMATION=STOP      Specifies whether to start or stop animation.
ANIMDURATION=MIN    Specifies the number of seconds that each animation frame displays.
ANIMLOOP=YES        Specifies the number of iterations that animated images repeat.
ANIMOVERLAY         Specifies that animation frames are overlaid in order to view all frames.
SVGAUTOPLAY         Starts animation when the page is loaded in the browser.
NOSVGCONTROLBUTTONS
                    Does not display the paging control buttons and an index in a multipage SVG
                    document.
SVGFADEIN=0         Specifies the number of seconds for the fade-in effect for a graph.
SVGFADEMODE=OVERLAP
                    Specifies whether to use sequential frames or to overlap frames for the
                    fade-in effect of a graph.
SVGFADEOUT=0        Specifies the number of seconds for a graph to fade out of view.
SVGHEIGHT=          Specifies the height of the viewport. Specifies the value of the height
                    attribute of the outermost SVG element.
NOSVGMAGNIFYBUTTON
                    Disables the SVG magnifier tool.
SVGPRESERVEASPECTRATIO=
                    Specifies whether to force uniform scaling of SVG output. Specifies the
                    preserveAspectRatio attribute on the outermost SVG element.
SVGTITLE=           Specifies the text in the title bar of the SVG output. Specifies the value of
                    the TITLE element in the SVG file.
SVGVIEWBOX=         Specifies the coordinates, width, and height that are used to set the viewBox
                    attribute on the outermost SVG element.
SVGWIDTH=           Specifies the width of the viewport. Specifies the value of the width
                    attribute of the outermost SVG element.
SVGX=               Specifies the x-axis coordinate of one corner of the rectangular region for
                    an embedded SVG element. Specifies the x attribute in the outermost SVG
                    element.
SVGY=               Specifies the y-axis coordinate of one corner of the rectangular region for
                    an embedded SVG element. Specifies the y attribute in the outermost SVG
                    element.

Group=GRAPHICS
DEVICE=             Specifies the device driver to which SAS/GRAPH sends procedure output.
GSTYLE             Uses ODS styles to generate graphs that are stored as GRSEG catalog entries.
GWINDOW            Displays SAS/GRAPH output in the GRAPH window.
MAPS= ("!sasroot\path-to-maps")
                    Specifies the location of SAS/GRAPH map data sets.
MAPSGFK= (
                    "!sasroot\path-to-maps" )
                    Specifies the location of GfK maps.
MAPSSAS= (
                    "!sasroot\path-to-maps" )
                    Specifies the location of SAS map data sets.
FONTALIAS=         Assigns a Windows font to one of the SAS fonts.

```

You can use the following group names as values for the GROUP= option to list the system options in a group:

ANIMATION	GRAPHICS	ODSPRINT
CODEGEN	HELP	PDF
COMMUNICATIONS	INPUTCONTROL	PERFORMANCE
DATAQUALITY	INSTALL	SASFILES
EMAIL	LANGUAGECONTROL	SECURITY

ENVDISPLAY	LOGCONTROL	SORK
ENVFILES	LOG_LISTCONTROL	SQL
ERRORHANDLING	MACRO	SVG
EXECMODES	MEMORY	TK
EXTFILES	META	

You can use the following groups to list operating environment–specific values that might be available when you use the GROUP= option with PROC OPTIONS.

ADABAS	IDMS	REXX
CODEGEN	IMS	SMF
DATAKOM	ISPF	
DB2	ORACLE	

Operating Environment Information

Refer to the SAS documentation for your operating environment for more information about these host-specific options.

Displaying Restricted Options

Your site administrator can restrict some system options so that your SAS session conforms to options that are set for your site. Restricted options can be modified only by your site administrator. The OPTIONS procedure provides two options that display information about restricted options. The RESTRICT option lists the system options that your site administrator has restricted. The LISTRESTRICT option lists the options that can be restricted by your site administrator. For a listing of options that cannot be restricted, see [表 1.1 on page 7](#).

The following SAS logs shows the output when the RESTRICT option is specified and partial output when the LISTRESTRICT option is specified.

Log 4.7 *A List of Options That Have Been Restricted by the Site Administrator*

```

1
  proc options restrict;
2   run;
  SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1B0

Option Value Information For SAS Option CMPOPT
  Option Value: (NOEXTRAMATH NOMISSCHECK NOPRECISE NOGUARDCHECK
NOGENSYMNAMES NOFUNCDIFFERENCING)
  Option Scope: SAS Session
  How option value set: Site Administrator Restricted

```

Log 4.8 A Partial Log That Lists Options That Can Be Restricted

```
13  proc options listrestrict;
14  run;

SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1M0

Your Site Administrator can restrict the ability to modify the following Portable Options:

ANIMATION           Specifies whether to start or stop animation.
ANIMDURATION         Specifies the number of seconds that each animation frame displays.
ANIMLOOP            Specifies the number of iterations that animated images repeat.
ANIMOVERLAY         Specifies that animation frames are overlaid in order to view all frames.
APPLETLOC           Specifies the location of Java applets, which is typically a URL.
ARMAGENT            Specifies an ARM agent (which is an executable module or keyword, such
                    as LOG4SAS) that contains a specific implementation of the ARM API.
ARMLOC              Specifies the location of the ARM log.
ARMSUBSYS           Specifies the SAS ARM subsystems to enable or disable.
AUTOCORRECT         Automatically corrects misspelled procedure names and keywords, and
                    global statement names.
AUTOSAVELOC         Specifies the location of the Program Editor auto-saved file.
```

Displaying Options That Can Be Saved

Many system options can be saved by using PROC OPTSAVE or the DMOPTSAVE command. The options can later be restored by using PROC OPTSAVE or the DMOPTLOAD command. You can list the system options that can be saved and later restored by using the LISTOPTSAVE option on PROC OPTIONS.

The following SAS log shows a partial list of the options that can be saved by using PROC OPTSAVE or the DMOPTSAVE command:

Log 4.9 A Partial List of System Options That Can Be Saved

```

11  proc options listoptsave;
    run;

SAS (r) Proprietary Software Release xxx  TS1B0

Core options that can be saved with OPTSAVE

ANIMATION           Specifies whether to start or stop animation.
ANIMDURATION        Specifies the number of seconds that each animation frame displays.
ANIMLOOP            Specifies the number of iterations that animated images repeat.
ANIMOVERLAY         Specifies that animation frames are overlaid in order to view all frames.
APPLETLOC           Specifies the location of Java applets, which is typically a URL.
AUTOCORRECT         Automatically corrects misspelled procedure names and keywords, and
                    global statement names.
AUTOSAVELOC         Specifies the location of the Program Editor auto-saved file.
AUTOSIGNON          Enables a SAS/CONNECT client to automatically submit the SIGNON command
                    remotely with the RSUBMIT command.
BINDING             Specifies the binding edge type of duplexed printed output.
BOMFILE            Writes the byte order mark (BOM) prefix when a Unicode-encoded file is
                    written to an external file.
BOTTOMMARGIN        Specifies the size of the margin at the bottom of a printed page.
BUFNO              Specifies the number of buffers for processing SAS data sets.
BUFSIZE            Specifies the size of a buffer page for output SAS data sets.

```

Results: OPTIONS Procedure

SAS writes the options list to the SAS log. SAS system options of the form *option* | **NOoption** are listed as either *option* or **NOoption**, depending on the current setting. They are always sorted by the positive form. For example, NOCAPS would be listed under the Cs.

Operating Environment Information

PROC OPTIONS produces additional information that is specific to the environment under which you are running the SAS System. Refer to the SAS documentation for your operating environment for more information about this and for descriptions of host-specific options.

See Also

- *UNIX 版 SAS*
- *Windows 版 SAS*
- *z/OS 版 SAS*

Examples: OPTIONS Procedure

Example 1: Producing the Short Form of the Options Listing

Features: PROC OPTIONS statement option
SHORT

Details

This example shows how to generate the short form of the listing of SAS system option settings. Compare this short form with the long form that is shown in “[Displaying a List of System Options](#)” on page 291.

Program

```
proc options short;
run;
```

Program Description

List all options and their settings. SHORT lists the SAS system options and their settings without any descriptions.

```
proc options short;
run;
```

Log

Log 4.10 Partial Listing of the SHORT Option

```
6  proc options short;
7  run;
   SAS (r) Proprietary Software Release xxx TS1B0

Portable Options:

  ANIMATION=STOP ANIMDURATION=MIN ANIMLOOP=YES ANIMOVERLAY APPEND=
  APPLETLLOC=your-directory ARMAGENT=  ARMLLOC=ARMLOG.LOG
  ARMSUBSYS=(ARM_NONE) AUTOCORRECT AUTOEXEC= AUTOSAVELOC= NOAUTOSIGNON BINDING=DEFAULT BOMFILE
  BOTTOMMARGIN=0.000 IN BUFNO=1 BUFSIZE=0 BYERR BYLINE BYSORTED NOCAPS NOCARDIMAGE CATCACHE=0
  CBUFNO=0 CENTER CGOPTIMIZE=3 NOCHARCODE NOCHKPTCLEAN CLEANUP NOCMDMAC CMPLIB= CMPMODEL=BOTH
  CMPOPT=(NOEXTRAMATH NOMISSCHECK NOPRECISE NOGUARDCHECK NOGENSYMNames NOFUNCDIFFERENCING)
  NOCOLLATE COLOPHON= COLORPRINTING COMAMID=TCP COMPRESS=NO NOCONNECTEVENTS CONNECTMETACONNECTION
  CONNECTOUTPUT=BUFFERED CONNECTPERSIST CONNECTREMOTE= CONNECTSTATUS CONNECTWAIT COPIES=1
  CPUCOUNT=2 CPUID CSTGLOBALLIB= CSTSAMPLELIB= DATAPAGESIZE=CURRENT DATASTMTCHK=COREKEYWORDS DATE
  DATESTYLE=MDY NODBFMTIGNORE NODBIDIRECTEXEC DBSLICEPARM=(THREADED_APPS, 2) DBSRVTP=NONE
  DCSHOST=LOCALHOST DCSPORT=7111 DECIMALCONV=COMPATIBLE DEFLATION=6 NODETAILS DEVICE=
  DFLANG=ENGLISH DKRICOND=ERROR DKROCOND=WARN NODLCREATEDIR DLDMGACTION=REPAIR NODMR DMS DMSEXP
  DMSLOGSIZE=99999 DMSOUTSIZE=2147483647 DMSPGMLINESIZE=136 NODMSSYNCHK DQLOCALE= DQOPTIONS=
```

Example 2: Displaying the Setting of a Single Option

Features: PROC OPTIONS statement option
OPTION=
DEFINE
LOGNUMBERFORMAT
VALUE

Details

This example shows how to display the setting of a single SAS system option. The log shows the current setting of the SAS system option MEMBLKSZ. The DEFINE and VALUE options display additional information. The LOGNUMBERFORMAT displays the value using commas.

Program

```
proc options option=memblksz define value lognumberformat;  
run;
```

Program Description

Specify the MEMBLKSZ SAS system option. OPTION=MEMBLKSZ displays option value information. DEFINE and VALUE display additional information. LOGNUMBERFORMAT specifies to format the value using commas.

```
proc options option=memblksz define value lognumberformat;  
run;
```

Log

Log 4.11 Log Output from Specifying the MEMBLKSZ Option

```

13  proc options option=memblksz define value lognumberformat;
14  run;

      SAS (r) Proprietary Software Release xxx

Option Value Information For SAS Option MEMBLKSZ
  Value: 16,777,216
  Scope: Default
  How option value set: Shipped Default

Option Definition Information for SAS Option MEMBLKSZ
  Group= MEMORY
  Group Description: Memory settings
  Description: Specifies the memory block size for Windows memory-based libraries.
  Type: The option value is of type INTMAX
  Range of Values: The minimum is 0 and the maximum is 9223372036854775807
  Valid Syntax(any casing): MIN|MAX|n|nK|nM|nG|nT|hexadecimal
  Numeric Format: Usage of LOGNUMBERFORMAT impacts the value format
  When Can Set: Session startup (command line or config) only
  Restricted: Your Site Administrator can restrict modification of this option
  Optsave: PROC Optsave or command Dmoptsave will not save this option

```

Example 3: Displaying Expanded Path Environment Variables

Features: PROC OPTIONS statement options
 OPTION=
 EXPAND
 NOEXPAND
 HOST

Details

This example shows the value of an environment variable when the path is displayed.

Program

```

proc options option=msg expand;
run;
proc options option=msg noexpand;
run;

```

Program Description

Show the value of the environment variables: The EXPAND option causes the values of environment variables to display in place of the environment variable. The NOEXPAND option causes the environment variable to display. In this example, the environment variable is !sasroot

```
proc options option=msg expand;
run;
proc options option=msg noexpand;
run;
```

Log

Log 4.12 Displaying an Expanded and Nonexpanded Pathname Using the OPTIONS Procedure

```
6   proc options option=msg expand;
7   run;
   SAS (r) Proprietary Software Release xxx  TS1B0

MSG=( 'C:\Program Files\SASHome\SASFoundation\9.4\core\sasmsg' )
      The path to the sasmsg directory
NOTE: PROCEDURE OPTIONS used (Total process time):
      real time          0.01 seconds
      cpu time           0.00 seconds

8   proc options option=msg noexpand;
9   run;
   SAS (r) Proprietary Software Release 9.4  TS1B0

MSG=( '!sasroot\core\sasmsg' )
      The path to the sasmsg directory
```

Example 4: List the Options That Can Be Specified by the INSERT and APPEND Options

Features: PROC OPTIONS statement option
LISTINSERTAPPEND

Details

This example shows how to display the options that can be specified by the INSERT and APPEND system options.

Program

```
proc options listinsertappend;
run;
```

Program Description

List all options that can be specified by the INSERT and APPEND options. The LISTINSERTAPPEND option provides a list and a description of these options.

```
proc options listinsertappend;
run;
```

Log**Log 4.13** *Displaying the Options That Can Be Specified by the INSERT and APPEND Options*

```
9  proc options listinsertappend;
10  run;

SAS (r) Proprietary Software Release xxx  TS1B0

Core options that can utilize INSERT and APPEND

AUTOEXEC          Specifies the location of the SAS AUTOEXEC files.
CMPLIB            Specifies one or more SAS data sets that contain compiler subroutines to
                  include during compilation.
FMTSEARCH         Specifies the order in which format catalogs are searched.
MAPS              Specifies the location of SAS/GRAPH map data sets.
SASAUTOS          Specifies the location of one or more autocall libraries.
SASHELP           Specifies the location of the Sashelp library.
SASSCRIPT         Specifies one or more locations of SAS/CONNECT server sign-on script
                  files.

Host options that can utilize INSERT and APPEND

HELPLOC           Specifies the location of the text and index files for the facility that
                  is used to view the online SAS Help and Documentation.
MSG               Specifies the path to the library that contains SAS error messages.
SET               Defines a SAS environment variable.
```


5 章

OPTLOAD プロシジャ

概要: OPTLOAD プロシジャ	305
構文: OPTLOAD プロシジャ	305
PROC OPTLOAD ステートメント	306
例: Load a Data Set of Saved System Options	306

Overview: OPTLOAD Procedure

The OPTLOAD procedure reads SAS system option settings that are stored in the SAS registry or a SAS data set and puts them into effect.

You can load SAS system option settings from a SAS data set or registry key by using one of these methods:

- the DMOPTLOAD command from a command line in the SAS windowing environment. For example, the command loads system options from the registry: DMOPTLOAD key= "core\options".
- the PROC OPTLOAD statement.

When an option is restricted by the site administrator, and the option value that is being set by PROC OPTLOAD differs from the option value that was established by the site administrator, SAS issues a warning message to the log.

Syntax: OPTLOAD Procedure

```
PROC OPTLOAD <options>;
```

Statement	Task	Example
PROC OPTLOAD	Use SAS system option settings that are stored in the SAS registry or in a SAS data set	Ex. 1

PROC OPTLOAD Statement

Loads saved setting of SAS system options that are stored in the SAS registry or in a SAS data set.

Syntax

```
PROC OPTLOAD <options>;
```

Summary of Optional Arguments

DATA=libref.dataset

Load SAS system option settings from an existing data set.

KEY="SAS registry key"

Load SAS system option settings from an existing registry key.

Optional Arguments

DATA=libref.dataset

specifies the library and data set name from where SAS system option settings are loaded. The SAS variable OPTNAME contains the character value of the SAS system option name, and the SAS variable OPTVALUE contains the character value of the SAS system option setting.

Default

If you omit the DATA= option and the KEY= option, the procedure will use the default SAS library and data set. The default library is where the current user profile resides. Unless you specify a library, the default library is SASUSER. If SASUSER is being used by another active SAS session, then the temporary WORK library is the default location from which the data set is loaded. The default data set name is MYOPTS.

Requirement

The SAS library and data set must exist.

KEY="SAS registry key"

specifies the location in the SAS registry of stored SAS system option settings. The registry is retained in SASUSER. If SASUSER is not available, then the temporary WORK library is used. For example, KEY="OPTIONS" loads system options from the OPTIONS registry key.

Requirement

"SAS registry key" must be an existing SAS registry key.

Example: Load a Data Set of Saved System Options

Features: PROC OPTLOAD option
DATA=

Details

This example saves the current system option settings using the OPTSAVE procedure, modifies the YEARCUTOFF system option, and then loads the original set of system options.

Program

```
libname mysas "c:\mysas";

proc options option=yearcutoff;
run;

proc optsave out=mysas.options;
run;

options yearcutoff=2000;

proc options option=yearcutoff;
run;

proc optload data=mysas.options;
run;

proc options option=yearcutoff;
run;
```

Program Description

These statements and procedures were submitted one at a time and not run as a SAS program to allow the display of the YEARCUTOFF option.

Assign the libref.

```
libname mysas "c:\mysas";
```

Display the value of the YEARCUTOFF= system option.

```
proc options option=yearcutoff;
run;
```

Save the current system option settings in mysas.options.

```
proc optsave out=mysas.options;
run;
```

Use the OPTIONS statement to set the YEARCUTOFF= system option to the value 2000.

```
options yearcutoff=2000;
```

Display the value of the YEARCUTOFF= system option.

```
proc options option=yearcutoff;
run;
```

Load the saved system option settings.

```
proc optload data=mysas.options;
run;
```

Display the value of the YEARCUTOFF= system option. After loading the saved system option settings, the value of the YEARCUTOFF= option has been restored to the original value.

```
proc options option=yearcutoff;  
run;
```

Log**Log 5.1** The SAS Log Shows the YEARCUTOFF= Value After Loading Options Using PROC OPTLOAD

```

1  libname mysas "c:\mysas";
NOTE: Libref MYSAS was successfully assigned as follows:
      Engine:          V9
      Physical Name:  c:\mysas

2  proc options option=yearcutoff;
3  run;

      SAS (r) Proprietary Software Release xxx  TS1B0

      YEARCUTOFF=1926  Specifies the first year of a 100-year span that is used by
date informats
                        and functions to read a two-digit year.

NOTE: PROCEDURE OPTIONS used (Total process time):
      real time          0.00 seconds
      cpu time           0.00 seconds

4  proc optsave out=mysas.options;
5  run;

NOTE: The data set MYSAS.OPTIONS has 259 observations and 2 variables.
NOTE: PROCEDURE OPTSAVE used (Total process time):
      real time          0.03 seconds
      cpu time           0.03 seconds

6  options yearcutoff=2000;

7  proc options option=yearcutoff;
8  run;

      SAS (r) Proprietary Software Release xxx  TS1B0

      YEARCUTOFF=2000  Specifies the first year of a 100-year span that is used by
date informats
                        and functions to read a two-digit year.

NOTE: PROCEDURE OPTIONS used (Total process time):
      real time          0.00 seconds
      cpu time           0.00 seconds

9  proc optload data=mysas.options;
10 run;

NOTE: PROCEDURE OPTLOAD used (Total process time):
      real time          0.06 seconds
      cpu time           0.01 seconds

11 proc options option=yearcutoff;
12 run;

      SAS (r) Proprietary Software Release xxx  TS1B0

      YEARCUTOFF=1926  Specifies the first year of a 100-year span that is used by
date informats
                        and functions to read a two-digit year.

NOTE: PROCEDURE OPTIONS used (Total process time):
      real time          0.00 seconds
      cpu time           0.00 seconds

```


6 章

OPTSAVE プロシジャ

概要: OPTSAVE プロシジャ	311
構文: OPTSAVE プロシジャ	311
PROC OPTSAVE ステートメント	311
Determining If a Single Option Can Be Saved	313
Creating a List of Options That Can Be Saved	313
例: Saving System Options in a Data Set	314

Overview: OPTSAVE Procedure

PROC OPTSAVE saves the current SAS system option settings in the SAS registry or in a SAS data set.

SAS system options can be saved across SAS sessions. You can save the settings of the SAS system options in a SAS data set or registry key by using one of these methods:

- the DMOPTSAVE command from a command line in the SAS windowing environment. Use the command like this: DMOPTSAVE *<save-location>*.
- the PROC OPTSAVE statement.

Syntax: OPTSAVE Procedure

```
PROC OPTSAVE <options >;
```

Statement	Task	Example
PROC OPTSAVE	Save the current SAS system option settings to the SAS registry or to a SAS data set	Ex. 1

PROC OPTSAVE Statement

Saves the current SAS system option settings in the SAS registry or in a SAS data set.

Syntax

PROC OPTSAVE <options >;

Summary of Optional Arguments

KEY=*"SAS registry key"*

Save SAS system option settings to a registry key.

OUT=*libref.dataset*

Save SAS system option settings to a SAS data set.

Optional Arguments

KEY=*"SAS registry key"*

specifies the location in the SAS registry of stored SAS system option settings. The registry is retained in SASUSER. If SASUSER is not available, then the temporary WORK library is used. For example, KEY="OPTIONS" saves the system options in the OPTIONS registry key.

Restriction “SAS registry key” names cannot span multiple lines.

Requirement Separate the names in a sequence of key names with a backslash (\). Individual key names can contain any character except a backslash.

Tip To specify a subkey, enter multiple key names starting with the root key.

CAUTION If the key already exists, it will be overwritten. If the specified key does not already exist in the current SAS registry, then the key is automatically created when option settings are saved in the SAS registry.

OUT=*libref.dataset*

specifies the names of the library and data set where SAS system option settings are saved. The SAS variable OPTNAME contains the character value of the SAS system option name. The SAS variable OPTVALUE contains the character value of the SAS system option setting.

Default If you omit the OUT= and the KEY= options, the procedure will use the default SAS library and data set. The default SAS library is where the current user profile resides. Unless you specify a SAS library, the default library is SASUSER. If SASUSER is in use by another active SAS session, then the temporary WORK library is the default location where the data set is saved. The default data set name is MYOPTS.

CAUTION If the data set already exists, it will be overwritten.

Determining If a Single Option Can Be Saved

You can specify DEFINE in the OPTIONS procedure to determine whether an option can be saved. In the log output, the line beginning with **Optsave:** indicates whether the option can be saved.

```
proc options option=pageno define;
run;
```

Log 6.1 The SAS Log Displaying Output for the Option Procedure DEFINE Option

```
8   proc options option=pageno define;
9   run;

SAS (r) Proprietary Software Release 9.4 TS1M0

PAGENO=1
Option Definition Information for SAS Option PAGENO
Group= LISTCONTROL
Group Description: Procedure output and display settings
Description: Resets the SAS output page number.
Type: The option value is of type LONG
Range of Values: The minimum is 1 and the maximum is 2147483647
Valid Syntax(any casing): MIN|MAX|n|nK|nM|nG|nT|hexadecimal
Numeric Format: Usage of LOGNUMBERFORMAT impacts the value format
When Can Set: Startup or anytime during the SAS Session
Restricted: Your Site Administrator can restrict modification of this option
Optsave: PROC Optsave or command Dmoptsave will save this option
```

Creating a List of Options That Can Be Saved

Some system options cannot be saved. To create a list of options that can be saved, submit this SAS code:

```
proc options listoptsave;
run;
```

Here is a partial listing of options that can be saved:

Log 6.2 A Partial Listing of Options That Can Be Saved

```

51  proc options listoptsave;
52  run;

SAS (r) Proprietary Software Release 9.4  TS1M0

Core options that can be saved with OPTSAVE

ANIMATION           Specifies whether to start or stop animation.
ANIMDURATION        Specifies the number of seconds that each animation
frame displays.
ANIMLOOP            Specifies the number of iterations that animated images
repeat.
ANIMOVERLAY         Specifies that animation frames are overlaid in order to
view all frames.
APPLETLOC           Specifies the location of Java applets, which is
typically a URL.
AUTOCORRECT         Automatically corrects misspelled procedure names and
keywords, and
AUTOSAVELOC         Specifies the location of the Program Editor auto-saved
file.
AUTOSIGNON          Enables a SAS/CONNECT client to automatically submit the
SIGNON command
                    remotely with the RSUBMIT command.
BINDING             Specifies the binding edge type of duplexed printed
output.
BOMFILE             Writes the byte order mark (BOM) prefix when a Unicode-
encoded file is
                    written to an external file.
BOTTOMMARGIN        Specifies the size of the margin at the bottom of a
printed page.
BUFNO               Specifies the number of buffers for processing SAS data
sets.
BUFSIZE             Specifies the size of a buffer page for output SAS data
sets.
BYERR               SAS issues an error message and stops processing if the
SORT procedure
                    attempts to sort a _NULL_ data set.
BYLINE              Prints the BY line above each BY group.
BYSORTED            Requires observations in one or more data sets to be
sorted in
                    alphabetic or numeric order.
CAPS                Converts certain types of input, and all data lines,
into uppercase
                    characters.
CARDIMAGE           Processes SAS source code and data lines as 80-byte
records.
CBUFNO             Specifies the number of extra page buffers to allocate
for each open SAS
                    catalog.
CENTER              Center SAS procedure output.

```

Example: Saving System Options in a Data Set

Features: PROC OPTSAVE option:
OUT=

Details

This example saves the current system option settings using the OPTSAVE procedure.

Program

```
libname mysas "c:\mysas";

proc optsave out=mysas.options;
run;
```

Program Description

Create a libref.

```
libname mysas "c:\mysas";
```

Save the current system option settings.

```
proc optsave out=mysas.options;
run;
```

Log

Log 6.3 The SAS Log Shows Processing of PROC OPTSAVE

```
1  libname mysas "c:\mysas";
NOTE: Libref MYSAS was successfully assigned as follows:
      Engine:          V9
      Physical Name:  c:\mysas

2  proc optsave out=mysas.options;
3  run;

NOTE: The data set MYSAS.OPTIONS has 285 observations and 2 variables.
NOTE: PROCEDURE OPTSAVE used (Total process time):
      real time          0.03 seconds
      cpu time           0.03 seconds
```


キーワード

`_LAST_`=システムオプション 151

[

[Explorer]ウィンドウ
起動 96, 117

[GRAPH]ウィンドウ
SAS/GRAPH 出力の表示 131

[アウトプット]ウィンドウ
起動 96

最大行数 98

非表示 139

[結果]ウィンドウ
起動 96

[プログラムエディタ]ウィンドウ
起動 96

非表示 139

[ログ]ウィンドウ
起動 96

最大行数 97

非表示 139

%

%INCLUDE ステートメント
可変サイズレコード入力の読み込み開始位置 213

1

16 進表現の値
システムオプション 4

A

APPEND=システムオプション 50

APPEND=システムオプション
システムオプション値の変更 13

APPLETLOC=システムオプション 52

AUTHPD 53

AUTHPROVIDERDOMAIN システムオプション 53

AUTOCORRECT システムオプション 55

AUTOEXEC ファイル
ログへのエコー出力 103

AUTOSAVELOC=システムオプション
57

B

BINDING=システムオプション 57

BOTTOMMARGIN=システムオプション
58

BUFNO システムオプション 59

BUFSIZE=システムオプション 61

BYERR システムオプション 62

BYLINE システムオプション 63

BYSORTED システムオプション 64

BY 行
印刷 63

BY 変数
1 つのデータセットにのみ存在する
273

C

CAPS システムオプション 65

CARDIMAGE システムオプション 66

CATCACHE=システムオプション 67

CBUFNO=システムオプション 68

CENTER システムオプション 69

CGOPTIMIZE=システムオプション 70

CHARCODE システムオプション 70

CHKPTCLEAN システムオプション 72

CLEANUP システムオプション 73

CMPLIB 75

CMPLIB=システムオプション 75

CMPMODEL=システムオプション 76

CMPOPT=システムオプション 77

COLLATE システムオプション 79

COLORPRINTING システムオプション
80

COMPRESS=システムオプション 81

COPIES 83

COPIES=システムオプション 83

CPUCOUNT=システムオプション 83

CPUID システムオプション 85

D

data sets

loading system options from 305

saving system option settings in 311

DATA= option

PROC OPTLOAD statement 306

DATALINES ステートメント

データ長 208

DATASMTCHK=システムオプション
86

DATA ステートメント

使用できるキーワード 86

DATESTYLE=システムオプション 87

DATE システムオプション 86

DEFINE option

PROC OPTIONS statement 287

Deflate 圧縮アルゴリズム 88

DEFLATION 88

DEFLATION=システムオプション 88

DETAILS システムオプション 89

DEVICE 90

DEVICE=システムオプション 90

displaying system option information 292

DKRCOND=システムオプション 91

DKROCOND=システムオプション 92

DLCREATEDIR システムオプション 93

DLDMGACTION=システムオプション
93

DMOPTLOAD command 305

DMOPTSAVE command 311

DMR システムオプション 94

DMSEXP システムオプション 96

DMSLOGSIZE=システムオプション 97

DMSOUTSIZE=システムオプション 98

DMSPGMLINESIZE=システムオプション
99

DMSSYNCHK システムオプション 100

DMS システムオプション 95

DROP= DATA ステップオプション

出力データセットのエラー検出 92

DROP=データセットオプション

入力データセットのエラー検出 91

DROP ステートメント

出力データセットのエラー検出 92

DSNFERR システムオプション 101

DTRESET システムオプション 102

DUPLEX 102

DUPLEX システムオプション 102

E

ECHOAUTO システムオプション 103

EMAILAUTHPROTOCOL=システムオ
プション 104

EMAILCUTOFFSET=システムオプシ
ョン 110

EMAILFROM システムオプション 105

EMAILHOST システムオプション 106

EMAILID=システムオプション 107

EMAILPORT システムオプション 108

EMAILPW=システムオプション 109

ENGINE 111

ENGINE=システムオプション 111

ERRORABEND システムオプション 112

ERRORBYABEND システムオプション
113

ERRORCHECK=システムオプション
114

ERRORS=システムオプション 114

EVENTDS=システムオプション 115

EXPLORER システムオプション 117

F

FILENAME ステートメントの EMAIL
(SMTP)

UTC オフセット 110

FILESYNC=システムオプション 118

FIRSTOBS=システムオプション 119

FMTERR システムオプション 121

FMTSEARCH=システムオプション 121

FONTEMBEDDING システムオプション
124

FONTRENDERING=システムオプション
125

FONTSLC=システムオプション 127

FORMCHAR=システムオプション 127

FORMDLIM=システムオプション 128

FORMS=システムオプション 129

FROM 電子メールオプション 105

G

GETOPTION 関数 21

GETOPTION 関数

YEARCUTOFF システムオプションの
変更 24

レポートオプションの取得 24

GROUP= option

PROC OPTIONS statement 288

GRSEG カタログエントリ

グラフの ODS スタイル 130

GSTYLE システムオプション 130

GWINDOW システムオプション 131

H

HELPBROWSER=システムオプション
131
HELPCMD システムオプション 132
HELPHOST=システムオプション 133
HELPPORT=システムオプション 134
HEXVALUE option
PROC OPTIONS statement 288
HOST option
PROC OPTIONS statement 288
HTTPSERVERPORTMAX=システムオ
プション 135
HTTPSERVERPORTMIN=システムオプ
ション 135
HTTP サーバー
最小ポート番号 135
最大ポート番号 135

I

IBUFNO=システムオプション 136
IBUFNO=システムオプション 136
IBUFSIZE 137
IBUFSIZE=システムオプション 137
INITCMD システムオプション 139
INITSTMT=システムオプション 140
INSERT=システムオプション
システムオプション値の変更 13
INSERT システムオプション 141
INTERVALDS=システムオプション
ユーザー指定の休日 143
INVALIDDATA=システムオプション
144
IS=システムオプション 140

J

Java アプレットの保存場所 52
JPEGQUALITY=システムオプション
144
JPEG ファイル
品質係数 144

K

KEEP= DATA ステップオプション
出力データセットのエラー検出 92
KEEP=データセットオプション
入力データセットのエラー検出 91
KEEP ステートメント
出力データセットのエラー検出 92
KEY= option
PROC OPTLOAD statement 306

PROC OPTSAVE statement 312

L

LABELCHKPTLIB システムオプション
148
LABELCHKPT システムオプション 146
LABELRESTART システムオプション
149
LABEL システムオプション 145
LEFTMARGIN=システムオプション 151
LINESIZE=システムオプション 152
LISTGROUPS option
PROC OPTIONS statement 289
LISTINSERTAPPEND option
PROC OPTIONS statement 288
LISTOPTSAVE option
PROC OPTIONS statement 289
LISTRESTRICT option
PROC OPTIONS statement 289
LOGNUMBERFORMAT option
PROC OPTIONS statement 289
LOGPARM=システムオプション 153
LONG option
PROC OPTIONS statement 289
LRECL=システムオプション 158

M

MAPS=システムオプション 159
MERGENOBY システムオプション 160
MERGE 処理
BY ステートメントを使用しない 160
MISSING=システムオプション 161
MODEL プロシジャ
出力モデルタイプ 76
MSGLEVEL=システムオプション 161
MULTENVAPPL システムオプション
162

N

NEWS=システムオプション 163
NOEXPAND option
PROC OPTIONS statement 289
NOHOST option
PROC OPTIONS statement 289
NOLOGNUMBERFORMAT option
PROC OPTIONS statement 289
NOTES システムオプション 164
NUMBER システムオプション 165

O

OBS=システムオプション 165
OBS=システムオプション

- WHERE 処理 168
- オブザベーションが削除されたデータ
セット 171
- 詳細 166
- 比較 167
- 例 167
- ODS 出力
- ブラウザ 131
- ODS スタイル
- GRSEG カタログエントリとして保存され
るグラフ 130
- OPTION= option
- PROC OPTIONS statement 290
- OPTIONS procedure
- display settings for a group of options
294
- overview 285
- results 299
- OPTIONS procedure
- syntax 286
- OPTIONS ステートメント
- システムオプションの指定 4
- OPTLOAD procedure
- overview 305
- OPTLOAD procedure
- syntax 305
- OPTLOAD procedure
- task table 306
- OPTSAVE procedure
- overview 311
- OPTSAVE procedure
- syntax 311
- OPTSAVE procedure
- task table 312
- ORIENTATION=システムオプション
174
- OUT= option
- PROC OPTSAVE statement 312
- OVP システムオプション 177

- P**
- PAGEBREAKINITIAL システムオプション
177
- PAGENO=システムオプション 178
- PAGESIZE=システムオプション 179
- PAPERDEST=システムオプション 180
- PAPERSIZE=システムオプション 180
- PAPERSOURCE=システムオプション
182
- PAPERTYPE=システムオプション 183
- PARM=システムオプション 184
- PARMCARDS=システムオプション 184
- PARMCARDS ステートメント
- 開くためのファイル参照 184
- PDFACCESS システムオプション 185
- PDFASSEMBLY システムオプション
186
- PDFCOMMENT システムオプション 187
- PDFCONTENT システムオプション 188
- PDFCOPY システムオプション 189
- PDFFILLIN システムオプション 190
- PDFPAGELAYOUT=システムオプション
192
- PDFPAGEVIEW=システムオプション
193
- PDFPASSWORD=システムオプション
194
- PDFPRINT=システムオプション 195
- PDFSECURITY=システムオプション
197
- PDF 形式
- 差し込み 190
- PDF ドキュメント
- 印刷権限 197
- 印刷の解像度 195
- 組み立て 186
- コピー 189
- コメントの変更 187
- 視覚障害者のためのスクリーンリーダー
— 185
- 内容の変更 188
- パスワード 194
- ページ表示モード 193
- ページレイアウト 192
- PRIMARYPROVIDERDOMAIN=システ
ムオプション 199
- PRINTERPATH 200
- PRINTERPATH=システムオプション
200
- PRINTINIT システムオプション 202
- PRINTMSGLIST システムオプション
202
- PROC OPTIONS statement 286
- PROC OPTLOAD statement 306
- PROC OPTSAVE statement 311
- PS=システムオプション 179
- punctuating numbers 289

- Q**
- QUOTELENMAX システムオプション
203

- R**
- registry
- loading system options from 305
- saving system option settings in 311
- RENAME= DATA ステップオプション
- 出力データセットのエラー検出 92
- RENAME=データセットオプション

- 入力データセットのエラー検出 91
 - RENAME ステートメント
 - 出力データセットのエラー検出 92
 - REPLACE システムオプション 204
 - RESTRICT option
 - PROC OPTIONS statement 290
 - REUSE=システムオプション 205
 - RIGHTMARGIN=システムオプション 206
 - RLANG システムオプション 207
 - RSASUSER システムオプション 208
 - R 言語
 - SAS へのインターフェイス 207
- S**
- S=システムオプション 208
 - S2=システムオプション 211
 - S2V=システムオプション 213
 - SAS/AF
 - ウィンドウの非表示 139
 - SAS/CONNECT ソフトウェア
 - リモートセッション機能 94
 - SAS/GRAPH
 - [GRAPH]ウィンドウに出力を表示する 131
 - 端末デバイスドライバ, 指定 90
 - SAS/GRAPH ファイル
 - 圧縮 255
 - SASHELP=システムオプション 215
 - SASHELP ライブラリ
 - 位置 215
 - SASUSER=システムオプション 216
 - SASUSER ライブラリ
 - 使用する SAS ライブラリ 216
 - 読み込みアクセスまたは読み込み/書き込みアクセスで開く 208
 - SAS ウィンドウ環境
 - 起動 95
 - 構文チェック 100
 - SAS 起動
 - Work ライブラリの初期化 279
 - SAS ステートメント
 - Work データライブラリ内のユーティリティデータセットに書き込む 225
 - 起動時に実行する 140
 - SAS セッション
 - 終了時にステートメントを実行する 250
 - 端末デバイスの関連付け 249
 - SAS セッションエンコーディング
 - URLENCODE 関数と URLDECODE 関数の設定 256
 - SAS データセット
 - 命名 264
 - SAS データビュー
 - 命名 264
 - SAS プロシジャ
 - 変数ラベルの使用 145
 - SAS プロシジャ出力ファイル
 - 初期化 202
 - SAS ログ
 - AUTOEXEC 入力 103
 - ソースステートメントの書き込み 223
 - 第 2 ソースステートメントの書き込み 224
 - 日時, 印刷 86
 - ハードウェア情報の書き込み 85
 - メッセージの出力,すべてまたはトップレベル 202
 - メッセージの詳細レベル 161
 - メッセージを書き込む news ファイル 163
 - メモの書き込み 164
 - SEQ=システムオプション 216
 - SETINIT システムオプション 217
 - SHORT option
 - PROC OPTIONS statement 289, 290
 - SKIP=システムオプション 218
 - SOLUTIONS システムオプション 219
 - SOLUTIONS メニュー
 - SAS ウィンドウに挿入する 219
 - SORTDUP=システムオプション 219
 - SORTEQUALS 220
 - SORTEQUALS システムオプション 220
 - SORTSIZE=システムオプション 221
 - SORTVALIDATE システムオプション 222
 - SORT プロシジャ
 - エラーメッセージ 62
 - 重複する変数の削除 219
 - メモリ量 221
 - ユーザー指定の並べ替え順序確認 222
 - SOURCE2 システムオプション 224
 - SOURCE システムオプション 223
 - SPOOL システムオプション 225
 - STARTLIB システムオプション 226
 - STEPCHKPTLIB=システムオプション 228
 - STEPCHKPT システムオプション 227
 - STEPRESTART システムオプション 230
 - SUMSIZE=システムオプション 231
 - SVGCONTROLBUTTONS システムオプション 232
 - SVGHEIGHT=システムオプション 233
 - SVGPRESERVEASPECTRATIO 235
 - SVGPRESERVEASPECTRATIO=システムオプション 235
 - SVGTITLE=システムオプション 238
 - SVGVIEWBOX=システムオプション 239
 - SVGWIDTH=システムオプション 241

SVGX=システムオプション 243
 SVGY=システムオプション 244
 SVG 出力
 XML ファイルのタイトル要素の値 238
 均一スケールの適用 235
 縦横比の維持 235
 タイトルバーのタイトル 238
 ビューポートの高さ 233
 ビューポートの幅 241
 ビューボックスの設定 239
 SVG ドキュメント
 ページ制御ボタン 232
 SYNTAXCHECK システムオプション 245
 SYSPRINTFONT=システムオプション 247
 system options
 display setting for single option 301
 display settings for a group 294
 displaying a list 291
 displaying information about 292
 displaying restricted options 297
 list of current settings 285
 loading from registry or data sets 305
 OPTIONS procedure 285
 saving current settings 311
 short form listing 300

T
 TERMINAL システムオプション 249
 TERMSTMT=システムオプション 250
 TEXTURELOC=システムオプション 251
 THREADS システムオプション 252
 TOOLSMENU システムオプション 253
 TOPMARGIN 254
 TOPMARGIN=システムオプション 254
 TRAINLOC=システムオプション 255

U
 UPRINTCOMPRESSION システムオプション 255
 URLENCODING=システムオプション 256
 USER=システムオプション 257
 UTF-8 エンコーディング 256
 UTILLOC=システムオプション 258
 UIDCOUNT=システムオプション 259
 UIDGENDHOST=システムオプション 260
 UUID ジェネレーターデーモン
 取得する UUID の数 259
 ホストとポート 260

V
 V6CREATEUPDATE=システムオプション 262
 VALIDFMTNAME 262
 VALIDFMTNAME=システムオプション 262
 VALIDMEMNAME システムオプション 264
 VALIDVARNAME=システムオプション 266
 VALUE option
 PROC OPTIONS statement 290
 VARLENCHK=システムオプション 268
 VBUFSIZE=システムオプション 271
 VIEWMENU システムオプション 273
 VNFERR システムオプション 273

W
 WHERE の処理
 OBS=システムオプション 168
 WORK=システムオプション 278
 WORKINIT システムオプション 279
 WORKTERM システムオプション 280
 Work データライブラリ
 SAS 起動時の初期化 279
 指定 278
 チェックポイント-再開データの消去 72
 ユーティリティデータセットへの SAS ステートメントの書き込み 225
 Work ファイル
 セッション終了時に削除する 280

X
 XML ファイル
 タイトル要素の値 238

Y
 YEARCUTOFF=システムオプション 281
 YEARCUTOFF=システムオプション
 GETOPTION 関数を用いた変更 24

あ
 圧縮
 Deflate アルゴリズムをサポートするデバイスドライバ 88
 ユニバーサルプリンタと SAS/GRAPH ファイル 255
 圧縮データセット
 オブザベーション追加時の領域の再利用 205
 アプレットの位置 52
 印刷

- PDFドキュメント 195, 197
 - SAS プロシジャ出力ファイルの初期化 202
 - 印刷部数 83
 - エラーメッセージの重ね打ち 177
 - 各ページのタイトル行のページ番号 165
 - 紙トレイの名前 182
 - カラー印刷 80
 - デフォルト形式 129
 - トレイの指定 180
 - ページの向き 174
 - 用紙のサイズ 180
 - 用紙の種類 183
 - 両面印刷の制御 102
 - インデックスファイル
 - 検索に使用する追加バッファ 136
 - 上の余白 254
 - エラー検出レベル
 - 出力データセット 92
 - 入力データセット 91
 - エラー処理
 - BY グループ処理 113
 - カタログ 93
 - エラー処理
 - 出力形式が見つからない 121
 - エラー処理
 - 数値データ 144
 - バッチ処理 114
 - エラーに対する対応 112
 - エラーメッセージ
 - 1つのデータセットにのみ存在する BY 変数 273
 - SORT プロシジャ 62
 - 重ね打ち 177
 - 最大印刷数 114
 - エラーメッセージの重ね打ち 177
 - エンコーディング
 - URLENCODE 関数と URLDECODE 関数の設定 256
 - 大文字
 - 入力の変換 65
 - オブザベーション
 - エラーメッセージ, 出力数 114
 - 指定したオブザベーションから開始 119
 - 出力の圧縮 81
 - 処理の停止 165
 - オブザベーションの圧縮 81
 - オンライントレーニングコース 255
- か**
- 開始位置
 - 可変サイズレコード入力の読み込み 213
 - 解像度
 - PDFドキュメントの印刷 195
 - 外部ファイル
 - 読み込みと書き込みの論理レコード長 158
 - 外部プログラム
 - パラメータ文字列を渡す 184
 - 改ページ
 - 区切り 128
 - カタログ
 - エラー処理 93
 - カタログ
 - オープン状態を維持する数 67
 - 検索順序 121
 - ページバッファ 68
 - 可変サイズレコード入力の読み込み 213
 - 可変サイズレコードの入力
 - 読み込み開始位置 213
 - カラー印刷 80
 - 間隔値
 - ユーザー指定の休日 143
 - キーボード 70
 - キーボードにない特殊文字 70
 - キーワード, DATA ステートメントでの使用 86
 - 起動
 - SAS ステートメントの実行 140
 - ユーザー定義の永久ライブラリ参照名を割り当てる 226
 - 休日
 - ユーザー指定 143
 - 行サイズ
 - プログラムエディタ 99
 - 行のスキップ 218
 - グラフィックオプション
 - 値を返す 21
 - 形式
 - 印刷のデフォルト形式 129
 - 欠損値
 - 数値の代わりに印刷する文字 161
 - 権限
 - PDFドキュメントの印刷 197
 - 検索順序
 - 出力形式カタログ 121
 - コードコンパイル
 - 最適化レベル 70
 - コード生成の最適化 77
 - 構文チェック 245
 - SAS ウィンドウ環境 100
 - 項目ストア
 - 命名 264
 - コピー
 - PDFドキュメント 189
 - コピー, 数の指定 83
 - コメント

- PDFドキュメント 187
- コンパイラサブルーチン 75
- コンパイラの最適化 77
- コンパイル
 - 最適化レベル 70
- さ**
- 最適化
 - コードコンパイル 70
- サイトのライセンス情報
 - 変更 217
- シーケンスフィールド
 - 数値部分の長さ 216
- システムオプション 3
 - 16 進値 4
 - INSERT と APPEND を使用した変更 13
 - OPTIONS ステートメントでの指定 4
 - 値の設定の確認 10
 - 値を返す 21
 - 現在の設定の確認 5
 - 構成ファイルでの指定 4
 - 構文 4
 - コマンド行での指定 4
 - 情報 11
 - 制限 6
 - 制限されたオプションの確認 6
 - 設定期間 16
 - 設定の確認 10
 - 設定の変更 12
 - データセットオプション 17
 - デフォルト設定 4
 - デフォルト値と開始値のリセット 15, 21
 - 比較 18
 - 保存とロード 5
 - 優先順序 17
- システムオプション値のリセット 15, 21
- 自動実行ファイル
 - 可変サイズレコード入力の読み込み開始位置 213
- 自動保存ファイル
 - 位置 57
- 自動呼び出しマクロファイル
 - 可変サイズレコード入力の読み込み開始位置 213
- 出力
 - [GRAPH]ウィンドウに SAS/GRAPH 出力を表示する 131
 - 印刷のデフォルト形式 129
 - 上の余白 254
 - エラーメッセージの重ね打ち 177
 - 改ページに使用する区切り文字 128
 - 行のスキップ 218
 - 照合 79
 - スプール 225
 - トレイの指定 180
 - 配置 69
 - 左の余白 151
 - ページサイズ 179
 - 右の余白 206
 - 文字のフォーマット 127
 - 取り除き 81
 - 出力形式
 - 名前の長さ 262
 - 見つからない 121
 - 出力形式カタログ
 - 関連ロケール 121
 - 検索順序 121
 - 出力データセット
 - エラー検出 92
 - 出力の照合 79
 - 出力の配置 69
 - 出力モデルタイプ 76
 - 数値データ
 - 欠損文字の代わりに印刷する文字 161
 - 無効 144
 - スクリーンリーダー
 - 視覚障害者のための PDF ドキュメント 185
 - ステートメント
 - SAS セッションの終了時に実行する 250
 - Work データライブラリ内のユーティリティデータセットに書き込む 225
 - 長さ 208, 211
 - スペルミスの名前
 - 自動修正 55
 - スレッド
 - 並行処理 83
 - スレッド処理 252
 - 制限されたオプション 6
 - ソース行
 - カードイメージ 66
 - ソースステートメント
 - SAS ログに 2 次ステートメントを書き込む 224
 - SAS ログへの書き込み 223
 - 長さ 208, 211
 - 損傷したデータセットやカタログ 93
- た**
- 第 2 ソースステートメント
 - SAS ログへの書き込み 224
- タイトル
 - SVG 出力 238
- タイトル行
 - ページ番号の印刷 165
- タイムスタンプ 86
- 縦方向 174

- 端末デバイス
 - SAS セッションとの関連付け 249
 - 端末デバイスドライバ 90
 - チェックポイント-再開データ
 - DATA ステップと PROC ステップの記録 227
 - DATA ステップライブラリと PROC ステップライブラリのライブラリ参照名 228
 - Work ライブラリの消去 72
 - バッチプログラムの指定 149, 230
 - ラベル付きコードセクションの記録 146
 - ラベル付きコードセクションライブラリのライブラリ参照名 148
 - データ行
 - カードイメージ 66
 - シーケンスフィールドの長さ 216
 - データセット
 - 圧縮されたデータセットの領域の再利用 205
 - 永久保存の置換 204
 - コンパイルサブルーチン 75
 - 最後に作成されたデータセット 151
 - 出力の圧縮 81
 - 損傷 93
 - バッファ数 59
 - バッファサイズ 61
 - 見つからない 101
 - データセットオプション
 - システムオプション 17
 - ディレクトリ
 - 作成 93
 - デバイスドライバ
 - Deflate 圧縮アルゴリズムのサポート 88
 - 電子メール
 - password 109
 - UTC オフセット 110
 - 認証プロトコル 104
 - ドキュメントのとりこみ 57
 - ドメインの接尾語
 - 認証プロバイダと関連付ける 53
 - トレーニングコース, オンライン 255
 - トレイの指定
 - 印刷出力 180
 - 紙トレイの名前 182
- な**
- 並べ替え順序
 - ユーザー指定の確認 222
 - 日時の入力形式と関数
 - 100 年期間の開始年度 281
 - 入力
 - 大文字への変換 65
 - カードイメージ 66
 - 入力形式
 - あいまいなデータ 87
 - 名前の長さ 262
 - 入力ソース行
 - シーケンスフィールドの数値部分の長さ 216
 - 入力データセット
 - エラー検出レベル 91
 - 認証プロバイダ 53
- は**
- ハードウェア情報, SAS ログに書き込む 85
 - パスワード
 - PDF ドキュメント 194
 - バッチ処理
 - DATA ステップと PROC ステップのチェックポイント-再開データ 230
 - エラー処理 114
 - チェックポイント-再開データの記録 146, 227
 - ラベル付きコードセクションチェックポイント-再開データ 149
 - バッファ
 - インデックスファイル検索に使用する追加バッファ 136
 - カタログで使用するページバッファ 68
 - サイズ 61
 - データセットで使用する数 59
 - ディスクへの書き込み 118
 - 表示サイズ 271
 - パラメータ文字列
 - 外部プログラムに渡す 184
 - 左の余白 151
 - 日付スタンプ 86
 - 日付の入力形式と関数
 - 100 年期間の開始年度 281
 - 表示障害
 - PDF ドキュメントのスクリーンリーダー 185
 - フォント
 - オペレーティングシステムまたは FreeType エンジンを使用してレンダリングする 125
 - フォント埋め込み 124
 - フォントの選択ウィンドウ
 - SAS フォントのみ表示 162
 - ブラウザ
 - ODS 出力 131
 - SAS ヘルプ 131
 - プリンタ
 - デフォルトプリンタのフォント 247
 - ドキュメントのとりこみ 57
 - ユニバーサル印刷 200
 - 用紙のサイズ 180

- プログラムエディタ
 - 1 行の最大文字数 99
 - 自動保存ファイル 57
 - プロシジャ
 - 変数ラベルの使用 145
 - プロシジャ出力
 - LINESIZE 152
 - 配置 69
 - プロシジャ出力ファイル
 - 初期化 202
 - プロシジャ出力ファイルの初期化 202
 - ページサイズ 179
 - ページ制御ボタン
 - SVG ドキュメント 232
 - ページバッファ
 - カタログ 68
 - ページ番号
 - 各ページにタイトル行を印刷する 165
 - リセット 178
 - ページ表示モード 193
 - ページレイアウト
 - PDF ドキュメント 192
 - ヘルプ
 - オンライントレーニングコース 255
 - ブラウザ 131
 - リモートヘルプクライアント 134
 - リモートヘルプブラウザ 133
 - 変数
 - 出力形式が見つからない 121
 - ラベルの使用, SAS プロシジャ 145
 - 変数名
 - 有効な命名規則 266
 - ポート番号
 - リモートブラウザクライアント 134
 - リモートブラウジングの HTTP サーバ
 - 135
- ま**
- マップ
 - 検索する場所 159
 - 無効なデータ
 - 数値 144
 - メッセージ
 - BY ステートメントを使用しない
 - MERGE 処理 160
 - SAS ログに書き込まれる news ファイル 163
 - SAS ログへの出力, すべてまたはトップレベル 202
 - 詳細レベル 161
 - メニュー
 - SAS ウィンドウの SOLUTIONS メニュー
 - 219
 - メモ
 - SAS ログへの書き込み 164
- メモリ**
- SORT プロシジャ 221
 - データ要約プロシジャ 231
 - 文字の組み合わせ 70
 - 文字のフォーマット 127
- や**
- ユーザー指定の休日 143
 - ユーザー定義のライブラリ参照名
 - 起動時に割り当てる 226
 - ユニバーサル印刷
 - フォント埋め込み 124
 - プリンタの指定 200
 - ユニバーサルプリンタ
 - ファイルの圧縮 255
 - 用紙のサイズ 180
 - 用紙の種類 183
 - 用紙の向き 174
 - 用紙の向き, 印刷 174
 - 横方向 174
 - 余白
 - 上の余白 254
 - 下の余白のサイズ 58
 - 左の余白 151
 - 右の余白 206
- ら**
- ライセンス情報
 - 変更 217
 - ライブラリ
 - SASUSER ライブラリとして使用する
 - SAS ライブラリ 216
 - 詳細リスト 89
 - 存在しないライブラリの作成 93
 - 損傷したデータセットやカタログ 93
 - デフォルトアクセスメソッド 111
 - デフォルトの永久 SAS ライブラリ 257
 - ライブラリ参照名
 - ユーザー定義の割り当て, 起動 226
 - ラベル
 - SAS プロシジャで変数と使用する 145
 - リソース不足 73
 - リターンコード 203
 - リモート SAS セッション 94
 - リモートブラウジング
 - HTTP サーバーの最小ポート番号 135
 - HTTP サーバーの最大ポート番号 135
 - リモートヘルプクライアント
 - ポート番号 134
 - リモートヘルプブラウザ 133
 - 両面印刷 102
 - レイアウト
 - PDF ドキュメント 192
 - レコード

処理の停止 165
ログファイル 153
ロケール
関連カタログ 121

論理レコード長
外部ファイルの読み込みと書き込み
158

